

廣きにたとふ。陰曆三月の異名。

【惠恤】ケイジュツ あはれみ恵む。

【惠施】ケイシ 他人の手紙の敬稱。

【惠恩】ケイオン 他人の手紙の敬稱。

【惠康】ケイカウ 他人の手紙の敬稱。

【惠捨】ケイシャ 他人の手紙の敬稱。

【惠順】ケイジュン 他人の手紙の敬稱。

【惠然】ケイゼン 他人の手紙の敬稱。

【惠愛】ケイアイ 他人の手紙の敬稱。

【惠慈】ケイジ 他人の手紙の敬稱。

【惠與】ケイユ 他人の手紙の敬稱。

【惠濟】ケイセイ 他人の手紙の敬稱。

【惠澤】ケイタク 他人の手紙の敬稱。

【惠願】ケイガン 他人の手紙の敬稱。

【惠方】ケイハウ 他人の手紙の敬稱。

【惠比須】ケイビス 七福神の一。

【類語】

【惡】アク

①わるし、あしきみにくし(醜陋)。

【惡心】アクシン 悪意、悪念。

【惡口】アクコウ 悪言、悪口。

【惡舌】アクゼツ 悪言、悪口。

【惡目】アクメ 悪言、悪口。

【惡言】アクゲン 悪言、悪口。

【惡名】アクメイ 悪言、悪口。

【惡少】アクセウ 悪言、悪口。

【惡女】アクニョ 悪言、悪口。

【惡才】アクサイ 悪言、悪口。

【惡人】アクニン 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡化】アクカ 悪言、悪口。

【惡切】アクキツ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

【惡阻】アクゾ 悪言、悪口。

廣きにたとふ。陰曆三月の異名。

【惠恤】ケイジュツ あはれみ恵む。

【惠施】ケイシ 他人の手紙の敬稱。

【惠恩】ケイオン 他人の手紙の敬稱。

【惠康】ケイカウ 他人の手紙の敬稱。

【惠捨】ケイシャ 他人の手紙の敬稱。

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【惡】アク

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【愆】アキ

【悞】アキ

【情】アキ

【惰力】ダラダラ 習慣性によりて物體の運動又は静止を續けること。
 【惰民】ダミン 良民と區別したる一種の部落民。

【惰弱】ダジャク 怠つて根氣なきこと。
 【惰容】ダヨク たいぎなふり。
 【惰氣】ダキ いやき、ものうき心。
 【惰棄】ダキ 怠りてつとめざるさま。
 【惰偷】ダトウ 怠りたりて投げやりにする。
 【惰慢】ダマン 怠りたる、なまける。
 【惰眠】ダミン 怠りたりてねむる。
 【惰遊】ダユウ 怠りあそぶ。
 【惰廢】ダハイ 惰棄に同じ。

類語

遊惰【ダユウ】 怠惰【ダタイ】 放惰【ダハウ】
 懶惰【ダラン】 蕪惰【ダエン】 疎惰【ダソ】
 類惰【ダライ】 習惰【ダシユ】 矜惰【ダケン】
 廢惰【ダハイ】 昏惰【ダコン】 疑惰【ダギ】
 肆惰【ダシ】 倦惰【ダケン】 愚惰【ダグ】
 放惰【ダハウ】 懶惰【ダラン】 疎惰【ダソ】

惱

【惱】ナウ ①なやむ、なやみ、なやます②うらむ

惱

【惛】ウン ①はかる(謀)はかりごと②あつし、心が手厚い③人の名
 【惛殺】ナウサツ なやます、殺は助字。
 【惛快】ナウアツク なやみ苦しむ。

類語

懊惱【ナウ】 苦惱【ナウ】 障惱【ナウ】 痛惱【ナウ】
 惑惱【ナウ】 煩惱【ナウ】 憂惱【ナウ】 悲惱【ナウ】
 百惱【ナウ】

想

【想】サウ ①おもふ(思)望み願ふ、したふ(慕)②おもひやる又過去を思ふ③おもひ(思念)④想化【サウ】 藝術の作品に作者の理想を按排すること。
 【想見】サウケン 考へはかる、想像、慕ふ。
 【想走】サウソウ 考へはかる、おもひ廻す。
 【想味】サウミ 考へはかる。
 【想到】サウダウ 考へ及ぼす。
 【想思】サウシ おもふ、おもひやる。

想

【慄息】テフソク 恐れて太息する貌。
 【慄々】テフテフ 思ひおそるゝ貌。

惶

【惶】クワウ ①おそる(恐)②かしこまる(畏)③おそれあはてる
 【惶汗】クワウカン 恐れてあせをかく、汗をかく程おそる。
 【惶怖】クワウフ 恐それのゝく。
 【惶迫】クワウハク 恐それて心の落つかざるさま。
 【惶恐】クワウコウ 恐それる、恐怖。
 【惶悸】クワウキ 恐それのゝく。
 【惶愧】クワウクワイ 恐れはづ、氣味わるし。
 【惶惑】クワウワク 恐それまどふ。
 【惶々】クワウクワウ 恐それる、恐れ入る。
 【惶駭】クワウカイ 驚き恐る。
 【惶擾】クワウヤウ 恐れさわぐ、恐れ亂る。
 【惶遽】クワウジュウ ①おそれのゝく②恐れあわつ。
 【惶懼】クワウクワウ 大いに恐るゝ貌。
 【惶驚】クワウキョウ 恐それおどろく。

惶

類語

愛惶【クワイ】 悲惶【クワイ】 戰惶【クワイ】 兢惶【クワイ】
 驚惶【クワイ】 駭惶【クワイ】 窘惶【クワイ】 慄惶【クワイ】

惛

【惛】シユン ①おろか(愚)②みだる(亂)③うごきみだれるさま
 【惛々】シユンシユン ①うごき亂るゝ貌②愚かなる貌。
 【惛愚】シユンゴ 私慾の爲めに本心のくらしこと。

惛

【惛】ケイ ①うれふ(憂)②ひとり、ひとりもの(兄弟なき者)
 【惛々】ケイケイ 身うちなき者、ひとり者。
 【惛獨】ケイドク 孤獨の人、たよりなき者。
 【惛鏗】ケイケウ 老いてたよりなき者、ひとりもの。

惹

【惹】ジャク ①ひく(引)ひきつける、思ひおこさしめる②かゝる(挂)
 【惹事】ジャクジ 新たに事をしでかす。
 【惹起】ジャクキ 事をひき起す。

惹

惛

【惛】ズキ ①おそれ、おそる(懼)②うれふ(憂)又そのさま
 【惛惕】ズキキ 恐それる、うれふ。
 【惛々】ズキズキ 恐それびくびくす。
 【惛慄】ズキリツ 恐それおのゝく。
 【惛慄】ズキリツ 恐それおのゝく。
 【惛慄】ズキリツ 恐それおのゝく。

惛

惛

【惛】セイ ①さとる(悟)②さとし(慧)③しづか(靜)④驚の聲の形容
 【惛々】セイセイ ①物事に通じて心の常に明かなる貌②驚のこゑの形容。
 【惛】シヨク ソク

惛

【惛】ソク ①いたむ(傷)あはれむ(憐)かなしむ(悲)
 【惛心】ソクシン 思ひやりのこゝろ、同情心。
 【惛惛】ソクソク かなしみいたむ。
 【惛惛】ソクソク いたみかなしむ。
 【惛惛】ソクソク いたみ哀しむ。
 【惛惛】ソクソク いたましく思ふ、あはれに思ふ貌。
 【惛々】ソクソク 悲しみいたむさま、又あはれみいたむ。
 【惛焉】ソクエン 前に同じ。
 【惛惑】ソクワク いたみかなしむ。
 【惛惛】ソクソク かなしみいたむ。
 【惛惛】ソクソク 痛みあはれむ。
 【惛惛】ソクソク いたましく思ふ②あはれみいたむ。

惛

惛

惛

【惛】
コソ

①くらし(昏)心くらし②もだゆ(悶)まじる(混)

【愀】
セウ シウ

①いろかはる(變色)むつとする、顔色をかへる、しほれる②つゝしむ(謹)うれふ(憂)

【愁】
シウ

①うれふ(憂)②思ひに沈む③かなしむ(悲)かこつ(唧)④おもんばかる(慮)【愁人】シウジン ①心にくれひを抱く人②詩人の異稱。【愁心】シウシン 憂ある心、うきおもひ。

【愁色】シウシヨク うれひある様子。【愁困】シウコン なやみくるしむ。【愁思】シウシ ①心のかなしきこと②案じわづらふ心。【愁苦】シウク うれひくるしむ。【愁畏】シウワイ ①おそれかなしむ②心配しおそる。【愁容】シウヨウ 心配あるさま。【愁悒】シウイ 憂ひて心安からざる貌。【愁恨】シウコン 憂ひうらむ。【愁志】シウシ 悲しみいかる。【愁怨】シウエン うらみ悲しむ。【愁眉】シウメイ 憂ひあるさま、かなしむ貌。【愁痛】シウツウ いたみかなしむ。【愁悵】シウテイ うれひかなしむ。【愁涙】シウライ 悲しみて泣くなみだ。【愁悽】シウサイ かなしむ、うれふ。【愁訴】シウソ 悲しみうたふ、なきこと。【愁眠】シウメン 案じながらねむる。【愁悶】シウモン うれひもだゆ。【愁殺】シウサツ 甚しくうれひなげく。【愁傷】シウショウ ①人の死をかなしむ②悲しみなげく。【愁腸】シウチャウ 憂ふるこころ。【愁夢】シウム 憂ひながら見るゆめ。【愁煩】シウハン うれひわづらふ。

【愁々】シウシウ 憂ふる貌、かなしむさま。【愁歎】シウタン うれひなげく。【愁霖】シウリン 物かなしく思はしめる雨、又梅雨、霖雨。【愁緒】シウシヨ 憂ふる心。【愁霜】シウサウ 心配のあまり頭髪の白くなること。【愁擾】シウジョウ なげきみだる。【愁襟】シウキン 憂ふるこころ、しんばい。【愁懷】シウクワイ 前に同じ。【愁鬱】シウウツ 憂ひて心のむすばれる貌。

類語

幽愁シウ ヌ愁シウ 眞愁シウ 孤愁シウ 濃愁シウ 煩愁シウ 頑愁シウ 旅愁シウ 深愁シウ 離愁シウ 窮愁シウ 亂愁シウ 凝愁シウ

【愆】
ケン

ひろし、心ひろし、又ゆたか【愆尤】ケンイウ 過失、あやまち。【愆引】ケンイン 過ちを身に引く、責を負ふ。

【愈】
ユ

①すぐる、まさる(勝)②かしこし(賢)③すゝむ(進)④ますす(益)いよく(いゆ)癒(癒)愛へるさま【愈々】ユユ 深くうれふる貌。【愈損】ユソソ 過ち損じていよくあしくなること。

【愉】
ユ

①よろこぶ(悦)たのしむ②つかる(疲)③おこたる(喜)④したがふ(循)⑤たのし、こころよし【愉色】ユシヨク 喜びある顔つき⑥よろこばしきさま。【愉快】ユクワイ たのしむ、心地よき貌。【愉々】ユユ たのしみにこゝする貌。

【愴】
ヒヨク フク

①まごご(誠)②まごころ(誠心)③心むすばる【愴愴】フクフク ①氣の鬱する貌②いかる貌【愴愴】フクフク 心ふさぐさま。

【意】
イ

①こころ、こころばせ②おもひ(思)おもふ、かんがへる③わたくしの心、私慾④あゝ(歎息の聲)⑤おもむき(情勢)いきほひ⑥おも(抑)⑦おもふに、はかるに(度)⑧のぞみ、ねがひ⑨氣にする、氣にかける【意外】イグワイ おもひがけぬ意、はからず、案外。

類語

【意功】イダウ 佛語、善功の意志。【意地】イヂ ①自分の思想を固執して改めぬこと②こころね、根性。【意匠】イシャウ くふう、思ひをめぐらす、新規の考案。【意向】イカウ 心のむかふところ、こころばせ、かんがへ、思ふところ。【意思】イシ 人をそねみきらふ。【意見】イケン ①かんがへ、みこみ②こころぞへ、忠告。【意志】イシ ①こころ、料見、かんがへ。【意表】イヘウ 案外、思ひの外、意外。【意味】イミ 事柄、わけ、おもむき。【意思】イシ ①こころ、かんがへ、こころざし②おもはく、こころいき。【意指】イシ ①こころばへ、意向。【意氣】イキ ①こころもち、いきこみ、心情。【意料】イレイ ①おもひはかる、思料。【意衷】イチウ ①心中、こころのそこ。【意業】イゲウ ①思考に同じ、おもふ、考へる。【意義】イギ ①わけ、ことのわけ、意味。【意慾】イヨク ①心にほつするところ、のぞみ、ねがひ。【意趣】イシユ ①こころばせ、意向。【意數】イスイ ①智ありて計略に富むこと。【意錢】イセン ①一種の遊戯、錢なげ。

【意識】イシキ 精神作用のおぼえのある状態、物を知りわくる心のはたらき。
 【意譯】イヤ 直譯の對、文章の大意を翻譯すること、主として外國文の大意を日本文に書き改めるをいふ。
 【意中人】イチチュウノヒト 我が思ふ人、こひ人。
 【意必固我】イチヒツコガ 我意つよくつゝのるをいふ、頑固、へんくつ。
 【意匠登錄】イシヤウトウロク 新たに發明されたる意匠を特許局の原簿に記載すると。
 【意到心隨】イタウシニズキ 思ふ如くなること。
 【意到筆隨】イタリフデヲタガフ 文章などの思ふまゝに作れるさま。
 【意氣自如】イキジヨ 平氣で物に驚かぬ。
 【意味深長】イミシナヤ 詩文等の讀めば讀むほど味のあるさま、又俗に何んのことか薩張り譯のわからぬ場合に用ふ。
 【意氣揚々】イキヤウヤウ 揚々は自得の貌、得意らしき貌。
 【意馬心猿】イバシメン 煩悶・情慾等盛んにして心のしづまらぬさま。
 【意志必然論】イシヒツゼンロン 決意の行爲は必然的に起るものにして意志には選擇の自由を要せずとする説。
 【意志自由論】イシジヨウロン 決意又は行爲の最近原因はその意中にありて多くの欲

望中より之を取捨選擇とする作用ありする論
 訓讀
 【意とせず】不レ意イとせず 心にかけぬこと。
 【意に中る】中レ意イにある 己が心に適ふ。
 【意に掛く】掛レ意イに 心にかけて忘れぬさま。
 【意の如し】如レ意イのごとし 心の思ふ通りになる、目的通りになる。
 【意を迎ふ】迎レ意イを 人のきげんをとる、迎合する。
 【意を承く】承レ意イを 迎レ意イと同じ。
 【意を寓す】寓レ意イを 他事にことよせ己が意中をほのめかし示す。
 【意を留む】留レ意イを 氣をつける、注意す。
 【意を屬す】屬レ意イを 望みをかける。
 【意はざりき】不レ意イを 思ひもよらず、思ひがけなし。
 【意に介せず】不レ介レ意イに 念頭にをかぬ、何とも思はぬ。
 【意と爲さず】不レ爲レ意イを 氣にかけぬ、心にかかぬ。
 【意の如くならず】不レ如レ意イを 思ふ通りにならぬ。

目意イテ 天意イシ 善意イシ 一意イチ
 快意イリ 如意イヨ 生意イシ 素意イソ
 適意イキ 本意イシ 作意イク 厚意イコ
 文意イフ 得意イク 留意イロ 志意イシ
 恩意イシ 任意イシ 合意イフ 注意イチュ
 心意イシ 主意イシ 書意イヨ 上意イヤ
 邪意イヤ 雅意イフ 下意イロ 私意イシ
 靜意イシ 壯意イロ 介意イシ 遺意イシ
 聖意イシ 微意イシ 夙意イシ 愚意イロ
 餘意イシ 實意イツ 眞意イシ 空意イロ
 奇意イキ 春意イシ 隨意イキ 尊意イソ
 佳意イキ 銘意イシ 故意イロ 匠意イヤ
 高意イク 敬意イキ 愁意イロ 猜意イイ
 卑意イシ 好意イク 惡意イク 猜意イイ

【惛】ケイ カイ ケツ 惛
 ①いこふ(息)やすむ(休)むさぼる(食)②いそぐ(急)③にはか(違)
 ④ほしいまゝ(恣)⑤なほくはやし(直疾)⑥たはむる(戯)あそぶ(遊)

惛

イン
 ①やはらぎてやすし(安和)②深く静かなり
 【情々】インイン 落つきやはらぐ貌。
 【惛然】ガクゼン 甚しく驚るる貌。

愕

ガク
 ①おどろく(驚)あわてる②へだつ(阻)なり
 【愕然】ガクゼン 甚しく驚るる貌。

愍

ビン
 ①あはれむ(憫)②いたむ(痛)③かなしむ(悲)④うれふ(憂)
 【愍因】ビンキヨウ 父母に死別する不幸。
 【愍然】ビンゼン ①あはれに思ふ貌②かなしむ貌、ふびん。
 【愍悼】ビンタウ あはれみいたむ。

類語
 矜愍イキヨウ 惜愍イセキ 嗟愍イソウ 慰愍イヰン
 弔愍イビョウ 憐愍イレン 追愍イツイ 慈愍イジン

愎

ヒヨク フク
 もとる(戻)かたくな、かたいぢ
 【愎戻】ヒヨクレイ 性質の剛情にしてもとること、わがまゝなること。

愚

ゲ
 ①おろか、才氣にぶし、愚直②おろかな人、ばかもの③自己に關する謙辭④くらす、智識を與へぬ⑤あなどる(侮)輕んず
 【愚人】ダリン おろかなる人、ばかもの。
 【愚凡】ダボン なみ／＼の人、愚人。
 【愚心】ダシン 愚なる心、我が心の謙稱。
 【愚夫】ダフ おろかもの、凡夫。
 【愚民】ダミン 無智なる者ども。
 【愚劣】ダレツ 愚かにしてにぶし。
 【愚汗】ダカン おろかにしていやし。
 【愚老】ダラウ 老人の謙稱。
 【愚存】ダツン 人に對し我がかんがへをいふに用ふ。
 【愚弄】ダロウ 人をばかに取扱ふ、なぶりものにす。
 【愚狂】ダキヤウ おろかにして物の道理をわきまへぬこと。

類語
 愚弄イロウ 愚狂イキヤウ 愚直イヂク 愚直イヂク
 愚相イサウ 愚者イシャ 愚昧イマイ 愚悞イゴ
 愚直イヂク 愚陋イロウ 愚徒イト 愚案イアン
 愚惑イゴク 愚鈍イダン 愚僧イソウ 愚蒙イモウ

【愚頓】グトン おろか、ばか。
 【愚痴】グチ 愚癡に作る。佛敎の十惡の一。おろか。いふて甲斐なき事をいふ。くりごと(例)愚痴を並べる。
 【愚惑】グカク おろかにして正し、愚直。
 【愚察】グサツ 人に對し我がおもひはかりしことをいふに用ふ。
 【愚善】グロ おろか、ばか。
 【愚驚】グド おろかにしてにぶし。
 【愚普】グモウ 愚昧に同じ。
 【愚慮】グリュ おろかなるかんがへ、人に對して我がかんがへをいふに用ふ。
 【愚蔽】グヘイ おろか、事理にくらし。
 【愚昧】グモウ 愚善に同じ。
 【愚朦】グモウ 愚にして物の道理にくらし。
 【愚癡】グチ 愚痴に同じ。
 【愚蠢】グレン おろか、あさぢる。
 【愚連隊】グレンタイ ①街上をうろつく不良少年少女の一族。②退勤後道草を喰ひて直ぐ歸宅せぬ勤人の一族。
 【愚公移山】グコウイコウマツ 成功を永遠に期し人の毀譽に頓着なく一心に事につとむるにいふ。
 【愚夫愚婦】グダダ おろかなる男女、愚かなる夫婦。
 【愚者之一得】グレンイコトク おろかものにも

何か取りえありとの意、賢者の「千慮の一失」に對していふ。
 類語
 下愚 グカク 黔愚 グケン 迂愚 グウ 蠢愚 グレン
 眞愚 グシン 大愚 グダイ 專愚 グセン 罔愚 グウ
 幼愚 グユウ 陋愚 グロウ 矧愚 グケン 疎愚 グソ
 愛 アイ
 ①いつくしむ(寵)かはゆがる、めづ(好)よろこぶ(慕)したふ(慕)したしむ(親)めぐむ(惠)あはれむ(憐)かくす(懸)②重んず、大切にす③私に通ず、密通
 【愛子】アイシ ①いとしご子を受す。
 【愛日】アイジツ ①冬の日の異稱。②時間をしむ、孝子の父母に事へる情をいふ。
 【愛玉】アイギョク 人の娘をいふ敬稱、令嬢。
 【愛心】アイシン 仁心、情けある心。
 【愛存】アイソン ①めでいつくしむ。②あはれみて訪問す。
 【愛好】アイカウ このみ、すき、愛し好む。
 【愛吟】アイギン 好みて詩歌などをうたふこ

と、又その詩歌。
 【愛幸】アイカウ 氣に入りて寵愛す。
 【愛兒】アイジ いとし子、かはゆい子。
 【愛使】アイシ なさけをかけてつかふ。
 【愛育】アイイク 大切に育てたつ。
 【愛狎】アイカフ 愛してなれしたしむ。
 【愛玩】アイダワン 好みて弄ぶ、秘藏す。
 【愛念】アイネン 愛することろ。
 【愛相】アイサウ ①愛すべきすがた。②情をつくしてもてなす。
 【愛染】アイゼン ①三面六臂の不動明王。②愛著心ふかきこと。
 【愛活】アイクワツ 恵みいかす、生活を助く。
 【愛穿】アイセン 衣装好みをすること。
 【愛姫】アイキ 寵愛する婦人、氣に入の女。
 【愛悱】アイリン をしみあひす。
 【愛悦】アイニツ ①めでよろこぶ。②心服して親しむ。
 【愛執】アイシツ 愛に溺るゝさま。
 【愛欲】アイヨク 愛慾に作る、愛して執著すること。
 【愛恩】アイオン めぐみいつくしむ。
 【愛惜】アイセキ 愛してをしむ、愛吝。
 【愛情】アイジヤウ ①人情のこまやかなるをいふ。②愛する心、戀愛の情。
 【愛馬】アイバ 氣に入りて愛する馬。

【愛惠】アイケイ めぐみいつくしむ。
 【愛國】アイコク 國家を思ひて忠を盡す(例)忠君愛國。
 【愛著】アイヂヤク 愛にひかされて動く、情に執著する貌。
 【愛敬】アイケイ ①情ふかく禮あつし。②愛らしき様子。
 【愛想】アイサウ 人に對して好意ある態度。
 【愛溺】アイダク 妄りに愛す、愛して溺る。
 【愛郷】アイキョウ 故郷を愛しなつかしむ。
 【愛憎】アイソウ 愛することゝ憎むこと。
 【愛養】アイヤウ をしみて取立てゝ用ふ。
 【愛撫】アイブ 大事にしてやしなふ。
 【愛憫】アイビン 仁心をもつてあはれむ、目をかける。
 【愛嬌】アイキョウ 顔色・態度・言語等のあいらしく情あるさまをいふ。
 【愛讀】アイドク 好みてよむ。
 【愛慕】アイボ 愛しむたふ。
 【愛憐】アイレン いつくしみあはれむ。
 【愛寵】アイチョウ いつくしみ愛す。
 【愛護】アイゴ 大切にまもる、大事にする。
 【愛顧】アイコ 恩眷、ひいき。
 【愛戀】アイレン ①異性を愛す、こひ。②愛情の極めて深きをいふ、したふ。

【愛他説】アイタセツ 他を愛することを以て道徳上の行爲の目的とする倫理説。
 【愛敬日】アイケイジツ 恩惠日。
 【愛及二屋烏】アイイコウニウゴ 禽獸にまでもなさけの及ぶこと。
 【愛別離苦】アイベツリク 佛經の語、親しき人に別るゝかなしみ、可愛いとわかれるなげき、別離を惜しむ苦しむ。
 【愛他主義】アイタシユイ 他人の幸福を増すことを人倫の根本とする主義、他愛主義、利他主義ともいふ。
 【愛染明王】アイゼンミョウ 三面六臂の不動明王をいふ、元印度の神にして後には眞言密敎中の神。
 【愛縁機縁】アイエンキエン 愛の縁あれば愛し機縁あれば發するの意、愛するも愛せざるも皆縁なりとの義。
 訓讀
 【愛を割く】割愛 ①おしき所を分ち與ふ。
 類語
 賞愛 アイキョウ 鍾愛 アイショウ 惠愛 アイケイ 玩愛 アイワン
 可愛 アイカイ 貪愛 アイコン 遺愛 アイイ 仁愛 アイニン
 友愛 アイユウ 過愛 アイカワ 割愛 アイカツ 畏愛 アイカイ
 寵愛 アイチョウ 忠愛 アイチュウ 慈愛 アイジ 歡愛 アイカン

【懐】ケフ
 ①こゝろよし(快)②あきたる、満足する③かなふ
 【懐志】ケフシ 心になほよろしきこと。
 【懐和】ケフワ 和らぎてこゝろよし。
 【懐快】ケフクワイ こゝろよし、愉快。
 孝愛 アイカウ 深愛 アイシン 自愛 アイジ 重愛 アイチュウ
 篤愛 アイトク 私愛 アイシ 敬愛 アイケイ 博愛 アイハク
 秘愛 アイヒ 欽愛 アイキン 信愛 アイシン 悅愛 アイエツ
 嗜愛 アイシ 專愛 アイセン 協愛 アイキョウ 光愛 アイクワ
 情愛 アイジヤウ 溺愛 アイダク 偏愛 アイヘン 耽愛 アイタン
 【感】カン
 ①こたへひやく、動く。②感じ知る、感じさとする。③心にひやく、心にしみこむ、心がうごく。④他を刺戟して應へひやくせらる、動かす
 【感心】カンシン 心に深く思ふさま。
 【感化】カンカ 心を動かして善にうつる。

【感服】カンブツ 心うごき従ふ、感じいる。
 【感泣】カンキツ 感じ激して泣く。
 【感官】カンクワン 内外の刺激を感じてそれを脚に傳ふる身體の機關。
 【感味】カンミ 感じ且つ能く味ふこと。
 【感佩】カンバイ 非常に心動きて永く忘れざること。
 【感受】カンジュ 感覺神經が外界の刺激を受ける作用。
 【感冒】カンバウ 病氣の名、ひきかぜ、風邪。
 【感吟】カンギン 詩歌・俳諧等のすぐれたるものをいふ。
 【感恨】カンコン ①心をうごかして悔ゆ。②感じてうらむ。
 【感明】カンメイ 感じて泣きむせぶ。
 【感染】カンスン うつる、かんじうつる。
 【感狀】カンジヤウ 戦功などを賞して賜はる書狀。
 【感悔】カントワイ かんじくやむ。
 【感恩】カネン めぐみを有難しと思ふ。
 【感致】カネチ 心をうごかすこと。
 【感通】カントウ 感じひびく、心が心に通じてうごくこと。
 【感荷】カシカ 恩を思ひてわすれぬこと。
 【感情】カネキヤウ ①かんじ、感ずる心、心もち。②快・不快・苦樂・美醜等を感じずる心

のはたらき。
 【感涙】カナルキ 深く感じて流すなみだ、うれしなみだ、ありがた涙。
 【感得】カントク 神や佛にまごゝろが通じて悟りをひらくこと。
 【感動】カンドウ 深く感じて心のうごくこと。
 【感傷】カシヤウ 物にかんじて心の大いにいたみ動くこと。
 【感會】カシクワイ ①さとる。②よきをり、好機會である。
 【感想】カシヤウ ①或る物事に對しての心のうごき。②感じて起りたる思想。
 【感働】カシドウ 感じなげく。
 【感銘】カシメイ 感じたることを深く心にためて忘れぬさま。
 【感徹】カシテツ 感通に同じ。
 【感慚】カシゼン 感じてはづ。
 【感歎】カシタン ①心に感じてなげく。②心うごきてほむ。
 【感賞】カシヤウ ①感心してほめること。②功を賞して與へられし賜物。
 【感蒙】カシモン 感銘に同じ。
 【感慨】カシガイ ①物事に感じてなげく。②ふかきかんじ、身にしむおもひ。
 【感慕】カシボ 深く戀ひしたふ。
 【感激】カシゲキ 物に感じて心の奮起する貌

【感興】カシキヤウ おもしろみ、興味。
 【感應】カシオウ ①感じてしたがふ。②信心の神佛に通じたること。③電流の通ずるにいふ。
 【感謝】カシシヤ 有りがたしと感ずること。
 【感慙】カシマン 心を動かして悶えなげく。
 【感奮】カシブン 物に感じて心のふるひたつこと、感激。
 【感覺】カシカク 身體の各感官が外界の刺激を受けて起す心的現象。
 【感觸】カシショク こゝろもち、きもち、手ざはり。
 【感光性】カシクワクセイ 物體が光線の作用によつて分解する性。
 【感受性】カシジュセイ 外界の刺激を神經纖維が神經中樞に傳ふる作用。
 【感嘆詞】カシタンシ 文法上人の感情をあらはす語。
 【感想文】カシヤウブン 見るがまゝ、思ふがまゝ、聞くがまゝに書きつゞりし文章。
 【感覺論】カシカクロン 知識はすべて感覺より生ずるとなす認識論上の見解。
 【感化事業】カシカワジギヤ 不良なる人心を善導して正業につかしめる事業。
 【感覺中樞】カシカクチュウシュウ 感覺を司る神經の大もと。

【感覺感情】カシカクカネキヤウ 感覺が外來の刺激により意識を生ずる以外に快樂・苦痛等を覺ゆるをいふ。
 【感覺錯謬】カシカクサクテヒヨウ 感覺が刺戟されたる時種々なる集合的覺覺を伴ひ生じて往々錯誤に陥るをいふ。
 【感慨悲歌之士】カシガイヒカクノレ 國家の爲に憤慨して其心もちを歌詩にうたふ人士。

【愧】キ 十畫
 はづ(恥)はぢ(慙)
 【愧死】キシ はぢて死す、世間に顔が出せぬほど大いにはぢいる。
 【愧服】キフク はぢて屈從す。
 【愧忿】キフン 恥ぢてうらむ。
 【愧負】キフ はづ、はぢいる。
 【愧恥】キチ はづ、はぢ。
 【愧揚】キテキ はぢておそる。
 【愧報】キタン はぢて顔をあかくす。
 【愧慄】キリツ 心にはぢておそる。
 【愧憤】キガイ はぢてなげく。
 【愧憤】キフン はぢいきどほる。
 【愧慙】キゼン はづ、はぢ。
 【愧懼】キク はぢて心におそる。

類語
 愚感カク 純感カクジュン 嚴感カクゲン 誠感カクセイ
 謹感カクジン 切感カクセツ 眞感カクシン 信感カクシン
 【愬】ソ サタ
 ①うつたふ、うつたへ(愬)つぐ(告)口
 ②どろく(驚)おそる(愬)
 【愬々】サツサツ 驚き恐るゝ貌。
 【愴】エウ
 ①うれふ(憂)よこしま(邪)みだる
 ②(亂)まどふ(惑)むなさわざ(悻)をさむ(治)
 【愴々】エウエウ 愁ひて訴ふるに所なき貌。
 【愴】サウ
 いたむ(傷)かなしむ(悲)
 【愴然】サウゼン いたみ悲しむさま。
 【愴々】サウサウ かなしみいたむ貌。

【愠】ウン ヲン
 ①いかる(怒)いきどほる(愠)うらむ
 (根)②思ひつもる、氣むすぼる
 【愠色】ウンシヨク 怒りたる顔いろ。
 【愠容】ウンヨウ 怒りたる様子。
 【愠憤】ウンブン いかりて怒氣を含む貌。

【慙】カク コク
 ①まこと(誠)よし(好)すなほ(慙)
 ②つゝしむ(謹)
 【慙切】カクセツ 誠實にして親切なるさま。
 【慙素】カクソ まめやか、まこと、誠實。

【愴】サウ
 いたむ(傷)かなしむ(悲)
 【愴然】サウゼン いたみ悲しむさま。
 【愴々】サウサウ かなしみいたむ貌。

【愷】 ケフ
おびやかす、おどす

【愷】 カイゲ

愷

① やすし(康) ② たのしむ(樂) やはらぐ
③ 勝軍の樂 ④ みなみかぜ(南風)
【愷風】 ガイフウ ⑤ こちよき風 ⑥ 南風 ⑦ 詩
經の篇名。

【愷佛】 ガイタイ 愷弟に作る、氣立のよきを
いふ、和らぎたのしむ。

【愷歌】 ガイカ 凱歌に作る、戦にかちて歸
る時うたふ歌。

【愷樂】 ガイガク 凱樂に作る、功をほめ奏す
る樂曲。

【愷重】 シンチヨウ 注意ぶかし、大事をとる。

【愷密】 シンミツ つゝしみありて注意深し。

【愷終】 シンシウ ① 父母の葬儀を丁寧にする
事の終りを完うせんとつとむ。

【愷慮】 シンリョ 氣をつけて考へ思ふ。

【愷恩】 シンオン つゝしみ深し。

【愷擇】 シンタク 注意して選ぶ。

【愷機】 シンキ ① 事の發せざる前に注意す
② 事を大切にすること。

【愷獨】 シンドク 人の見聞せざる所にても行
ひをつゝしむこと。

【愷謹】 シンジン つゝしみて物をゆ
るがせにせざるをいふ。

【愷嚴】 シンカク つゝしみて能く取しらぶ。

類語

恪愷シク 禮愷シク 恐愷シク 敬愷シク

勤愷シク 謹愷シク 淑愷シク 審愷シク

畏愷シク 温愷シク 謙愷シク 公愷シク

樸愷シク 周愷シク 恭愷シク 戒愷シク

篤愷シク 至愷シク 潔愷シク

【愷】 キケ ガイ

① ためいき(太息) ② みつ(満) ③ いきど
ほる(愷) ④ いかる(怒)

【愷然】 ガイゼン いかるさま。

【愷憤】 ガイフン いきどほる貌。

【愿】 ゲン

愿

① つゝしむ(謹) ② すなほ(温順) ③ 善良

【愿朴】 ゲンボク 正直にして飾氣なし。

【愿恭】 ゲンキョウ 慎みうや／＼しき貌。

【愿格】 ゲンカク うや／＼しき貌。

【愿款】 ゲンクワン 誠實にして謹直なり。

【愿端】 ゲンタン 慎みてたゞし。

【愿慎】 ゲンシン つゝしみてうや／＼し。

【愿慈】 ゲンシ ① すなほ、まめやか。

【愿謹】 ゲンジン 愿慎に同じ。

【愿】 コン

① うれふ(憂) ② みだす(亂) ③ はづかし
む(辱) ④ 個に同じ

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【悞】 同 ① 悞 ② 悞 ③ 悞 ④ 悞

【慄】 リツ

慄

① をの／＼(戰) ② おそる(懼) わな／＼(口
かなしむ(悲) ③ さむし(寒) ④ そつとする

① いたむ(痛)

【慄烈】 リフレイ 寒氣烈しきにいふ。

【慄然】 リラゼン わな／＼おそるさま。

【慄々】 リツツ ① おそれをの／＼(口) かなし
む ② 寒氣きびしき形容。

【慄】 サウ

① さわぐ、うごく(口) つかる、うれふ

【慄】 タウ トウ

① ほしいま(恣) ② ひさし(久) ③ うた
がふ(疑) ④ かくす(藏) ⑤ すぎ(過去)

【慄淫】 タウイン ① みだる(口) むさぼる。

【慄々】 タウタク 久しきさま。

【慄埋】 タウイン ふさぎかくす。

【慄愛】 タウイウ うれひをかくす。

【慄】 イン

① いたむ(痛) ② ねんごろ(懇) 又内通、

密通の意

【慈々】 インイン いたむ(例) 愛心慈々たり。

【慈慈】 インギン ねんごろ、親切なるさま。

【慈】 シジ

① いくくしむ(愛) あはれむ(憫) ② いく
くしみ、なさけ、仁愛、父母の愛、佛のす
くひ(口) ③ だけ、をんな竹(口) 母(口) 嚴父の
對)

【慈父】 ジフ ① 治者を親み崇びていふ(口) 實
の父。

【慈仁】 ジジン いくくしみ、なさけ、めぐみ。

【慈心】 ジシン なさけ厚き心。

【慈石】 ジシヤク 磁石に作る、鑽石の一。

【慈旨】 ジシ ① なさけある仰せ、又めぐみ心。

【慈忍】 ジニン ① 自ら怒らず人をも怒らし
めずして力行せしむること

② 慈愛を施すこと。

【慈武】 ジブ なさけ厚くして勇あり。

【慈育】 ジイク いくくしみ育つ。

【慈雨】 ジウ よきあめ、甘雨、轉じて君恩
のひろきにたとふ。

【慈和】 ジワ ① なさけあり物やはらかなり
② 君は臣下をめぐみ臣下は互ひに和合
すること。

【慈母】 ジボ 生みの母親のこと。

【慈恤】 ジジュウ いくくしみあはれむこと。

【慈恩】 ジオン あはれみ、恵む、いくくしみ

【慈姑】 ジコ 水草の名、くわろ。

【慈怨】 ジウ あはれみ、おもひやり。

【慈鳥】 ジウ からす、反哺の慈愛あるより
いふ。

【慈訓】 ジケン ① いくくしみあるよきをし
② 家庭に於ける母のをしへ。

【慈悦】 ジエツ ① なさけに服す(口) いくくし
みて心服せしむること。

【慈眼】 ジガン ① なさけ深き眼(口) なさけを
かける意。

【慈善】 ジゼン 他人の不幸災害を救助す、
なさけを施す。

【慈悲】 ジヒ ① 佛のすくひ(口) あはれむ、い
つくくしみかなしむ。

【慈惠】 ジクイ いくくしみ、めぐみ、惠澤
をほどこすこと。

【慈愍】 ジビン いくくしみあはれむ。

【慈愛】 ジアイ いくくしみ、なさけ。

【慈撫】 ジブ いくくしみ安んず。

【慈親】 ジシン ① いくくしみしたしむ(口) 兩
親のこと。

【慈膝】 ジレツ 慈愛深き膝元、兩親のと。

【慈臨】 ジリン ① 慈惠の心を以て下の者に

向ふ**仁愛**の心を以て天下を治む。
 【慈善鍋】ジゼンナベ 救世軍に於て毎年の正月に細民に餅を恵むべく慈善家に寄附を募る時鍋を以て之を受くるよりこの稱あり、近時社會鍋と改稱さる。
 【慈善家】ジゼンカ 慈善の心に富み人をめぐむ者。

【慈惠病院】ジケイビヤウケン 萬民をめぐむ意味にて無償にて病傷を醫せしむる病院。
 【慈悲心鳥】ジヒシンナウ鳥の名、佛者のいふ佛法僧と稱する鳥。

類語

孝慈カウ 至慈シ 惠慈ケイ 容慈エイ
 天慈テン 聖慈セイ 宸慈ジン 家慈カ

慍

キク

慍

ケフ ケン カフ

①あきたらず、うらむ**あき**たる、こゝろよし**快**と**まこと**(誠)たる、嫌に同じ、きらふ、うたがふ(疑)嫌に同じ、物をしみふること、しわし。
 【慍快】ケンクワイ 心に満足して快きさま。
 【慍焉】ケンエン 満足するさま。

慍

タイ

慍

【慍々】ケンケン ①こゝろに不平ある貌②うれへもだゆるさま。
 【慍誠】ケンセイ 心の誠なるをいふ。
 ①すがた(姿)かたち(形)ありさま(状)なりふり②しうち、かまへ③國訓わざ、わざと、故意
 【慍姿】タイシ 物のありさま、すがた。
 【慍度】タイド ①身ぶり、やうす、身がまへ②物に對する舉動。
 【慍格】タイカク かたち、すがた、なりふり。
 【慍勢】タイセイ すがた、やうす、慍度。

類語

妖慍タウ 交慍カウ 故慍コイ 舊慍クウ
 逸慍イツ 偽慍ケイ 變慍ヘン 容慍ヨウ
 巧慍カウ 奇慍キ 常慍ジョウ 詭慍ケイ
 情慍ジョウ 意慍イ 姿慍サシ 貌慍ボウ
 俗慍ゾク 形慍ケイ 世慍セ 時慍ジ
 風慍フウ 老慍ラウ 眞慍シン 醜慍ウ
 婉慍ワン 嬌慍ケウ 美慍メイ 舞慍ブ
 儀慍ギ 妙慍ミョウ 萬慍マン 體慍タイ

慍

シニク

慍

クラウ

慍

クワウ

慍

十一畫

慍

ヘウ

慍

ホ

①はやし(疾)②たちまち
 【慌忙】クワウバウ あわてるさま。
 【慌狀】クワウジヤウ あわてたる貌。
 【慌惚】クワウコツ うつとりと見とれる貌。
 【慍】クワウ 慍に同じ
 ①くらし(昏)微妙にして測りがたき貌
 ②ほれる(惚)うつとりする
 ③わする(忘)あわたいし(遽)
 【慍】クワウバウ あわてるさま。
 【慌狀】クワウジヤウ あわてたる貌。
 【慌惚】クワウコツ うつとりと見とれる貌。
 【慍】クワウ 慍に同じ
 ①はやし(急)すみやか(速)又すばやし
 【慍急】ヘウキフ 頼るはよきさま。
 【慍疾】ヘウシツ はやし、すばやし。
 【慍悍】ヘウカン 性急にして荒々し。
 【慍戲】ヘウキ ふざける、狎戲。
 ①したふ、いとしく思ふ②おもふ(思)

特に男女の間にいふ**な**ならふ(習)人がらを愛して手本とす**後**を追ふ
 【慕心】ボシン なつかしみ慕ふ心。
 【慕化】ボクワ 徳をしたひ従ふ。
 【慕悦】ボエツ 慕ひよるこぶ。
 【慕效】ボカウ 人の徳行をしたひならふ。
 【慕倣】ボハウ 前に同じ。

類語

敬慕カウ 敬慕ケイ 景慕ケイ
 哀慕アイ 軫慕シン 顧慕コ 羨慕セン
 仰慕オウ 注慕チュウ 誘慕ユウ 怨慕エン
 欣慕シン 歡慕クワン 思慕シ 懷慕クワイ
 戀慕レン 嬰慕エイ 孺慕ジュ 追慕ツイ
 愛慕アイ 望慕ボウ

慍

サン

慍

①いたむ(傷)いたまし**む**②そこなふ、むごし、**慍忍**③かなしむ(悲)④みじめ
 【慍切】サンケツ はげしくいたむ。
 【慍刑】サンケイ むごいしおき。
 【慍世】サンセ いたむ、いたまし。
 【慍切】サンセツ かなしみのせまる貌。
 【慍況】サンキヤウ 慍狀に同じ。
 【慍刻】サンコク 手きびしくむごきこと。

【慍毒】サンドク むごく人をそこなひ害す。
 【慍狀】サンジヤウ むごたらしき有様。
 【慍苛】サンカ 法律政令などのきびしきに過ぐるここと。
 【慍害】サンガイ いたましき損傷。
 【慍烈】サンレツ きびし、いたまし。
 【慍淡】サンタン 慍憤に通じ用ふ①物すごし②思ひめぐらして苦しむ。
 【慍悽】サンセイ ①いたましくすまじ②いたまかなしむ。
 【慍絶】サンゼツ むごたらしくいたまし。
 【慍棘】サンキョク 極めてきびし、むごし。
 【慍惻】サンソク いたまし、むごたらし。
 【慍愴】サンソウ いたまかなしむ。
 【慍嗟】サンサ 心をいためる、苦心する。
 【慍々】サンサン むごたらしきさま。
 【慍寒】サンカン 寒さきびし。
 【慍慍】サンリツ ①大いにむごく感ず②いたみ悲しむ。
 【慍聞】サンブン あはれなる話。
 【慍酷】サンコク 慍刻に通じ用ふ①きびしきに過ぐ、むごし②いたみ苦しむ。
 【慍瘼】サンボク すさまじくぞつとする貌。
 【慍澹】サンタン 悲しく痛ましき出来事。
 【慍澹】サンタン 薄ぐらくしてすごし。

類語

敬慕カウ 敬慕ケイ 景慕ケイ
 哀慕アイ 軫慕シン 顧慕コ 羨慕セン
 仰慕オウ 注慕チュウ 誘慕ユウ 怨慕エン
 欣慕シン 歡慕クワン 思慕シ 懷慕クワイ
 戀慕レン 嬰慕エイ 孺慕ジュ 追慕ツイ
 愛慕アイ 望慕ボウ

慍

ザン

慍

はづ、はぢ、はぢらふ、面目なく思ふ
 【慍色】ザンシヨク はづかしがる容子。
 【慍忿】ザンブン はぢいかる。
 【慍恨】ザンコン はぢてうらむ。
 【慍作】ザンサツ はぢ、はぢ入る。
 【慍服】ザンフツ 恥ぢて恐れ入る。
 【慍慍】ザンケウ 慍愧に同じ。
 【慍慍】ザンイ はぢいきどほる。
 【慍悔】ザンクワイ はぢくやむ。
 【慍悻】ザンシキ 恥ぢおそる。
 【慍慍】ザンカン はぢて心うごく。
 【慍愧】ザンキ はぢらふ、はぢ。
 【慍愴】ザンソウ はぢいきどほる。
 【慍德】ザントク 不徳の行をはぢる。
 【慍視】ザンシ 恥づる心が顔に現れる貌。
 【慍謝】ザンシャ こゝろにはぢてわぶ。
 【慍懼】ザンク 心にはぢておそる。

類語

感慍カン 愧慍クワイ 驚慍ケイ 震慍ジン
 悚慍ソウ 兢慍キョウ 視慍シ

慚

慙

慚に同じ
トク
慙

①よこしま(邪)あし(惡)けがる(穢)わざはひ(災)かくれたる(惡事)惡人、わるもの(穢)かくす(匿)惡をかくす
【慙名】トクノイ名をかくして現はさず。
【慙義】トクノ心が不善にして現はさず。
【慙禮】トクノ不正なる禮儀、又は禮式。

慙

慙

おそれあわてる
シヤウ
ドウ トウ
かなしむ、なげく(過度の悲哀)
【慙泣】ドウキフ 歎きかなしみて泣く。
【慙切】ドウセツ 深くなげくさま。
【慙哭】ドウコク 甚しくなげき悲しむ貌、かなしみ泣く。

類語

哀慙ドウ 感慙ドウ 慙慙ドウ 愧慙ドウ

傲

おごる(倨)たかぶる、傲に同じ
【傲誕】オウタン ぼこりて我まゝなるさま。
【傲邁】オウマイ おごり高ぶる。

慢

ゆるむ、ゆるし(緩)おそし(緩)あなどる(侮)おこたる(惰)なまける(怠)おごる(倨傲)ほこる又おろそか(疎)おほしいまゝ(肆)わがまま(専)まどふ(惑)ゆるみはなつ意(弛緩)ほどける
【慢心】マンシン ①ほこりおごる ②人をあなどる心。
【慢言】マンゲン 人をみさげたる言葉。
【慢狎】マンカフ おごりあなどる、輕侮。
【慢性】マンセイ 病氣が全治せずして持病となること、又ゆるく長びく性質。
【慢易】マンイ あなどり輕んず。
【慢侮】マンブ おごり侮る。
【慢阿】マンカ ゆるく進む船。
【慢然】マンゼン ①おごり高ぶるさま ②事を

【慧活】ケイカツ ちよ深くさとし。
【慧悟】ケイゴ さとし、かしこし。
【慧敏】ケイミン するどし、かしこし。
【慧眼】ケイガン ①物事を能く見分ける眼力 活眼(慧眼)佛語、實在界の眞理を識別する心の眼力。
【慧然】ケイゼン さとくするどき貌。
【慧智】ケイチ ちよ、才略。
【慧解】ケイカイ 慧敏に同じ。
【慧聖】ケイセイ すぐれてかしこき人。
【慧點】ケイテン わるぢよ、奸智。
【慧徹】ケイテツ さとし、かしこし。

愠

愠

慧

【慧力】ケイリキ 五力の一、ちよ、才覺。

輕んじてなげやりにする貌。
【慢遊】マンイウ ゆるく心にて任せて遊びあること。

【慢々】マンマン あなどり輕んずるさま。
【慢舞】マンブ しづかに舞ふ。
【慢條】マンゼン おこたる貌。
【慢罵】マンバ 人をあなどり、しる。

【慣焉】ガイエン 慣りなげく、かなしむ。
【慨然】ガイゼン ①なげく貌 ②ふるひ起るさま ③悲しむさま。
【慨想】ガイサウ なげきおもふこと。
【慨歎】ガイタン いきどほりなげく。
【慨憤】ガイフン なげきいきどほる。
【慨憶】ガイエツク なげき心ふさがる貌。

慣

なる、ならふ、なれ親しむ、熟練する
【慣用】クワンヨウ ①用ゐるならばす ②常用ふる、しつける。
【慣行】クワンカウ ①習俗として従來行はれ居ること ②續けて行ふ意。
【慣狎】クワンカフ なれ親しむ。
【慣例】クワンレイ しきたり、ならはし。
【慣性】クワンセイ 物體の慣性、永久に動き又は止らんとする性質。

愠

すゝめる、すゝめ誘ふ、暗にそゝのか
【愠誘】シヨウヨウ すゝめる、勸誘。

慮

おもんばかる(謀)
【慮材】リョウサイ 材を慮る、人の才能をかんがへはかる。

【慮外】リョウガイ ①思ひのほか、意外に無慮、ぶしつけ。
 【慮周】リョウシュウ 考への廣く行き届くこと。
 【慮智】リョウチ 才略に長じたること。

類語

- 異慮 リョ 長慮 リョ 遠慮 リョ 慎慮 リョ
- 策慮 リョ 計慮 リョ 無慮 リョ 聖慮 リョ
- 宸慮 リョ 謀慮 リョ 輕慮 リョ 愚慮 リョ
- 深慮 リョ 精慮 リョ 森慮 リョ 短慮 リョ
- 雅慮 リョ 沈慮 リョ 顧慮 リョ 密慮 リョ

傷

シヤウ

①うれふ(憂)②いたむ(傷)③おもふ(念)

慰

キ

慰

①なぐさむ、心たのしむ②やすんず(安)人をいたはる③なぐさみ、なぐさめ、心やり④國訓なぐさむ、なぐさみ(もてあそぶ、強姦する、物見遊山等のあそび)
 【慰安】キヤン ①なぐさめ安んず②心おちつくさま。
 【慰勉】キケン 人の勞苦をなぐさむ。

慍

ケン

【慰勞】キラク ①骨折りしことをねぎらふ②人をなぐさめいたはる。
 【慰恤】キジュツ ①なぐさめ安んず。
 【慰問】キモン ①なぐさめ見舞ふ。
 【慰諭】キユン ①なぐさめさとす。
 【慰慰】キヰン ①なぐさめあはれむ。
 【慰撫】キフ ①なぐさめさとす。
 【慰撫】キフ いたはりなぐさむ。
 【慰誘】キユウ ①なぐさめさとすとして我意に従はしむること。
 【慰曉】キウ ①なぐさめさとす。
 【慰勵】キレイ ①なぐさめはげます。
 【慰藉】キセキ ①なぐさめて力をそへる。
 【慰釋】キセキ いたはりなぐさむ。
 【慰問使】キモンシ 天子より遣はされたるなぐさめの使者。
 【慰問袋】キモンブクロ 戦地の軍人又は罹災民などを慰撫しなぐさめたるためにおくる種々の品物を入れた袋。

慍

ケン

慍

慍

をしむ(慍)やぶさか(慍)吝吝
 【慍吝】ケンリン やぶさか、けち。
 【慍食】ケンシツ ①けち、しわし、慍ふかし②薄情、邪見。
 【慍高】ケンカウ シみつたれ、やぶさか。

慍

シフ セフ

①おそれ(慍)②おびやかす(怯)おどす(威)おそれ従ふ、おそれふす
 【慍伏】セフク 慍伏に作る、恐れて屈服す、おそれつくむ。
 【慍怖】セフフ ①おそれる。
 【慍怖】セフフ ②おそれる。
 【慍怖】セフフ ③おそれる。
 【慍服】セフク 慍伏に同じ。
 【慍然】セフゼン ①おそれる、慍。
 【慍然】セフゼン ②おそれる、慍。

慵

ヨウ ショウ

慵

慶

ケイ キヤウ

慶

①よろこぶ(悦)②いはふ(賀)祝す③よろこび、さいはひ、めでたきこと、幸福
 【慵惰】ヨウダ おこたりなまける。
 【慵懶】ヨウラン なまけ怠る、ぶしやう。

④たまもの(賜)⑤語句の發端、あゝ、ほめる(賞美)
 【慶大】ケイダイ 慶應大學の略稱。
 【慶弔】ケイテウ 喜びとくやみ、祝と葬ひ。
 【慶幸】ケイカウ めでたきとさいはひ。
 【慶慶】ケイケン 求職者の世話をして奉口せしむる稼業、又その人、俗に桂庵に作る。

【慶事】ケイジ めでたき事、よろこび事。
 【慶瑞】ケイズキ よろこびめでたきしるし。
 【慶雲】ケイウン めでたき雲、太平のしるしにたとへていふ。
 【慶賀】ケイカ ①いはふ、よろこびいはふ、めでたいことの喜び。
 【慶煙】ケイエン 吉事のしるしの煙、えんぎの吉い煙。
 【慶會】ケイカイ めでたき寄りあひ。
 【慶壽】ケイジユ 天子の誕生日のいはひ、天長節。
 【慶賞】ケイシャウ 褒美として賜はること。
 【慶者在堂弔者在閭】ケイシャウニアラウシヤリョウニアリ 人生の吉凶禍福の常ならざるをいふ。

【類語】
 休慶 ケイ 福慶 ケイ 吉慶 ケイ 祥慶 ケイ
 休慶 ケイ 福慶 ケイ 吉慶 ケイ 祥慶 ケイ

慍

ル ロウ

①よろこぶ(悦)②うやうやしく慎むさま③ねんごろ
 【慍慍】ルロウ

慍

ル ロウ

【慍慍】ルロウ

慍

カウ

愴に同じ、なげく(歎)いきどほる
 【慍慍】カウカウ なげきいきどほる。
 【慍々】カウカウ いきどほる、なげく貌。
 【慍慨】カウカイ いきどほり奮ひ立つさま。
 【慍慨赴死易】カウカイニオモムクハヤシ 一時の怒りの爲めに死ぬことは何でもない。

慍

タイ

とげ(刺梗)とげが立つ、轉じて心にとまることに喩ふ、慍に同じ
 【慍芥】タイカイ 物事を心にとめおくこと。

慍

タイ

とげ(刺梗)とげが立つ、轉じて心にとまることに喩ふ、慍に同じ
 【慍芥】タイカイ 物事を心にとめおくこと。

慍

ル ロウ

①たのむ、たよる(頼)②心さびし③音聲ほがらか④うらみかなしむ(恨悲)
 【慍慍】ルロウ ①淋しき貌②悲しみいたむ

慍

セキ

①うれふ、うれへ(憂)②慍に同じ
 【慍々】セキセキ 憂ふる貌。

慍

ヨク

①むさぼる(貪)②得たしと思ふ心、このみ欲する情(慍心)
 【慍心】ヨクシン むさぼる情。
 【慍念】ヨクネン 前に同じ。
 【慍界】ヨクカイ 佛語、三界の一、現世界。
 【慍望】ヨクバウ ①ねがひ、のぞみ②得たしと思ふ心。

慍

レウ

①たのむ、たよる(頼)②心さびし③音聲ほがらか④うらみかなしむ(恨悲)
 【慍慍】レウレウ ①淋しき貌②悲しみいたむ

【憊】

ソウ
憊に同じ、心に任せぬ貌

【憂】

イウ

①うれふ、なやむ(憊)心配する、悲しく思ふ。②病む、妊娠してわづらふ。③やまひ、病氣。④喪中、忌中
【憂心】イウシン うれへ心、かなしき思ひ。
【憂民】イウミン 廣く人民のことを憂ひ政治の善悪を考ふ。
【憂囚】イウシュウ 心配にとちこめられし貌。
【憂念】イウテン うれひの心。
【憂畏】イウイ ながみおそる。
【憂恨】イウコン 憂ひうらむ。
【憂苦】イウク なやみくるしむ。
【憂病】イウビョウ 病みてるしむ。
【憂悒】イウイフ 憂ひて心さわぐ。
【憂悔】イウクワイ ながきくやむ。
【憂歌】イウカウ うれふること。
【憂國】イウコク 國家の爲めに心を勞す。
【憂戚】イウセキ うれひかなしむ。
【憂患】イウケン うれひなやむ。
【憂惱】イウノウ うれひわづらふ。

憂

【憂勞】イウラウ 憂苦に同じ。
【憂惑】イウワク かなしみまどふ。
【憂結】イウケツ 悲みて心の結ばれる貌、氣が塞がる。
【憂悶】イウモン かなしみもだゆ。
【憂慍】イウオン うれひ怒る。
【憂愁】イウシュウ うれひもだゆ、憂慮。
【憂傷】イウシヤウ うれひいたむ。
【憂度】イウド おそれて安んぜざるさま。
【憂榮】イウエイ うれひとたのしみ。
【憂歎】イウタン うれへなげく。
【憂憤】イウフン かなしみて奮ひたつ貌。
【憂感】イウカン うれへなげく。
【憂惘】イウワウ うれひあはれむ。
【憂慮】イウロ ながみに思ふさま。
【憂懷】イウワイ うれふる心、心配。
【憂懼】イウク 案じおそる。
【憂適】イウテイ うれへてもだえわづらふ。
【憂鬱】イウウツ 憂ひて心はれぬ貌。
【憂に丁る】イウテイ 憂に当たる。喪中に居る、喪にあたる。
【憂に宅る】イウタク 宅に憂に居る。前に同じ。
【憂に居る】イウキウ 居る憂に居る。同上。

訓讀

【憊に丁る】イウテイ 憂に当たる。喪中に居る、喪にあたる。
【憊に宅る】イウタク 宅に憂に居る。前に同じ。
【憊に居る】イウキウ 居る憂に居る。同上。

類語

隱憂イオン 鼠憂イウ 近憂イオン 離憂イウ
先憂イオン 積憂イウ 内憂イウ 幽憂イウ
孔憂イウ 軫憂イオン 杞人憂ウレヒン

【愠】

シヨウ

①おろか(愚)才能のなきこと。②くらし(昏)にぶし(鈍)
【愠愚】シヨウグ おろか、暗愚。
【愠駭】シヨウガイ おろかにしてのろし。

【憊】

十二畫

【憊】

ハイ

①つかる(疲)②やむ(病)③つかれ極まる、又病み苦しむ
【憊色】ハイシヨク つかれたる様子。
【憊老】ハイラウ 老いて元氣衰へしさま。
【憊衰】ハイスイ おとろへつかる。
【憊邁】ハイマン 疲れわづらふ。

類語

【憊】

ソウ

【憊】

ソウ

①にくむ(惡)にくみ、にくしみ、難し、くるし、忌はし。②國訓にく、にくし

【憊疾】ゾウシツ にくみねたむ。
【憊怨】ゾウエン にくみうらむ。
【憊嫉】ゾウシツ にくみねたむ、そねむ。
【憊毀】ゾウキ にくみそしる。
【憊愛】ゾウアイ にくむとあいす、愛憎。
【憊嫌】ゾウケン きらふ、にくむ。
【憊惡】ゾウウ にくみきらふ。
【憊酸】ゾウサン 酸味をきらふこと。

類語

愛憎ゾウイ 好憎ゾウク 背憎ゾウイ 私憎ゾウ
怨憎ゾウ 暴憎ゾウ 忌憎ゾウ 嗔憎ゾウ

【憊】

レン

①あはれむ(哀)あはれみ、氣の毒に思ふ。②いつくしむ(愛)めめる

心部 (十二畫) 憊・憎・憊・慍・愠

訓讀

【憊む可し】イウキウ 可憐あはれむべしふびんである。
【憊憊】レンレン あはれむ。
【憊憊】レンレン あはれみにつくしむ。
【憊憊】レンレン あはれむ、同情す。
【憊憊】レンレン あはれむ。
【憊憊】レンレン あはれむ。

類語

哀憐イイ 矜憐イウ 愛憐イイ 優憐イウ
天憐イオン 婦憐イウ 慈憐イオン 鍾憐イウ

【憊】

クワイ

①みだる(亂)心みだる。②くらきさま、又おろかなるさま。
【憤々】クワイクワイ おろかなる貌。
【憤悶】クワイモン もだえみだる、辛氣なること。

【憊】

ギン

①なまじひに、なまじつか、強ひて
 しばらく(姑)つゝしむ(敬)ねがふ
 (願)希望かく(缺)發語の辭、あゝ
 ②あまらず(甘)よろこぶ(悦)いたむ
 (傷)

【愠】(老)ナマジヒニイラウツノコト 權臣の
 忠良を殘害するを國民がうらむこと。

【意】

①よろこぶ(悦)このむ(好)たのしむ
 歎息の聲、あゝ
 【意欣】キキン よろこぶ。
 【意々】キキキ よろこぶ貌。

【憚】

①はゞかる(い)みきらふ(忌)難ん
 ずる(お)そる(畏)國訓はゞかる(遠
 慮)はゞかり(恐)縮
 【憚惡】タンニ はゞかりて憎む。
 【憚避】タンニ いみはゞかりてさく。

類語
 憂憚(ウイワン) 顧憚(コワン) 回憚(クワイ) 寵憚(チュウワン)
 疑憚(ギワン) 嫌憚(ケンワン) 忿憚(フンワン) 忌憚(キワン)

【愠】

①うらむ(怨)わるもの(惡人)
 【愠沮】フンショウ いかりさへざる。
 【愠恨】フンコン いきどほりうらむ。
 【愠怒】フンドク いかる、はらをたてる。
 【愠排】フンハイ にくみを心にもちてむしや
 くしやする貌。

【憤】

①いきどほる、いかる(怒)うらむ(怨)
 もたえ(い)きどほり(つ)む(積)
 【憤沮】フンショウ いかりさへざる。
 【憤恨】フンコン いきどほりうらむ。
 【憤怒】フンドク いかる、はらをたてる。
 【憤排】フンハイ にくみを心にもちてむしや
 くしやする貌。

【憚】

①はゞかる(い)みきらふ(忌)難ん
 ずる(お)そる(畏)國訓はゞかる(遠
 慮)はゞかり(恐)縮
 【憚惡】タンニ はゞかりて憎む。
 【憚避】タンニ いみはゞかりてさく。

類語
 憂憚(ウイワン) 顧憚(コワン) 回憚(クワイ) 寵憚(チュウワン)
 疑憚(ギワン) 嫌憚(ケンワン) 忿憚(フンワン) 忌憚(キワン)

【愠】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【愠然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【愠傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【愠】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【愠然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【愠傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【愠】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【愠然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【愠傲】フガウ たかぶりおごるさま。

類語
 憂憤(ウイフン) 激憤(ゲクフン) 悲憤(ヒフン) 憤憤(フンフン)
 憤憤(フンフン) 憤憤(フンフン) 憤憤(フンフン) 憤憤(フンフン)

【愠】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【愠然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【愠傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【憚】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【憚然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【憚傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【憚】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【憚然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【憚傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【憚】

①はんやりするさま、失意の貌(あ)や
 し(驚)く(貌)めづ、いつくしむ(愛)
 【憚然】フゼン ①失意のさま(驚)く貌。
 【憚傲】フガウ たかぶりおごるさま。

【憲政内閣】ケンセイナイカク 立憲主義を奉じ責任を帯びて國政を行ふ内閣。

類語
刑憲 ケン 成憲 ケン 違憲 ケン 常憲 ケン
邦憲 ケン 國憲 ケン 天憲 ケン 法憲 ケン
禮憲 ケン 章憲 ケン 公憲 ケン 明憲 ケン
昭憲 ケン 重憲 ケン 車憲 ケン 嘉憲 ケン
文憲 ケン 撰憲 ケン 朝憲 ケン 救憲 ケン
模憲 ケン 遺憲 ケン 綱憲 ケン

十三畫

【憶】 オク
①おもふ(念)思念する。②おもひ。③おぼえる、おぼえこむ、又おぼえ。

類語
幽憶 オク 記憶 オク 諸憶 オク 追憶 オク
想憶 オク 師憶 オク 惆憶 オク 思憶 オク
【憶念】 オク 常におもひて忘れぬさま。
【憶想】 オク おもふ、思ひやる。

【懐】 ノウ
①よこしま(邪)②おもねる(佞)へつらふ(詭)
【佞人】 センジン ねぢけたる人、佞人。
【檢歳】 センサイ 五穀のみのらぬ年、凶年。

【憤】 ダン
なやむ、痛みくやむ

【憾】 カン
①うらむ、いま／＼しがる、のこり多く思ふ。②うらみ
【憾恨】 カンゴン うらむ、のこりをしく思ふ
【憾悔】 カンクワイ うらみくやむ。

類語
悲憾 カン 宿憾 カン 私憾 カン 素憾 カン
悲憾 カン 小憾 カン

【懃】 ワイエ
にくむ、きらふ、もだゆ
【懃】 クワンケン
①もとる(戻)そむきもとる。②氣ばや又きびし(嚴)
【懃急】 クワンキウ 氣性せまし。
【懃促】 クワンソク 氣早くしてせまし。

【懃】 キン
ねんごろ(懇)ていねい(丁寧)
【懃々】 キンキン 丁寧なるさま。
【懃懃】 キンキン まこと、心こまやか。

【懃】 サウソウ
うれふ(愁)

【懃】 コン
①ねんごろ、ねんごろに、深切、丁寧。②切に願ひ求める時に添へる字
【懃切】 コンセツ 丁寧、こまやか、親切。

【懃】 セン

【懃】 コン
親切なる心。
【懃到】 コンタウ 親切にして能くゆき届く。
【懃命】 コンメイ 人の我に對することはをいふ敬語、ごていねいなるおぼせ。

類語
懃情 コンシヤウ なさけの深きをいふ、あつき心。
【懃望】 コンバウ 事をわけてのねがひ。
【懃話】 コンワ 打とけてはなし合ふ。
【懃款】 コンクワン ねんごろ、まこと、しんせつ。

【懃談】 コンタン 打とけてねんごろに話し合ふ、又その話。
【懃惻】 コンタク ねんごろ、まこと、至誠。
【懃誠】 コンセイ ねんごろ、まこと。
【懃意】 コンイ ねんごろ、しんせつ。心やすし、親しき交際。
【懃囑】 コンシヨク 深く望みをかけること。
【懃諭】 コンユ 眞心をもつて丁寧に諭す。
【懃篤】 コントク ねんごろにしてなさけ厚し親切、丁寧。

【懃親】 コンシン 打とけて親しむ意。
【懃謝】 コンシャ あつくれいのおぼ。
【懃々】 コンコン ねんごろ、事細かに、丁寧に

【懃】 コン
切なるねがひ、事をわけてのたのみ。
【懃親會】 コンシンクワイ 懇親を結ぶ目的にて催ふすよりあひ。

類語
忠懃 コンチュウ 精懃 コンセイ 惻懃 コンソク 誠懃 コンセイ

【懃】 カイケ
①おこたる(怠)なまける、油断する。②おこたり、なまけ
【懃怠】 ガタイ おこたる、なまける。
【懃弛】 カイシ おこたりゆるぶ。
【懃倦】 カイケン おこたりなまける。

類語
替懃 カイケ 勞懃 カイロウ 怠懃 カイケ

【懃】 オウ
①こたふ、答へる。②受く、承知す。③あた(當)④推測の意を現はす詞、まさにべし。⑤皇城の正門。⑥むくゆ、又和して起る
【懃允】 オウイン 承知すること、がてん。
【懃手】 オウシュ たちまち、たゞちに等の意。

【懃】 オウワツ
佛が種々の形にて此の世にあらはれるをいふ。
【懃分】 オウブン 身分に相當する意。
【懃有】 オウイウ あるがまゝに、有りあはせ、持ち合はせ。

【懃用】 オウヨウ 實地にあてはめて行ふ。
【懃身】 オウシン 佛語、佛が時機に應じて假體を現はすこと。
【懃和】 オウワ 互ひに應じ合ふ、調和す。
【懃制】 オウセイ 勅命により詩歌をつくる。
【懃承】 オウショウ 承知、がてん、のみこむ。
【懃條】 オウジョウ 蟲の名、すくも蟲。
【懃門】 オウモン ①支那古代宮廷の正門。②客の取次ぎをなすこと。
【懃現】 オウゲン 佛陀・菩薩等が世相に應じてこの世に現はるゝこと。

類語
【懃急】 オウキツ 急場の中に合せる。
【懃接】 オウセツ 人をあしらふ、面會する。
【懃唯】 オウイ 受けこたへ。
【懃投】 オウテン たすけ、加勢。
【懃答】 オウタフ 受けこたへ、こたへる。
【懃募】 オウモ づのりに應ず。
【懃酬】 オウシウ かへし、返事、返禮。
【懃試】 オウシ 試験を受けること。
【懃報】 オウハウ むくい、果報。
【懃對】 オウタイ 受けこたへ、應答。人に

【懃】 オウ
①こたふ、答へる。②受く、承知す。③あた(當)④推測の意を現はす詞、まさにべし。⑤皇城の正門。⑥むくゆ、又和して起る
【懃允】 オウイン 承知すること、がてん。
【懃手】 オウシュ たちまち、たゞちに等の意。

面會して話すこと。
【應龍】オウリョウ 翼ある龍、飛龍。
【應需】オウシュ 依頼をうける、もためにおうず。
【應聲】オウセイ すぐ、たどちに、すぐさま。
【應諾】オウダク うげがふ、承知する。
【應護】オウゴ 佛が衆生の願ひによつて下す加護。
【應鐘】オウショウ 音律の名。
【應戰】オウセン しかけられて戦争をなす。
【應變】オウヘン 事變のある場合に赴きて當ること。
【應驗】オウケン 應試に同じ。
【應急處分】オウキョウシヨフン 事變に會して直ちに適當の處置をなすこと、又其處置。
【應用化學】オウヨウケガク 化學の理論を實地に應用して物品を製するもの。
【應用美術】オウヨウビジュツ 模型・圖案の如く實用を主眼とする美術。
【應用科學】オウヨウケガク 農・工・醫學等の如く學理を實地に當てはめる學術。
【應接不暇】オウセツニイトマラズ 非常に多忙なるさま
①山川の景色の變化多きにいふ語。

應

【應募價格】オウボカカク 公債・株券などの募集に應ずる場合その額面高よりも幾分

【慙】アウ オウ
なやむ(歎)うれへもだえる
【慙氣】アウキ 苦しき心、なやましき氣分。
【慙慙】アウアウ うれへなやむ。
【慙歎】アウタン うらみなやむ。
【懋】ボウ
①さかんなり、さかんにす、盛大(悦)とむ、はげみつとめる
【懋選】ボウセン 物貨を貿易すること。
【懋勵】ボウレイ つとめはげむこと。
【懋々】ボウボウ 勉めるさま。

懋

懋

【慙】リン ラン
①おそる(懼)つゝしむ(敬)あやぶむ(危)②いたむ(痛)くるしむ(困)③さむし(寒)
【慙手】リンコ ①寒さの形容②しつかりしたるさま。
【慙烈】リンレツ 寒さのはげしきにいふ。
【慙然】リンゼン 寒氣激しき貌。
【慙慙】リンリン 寒氣にふるふる貌。
【慙々】リンリン 稟々に作る①危き貌②恐れつゝしむさま③寒さ激しきさま。

愼

愼の本字

十四畫

慙

セイ タイ

音やぶれて和せざるさま

悽

ボウ

①くらし(暗)②もだゆ(悶)③おろか(愚)④はづ(懶)

悽

悽

悽

【悽怛】リンタン かなしみいたむ。
【悽悽】リンチャウ いたむさま。
【悽痛】リンツウ 前に同じ。
【悽惻】リンソク いたみなしむ。
【悽々】リンゼン いたましき貌。

十五畫

憊

セイ

①いかる(怒)②うれふ(憂)③うたがふ(疑)④にくむ(疾)

憊

【憊夫】ダフ 意氣地なし、おくびやうもの。
【憊劣】ダレフ おとりて弱し、意氣地なし。
【憊怯】ダクフ 臆病、弱きもの。
【憊者】ダシヤ おくびやう者。
【憊弱】ダジヤク 弱し、氣力なし。
【憊語】ダゴ 卑怯なる言語。
【憊鈍】ダドン 弱くしておとる。
【憊愼】ダユ よわし、又なまける。
【憊薄】ダハク 才智にぶく弱し、徳うすし。

憊

【憊愼】リンゼン かなしみいたむ。
【憊悽】リンチャウ いたむさま。
【憊痛】リンツウ 前に同じ。
【憊惻】リンソク いたみなしむ。
【憊々】リンゼン いたましき貌。

憊

愼

モン マン

①もだゆ、もだえ(悶)②うれへ、わづらふ(煩悶)
【愼々】マンマン 悶えわづらふ貌。

類語

憂慙マン 憤慙マン 懣慙マン 煩慙マン 悲慙マン 感慙マン 喘慙マン 惋慙マン

憊

サン

①いたむ、いたまし、又いたみ(痛)②かつて(會)

【懲】チヨウ
①こる、こらす②悔い戒める、悔い愼ませる
【懲役】チヨウエキ 禁錮以上の刑罰。
【懲戒】チヨウカイ いましめこらす。
【懲治】チヨウヂ 罪をこらし心を正す。
【懲怙】チヨウゴウ いましめつゝしむ。

懲

【懲窒】チヨウチツ 忿をおさへ懲をすつ。
 【懲貶】チヨウヘン こらしめの爲め官職等をおとすこと。
 【懲創】チヨウサウ 悪事をいましめて再び繰返さぬやうにすること。
 【懲過】チヨウカワ あやまちを責めこらす。
 【懲禦】チヨウゴ 外寇の侵入をふせぐ。
 【懲惡】チヨウアク 悪を懲し心を改めしむ。
 【懲罰】チヨウバツ こらしめの爲めの罰。
 【懲償】チヨウシヤウ 受刑者より裁判費用を徴収すること。
 【懲戒法】チヨウカイハフ 官吏の懲戒に適用する罰則。
 【懲戒裁判】チヨウカイサイバン 判事検事の罪過に對し検事總長の告發をまつて大審院又は控訴院内に開く裁判。
 【懲レ獎吹レ盡】アツメノニコラアヘマツラフ 一度物に懲りし經驗によりその物以外の恐るゝに足らぬものをも恐るゝ程用心をするをいふ。

十六畫

類語

刑懲チヨウ 罰懲チヨウ 勸懲チヨウ 褒懲チヨウ

恣

慄

慄

【慄】ラン 慄に同じ。
 【慄性】ランセイ なまけもの、性質。
 【慄情】ランジヤ おこたうらむ、なまけ怠る。
 【慄意】ランイ ものうき氣もち。
 【慄慢】ランマン おこたる、ものうき怠る。
 【慄懈】ランケイ ものうし、おこたる。
 【慄不ニ自惜】ランニシラウカラシマズ なまけて自分の才能を世にあらはさぬ。
 【慄】ライ さらふ、慄と混じ用ふ。
 【懷】クワイ おもふ(思)し、胸にひめておもふ、いだく(抱)ふところ、又ふところ、なづく、やすんず(安)親しみ歸せしめる、わたくし(私)よこしま(邪)おもひ、こゝろ、むね、やすんず

懷 慄

慄

【懷山】クワイサン 山が四方をめぐるさま。
 【懷手】クワイシュ ふところ手、何事もなさず遊び居るにたとへていふ。
 【懷中】クワイチュウ ①ふところ ②紙入。
 【懷古】クワイコ 古い事を思ひめぐらす。
 【懷民】クワイミン 人民をなづけ服せしむ。
 【懷孕】クワイヨロ 子をはらむ、妊娠。
 【懷身】クワイレン 子をはらむ、懐胎。
 【懷妊】クワイニン 子をはらむ。
 【懷抱】クワイハク ①親が子を懐に入れたり抱いたりして育てること ②心中に考へもつ。
 【懷風】クワイフウ 草の名、うまごやし。
 【懷任】クワイジン ふところ、懷中。
 【懷柔】クワイジュウ なづけやはらぐ。
 【懷服】クワイフク 慕ひて従ひ服す。
 【懷胎】クワイタイ 子をはらむ。
 【懷春】クワイシュン 昔支那にて婚姻を仲春に定めし風習に因み男女の結婚せんことを思ひ望むこと、性的の欲望をいづくをいふ。
 【懷紙】クワイシ 連歌・和歌を正式に書く紙。
 【懷起】クワイキ おもひ出す。
 【懷戚】クワイセキ かなしみいたむ。
 【懷慕】クワイボ 心に思ひしたふ。
 【懷鄉】クワイカウ 故郷のよを思ひしたふ。

【懷想】クワイヤウ おもふ。
 【懷術】クワイジュツ 事を心中に圖りもつと。
 【懷疑】クワイギ 心にうたがひをもつこと
 ①哲學に對する信頼去りてすべて不安・無理想・無標準となる心意状態又は無信仰の心意状態をいふ。
 【懷劍】クワイケン ふところ刀。
 【懷寵】クワイチュウ 上の恩寵を失はじと思ふ心をいふ。
 【懷輯】クワイシツ ナづけあつむ、なづけやはらぐ。
 【懷襟】クワイケン ふところ、懷中。
 【懷藏】クワイザウ ①心に納めもつ、ふところに入れる。
 【懷歸】クワイキ 故郷に歸りたしと思ふ。
 【懷舊】クワイキウ 懐古に同じ。
 【懷爐】クワイロ 一種の體温器、ふところごたつ。
 【懷顧】クワイコ おもひしたふ。
 【懷鄉病】クワイカウビヤク 英語のホームシツク、故郷を戀しく思ふ心の切なるあまり煩ふやまひ。
 【懷疑說】クワイギセツ 確實なる知識は人智にては達し能はずとなす説。
 【懷レ瓊握レ瑜】ケンライダキニユル 美德を兼ね具ふるの意。

懷

類語

懷レ壁有レ罪 タマライタイラツミツ 金を持ち馴れぬ者がたまに持てば之を浪費して悪事をなすことにたとへていふ。

備

懸

【備】ロウ もとる(戻)
 【懸】ケン ①かく(繫)かゝる、つり下げる、ひつかけ、かゝる、かゝげ、示す、違く隔たる、非常のくるしみを形容する語
 【懸久】ケンキウ 同一の事柄に久しくかゝりあふこと。
 【懸注】ケンチュウ 高き所よりおち流るゝ貌。
 【懸命】ケンメイ ①いのちがけ、②非常な熱心
 【懸炭】ケンタン 昔の時氣をうかゞふ法、炭

備 懸

を衝に掛けて之を量る時は冬至後は陽氣應じ炭は軽くなり揚がり夏至後には陰氣應じ炭は重くなり下がる。
 【懸河】ケンガ ①直下して流るゝ水、②辯舌のよどみなきさまに用ふ。
 【懸念】ケンエン 心にかける、氣にかける。
 【懸曹】ケンソウ 魯の倍公が邦人と戦ひし時公の兜を魚門に懸けて耻ぢしめられたる故事に因み敵をばづかしめること。
 【懸案】ケンアン 未決のまま、残れる議事。
 【懸珠】ケンシユ 玉をさげたる如く目のうつくしきにたとへていふ。
 【懸弧】ケンコ 男兒の誕生をいふ。
 【懸哨】ケンセウ 本隊と遠くはなれし所に見張りする兵。
 【懸魚】ケンギョ 破風の頂の下に垂れる棟木の端を被ふ魚の尾の形を刻みし物。
 【懸車】ケンシャ 官を辭任すること、又老衰の義に用ふ。
 【懸淙】ケンソウ たき、瀧。
 【懸崖】ケンガイ 切り立てたるがけ。
 【懸軍】ケンケン 遠方に軍隊を派遣すること。
 【懸旆】ケンハイ ①たれさがつた旗、②心の動搖すること。
 【懸望】ケンバウ 遠方より見るさま。
 【懸殊】ケンシュ 相違の大なるをいふ語。

【懸瓠】ケンコ つりさげたるへうたん。
 【懸淵】ケンタン 懸深に同じ。
 【懸絶】ケンゼツ へだての大なる貌、かけへだてたるさま。
 【懸渴】ケンカフ ①待ちくたびれる貌。②心づかひ、もの案じ。
 【懸進】ケンシン 深く敵地にすゝみ入る。
 【懸解】ケンカイ 倒まにつるされた如き大苦痛がとけ去ると。
 【懸想】ケンソウ 心をかく、異性を思ふ場合にいふ。
 【懸隔】ケンカク へだまり、わけ。
 (へだて(例)懸隔甚し。
 【懸疑】ケンギ 疑ひをかく、うたがふ。
 【懸賞】ケンシヤウ 褒賞を公示して諸種の答案等をつのること(例)懸賞募集。
 【懸餒】ケンライ 苦しみうむさま。
 【懸瀑】ケンバク たき、飛泉。
 【懸錘】ケンスイ ねつけ、根付。
 【懸蹄】ケンタイ 牛・羊・豕等の偶蹄類の足の兩側のひづめ。
 【懸弊】ケンペイ 家の貧しきにいふ。
 【懸賄】ケンブイ 懸賞にて物をもとめる。
 【懸遊】ケンユウ 遠方、はるかの方。
 【懸繫】ケンケイ かゝりあふ、關係する。
 【懸車齡】ケンシャレイ よはひ八十歳の稱。

【懸河辯】ケンガベン 辯舌さはやかにして水の流るゝが如くよどみなきをいふ。
 【懸崖撒手】ケンガイサンシュ 勇気を奮ひ起す。
 【懸腕直筆】ケンワンチヨクヒツ 文字を書く時の姿勢にして腕を宙にして物につけず筆を垂直に持ちて書くさま。
 【懸頭刺股】ケントウサカセマサス 睡眠を忍びて苦學するにいふ。
 【懸三牛首一賣三馬肉】ケンサンユウカクテバニクサウル 牛首を懸くは禁物の命を示せるもの、馬肉を賣るは其禁物を用ゐるをいふ、即ち矛盾の意、轉じて「懸三羊頭一賣三狗肉」は看板と實物と異なるの意。
 類語
 危懸ケン 倒懸タウ 狐懸コウ 天懸ケン
 憂懸ケン 窮懸ケン 繩懸ケン 下懸ケン
 巖懸ケン 疎懸ケン 釣懸ケン 浮懸ケン

【懺洗】サンセン 前の罪惡を悔い改む。
 【懺悔】サンゲ 前非を悔いて改心する。
 【懺】キ もとる(戻)①つよし(強)
 【懼】ク おそる(恐)おちる、危ぶむ、戒め慎しむ②おどす(威)おどかす③おそれるさま、ぎよつとする
 【懼怕】クハク おちおそる。
 【懼然】クゼン おそるゝ貌。
 【懼愼】クレン おそれつゝしむ。
 【懼慚】クマン 畏れわづらふ。
 類語
 戒懼クイ 外懼グワイ 恐懼クヨウ 惕懼クキ
 怖懼クウ 怖懼クフ 畏懼クイ 怖懼クハ
 疑懼クイ 猜懼クイ 警懼クイ 危懼クキ
 驚懼クヤウ 駭懼クイ 敬懼クイ 悼懼クダウ
 震懼クシン 駭懼クセン 慙懼クマレ

【懺】クワン ふたごゝろ、二心
 【懺】クワン 懺に同じ、よろこぶ(悅)②よろこばす
 【懺心】クワンシン よろこびの心。
 【懺欣】クワンシン 欣は忻に作る、よろこび。
 【懺然】クワンゼン よろこぶ貌。
 【懺憚】クワンニキ よろこぶ、よろこび。
 【懺豫】クワンヨウ よろこび樂しむ。
 【懺々】クワンクワン よろこばしき貌。

【懺】クワン 懺に同じ①うるはし(美)②あつし(醇)③懿文イブン 美しくよき文章。
 【懿旨】イシ ①皇后又は皇太后のいひつけ②有り難き思召し。
 【懿戒】イカイ よきいましめ、善き教訓。
 【懿臣】イシン 忠臣。
 【懿戚】イセキ 親しき親類の間柄。
 【懿義】イギ 善き德行。
 【懿軌】イキ よき法則。
 【懿徳】イトク ①うるはしくさかんなる徳②五代の時の女官。
 【懿親】イシン ①親しき間柄②よき親類。
 【懿々】イイ ①匂ひのよきにいふ②醇美。
 【懿鏢】イシヤク ①うるはしくかじやく②大なる美德。
 【懿矣】オホイナリ 善美にして大なる貌。

又其情①殊に男女間の愛にいふ
 【戀枕】レンチン 寢床をはなれがたき貌。
 【戀情】レンジヤウ こひしたふ心。
 【戀著】レンチャウ 愛してはなれざる心。
 【戀愛】レンアイ 男女間のこひ、愛戀。
 【戀慕】レンボ 戀ひしたひて忘るゝ能はざる貌。
 【戀々】レンレン 親しく思ひ慕ふ貌。一
 【戀水】コヒミツ 涙のこと。
 【戀歌】コヒカ 戀情をよめるうた。
 類語
 愛戀レン 繫戀ケン 眷戀ケン 顧戀ケン
 思戀レン 仰戀レンヤウ 追戀レン 悲戀レン
 悵戀レンヤウ 情戀レンヤウ 失戀レン

【懺】セフ おそる(怖)恐れて氣を失ふ②おどす(威)おそれさせる
 【懺兇】セフキョウ 寒さのきびしきにいふ。
 【懺伏】セフフク 恐れてしたがふ。
 【懺怖】セフフ ①おそる、をのゝく。②おちおそる。
 【懺畏】セフキ 畏れ伏す。
 【懺服】セフフク 畏れはしる。
 【懺遁】セフトン おそれる。
 【懺處】セフショ おそれる。
 【懺惛】セフセフ ふかく恐る。
 【懺號】セフガウ おそれさげぶ。
 【懺駭】セフガイ 驚き恐る。

【戀】レン こひ、こふ②おもふ(思)したふ(慕)
 十九一二十四畫

【懺】クワク おどろく(驚)②あわてゝ視る③一説に敬ふさま
 【懺】クワク 懺の俗字
 【懺】クワウ タウ コウ

【總直】タウチヨク おろかにして正し、愚直。
 【總愚】タウダ おろか、おろかももの。

戈部

【戈】 クワ

【戈】 クワ

① 古代の武器。② いくさ、戦争

【戈矛】クワボウ ほこ、戦具。
 【戈兵】クワヘイ 武器、戎兵。
 【戈船】クワセン 水蟲の害を防ぐ船。
 【戈盾】クワジュン ほことたて。
 【戈戚】クワセキ 兵器、ほことおの。
 【戈鋒】クワホウ ほこさき、鋒端。

訓讀

【戈を止む】止レ戈はことごとく戦争を中止す。
 【戈を偃す】偃レ戈はことごとく戦具を用ゐず、天下太平の意。
 【戈を倒にす】倒レ戈はことごとくさきにす うらざり、味方に刃をむける意。

類語

干戈クワン 霜戈クワ 利戈クワ 義戈クワ
 兵戈クワイ 總戈クワ 矛戈クワ 天戈クワン

臣戈クワン 鋒戈クワ 星戈クワイ

一一二畫

【戌】 ボウ

【戌】 ボウ

① つちのえ、十千の第五位。② 方角にては中央、五行にては土に屬す。
 【戌夜】ボヤ 第五夜、夜の戌の刻。

【戌】 ジユツ

【戌】 ジユツ

いぬ、十二支の第十一位、西北の間の方位、昔の時刻の稱(午後七時より九時迄の間)

【成】 ジユ

【成】 ジユ

① まもる(守) 邊地を守備す。② 國境の守備、又其兵士、兵營

【成甲】ジユカフ 國境を守る兵士。
 【成守】ジユシユ 國境をまもる。
 【成兵】ジユヘイ 邊境を守備する兵。
 【成役】ジユエキ 邊塞をまもるつとめ。
 【成卒】ジユソツ 國境又は要塞をまもる兵。
 【成鼓】ジユコ 國境守備の陣中にて打つ陣

太鼓。

【戌禦】ジユギョ 屯して敵を防ぎとむ。
 【戌衛】ジユエイ 國境をまもりかためる。
 【戌樓】ジユロウ ものみのやぐら。

類語

行成ジユコ 征成ジユイ 適成ジユク 屯成ジユン
 留成ジユウ 廢成ジユイ 舍成ジユク 邊成ジユン
 遠成ジユン 鎮成ジユン 重成ジユク 城成ジユウ
 烽成ジユウ 守成ジユコ 孤成ジユコ

【戎】 ジユウ

【戎】 ジユウ

① 兵器の總稱。② つはもの、兵士、兵卒、
 ③ いくさ、戦争、戦備。④ いくさ車、兵車
 ⑤ なかたがひ、不和。⑥ おほいなり(大)
 ⑦ えびす、西方の蠻族、又廣く野蠻人の意に用ふ、又外國人を輕蔑していふたすく、たすけ(相)

【戎右】ジユウウ 兵車の右方に在りて武器を執る兵。

【戎衣】ジユウイ いくさごろも、軍服。
 【戎行】ジユウカウ 軍隊の行列又は活動。
 【戎戒】ジユウカイ 戦争の用意、戦備、軍備。
 【戎狄】ジユウテキ えびす、野蠻人、戎夷。
 【戎夷】ジユウイ 野蠻人、未開人。

【戎毒】ジユウドク 甚しき弊害、大害。
 【戎俘】ジユウフ とりこ、ほりよ。
 【戎寄】ジユウキ 兵事を委託すること。
 【戎服】ジユウフク 軍服、甲冑の類。
 【戎軒】ジユウケン 兵事、戦争。
 【戎捷】ジユウセツ 勝ちいくさ、戦勝。
 【戎裝】ジユウサウ 戦争の支度。
 【戎校】ジユウカウ 軍隊を率ゐる者、將帥。
 【戎麾】ジユウキ 軍旗、また軍隊。
 【戎器】ジユウキ 武器、武具。
 【戎路】ジユウロ いくさぐるま、戦車。
 【戎醜】ジユウシユウ ① えびす ② 多數の人員、衆人。

戎

【戎艦】ジユウカン いくさぶね、軍艦。
 【戎克】ジユウク 支那の近海にて使用する小形の運送船。

戎

類語

阿戎ジユウ 佐戎ジユウ 元戎ジユウ 大戎ジユウ
 蒙戎ジユウ 習戎ジユウ 軍戎ジユウ 禁戎ジユウ

三畫

【成】 セイ

【成】 セイ

① なる、しとぐ、しあがる、とぐ(遂)き

まる①たひらぐ、たひらぎ、仲なほり②をはる(終)③方十里の土地④他動詞、なす

【成人】セイジン ①一人前の年齢に達せるひと②完全なる人の意③おひたつこと。
 【成丁】セイテイ 廿歳以上の人、一人前の人、成年、成丁。
 【成立】セイリツ 成就する、成り立つ、ものになる。
 【成分】セイブン 物體を生成すること。
 【成文】セイブン 文章を以て書きあらはされしもんく。
 【成功】セイコウ ①いさをなしとぐ②出來上る③工事をしはる。
 【成句】セイコ ①まとまつた文言②古來人に廣く知られし文句。
 【成竹】セイチャク ①箱が竹となること②豫じめ考案を定む③又成算。
 【成年】セイネン 成人に同じ。
 【成定】セイテイ とげさだむ。
 【成育】セイイク そだつ、おひたつ。
 【成家】セイカ 結婚に同じ。
 【成否】セイヒ 成ると成らぬ、成敗。
 【成敗】セイバイ ①勝ちと負け、成功と失敗②政事を行ふ③罪人を斬ること。
 【成均】セイケン 成しとげて訓練す、教育す

る、轉じて學校。
 【成事】セイジ ①まとまつた事②決定せる事柄。

【成案】セイアン 成立したる見込。
 【成規】セイキ 規定、又きまり。
 【成童】セイドウ 八歳以上のこども。
 【成婚】セイコン 夫婦のちぎりを結ぶ。
 【成長】セイチャウ 育ちて大きくなる。
 【成美】セイビ 人を導き善行をなさしむ。
 【成業】セイゲツ ①學業をなしとぐ②家業をおこす③目的を達す。
 【成途】セイト 成しとぐ。
 【成策】セイサク 事業上のはかりごと。
 【成算】セイサン 心中に立てしもんく。
 【成熟】セイジュク ①上達、十分發達すること②果實のうれること。
 【成語】セイゴ 一つの意味をなす語、熟語。
 【成徳】セイタク ①德行をなしとぐ②發達完備せる徳。
 【成績】セイセキ てきばえ、事業の結果、成しとげたるいさを。
 【成驗】セイケン 徳望ある人には自ら衆人の眼するをいふ語。
 【成蟲】セイチュウ 昆蟲が成長して親蟲と同様になること、又そのもの。
 【成金】ナラケン 一時に金満家となりし者、

【成實宗】ジャウジツシユウ 成實論に基きて立てし佛教の一派。

【成人教育】セイジンケウイク 初等教育を終りて後直ちに實社會に入りて活動せる人に對し仕事の餘暇に施す實際的教育。

【成功下不レ可ニ久處】セイコウノモトシキウクルベカラズ 成功した後は早く退かざれば他人に怨みを受くるとの意。

【成を守護】シユウセイシヨウモル ①成し遂げし事業を守りて失はず ②先王の政事を存す。

【我】ガ

①われ、おのれ(己)わたくし ②わが(他の語に冠して用ふ) ③自國又は味方をさしていふ ④こちら、これ、こなた

⑤自説を固守して人にゆづらぬさま、剛情、かたいち ⑥自分に執著する ⑦哲學上にては心的現象の中心となるもの

【我見】ガケン 自分一己のかんがへ。

【我流】ガリウ 自分勝手に立てし流儀、自己流、自分流儀。

【我欲】ガヨク 私慾、わたくしのよく。

【我執】ガシツ 片意地、我意をはり通す。

【我慢】ガマン ①たへる、こらへる ②うぬぼれる、自慢 ③我意を通す、かたいち。

【我曹】ガソウ わがともがら、われ／＼。

【我輩】ガハイ 吾曹に同じ、われ／＼、わがともがら。

【我儘】ガマン 我が意のまま、かつてきまき、ほしいまま。

【我田引水】ガテンインスイキ 己が利益となるやうに物事をとりなすこと。

【我心如秤】ガココロハカリノゴトン 心に私なきにたとへていふ。

【我武維揚】ガブコリアガル 味方の武威の盛んなるをいふ。

【我心を獲】ガクシニシユキ ①自分の思ふ通りに行つて満足なりとの意。

【我】ガ

彼我ガ 無我ム 物我ガツ 忘我ガウ

啓我ヒラツ 知我シラフ 徳我トクニス

【戒】カイ

①いましめ(警)いましむ、注意する、さとす ②そなふ(備)まもる(守) ③ものいみす、齎する ④さかひ(界) ⑤つゝしむ(慎) ⑥さとしつぐ(諭告) ⑦佛法上のいましめ

【戒刀】カイタウ 僧侶の護身用に持つ刀 ⑧袈裟をたつ刃物。

【戒力】カイリキ 佛語、十善の戒行を保つ功力。

【戒心】カイシン 不慮に備ふる心、用心。

【戒旦】カイタン 朝の用意をしらし警しむ。

【戒守】カイシュ いましめ守る。

【戒名】カイメイ ①受戒によつて得たる名 法號 ②死者に與ふる法名。

【戒具】カイグ 囚人に施すいましめの道具

【戒杖】カイヂヤウ 山伏のもつ杖。

【戒律】カイリツ 戒と律、僧尼の守るべき掟。

【戒勸】カイケン 注意す、氣をつけ戒む。

【戒師】カイシ 信徒に戒を授くる僧。

【戒法】カイハフ 僧侶の守るべきいましめ。

【戒指】カイシ ①ゆびがね、指輪。

【戒筋】カイシヨク 戒めたいす、戒め整ふ。

【戒終】カイシユウ 物のをはりに注意す。

【戒禁】カイキン いましめ、おきて。

【戒愼】カイシン いましめつゝしむ。

【戒勸】カイケン ①さとし教ふ ②惡をいましめ善をすゝむ。

【戒壇】カイタン 佛弟子に戒法を授くる所。

【戒儲】カイヂョ 準備のための貯へ、入用のためのたくはへ。

【戒嚴】カイケン ①敵に對する守備を十分にす ②非常時に際し全國又は一地方を軍隊にて嚴重に取締ること。

【戒懼】カイク ①おそれ用心す。

【戒定慧】カイヂヤウエ 僧侶の修行する事柄。

【我】ガ

①そこなふ(殘) ②ころす(殺)

【我害】シヤウガイ ころす、そこなふ。

【我虐】シヤウキヤク ころす、そこなふ。

【我殘】シヤウザン ころす、そこなふ。

【我賊】シヤウゾク ころす、そこなふ。

【我滅】シヤウメツ ころしつくす。

【我】ガ

①そこなふ(殘) ②やぶる(傷) ③すこしすくなし(少)

【我餘】ヤウヨ ①のこり、あまり。

【我】ガ

①あるひは、あるは(未定の意又は想像の意をあらはす) ②あやしむ、まどふ(惑) ③あり(有) ④ある、不定又は未知の物事に冠する語 ⑤あるひと ⑥域に同じ(土地又邦土)

【或問】ワクモン 人の質問に對して答へるやうに書いた文體。

【或】カ

①いましめ(警)いましむ、注意する、さとす ②そなふ(備)まもる(守) ③ものいみす、齎する ④さかひ(界) ⑤つゝしむ(慎) ⑥さとしつぐ(諭告) ⑦佛法上のいましめ

【或刀】カイツウ 僧侶の護身用に持つ刀 ⑧袈裟をたつ刃物。

【或力】カイツキ 佛語、十善の戒行を保つ功力。

【或心】カイツシン 不慮に備ふる心、用心。

【或】カ

①いたむ(傷)かなしむ(哀) ②うれふ(憂)うれへしむ、心配をかける ③したしむ(親) ④儀式用の斧 ⑤親戚、みうち ⑥せまる(覺)

【戚里】セキリ 天子の母方の親戚。

【戚族】セキソク 親類、みうち、血族。

【戚々】セキセキ ①親しむさま ②憂へかなしむさま。

【戚揚】セキヤウ 斧と鉞、武器の名。

【戚响】セキエン 戚里に同じ。

【戚輔】セキホ 帝室の外戚と輔相。

【戚屬】セキソク 外戚に同じ、母系の親屬。

【威促】ツクツク つかへせまる、小心。
【威施】ツクシ せむし、くせせおもぶ
せ、又おもはゆく顔向けの出来ぬ人。
【威速】ツクツク さしせまりし貌、急促。

類語

内威 セキ 威威 セキ 重威 セキ 豪威 セキ
寵威 セキ 國威 セキ 藩威 セキ 宗威 セキ
婚威 セキ 右威 セキ 舊威 セキ 堅威 セキ
枝威 セキ 干威 セキ 玉威 セキ 白威 セキ
哀威 セキ 姻威 セキ 親威 セキ 尊威 セキ
六威 セキ 遠威 セキ 外威 セキ 近威 セキ

戛

カツ

①くひちがふさま(組屬)とする(様) ②
常道(長き)物の相撃つ聲の形容
【戛々】カツカツ ①くひ違ふ貌 ②戛然に同じ
【戛然】カツゼン 金石の如き固き物の打ち合
ふ音。
【戛撃】カツゲキ うつ、うちならず。

八一九畫

戛

戛の俗字

戛

戟

ゲキ

戟

ほこ(兩枝あるもの)

【戟又】ゲキヤ 兵器の名、さすまた。
【戟手】ゲキシュ 戟の如く兩手を張ること
②にぎりこぶしを打振ふこと。
【戟槩】ゲキカク ほこ、矛。

訓讀

【戟を失つて矛を得】失れ戟得れ矛はこをうしな
つてはこをう 失ふ所あれば又得る所あり結
局もとくくなるに喩へていふ語。

類語

交戟 ガク 句戟 グク 矛戟 ボウ 劍戟 ケン
雄戟 ユウ 鉞戟 セン 兵戟 ハイ 旗戟 ケイ

戡

カン

戡

①ころす(殺)②かつ(勝)

【戡夷】カンイ たひらげる、平定する。
【戡定】カンテイ 平らげさだむ、平定。
【戡殄】カンテン ころしつくす。

戢

シフ

戢

①をさむ(藏)②をさまる、聚集する ③止

戣

キ

める①いましむ(戒)②かくす
【戣楫】シフエイ かちを止める、舟を止める。
【戣々】シフシフ とままりあつまる貌。
【戣彙】シフカウ 兵器を聚めて用ゐる意、戦
争を止むること。

①ほこ(戟)②人名

十一十一畫

截

セツ

截

①きる(切)②たつ(断)③言葉に巧みな
こと④物事の明瞭なるさま
【截岸】セツガン きりぎりし、絶壁。
【截然】セツゼン 區別のはつきりしたる貌。
【截々】セツセツ 言葉上手、口先うまし。
【截破】セツパ 切りわる、きりひらく。
【截斷】セツタン たちきる、たちへたつ。

戩

セン

①つくす(盡)②ほろぼす(滅)

戮

リク

戮

①つみ(刑罰)②ころす(殺)③さらす、
死骸をさらす④はづかしむ(辱)⑤勤に
同じ、力をつにする、あはす
【戮力】リクリョク 力をあはす、一致協力す。
【戮笑】リクセウ 辱められて物笑ひとなる。
【戮辱】リクジュク はじ、はづかしめ。
【戮捷】リクセツ 殺すこととむちうつこと、
即ち刑罰。

類語

夷戮 リク 刑戮 ケイ 大戮 タイ
殺戮 サツ 殊戮 シュ 誅戮 シュ
枉戮 ワウ 横戮 ワウ 絞戮 コウ 貶戮 ヘン

戰

セン

戰

①たゝかふ、たゝかひ、いくさ、争ひ
たゝかはす、競争する②おそる(懼)を
のゝく(慄)③そよぐ、ゆれる
【戦士】センシ いくさびと、兵士。
【戦亡】センバウ 戦ひて死す、戦歿。
【戦世】センセイ みだれたる世、乱世。
【战友】センイウ 同じ戦争に出たるなかま。
【戦汗】センカン 恐れ驚るきて出る汗。

【戦地】センチ 合戦の場所、戦場。
【戦史】センシ 戦争の事を書きし物、戦記。
【戦死】センシ うちじに、陣歿。
【戦色】センシヨク 非常に恐れたる顔付。
【戦局】センキョク 戦争の大勢、いくさの成
りゆき。
【戦役】センエキ いくさ、戦争。
【戦歿】センボウ うちじに、戦死。
【戦争】センサウ たゝかひ、いくさ。
【戦射】センシャ 互ひに相戦ふさま。
【戦事】センジ 戦争に關する事柄。
【戦時】センジ 戦争のある時、戦争をして
ゐる頃。
【戦栗】センリツ 恐れふるへる貌、戦慄。
【戦陣】センジン ①いくさのそなへ、軍陣
いくさ、戦争。
【戦棟】センショウ おそれわななく貌。
【戦渦】センクワ 戦ひのうづ、戦ひの最中。
【戦國】センコク 亂れたる世、戦のたえ間な
き國。
【戦捷】センセツ ちかいくさ、戦ひてかつ。
【戦記】センキ 戦争の次第有様等を書き記
したるもの。
【戦略】センリョク 戦争の計略、軍隊の運用。
【戦袍】センバウ 戦場にて著る衣類、戎服、
又鎧の上にきる上衣、陣羽織の類。

【戦場】センチャウ たゝかひの場所、戦地。
【戦報】センバウ 戦況のしらせ。
【戦雲】センウン 戦争のはじまるしるし、い
くさの模様。
【戦勝】センショウ ちかいくさ。
【戦練】センレン 恐れをのゝく。
【戦慄】センリツ ふるへをのゝく。
【戦禍】センカウ 戦争の爲に起るわざはひ。
【戦意】センイ たゝかふころ、戦ふ勇氣。
【戦亂】センラン いくさ、いくさのみだれ。
【戦銃】センキョウ 戦々銃々に同じ。
【戦線】センセン 戦争の行はれる區域。
【戦端】センタン 戦争のおこりはじめ、戦ひ
のこぎち。
【戦塵】センチン いくさのさわぎ。
【戦鋒】センポウ 軍隊のいきほひ。
【戦機】センキ 戦争の時機、又は戦争のは
かりごと。
【戦闘】セントウ たゝかひ、いくさ、戦争。
【戦利品】センリヒン 戦争によつて分捕りた
る品物。
【戦争病】センサウビョウ 歐洲大戦當時婦人の
精神が多く病的状態にありしをいふ。
【戦闘力】セントウリキョク 戦ひに堪え得る力。
【戦闘艦】セントウカン 海軍の主力の軍艦。
【戦時法】センジハフ 戦争に關する國際公法

【戦國七雄】セソクシチユウ 支那戦國時代の齊・楚・燕・韓・趙・魏・秦の七國。
 【戦後經營】セソクキエイ 戦のすんだ後に於ける國家の政事。
 【戦々兢々】センセンキョウキョウ 戦々は恐る、兢々は謹む、おそれてびくびくする貌。
 【戦々慄々】センセンリョウリョウ ふるへ恐れる。
 【戦時禁制品】センシキンセイヒン 國際法の局外中立法により戦争中に於て中立國より交戦國に輸入することを禁じた貨物。

類語

義戦 争戦 挑戰 搏戦
 心戦 野戦 百戦 陸戦
 血戦 功戦 若戦 苦戦
 征戦 逐戦 酣戦 舟戦
 水戦 敵戦 決戦 船戦
 海戦 會戦 合戦 力戦
 連戦 接戦 勇戦 挺戦
 巷戦 禦戦 守戦 寇戦
 繁戦 伴戦 闘戦 健戦

戯

戯の俗字

十三十四畫

戲

キギ

戲

①たはむれ、たはむる、興じ遊ぶ、もてあそぶ、なぐさむ(義)に通ず(かたむく)(傾)②塵に同じ、はた、大將の旗(歎息の聲、あゝ)遊技、芝居
 【戲下】ギカ 大將旗のある所(大將に直屬する者、はたもと、塵下)。
 【戲文】ギブン 演劇の筋書(滑稽文)。
 【戲曲】ギキョク 節符をつけ樂に和して劇に演ずるやう作りし文章(筋書)。
 【戲言】ギゲン たはむれの言、じやうだん。
 【戲作】ギサク たはむれに作った文章、又は書物、小説(脚本の類)。
 【戲玩】ギグワン もてあそぶ。
 【戲書】ギレシヨ たはむれに書きしもの、ざれがき、いたづらがき。
 【戲嘲】ギタウ たはむれ、ふざける。
 【戲謔】ギキョク たはむれ、おどけ、冗談。
 【戲豫】ギヨ たはむれあそぶ。
 【戲劇】ギゲキ ①たはむれ(諷刺、笑劇)。
 【戲綵娯親】ギサイエンシム 老萊子の故事に因み親の心を樂しましむること。

類語

戴

タイ

戴

①いたゞく(戴)頭の上のせる物の上のせる(戴)あたひ(值)②尊び敬ふ、又あふぐ(赤)賜物を受く(國)訓いたゞく(恭)しく物をさゞぐ、ある事をして貰ふ意の敬語)
 【戴天】タイテン 天をあふぐ、この世に生存する意(父母のこと)。
 【戴白】タイハク 白髮、しらが、老人のこと。
 【戴旨】タイシ 上の命をうく、仰せをうく。
 【戴命】タイメイ 命令をうけたまはる。
 【戴冠】タイクワン 冠をいたゞく、外國にて天子が即位のとき冠をいたゞく儀式。

戸部

戸

戸

①と、とぐち、かどぐち(と)とびら、又室の出入口(ま、へ)②い、(家)家の敷をかぞへる語(家毎に、こゝとに)とむ(止)酒をのむ分量を示す語
 【戸口】コウ 家と人のかず。
 【戸大】コダイ 酒のみ、上戸。
 【戸々】コトコト いへ、家ごと。
 【戸主】コシユ 一家の主人、戸長(家政を總統し家族に對し扶養義務を負ふ者)。
 【戸別】コベツ 家ごと、毎戸、軒別。
 【戸長】コチヤウ 徳川時代町村の吏務を掌りし役人、なぬし。
 【戸限】コゲン 戸のしきり、しきり。
 【戸部】コベ 戸口を調査する役所。
 【戸税】コゼイ 毎戸に賦課する税金。
 【戸敷】コスウ 家かず。
 【戸隔】コイワ まで、壁のまど。
 【戸籍】コセキ 人の身分を登録する臺帳。
 【戸柵】コスウ ①戸のくる、②戸口。
 【戸閉】コクワ 門戸を閉す、門扉。
 【戸籍法】コセキホウ 親族關係身分登記の順序方法を定めたる法律。

戸部

戸部

戸部

戸部

戸

戸の俗字

一一四畫

【戸部侍郎】コベジヤウ 支那の戸部省の次官にして我が大藏次官に相當す。
 【戸樞不審】コスウハツセ 常に活動せる人は壯健なることに喩ふる語。
 【訓讀】戸を出でずして天下を知る(不)出レ戸知(二)天下(一)をい(三)し(四)て(五)ん(六)を(七)し(八)る(九)家(十)の中(十一)に居(十二)ながら(十三)廣(十四)く(十五)世(十六)間の(十七)事(十八)をし(十九)る。

類語

庭戸 邑戸 酒戸 室戸
 房戸 人戸 郷戸 客戸
 新戸 亭戸 商戸 貧戸
 佃戸 下戸 官戸 龍戸
 軒戸 屏戸 門戸 蓬戸
 三戸 洞戸 窓戸 玉戸
 九戸 氣戸 萬戸 重戸
 四戸 閭戸 遠戸 竹戸
 閭戸 疎戸 釣戸 船戸
 樞戸 漁戸 獵戸

戾

ヤク

戾

①くるしみ、くるしむ(困)なやむ(惱)②わざはひ、災難
 【戾】レイ
 ①もとる(很)道理にそむく(と)む(止)②さだむ(定)さだまる、平定する③いたる(至)④しへたぐ(虐)⑤むさぼる(貪)⑥まがる(曲)⑦つみ(罪)とがめ⑧國訓もどる、もどす、歸る、返す、もと通りになる
 【戾乖】レイクワイ 道にそむきもとる。
 【戾道】レイダウ 道にそむく。
 【戾蟲】レイチュウ 虎の異名。

類語

曲戾 争戾 反戾 擊戾
 止戾 食戾 狼戾 暴戾
 詭戾 罪戾 違戾 惡戾
 叛戾 剛戾 咎戾 凶戾
 重戾 悔戾 悖戾 背戾
 怨戾 猛戾

房

ハウ パウ 房
① (へや(室)いへ(家)住居)す(巢)ふ
(總)花又は果實などの一つに群り集
りたるもの、又その形をなしたるもの
② やぶ、(矢)を入る、器)東南にある
星の名、二十八宿の①まないた(俎)
③ 國訓ふき(糸)を集め一端を散せし物

- 【房中】パウチユウ へや、室内。
【房主】パウシユ 佛語、一房の主。
【房室】パウシツ へや、寢所。
【房星】パウセイ 二十八宿中東南にある星。
【房宿】パウシユク 前に同じ。
【房事】パウジ ねやのこと、閨中の秘事。
【房奥】パウウ 奥座敷、物の奥所、奥儀。
【房馴】パウレ 房星に同じ。
【房杜姚宋】パウトエウウ 唐の太安の宰相房
喬、杜如晦と玄宗の宰相姚崇、宋璟の四
人のこと。
類語
密房パウク 翠房パウキ 大房パウイ 後房パウウ
空房パウウ 山房パウシ 禪房パウシ 僧房パウウ

所

ショ ソ
① ところ。動詞・形容詞の上に添へて
語勢を強める助詞(らる、せらる)ば
かり(許)ほど(程度)④無意味の助辭)
ゆゑん(所以)ゆゑに④いはゆる(所謂)
④あらゆる(凡有)④いくばく(幾所)幾
何

- 【所子】ショシ 養子、弟子を養ひて子とな
す、又その者。
【所天】ショテン 人を敬ひいたゞきて言ふ、
臣より君をいひ妻より夫をいふの類。
【所生】ショセイ ①父と母②生みたる子。
【所化】ショカ ①僧侶の弟子、小坊主②佛
に歸依したる者。
【所用】ショヨウ ①用件、用むき②使用する。
【所有】ショウヨウ もつ、もちもの。
【所以】ショイ ゆゑ、わけ、ゆゑん。
【所由】ショウユウ ①唐代物品の出納を司りし
官②よるところ、わけ。
【所在】ショウゼン おもわく、かんがへ、量見。
【所司】ショシ 足利時代の侍所、又その長。

所

①有る場所、ありか②所々
方々の意。
【所見】ショケン みこみ、おもわく。
【所持】ショヂ 所有に同じ。
【所作】ショサ ①所爲に同じ②身ぶり、又
おどり、まひの類。
【所行】ショウキョウ ふるまひ、おこない。
【所長】ショウチャウ ①とりえ、えて、長所②
一所のかしら。
【所得】ショトク 利益、得たるころの物。
【所期】ショキ ①めあて、目的②期すると
ころのものごと。
【所信】ショシン 自分の信ずるところ。
【所望】ショウマウ のぞむ、望みたるもの。
【所勞】ショラウ つかれ、病疾。
【所要】ショウヨウ 入用、入用のもの。
【所爲】ショウキ ①しわざ、行ひ、ふるまひ。
【所帶】ショウタイ ①身に帶びる所のもの、財
産②一家のくらし、生計。
【所領】ショウリョウ 我が領する地、領土。
【所幾】ショキ ①こひねがふこと②殆どそ
れに近しの意。
【所詮】ショセン つまり、結局、最後。
【所業】ショウゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【所感】ショウカン 感じたるところ、思ふ所。
【所管】ショウカン 支配、とりしまり。

所

①ひらたし(平)②ひくし(卑)③門戸に
するすはりふだ、門牌、表札④まるし
(圓)⑤ちひさし(小)
【所轄】ショクツツ 所管に同じ。
【所藏】ショザウ 大切に所有す。
【所親】ショケン したしむ所、懇意なる人。
【所懐】ショクワイ おもひ、思ふところ。
【所屬】ショゾク つく、つきもの。
【所司代】ショシダイ 徳川時代京都に在りて
禁裏に關する諸般の事を司り且つ畿内
附近の諸侯を監視せし官名。
【所有權】ショウヨウケン 法律上或物件を自由に
處分し得る權利。
【所得稅】ショトクセイ 一年間の收入に基きて
取立てる税金。

所

①長き額面。
【所額】ショウガク 室内・門戸などに掲ぐる横
に長き額面。
【所鶴】ショウカク 春秋時代の名醫扁鵲と倉公
【所桃線】ショウタウセン 口腔の奥の兩側にある
腺のこと。

類語

舊所キョウ 勝所シヨウ 栖所シヨウ 住所ジユウ
里所リシヨウ 年所ネンシヨウ 公所コシヨウ 處所チヨウ
酒所シウシヨウ 本所ホンシヨウ 他所シヤシヨウ 軍所グンシヨウ
屯所チンシヨウ 營所エイシヨウ 會所ケイシヨウ 墓所ボシヨウ
治所ヂシヨウ 齋所サイシヨウ 祠所シシヨウ 民所ミンシヨウ
樂所ラクシヨウ 飲所インシヨウ 行在所アンシヨウ

五畫

扁

所

①あふぎ、うちは(團扇)②あふる、そ
のかす(暖)あふぐ、あふつて風を起す
③とびら(屏)
【扇子】セニス うちは、あふぎ。

扇

①有る場所、ありか②所々
方々の意。
【所見】ショケン みこみ、おもわく。
【所持】ショヂ 所有に同じ。
【所作】ショサ ①所爲に同じ②身ぶり、又
おどり、まひの類。
【所行】ショウキョウ ふるまひ、おこない。
【所長】ショウチャウ ①とりえ、えて、長所②
一所のかしら。
【所得】ショトク 利益、得たるころの物。
【所期】ショキ ①めあて、目的②期すると
ころのものごと。
【所信】ショシン 自分の信ずるところ。
【所望】ショウマウ のぞむ、望みたるもの。
【所勞】ショラウ つかれ、病疾。
【所要】ショウヨウ 入用、入用のもの。
【所爲】ショウキ ①しわざ、行ひ、ふるまひ。
【所帶】ショウタイ ①身に帶びる所のもの、財
産②一家のくらし、生計。
【所領】ショウリョウ 我が領する地、領土。
【所幾】ショキ ①こひねがふこと②殆どそ
れに近しの意。
【所詮】ショセン つまり、結局、最後。
【所業】ショウゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【所感】ショウカン 感じたるところ、思ふ所。
【所管】ショウカン 支配、とりしまり。

扇

【扇扇】クワイウ とびらとまで。
【扇鍵】クワイケン とびらとかぎ、戸じまり。
【扇關】クワイクワン 門戸をとびらかんぬき。
【扇鎖】クワイサ ちやうまへ、戸じまり。
類語
禁扇ケン 禪扇ゼン 樂扇ラクイ 蓬扇クワイ
嚴扇ゲン 紫扇シイ 關扇クワン

扇

とびら(門)を閉づる鏡前)
【扇展】クワイセン つまり、結局、最後。
【扇業】クワイゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【扇感】クワイカン 感じたるところ、思ふ所。
【扇管】クワイカン 支配、とりしまり。

扇

①あふぎ、うちは(團扇)②あふる、そ
のかす(暖)あふぐ、あふつて風を起す
③とびら(屏)
【扇子】セニス うちは、あふぎ。

扇

扇

扇

とびら(門)を閉づる鏡前)
【扇展】クワイセン つまり、結局、最後。
【扇業】クワイゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【扇感】クワイカン 感じたるところ、思ふ所。
【扇管】クワイカン 支配、とりしまり。

扇

とびら(門)を閉づる鏡前)
【扇展】クワイセン つまり、結局、最後。
【扇業】クワイゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【扇感】クワイカン 感じたるところ、思ふ所。
【扇管】クワイカン 支配、とりしまり。

扇

とびら(門)を閉づる鏡前)
【扇展】クワイセン つまり、結局、最後。
【扇業】クワイゴウ しわざ、ふるまひ、行ひ。
【扇感】クワイカン 感じたるところ、思ふ所。
【扇管】クワイカン 支配、とりしまり。

扇

扇

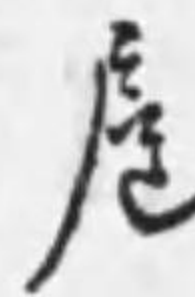
【扇車】センシャ 農具の名、たうみ。
 【扇面】センメン あふぎ、あふぎの地紙。
 【扇形】センケイ あふぎがた、圓心角形。
 【扇動】センドウ 煽てゝ事を起さしむ、煽動。
 【扇稍】センセウ あふぎの要。
 【扇眼】センガン 扇の要をいふ。
 【扇扉】センビ とびら、一枚の戸。
 【扇揚】センヤウ あふり上る。
 【扇惑】センワク おだてまどはず。
 【扇搖】センニウ あふり動かす、そのゝかし
 騒がす。
 【扇誘】センイウ そのゝのかす、おだてる。
 【扇蕩】センタウ 煽動に同じ。
 【扇枕温被】センシヤンビ 親に孝行をつくす
 ことにいふ。

類語

羽扇 セン 團扇 セン 輪扇 セン 秋扇 セン
 絹扇 セン 毛扇 セン 寶扇 セン 涼扇 セン
 奇扇 セン 華扇 セン 戸扇 セン 鳳扇 セン
 翠扇 セン 綾扇 セン

扈

君主につきしたがふ、君主のおとも
 竹のやな(水中に置いて魚を捕ふる)



扉

とびら、ひらき戸

類語

船扉 セン 綺扉 セン 柴扉 セン 猪扉 セン
 扇扉 セン 畫扉 セン

扈

扈に同じ

手部

手

シユシウス



(て(上肢)てのひら、たなごゝるて

にす、手にもつしわざてづから(手
 自)本からて、からてに打つふでの
 あと或技藝に長ずる者、又或事を勤
 める者を呼ぶ稱國訓て(とつて、組
 部下、きず、方法)

【手工】シユコウ てわざ、てしごと、手技。
 【手下】シユカ てした、こぶん、部下。
 【手巾】シユケン 手ふき、手ぬぐひ。
 【手中】シユチュウ 手のうち、手の中の意。
 【手文】シユブン 手のすぢ、手の紋、手理。
 【手冊】シユサツ 小さき帳面、手帖。
 【手自】シユジ みづから手をつける意。
 【手札】シユサツ 手紙、書状、自ら書きし文書
 【手抄】シユセウ 抜き書き、又書きぬきたる
 記録物。
 【手法】シユハウ やりかた、仕方、手段、技巧。
 【手板】シユバン 位階ある人が禮服を著した時
 手に持った、しやく、笏。
 【手技】シユギ 手工に同じ。
 【手拜】シユハイ 禮拜の一、手を地につき頭
 をその上にのせて拜す。
 【手刺】シユシ めいし、名ふだ。
 【手段】シユダン てだて、方法。
 【手足】シユツク 手と足 部下、手下、又
 兄弟にたとへていふ。
 【手套】シユタウ てぶくる。



【手帕】シユハク 手ふき、はんかち。
 【手書】シユショ 自ら書く、自書 手札。
 【手教】シユチャウ 天子の御ちきひつのみこ
 とのり、手詔。
 【手押】シユアツ 押印、つめいん。
 【手述】シユセキ 書きたる文字、筆蹟。
 【手理】シユリ 手文に同じ。
 【手摺】シユカク から手でなぐる、手摺。
 【手腕】シユワン うでまへ、器量、能力。
 【手記】シユキ 自ら書きしること。
 【手術】シユジュツ 外科の治療法。
 【手筆】シユヒツ 手述に同じ。
 【手械】シユカイ 罪人の自由を束縛する具、
 てかせ。
 【手答】シユタウ 自ら返書をしたゝむ。
 【手詔】シユセウ 手教に同じ。
 【手勢】シユセイ てつき、手ぶり。
 【手脚】シユキヤク 手とあし、てあし。
 【手摺】シユハク 手にてなぐる。
 【手箱】シユシヤウ てばこ、手函、手文庫。
 【手練】シユレン 巧妙快速なる言語動作。
 【手話】シユゴ 手まねにて話す。
 【手摺】シユバウ 手札に同じ。
 【手談】シユダン 碁を圍む、圍碁。
 【手澤】シユタク 器物に附著した手あか。
 【手藝】シユゲイ 手先のさいく、てわざ。

【手翰】シユカン 手札に同じ。
 【手燭】シユシュク てしよく、手にもつあかり
 【手爐】シユロ 手あぶりの火鉢の一。
 【手切】シユキレ 關係を絶つこと、俗に手
 をきるといふ 談判の決裂。
 【手引】シユビキ いたよる案内する。
 【手水】シユスイ 手を洗ふ水 轉じて小便。
 【手代】シユダイ 商家の店員の名稱。
 【手合】シユアヒセ 競技すること 賣買契約
 をなすこと なかま、連中、
 【手形】シユガタ 手のあと 手形上の債權
 を記したる證券。
 【手附】シユツケ 取引上の契約を結ぶときに
 授受する金錢。
 【手並】シユナミ うでまへ、手腕。
 【手紙】シユカミ しよじやう、ふみ、手翰。
 【手習】シユナヒ 文字のけいこ、習字。
 【手筈】シユハズ 手だて、てくばり、だんどり。
 【手當】シユチウ 支度、準備 報酬、給料。
 【手際】シユキハ 出来具合、仕上りし時の成績
 【手製】シユセイ 自分の手で作る、自製。
 【手續】シユツキ 取扱ひの次第。
 【手綱】シユツナ 乗馬の時手に取るつな。
 【手裏劍】シユリケン 小柄に似たる小刀にて
 敵になげらつて害するに用ふ。
 【手實法】シユジツハフ 課税の標準を定める爲

め家族の數・年齢・財産状態等を人民自
 身に申告せしめし法。
 【手澤本】シユタクホン 生前自愛したる藏本。
 【手取金】シユトルカネ 種々の費用をさし引き
 て實際自分の手に受取る金。
 【手握汗】シユアツニゲル 心に危く思つて手
 中に汗をかく、ひや／＼するさま。
 【手兒舞】シユコマヒ 祭禮の時などに屋臺の上
 にて行ふ簡略なる舞踊の俗稱。
 【手數料】シユスウレウ 人民が官廳より特別
 の行爲をなされたる事に對し報酬の意
 味にて納むるもの 一般に口錢又は報
 酬の意。
 【手足異レ處】シユソクトコロコトニス 腰の邊より
 眞二つに斬られし貌。
 【手不レ釋レ卷】シユクワンラスラヌ 一心に讀書にふ
 けるさま。
 【手形支拂】シユガタシハラヒ 手形の額面高を支
 拂ふこと。
 【手形資金】シユガタシケン 爲替手形又小切手等
 の支拂人が其の支拂の資本として拂出
 人又は其の他の資金義務者より受取る
 金圓。
 【手前味噌】シユマヘシヨ 自分のことを自分で
 善くいふこと。
 【手握三王爵】シユツウシヤクサニギル 僭越なる臣

が爵位を自由にして我儘を振舞ふと。

訓讀

- 【手に信ず】信レ手 てにまかす 自ら努めずして手の動くまゝになす。
- 【手に唾す】唾レ手 てにばらす 仕事に取かゝらんとして意氣込むさま。
- 【手を束ぬ】束レ手 てをつかぬ 手出しをせぬ傍観する、又抵抗せぬ。
- 【手を斂む】斂レ手 てをさむ 手を引きこめる、關係をたつ。
- 【手を頼にす】頼レ手 てをたひかにす 遠方を望み見る貌。
- 【手足を措く所なし】無レ所措ニ手足 一てあしをおくところなし 危険にして身の置所なし。
- 【手の舞足の踏む所を知らず】不レ知ニ手之舞足之踏所 一このまひあしのおむところをしらず常に喜びてをどりあがるさま。

類語

- 拱手シヨウ 遊手シヨウ 十手シヨウ 放手シヨウ
- 又手シヨウ 唾手シヨウ 凶手シヨウ 素手シヨウ
- 分手シヨウ 兩手シヨウ 撃手シヨウ 空手シヨウ
- 高手シヨウ 異手シヨウ 佳手シヨウ 良手シヨウ
- 著手シヨウ 下手シヨウ 名手シヨウ 妙手シヨウ
- 仙手シヨウ 拳手シヨウ 老手シヨウ 織手シヨウ

才

手に同じ

才 さい

才

サイ

才

①ざえ、はたらき(能力)たち(質)②はたらきある人、すぐれたる人③織に通ず、わづかに④裁に通ず、はかる、とりきめる⑤國訓さい、ますめの稱(勺の十分の一)材木の長さ又容積の單位、又年齢の歳の字に通じ用ふ。

- 【才人】サイジン ①はたらきある人 ②詩文の達人 ③歌舞を以て後宮に仕ふる婦人。
- 【才力】サイリキョク 心のはたらき、才智と腕前。
- 【才子】サイシ ちよある人。
- 【才名】サイメイ 才智のほまれ。
- 【才色】サイシヨク 才智と容貌(例)才色兼ね備ふ。
- 【才地】サイチ 才能と家から。
- 【才秀】サイシュ 才智すぐれたる人。
- 【才取】サイトリ 賣買の周旋をして口銭を取る意。
- 【才物】サイブツ 才能ある人物。
- 【才彦】サイゲン すぐれたる人士。
- 【才俊】サイシュン 才智の衆に勝れたる人物

- 【才思】サイシ 才智のはたらき。
- 【才度】サイド 是たらき、智恵、器量。
- 【才能】サイノウ ちよとわざ、才智能力。
- 【才智】サイチ 才あつて物にあかるし。
- 【才華】サイクワ はんくしく外にあらはれたる才智。
- 【才格】サイカク 才能ある性質。
- 【才捷】サイセツ 才智のすぐれしもの。
- 【才望】サイバウ ①才智と名譽 ②才智による名譽。
- 【才氣】サイキ 是たらき、優れたるはたらき、才智。
- 【才術】サイジュツ 才能と手腕。
- 【才略】サイリョク ちよと考へ、才智計謀。
- 【才媛】サイエン 才智ある女、詩文・學問等に長ずる女。
- 【才短】サイタン 才能に乏しきをいふ。
- 【才智】サイチ 心のはたらき、かしこし。
- 【才器】サイキ 是たらきある人、才物。
- 【才學】サイガク 才智と學識。
- 【才幹】サイカン ちよ、是たらき。
- 【才筆】サイヒツ 文章詩歌にすぐれしこと。
- 【才雄】サイユウ 才氣すぐれしもの。
- 【才貌】サイバウ 才色に同じ。
- 【才調】サイテウ 氣のきよたるやうす、又おもむき、韻致。

扨

ロク

箠竹を數へる時その餘りしものを左手の無名指と小指の間に挟み持つこと

扑

ボク

- 【一うつ(打)】①たまく②しもと、むち、罪人をうつ杖、又支那古代の教鞭
- 【扑殺】ボクツツ 殺す、うちこころす。
- 【扑滅】ボクメツ うちほろぼす。
- 【扑撻】ボクダツ 杖にてうつ、むちうつ。
- 【扑擊】ボクキキ うちこころす。

類語

- 敲扑ボク 鞭扑ベン 楚扑ボク

打

テイ

お

①うつ(擊)たまく(扣)②動詞の上に置く無意味の助辭(および(及)③英語のダース(Dozen)の音譯(十二個一そろひの稱)

- 【打擲】チャウチャウうつ、たまく。
- 【打粉】ダフン 芝居等で役者が種々の衣裳をつけ容姿を變ると、いでたち、みなり
- 【打破】ダハ、うちやぶる、うちこはす。

打

- 【打毬】ダキウ 遊戯の名稱、まりうち。
- 【打罵】ダバ 打は助字、のゝしる。
- 【打魚】ダギョ 網をなげて魚をとる。
- 【打診】ダシン 病を診察するに指にて局部を打ちその音聲によりて容態をはかること。
- 【打開】ダカイ 打は助字、ひらく。
- 【打電】ダデン 電報を發す。
- 【打算】ダサン 勘定する、計算する。
- 【打攘】ダクワイ うちくぢく、うちくぢく。
- 【打頭】ダトウ ①頭をたまく②魚の名、いしもち、石首魚。
- 【打擊】ダキキ うちくぢく、うちくぢく。
- 【打擡】ダカク かきまはしみます。
- 【打身】ダチミ 打撲傷に同じ。
- 【打歩】ダフブ ①金銀貨幣と紙幣との間に起る價格上の差額 ②銀行の送金爲替に對する手數料。
- 【打紐】ウチヒモ 絲にてあみたる紐。
- 【打掛】ウチカケ ①古の武官の禮服 ②婦人の通常禮服。
- 【打包僧】ダハウソウ 包を負へる僧侶。
- 【打撲傷】ダボウシャウ 打たれし傷、うちみ。

類語

- 亂打ラン 鞭打ベン 拳打ケン 捶打スチ

扎

サツ

①ぬく(抜)又極に同じ②袖をまくる③俗に書札の札に用ゐる

一一二畫

- 英才エイ 叡才エイ 三才サン 賢才ケン
- 奇才キ 異才イ 高才カウ 逸才イツ
- 絶才ゼツ 仙才セン 上才ジヤウ 非才ヒ
- 口才コウ 吏才リ 大才ダイ 天才テン
- 秀才シュウ 實才ジツ 美才メイ 明才メイ
- 無才ム 不才フ 庸才ヨウ 良才リヤウ
- 好才カウ 偉才エイ 洪才コウ 通才ツウ
- 辯才ベン 微才エイ 全才ゼン 短才タン

撲打ダク 極打ダク 毆打ダク

扞

國字

①はむ(嵌)②しぼる(絞)

三畫

托

タク

①物をのせる臺②ひらく(拓)おす③俗に託に通じ用ふ

【托子】タクシ ちやたく、茶托。

【托鉢】タクハツ 僧侶が修法の一として俗家にいたり食を乞ふこと。

【托葉】タクエフ 葉柄の莖部にある小さい葉片。

扛

カウ コウ

扛

①あぐ(舉)もちあぐ②兩人にて一物をかゝへあぐ(抱揚)

【扛夫】カウフ かごかき、轎夫。

【扛鼎】カウテイ 力の強大なるをいふ③筆力のするどきにたとふ。

【扛舉】カウキョウ さしあげる、もちあげる。

扞

カン

扞

①ふせぐ(拒)②まもる(衛)③あたると抵觸する④つかへる(伎)⑤槍のいしつき(矛鏑)⑥てこ(槓杆)

【扞拒】カンキョウ さへぎり止む、防禦。

【扞制】カンセイ 防ぎとむ。

【扞格】カンカク 物事にさからひ反對する。

【扞衛】カンエイ ふせぎまもる、防衛。

【扞禦】カンゴ ぶせぐ、さへぎり止む。

【扞蔽】カンペイ ふせぎおほふ。

扣

サ

扣

①はさみとる(挾取)②やす、水中の魚をさし取る③漁具④國訓さて(發語の詞)

扣

コウ

扣

①たゞく、うつ(擊)②ひかふ、ひく(牽)ひき止める③ぼたん(鈕釦)④さしひく(差引)⑤國訓ひかふ(控)

【扣制】コウセイ ひきとめる、おさへ制す。

【扣除】コウコウ さし引く、ひきさる。

【扣舷】コウケン 船ばたをたゞく、又其音。

抗

ゴツ

抗

①うごく、うごかす(動搖)②危きさま、又不安なるさま

四畫

拃

チユ ニユ

拃

①おさへる(按)②ころばす(轉)③つかぬ(束)

拃

フン ハン

拃

①かきまざる(混和)②あはす(合併)③いてたつ、いてたち(紛裝)

【拃飾】フンシヨク よそほひかざる、めかす、みづくろひ。

【拃裝】フンサウ 姿をかへる、身づくろひ、いてたち。

【拃戲】フンキ 芝居のいてたち、又演劇。

拃

サフ キフ

拃

拃の俗字

批

ハイ ヒ ヘツ

批

①うつ(打)たゞく(扣)手にて撃つ②しめす(示)是非をわかちきめる③まるばす(轉)④へら(篋)⑤ひらく(排)⑥ふる(觸)さはる⑦臣下の奏文の末に天子が教答を書かれること

【批拉】ヒラフ 打ちひしぐ。

【批准】ヒジュン ①條約の案文を國の主權者が承認すること②臣下からの上奏に對し君主が決議許可すること。

【批判】ヒパン ①研究したる後に物事を批評すること②臣民の奏上に對して宰相が意見を附記すること。

【批評】ヒヒヤウ ものゝよしあしを評論すること、しなだめ。

【批把】ヒハ 四絃の樂器、琵琶。

【批答】ヒタウ 奏文に書き加ふる天子の御意見。

【批點】ヒテン ①文章・詩歌の添削批評の際その傍にうつ點②又は單に詩文の訂正・批評等にいふ。

【批評眼】ヒヒヤウガン 批評の眼識。

【批准交換】ヒジュンカウケン 批准をへた條約文を其國々で互にとりかはすこと。

於

於の俗字

扳

ハン

①ひく(引)②よぶ(譽)

扶

フ

扶

①たすく、力をかす、すくふ、介抱する②たすけ③たすけらる、たよる④笑に通ず(笑葉)⑤おほかせ(颯風)⑥木の名(扶桑)⑦昔の尺度の名⑧はらばふ(匍匐)

【扶木】フボク 日の出づる所にあるといふ大なる神木。

【扶伏】フフク はらばふ、はらばひ。

【扶立】フリップ たすけ立つ。

【扶々】フフ 小兒の幼き貌。

【扶老】フラウ 老人のもつ杖、又杖に作る一種の竹、扶竹。

【扶助】フジユ 力をそへる、たすける。

類語

間扶フ	給扶フ	杖扶フ	對扶フ
挾扶フ	夾扶フ	通扶フ	携扶フ
協扶フ	天扶フ		

〔抵〕

シ テイ

抵

①うつ、側から撃つ②いたる(抵掌)③テイシヤウ 手をうつ、拍手。

〔扼〕

ア ク ヤク

扼

①おさふ、とりひしぐ②おさへる(扼腕)③ヤクカウ ④気が喉にこみあげること

〔扼腕〕ヤクカウ ④気が喉にこみあげること

〔扼腕〕ヤクカウ ④気が喉にこみあげること

〔扼腕〕ヤクカウ ④気が喉にこみあげること

〔扼腕〕ヤクカウ ④気が喉にこみあげること

〔承〕

シ ヨウ

承

①うく、うけ頂く②うけたまはる、うけつぐ③たすく、たすけ(承)④さし(捧)⑤物の順序(承)⑥すく(承)⑦國訓うけたまはる(承)⑧の敬語

〔抄〕

サウ セウ

抄

鈔に作る①とる、掠め取る②すく(抄)③うつす(抄)④書き抜く⑤寫し又は抄(抄)⑥すく(抄)⑦文書一部のうつし。⑧抄本⑨文書一部のうつし。⑩抄書⑪ぬきがき、抄録⑫諸書から抜き書きしたる書物。⑬抄撮⑭書ききしたる書物。⑮抄撮⑯次と同じ。⑰抄略⑱セウリヤク 暴力を以つて奪ふ、掠め取る。

〔拊〕

フ

拊

①とる(執)にぎる(拊)にぎり、握つた程の太さ②とつて(把手)器物の柄③ゆづか(把)④たば(把)又東れたるものを數へるにふ⑤把手⑥ハシユ 物の柄、ハンドル。⑦把住⑧ハヂウ 經驗によりて得たる事物を持續する心的作用。⑨把玩⑩ハダワン 手に持ち弄ぶ。⑪把捉⑫ハツク とる、とらへる。⑬把持⑭ハヂ ①手にもつ②自分で取扱ふ。⑮把握⑯ハツク にぎる、とり持つ。⑰把握⑱ハツク かきあつむ、取りあつむ。

〔拵〕

ヘン マン

拵

①わざ、てわざ②たくみ(巧)巧みなるわざ③うでまへ、はたらき(能力)④技手⑤ハシユ 一つの技術に通じ技師の下の役をつとむる者、俗にぎて。⑥技巧⑦ギョウ たくみなるてわざ。⑧技師⑨ギシ 専門の技術に熟達しそれを以て官界又は會社等に勤むる人の職名。⑩技能⑪ギノウ はたらき、うでまへ。⑫技術⑬ギジュツ わざ、たくみ。⑭技道⑮ギダウ こまかき藝術。⑯技監⑰ギカン 技師の上にある者。⑱技藝⑲ギゲイ 技能を示すこと能はずして身體のむず／＼するさま。⑳技藝⑳ギゲイ わざ、たくみ、藝術。

〔拵〕

ヘン マン

拵

①うつ、喜んで手をうつ(拍手)②拵拜③ヘンバイ 手をたゞきて拜む。④拵賀⑤ヘンガ 喜びいほふ。⑥拵喜⑦ヘンキ 手を打つてよるこぶ、大いに喜ぶさま。⑧拵踊⑨ヘンヨウ 次と同じ。⑩拵舞⑪ヘンブ 手をうちてよるこぶ舞ひをよる、甚しく喜ぶさまにたとふ。

〔技〕

アン

技

①とる(執)にぎる(拊)にぎり、握つた程の太さ②とつて(把手)器物の柄③ゆづか(把)④たば(把)又東れたるものを數へるにふ⑤把手⑥ハシユ 物の柄、ハンドル。⑦把住⑧ハヂウ 經驗によりて得たる事物を持續する心的作用。⑨把玩⑩ハダワン 手に持ち弄ぶ。⑪把捉⑫ハツク とる、とらへる。⑬把持⑭ハヂ ①手にもつ②自分で取扱ふ。⑮把握⑯ハツク にぎる、とり持つ。⑰把握⑱ハツク かきあつむ、取りあつむ。

〔拵〕

ウシ キン

拵

①うしなふ(失)②おつ(墮)墮落する

〔承引〕シヨウイン うけひく、承知すること。〔承句〕シヨウク 漢詩の絶句の第二句。〔承平〕シヨウヘイ 天下太平なること、昇平。〔承仕〕シヨウシ 昔仙洞御所又は攝家などの雜役を勤めし坊主の稱。〔承合〕シヨウガフ き、合せて知ること。〔承知〕シヨウチ ①知る、知得する②うけひく、うべなふ、承諾③知遇をうく、恩寵を蒙る④納得する、認容する。〔承奉〕シヨウホウ 人の意をうけつかへる。〔承服〕シヨウフク ①き、いれて其言にしたがふ②罪人が其刑に服すること。〔承前〕シヨウゼン 前のつゞき。〔承風〕シヨウフウ 教化導導さるゝ意。〔承々〕シヨウシヨウ 子孫代々うけつぐ。〔承候〕シヨウコウ 御きげんを伺ふ。〔承敬〕シヨウケイ 國家疲弊の後を引つぐ。〔承接〕シヨウセツ うけつぎてつなぐ。〔承統〕シヨウトウ 血統を受く、血をひく。〔承順〕シヨウジュン 命令にしたがふ。〔承傳〕シヨウデン うけつたへる。〔承嗣〕シヨウシ ①あとつぎの男子②後をうけつぐ。〔承意〕シヨウイ 人の心をうけつぐ、心を迎へる。〔承領〕シヨウレイ うけたまはる意。

〔承稟〕シヨウリン 命令をうけて上に従ふ。〔承認〕シヨウニン 其事の正當なるを認めて承知すること。〔承塵〕シヨウジン ごみの落ちざるやう天井に張りし布、又なげし、天井板。〔承弊〕シヨウヘイ 承敝に同じ。〔承諾〕シヨウダク うけがふ、承知すること。〔承緒〕シヨウチヨ 先王の事業をうけつぐ。〔承禪〕シヨウゼン 帝位をつぐ。〔承顔〕シヨウガン 人の機嫌を伺ひ氣に入るやうにする。〔承藉〕シヨウセキ 他の勢力にたよる。〔承襲〕シヨウシヤク 次と同じ。〔承繼〕シヨウケイ うけつぐ、ひきつぐ。〔承二下座〕カヂシヨウダク 後車に居ること、人の下風に立つ意。〔承露盤〕シヨウロパン 漢の武帝が不死の靈藥たる天露を受くる爲めに建てしもの。

類語 演承シヨウ 紹承シヨウ 聽承シヨウ 陪承シヨウ 仰承シヨウ 尊承シヨウ 姻承シヨウ 襲承シヨウ 敬承シヨウ 師承シヨウ 統承シヨウ 奉承シヨウ 遵承シヨウ 迎承シヨウ 託承シヨウ 稟承シヨウ

〔技〕

ギ

技

①点ぐる、くじる②かきむしる、あはく(發)③抉出④ケツシュツ ぬぐり出す、くじり出す。⑤抉剔⑥ケツエキ 隠れたるものを發き出す。⑦抉摘⑧ケツチキ 前に同じ。

〔抉〕

ケツ

抉

①とる(執)にぎる(拊)にぎり、握つた程の太さ②とつて(把手)器物の柄③ゆづか(把)④たば(把)又東れたるものを數へるにふ⑤把手⑥ハシユ 物の柄、ハンドル。⑦把住⑧ハヂウ 經驗によりて得たる事物を持續する心的作用。⑨把玩⑩ハダワン 手に持ち弄ぶ。⑪把捉⑫ハツク とる、とらへる。⑬把持⑭ハヂ ①手にもつ②自分で取扱ふ。⑮把握⑯ハツク にぎる、とり持つ。⑰把握⑱ハツク かきあつむ、取りあつむ。

〔拵〕

フ

拊

①とる(執)にぎる(拊)にぎり、握つた程の太さ②とつて(把手)器物の柄③ゆづか(把)④たば(把)又東れたるものを數へるにふ⑤把手⑥ハシユ 物の柄、ハンドル。⑦把住⑧ハヂウ 經驗によりて得たる事物を持續する心的作用。⑨把玩⑩ハダワン 手に持ち弄ぶ。⑪把捉⑫ハツク とる、とらへる。⑬把持⑭ハヂ ①手にもつ②自分で取扱ふ。⑮把握⑯ハツク にぎる、とり持つ。⑰把握⑱ハツク かきあつむ、取りあつむ。

〔拵〕

ヘン マン

拵

①うつ、喜んで手をうつ(拍手)②拵拜③ヘンバイ 手をたゞきて拜む。④拵賀⑤ヘンガ 喜びいほふ。⑥拵喜⑦ヘンキ 手を打つてよるこぶ、大いに喜ぶさま。⑧拵踊⑨ヘンヨウ 次と同じ。⑩拵舞⑪ヘンブ 手をうちてよるこぶ舞ひをよる、甚しく喜ぶさまにたとふ。

〔拵〕

ヘン マン

拵

①うつ、喜んで手をうつ(拍手)②拵拜③ヘンバイ 手をたゞきて拜む。④拵賀⑤ヘンガ 喜びいほふ。⑥拵喜⑦ヘンキ 手を打つてよるこぶ、大いに喜ぶさま。⑧拵踊⑨ヘンヨウ 次と同じ。⑩拵舞⑪ヘンブ 手をうちてよるこぶ舞ひをよる、甚しく喜ぶさまにたとふ。

抑

イヨク ヨク

抑

①おさふ、おす(壓)②とどめる(禁遏)③へりくだる、又おとす(貶)④つゝしむ(憤)つゝしむ⑤反對の意を現はす接續詞、そも、そも⑥文意を改める時の助詞、しかし、しかも⑦發語の辭

【抑止】ヨクシ おさへとどめる、抑制。

【抑々】ヨクヨク つゝしむさま。

【抑制】ヨクセイ おさへつゝ、おさへ止む。

【抑畏】ヨクイ おさへて恐れつゝしむ。

【抑退】ヨクタイ 抑へしりぞける①抑損。

【抑配】ヨクバイ 利息をとる爲めに政府が無理に人民に金を貸しつけること。

【抑留】ヨクリウ 強ひてひきとどめると。

【抑貶】ヨクヘン おさへ退ける、おしのく。

【抑揚】ヨクヤウ おさへたりあげたり、あげさげ①鳴物の調子の高低②文勢の高低③ほめるとけなす④世の中のうきしづみ、時勢につれること。

【抑塞】ヨクサク おさへふさぐ。

【抑遏】ヨクエツ 抑制に同じ。

【抑損】ヨクソン 放縱なる行爲を制しとどめる貌。

【抑壓】ヨクアツ おさへつゝ、威力又は權力を加ふる貌。

抑

扞

チヨ チヨ シヨ

扞

【抑糴】ヨクダク 政府が低價を以て無理に米を買ひ上ぐること。

【抑鬱】ヨクウツ おさへられて志の伸びざるさま。

①のぞく(除)ゆるむ②のぶ(陳述)

【扞情】ジョウジョウ 思ひをのべる、意想を發表する。

【扞洞】ジョウコン 胸の穢物をくみ去ること。

【扞情詩】ジョウジョウシ 感情を主としてのべたる詩(叙景詩・叙事詩の對)。

【抓】サウ

①かく(搔)②つむ、つまむ(摘)③國訓

つねる、つめる、ひねる

【抔】ハイ ホウ

①すく(搨)②國訓など(等)

【抔土】ハイド 一すくひの土、一握の地。

【抔飲】ハイイン 手ですくつてのむ。

【投】トウ

投

抔

①なげる、なげうつ(擲)すつ(棄)②おくる(贈)③あふ、適合させる④とどまる(逗)⑤はこぶ(運)⑥たちよる、身を落ちつける⑦水死(投身)⑧文章のよみきり(句讀の讀)

【投止】トウシ 足をとどめる、投宿する。

【投化】トウカ 歸化に同じ、外國に籍をうつして移り住む。

【投合】トウガフ 意氣の一致するをいふ。

【投石】トウセキ 石をなげつけること。

【投身】トウシン 水に身をなげて死ぬ。

【投函】トウカン 手紙をポストに入れる。

【投抒】トウシュ 機ひを投る義、轉じて君主が奸臣等の讒言を信ずる譬にいふ。

【投袂】トウバイ 奮ひ起つさま。

【投降】トウカウ 敵陣に至りてくだる、降参。

【投厝】トウシヤ 其儘に成し置く、捨て置く。

【投射】トウシヤ 音響・光線などの波動が一物質内を通過して他の物質内の境面に到着する作用。

【投書】トウシヨ 投稿に同じ、自己の意見を文章に書き添えて新聞・雑誌社等に寄贈すること。

【投票】トウヘウ 入札に同じ、自己の思ふところを票に記入して出すこと。

【投笏】トウコフ 役目を引く、退官。

【投查】トウチャ 支那の古禮法の一。

【投宿】トウシュク 宿屋に泊る、宿につく。

【投寄】トウキ 人に物を贈ること。

【投棄】トウキ すつ、なげすてること。

【投投】トウトウ 情交を挑まれて刺つける。

【投報】トウハウ 男女の思情を通ずること

①贈ること②返禮すること。

【投資】トウシ 事業に對して其の資金を出す意、もとをおろす。

【投影】トウエイ ①物體を或る一點より見たる形の平面圖②物の形又はかけ。

【投機】トウキ ①機會につけこむ②萬一を俥俥してやまをはる③株式・米穀などの相場を利用し現物によらず取引すること、空相場。

【投稿】トウカウ 投書に同じ、特に新聞雜誌について言ふ。

【投錨】トウヱウ 錨をおろす意、即ち船の碇泊すること。

【投筆】トウヒツ ①筆をなげすつ、物を書くことを中途にて止める意②文事を中止すること。

【投轄】トウカツ 強ひて來客を引とめると。

【投擲】トウテツ ナげうつ、なげすてること。

【投擲】トウテツ 首をくゝりて死す。

【投綸】トウリン 釣をすること。

投

抖

トウ

【投レ瓜得レ瓊】ウラタトウジヲタマフニタリ 俗にいふ鼻糞にて魚を釣る意、少しの物を與へて多くの報酬を望む。

【投機的恐慌】トウキキヤウクワウ 社會一般が投機事業に熱中したる結果として必然來りたる財界の恐慌状態をいふ。

【抖】トウ

抖擻と連用してあぐる意

【抖擻】トウソウ 抖擻に作る①擧げつくす、残らず取拂ふ②僧の行脚すること、雲水坊主、托鉢③梵語にてずだ(頭陀)。

抗

カウ

抗

①あぐ、あがる(擧)②あたる、反對す、はむかふ③同等の地位を保つ

【抗手】カウシテ 手をあぐ、手をあげて防ぐ。

【抗行】カウカウ 高尚なるおこなひ。

【抗告】カウコウ 裁判所の決定に服せずして上級の裁判所に上告すること。

【抗言】カウゲン 張合ひて議論する意、逆らひて言ひつゝのる、口返答。

【抗直】カウヂョク 強くして正直なり。

【抗章】カウシヤウ 文書を捧ぐ、上書。

【抗表】カウヘウ 意見をたてまつる、上表。

【抗策】カウサツ 鞭を擧ぐ、馬を走らす。

【抗對】カウタイ はりあふ、争ふ、屈せざる貌

【抗節】カウセツ 操を守りて屈せず①自意を曲げぬ貌。

【抗敵】カウテキ 敵對す、はりあふ。

【抗憤】カウフン 奮ひ立ちて抵抗するさま。

【抗衡】カウカン 互ひに相譲らずして對抗するさま。

【抗論】カウロン 抗言に同じ。

【抗戰】カウセン 敵對してたゝかふ。

【抗禮】カウレイ 對等の交際。

【抗禦】カウゴ はりあひふせぐ、抵抗する。

【抗顏】カウガン 強顏の意、あつかまし、高ぶつた顔付。

【抗議】カウギ 異議故障の申立て、他の意見に對し反對の論を立つ。

【抗辯】カウベン 張合つて言ひ争ふ、抗言。

【折】セツ

①をる、たをる、まぐ、やぶる②くじく(挫)ひしぐ、意氣沮喪す、人の過失をせめる③まがる(曲)まげる④おさふ(抑)⑤さだむ(斷定)取捨する⑥はやじ

折

抗

に(天逝)わかじに土地の神を祭る所の名(父)より子の死をいふ(商)商賣上の缺損(破)國訓をり(機會)ひたすら、食品を詰める箱(物の半分、断片)

折

【折中】セツチュウ 折衷に同じ。
【折本】セツポン ①事業上の失敗にいふ、もとを失ふの意。②緩らずして折り疊みたる書物。
【折右】セツウ 右うでを折る、志を挫きて成し遂げざるに形容していふ。
【折半】セツパン まふたつにわる、公平に二分したるもの。
【折北】セツボク 戦争に負けてにげる。
【折伏】セツフク ①敵を降伏せしむ。②説教によつて悪人をくじきふくせしむ。
【折角】セツカク ①角を折る、高慢の鼻をくじく。②力を盡す、勢力を費すこと、又轉じて副詞の形に用ふ、わざ／＼ずゐぶん。③あやにく、生憎。
【折枝】セツシ ①折柳の②に同じ。③手を按摩すること。④花をたをる、又をりえた、又其を畫く畫法。
【折款】セツコウ 款を折る義、にがい經驗をなめる。
【折券】セツケン 契約を無効にする爲め券書を毀損すること。

【折柳】セツリウ ①見おくり、送別、長安の人が旅人を見送るに灑橋迄行き其處の柳の枝を折りて贈りし故事。②樂曲の名。
【折挫】セツソ 取りひしむ、くじく。
【折洗】セツセン 洗ひすゝぐこと。
【折契】セツケイ 折券に同じ。
【折破】セツパ くじき破る。
【折難】セツナン くじけ敗れる。
【折衷】セツチュウ 彼此取合せて適當のものとなす、取捨してなかを取る。
【折桂】セツケイ 桂の枝を折り取る義、科擧(高等官試験)に及第すること。
【折辱】セツジュク ひしきはづかしむ。
【折損】セツソン 挫折する意、くじき傷く。
【折腰】セツエウ 人の下に屈すること、腰をかゞめて人に下る、人に頭をさげる。
【折節】セツセツ ①丁度其時、をりしも、折柄。②季節、時候。
【折獄】セツゴク うつたへをさばく。
【折膠】セツカウ にかわは曇き時は柔かなるも寒くなるに従ひて堅くなり折れ易くなることより轉じて秋の季節の意。
【折盤】セツパン 舞ふ貌。
【折衝】セツセツ ①敵の進入せるほこさきを挫くこと。

を挫く。轉じて敵とかけひきして我が體面を全うする。
【折閱】セツエン 損失しながら賣る。
【折謀】セツボウ 謀がくじける、計略のあてが違ふ、手出しが出来ぬ等の意。
【折還】セツワン 角立ちで折れまがる貌。
【折檻】セツカン ①強く諫める、きびしい意見。②きびしく責め叱る。
【折簡】セツカン 短かき書簡。
【折戸】セツコ 蝶番を用ひて折れる様に造れる戸。
【折合】セツガヒ ①融和すること。②かたがつくこと。
【折紙】セツシ ①奉書紙又は鳥の子紙等を二つに折りたるもの、進物の目録又は刀劍などの鑑定を書き記すに用ふ。②刀劍・古書畫の鑑定書。
【折衷説】セツチュウセツ 多くの學説を取捨して適當のものを定めんとする説。
【折杖法】セツチャウハフ 杖罪に於て杖数を軽減する法律。

類語

敲折セツク 抜折セツク 缺折セツク 天折セツク
圓折セツク 曲折セツク 刺折セツク 排折セツク
摧折セツク 挫折セツク 判折セツク 屈折セツク

五畫

扞

ヒヤウ

【扞】ヒツサグ(提)使に同じ、しむ、せしむ。したがつ(隨)
【扞勅】ヒヤウゴク 罪惡を訓べあげる意。

披

披

【披】ヒラク(開)開發す、あける、打あける、緝く、露はし示す。わかつ(分)①さく(裂)ばら／＼にす。なびく(靡)②かうむる(被)衣服を著る。
【披抉】ヒツク ①ひらき点ぐる、かきわける。②隠れたる事實をあばき出す、人の秘密を發く。
【披々】ヒヒ 長きさま、被々に同じ。
【披見】ヒケン ひらき見る、あけて見る。
【披拂】ヒフツ ①ひらきはらふ。②草木の葉の風に動きなびくさま。

【披服】ヒフツ 著物をきる、又著物。
【披款】ヒツワン 誠實に陳述すること。
【披麻】ヒマ 繪畫法の一。
【披閱】ヒエン ひらきてしらべみる、本又は書類を開いてよく目を通す意。
【披緝】ヒツク 黒染の衣をきる。
【披講】ヒツカウ 詩歌の會にて作物をひらき讀上ぐる事、又其人。
【披離】ヒリ ちり／＼ばら／＼になる、四分五裂する。
【披鍼】ヒシエン 外科醫藥用の針。
【披瀝】ヒレン 誠實を致す、まことを盡す。
【披瀝】ヒレン さらけ出す、ひらきしめす。
【披懷】ヒクワイ 胸を開く、腹藏なく言ふ。
【披襟】ヒキン ①衣のえりをくつろげる。②心中をうちあける。

披

【披瀝】ヒレン 披見に同じ。
【披瀝】ヒレン ひらきよむ。
【披針形】ヒシエン 細長く尖りたる葉。
【披二腹心】ヒフツコ 胸襟をひらき肝膽を吐露する意。

拾

チュ

抱

ハウ ホウ

抱

【抱】ハク(懷)だく、かゝへる。①心にいだく、考へ、むね(胸)②ひとかゝへる。③もつ(持)とる(執)有する。④心に思ひこむ。⑤國訓かゝふ、かゝる(家來にする、雇入れる、又その者)。
【抱一】ハクイツ 道を奉じて行ふ。
【抱合】ハクガフ ①だき合ふ、結合す、包圍。②異種類の物が物質上の變化なく結合すること。
【抱住】ハクヂユウ だきこめる。
【抱負】ハクフ ①心に抱く所の志望、自らゆるす志、我が實力に對する自信。②ものを抱くこと。③負ふこと。
【抱道】ハクダウ ①心中に節操を保ち守る。②だきあふ、抱へあふ。③かゝへの大きさ。
【抱腹】ハクフツ はらを抱へる、大わらひの貌、捧腹の誤用。
【抱愧】ハクキ 愧づる貌。
【抱懷】ハククワイ 心に止め思ふ、かんがへ。

【抱玉】タマシダク たまを所有すること、轉じて才智・德行を有する意。
 【抱炭希涼】スミライダイチリヤウラナガフ 行ひと希望の一致せざるをいふ。
 【抱薪救火】タキギライダイヒラスクフ 災害を除かんと欲して卻つて益々熾んならしむる意、手段は善なるも其行爲・結果の卻つて悪なるをいふ。
 【抱關擊拆】ハウクワンゲキタク 抱關は門をあけたてするかんぬきを執る者、擊拆は拍子木を打つ者、門番や夜まはり等をする賤しい役をいふ。

類語

孩抱ハクゴ 襁抱ハクゴ 合抱カクゴ 懷抱ハクゴ
 高抱カクゴ 旅抱リョクゴ 清抱セイゴ 宿抱シュクゴ
 中抱チュクゴ 心抱シンゴ 燃抱ネンゴ 擁抱ユウゴ
 携抱ケイゴ 乳抱ニウゴ 遠抱エンゴ 擁抱ユウゴ

抵

抵

①ふる、觸れをかす、さからふ、ふせぐ、こぼむ②おす(拵)③あたる(當)④いたる(至)⑤なげらうつ(擲)⑥おほむね(大凡)たいがい(大概)
 【抵至】タイシ いたる、ゆく。

類語

【抵當物】タイタウブツ 抵當權の目的物。
 【抵掌而談】タイシャウチタン 抵掌はたなこころを打つ、話をし乍ら喜びて手を叩く、又それ程盛んに談ずること。

扶

扶

【扶】フ ちうつ(撻)答撃
 【扶】フ マツ

抹

抽

抽

①ひく(引)引出す②ぬく(抜)③のぞく(除)④をさむ(収)⑤植物が發芽する【抽斗】チュウト ひきだし、抽匣、斗は總てますの形のものに言ふ。
 【抽扱】チュウバツ 多くの中よりひきぬく。
 【抽匣】チュウコフ ひきだし、抽斗の類。
 【抽象】チュウシヤウ 個々別々の具象に共通せる性質を引き出しそれをまとめて一

類語

一抹イチマツ 濃抹ノウマツ 電抹デンマツ 抽抹チュマツ

新しき觀念を作り出す心のはたらき。
 【抽烈】チュウレツ ひきさく。
 【抽獎】チュウシヤウ 拔擢して賞すること。
 【抽賞】チュウシヤウ 前に同じ。
 【抽導】チュウダウ 引きみちびく。
 【抽擢】チュウテキ 衆人中より抜き出し賞用する、拔擢登用すること。
 【抽讀】チュウドク 多くの書物の中より一本をぬき取つて讀む。
 【抽籤】チュウセン 籤を引く、くじびき。
 【抽水器】チュウスイキ ポンプ、唧筒。
 【抽象名詞】チュウシヤウメイジ 個々別々の具象から引き出した性質を表はす語。
 【抽黃對白】チュウワウタイハク 種々の色を配合すること、花やかに美はしき文句を並べて文を作る意。

押

押

①おす(壓)おしつける、判をおす、詩賦を作るに韻字をふむ②あづかる(管)③かきはん(書判)④おさふ(按)おさへつける、檢束する⑤國訓おし(無理におしつける)おす(我意を張り通す、おもみ)壓力
 【押丁】アヲテイ 昔の監獄の最下級の役人。

【抵死】タイシ しぬ、死亡。
 【抵抗】タイコウ さからふ①てむかふ、たてつく②堪へる、持ちこたへる、又反對に働くこと。
 【抵胃】タイイ 抵抗傷害して罪を犯す。
 【抵突】タイトツ つきあたる。
 【抵悟】タイゴ 抵觸に同じ。
 【抵排】タイハイ 手向ひおしのける。
 【抵破】タイハ 撃退破壊する意。
 【抵掌】タイシャウ 話しながら手をたたく。
 【抵禁】タイキン 法に觸れること。
 【抵當】タイタウ ひきあて、かた、擔保。
 【抵觸】タイレツク さしさはり、ふれる、すれ合ふ。

抵

【押字】アフリ かきはん、花押。
 【押收】アフリウ 官吏が職權をもつて人民の財産を差押へ之を官に取り上げると、沒收。
 【押班】アフバン 百官の次位を取扱ふこと。
 【押送】アフソウ 罪人を護送すること。
 【押署】アフリシヨ 捺印と署名、印をおし名を書く。
 【押韻】アフイン 作詩の韻をふむこと。
 【押領】アフリヤウ 押領使の略、王朝時代に諸國の亂を取締る爲めに派遣せられたる役人。
 【押板】オシイタ 書院の床の間。
 【押帖】オシエツ 帖の乾したる物、又昔正月元旦の式に用ゐたる乾帖。
 【押繪】オシエ 花鳥人物などの形を厚紙にて作り糊・縮緬等のきれにて包み張りつけ錦繪の如くせしもの。
 【押領使】アフリヤウシ 押領を見よ。

類語

花押ハナヅツ 署押シヨ 判押ハン 檢押ケン

拂

拂

①はらふ、打ちはらふ、はたく②はら

拂

つた如く無くなる、缺亡する④横ざまにきつと通過する貌⑤夜が明けける⑥もとの(拂)そむく⑦たすく(剃)⑧蠅などを追ひはらふ具⑨國訓はらふ、はらひ(追放、金錢の支拂、貨物を賣渡す)
 【拂旦】フツタン 夜あけがた、黎明、拂曉。
 【拂天】フツテン 天をこする、非常に高き貌。
 【拂去】フツキョ 拂ひのぞく。
 【拂衣】フツイ 奮ひ起つさま。
 【拂底】フツテイ 底をはらふ意、
 【拂拭】フツシツ 一物も無し、皆無。
 【拂拭】フツシツ ①けがれを去る、ふき掃除をする②君主の恩遇。
 【拂戾】フツレイ もとる、さかふ、垂戾。
 【拂擲】フツテキ はげしくうつさま。
 【拂撤】フツセツ 除き去る、とり除く。
 【拂曉】フツコウ 拂旦に同じ。
 【拂曙】フツシヨ 夜のあけがた、拂旦。
 【拂子】フツシ はぐまの長毛を束ねて柄をつけたるもの、禪僧の持つ具。
 【拂士】フツシ 君主を輔ける賢士。

拂

類語

揮拂フツ 除拂ヂョフ 拊拂フフ 磨拂マフ
 巾拂フツ 擊拂ゲキフ 拭拂シツ 披拂ヒフ

拵

シユ チユ
チユウ

さふ(支)さふへ

【拵腹】シユウク 腹を押へる。

【拵類】シユウク ぼへ、類杖をつ。

担

タン ケツ

【担】はらふ(拂)ロウツ(撃)●撥に通ず、あぐ、かぐ(掲)あがる(擧)

拵

アク ヤク

【拵】にぎる、とる(把)●おさふ(扼)

拵

タク

【拵】ひらく(開)さく(裂)われる●やぶる(毀)こぼつ、解散する

【拵字】タクシ 文字を偏・旁等に分ちてよむ、松を十八公といふ類。

【拵聲】タクシ 拍子木の音。

【拵裂】タクシ 地面などのさけ割るゝこと決裂、拵裂。

拵

ボウ ボ

【拵】おやゆび(拵指)特に足の五指

【拵印】ボイン 拵指を印に代へて押したるもの、つめはん、つめいん。

【拵指】ボレ おやゆび、大指、將指。

【拵指】ボセン ゆび相撲、又拳をうつ。

拵

ネン

【拵】ひねる(捻)つまむ(抓)●つむ(摘)

【拵出】ネンシユツ ●ひねり出す●字句を案出す●やりくり算段のこと。

【拵香】ネンカク 香をつまみて焚くこと。

【拵提】ネンテイ 摘みさげる、掲げ示す。

【拵筆】ネンシヨ 本を手にもつ。

【拵筆】ネンシヨ 筆を採ること。

【拵筆】ネンシヨ 釋迦が或時多數の弟子を集めて蓮華をひねりしに何人も其意を知る者なく唯迦葉一人のみ微笑したるにより佛敎の眞理を授けたりとある故事に因み「以心傳心」の妙を言ふ。

拵

ラフ ラツ

【拵】くじく(挫)ひしぐ(折)くだく(推)●ひく、ひつばる、捕へて引き来る●まねく(招)

【拵朽】ラフカク 腐敗したるものをくだくが如く物事の容易なるを言ふ。

【拵起】ラフキ 引き上げる。

【拵撮】ラフサツ 引き捕へる、撮み取る。

【拵致】ラフチ 引立て行く。

拵

フ

【拵】うつ(拍)軽く打たく●なづ(撫)なでやすんずる●物のつかみどころ、とりて(把手)つか(柄)●つく、手を物に著ける

【拵拂】フフウ うち拂ふ。

【拵益】フエキ つけ加へる。

【拵循】フジュン などで安んず、慰撫。

【拵養】フヤウ いつくしみ育つ。

【拵翼】フヨク 鳥のはたきするさま。

【拵牌】フヒツツ もゝをうちて勇み奮ふ貌。

拵

ハウ

拵

【拵】すつ(棄)なげうつ

【拵棄】ハウキ 投げ棄つ、當然なすべき事を敢てなさざる意。

【拵擲】ハウチキ なげやりにす、顧みぬ、構はぬ。

【拵物線】ハウツセン ●圓錐曲線の一、平面上の一定点と一定直線とから等距離の諸点を連結したる曲線●物を斜に抛つとき其物が地球の引力に感じて曲り盡く曲線。

拵

ハン

【拵】すつ(棄)●まず(俗に拵に誤用す)まぜ合す、調和す

拵

ハク ヒヤク

【拵】うつ(搏)たく(扣)手のひらを打ち合せて音を出す、手で物をうつ●楽曲のひやうし●あばら(膊に同じ)

【拵子】ハクシ 楽曲の拍子●ころあひ、はずみ。

【拵手】ハクシユ ●手をうつ●かしはで。

【拵拵】ハクシ 手の平にて軽く叩くこと。

【拵板】ハクハン 楽器の一、拍子をとるため

【拵】に打ち鳴らす板。

【拵々】ハウハウ 鳥の羽音などのばたばたとなる音。

【拵賣】ハクバイ せりうり、競賣。

【拵掌】ハクシヤウ 手をたく、拍手。

【拵價】ハクカ せりうりの最低價格を定めること。

【拵舟操】ハクシロノマツ 夫が死したる後婦が貞節を守る意、衛の共伯が蚤く死したる後妻共姜が義を守るを以て父母は進んで之を嫁せしめんとせしに拍舟の詩を作つて自ら誓ひし故事。

【拵手喝采】ハクシユカサイ 手をうちて褒めそやす。

拵

ダザヨ

【拵】とらふ(捕)●つかむ(攫)ひく(引)攫み合ふ●いりくむ、ひきからまる

【拵攫】ダクダク つかみあひ。

拵

ダザヨ

【拵】とらふ(捕)●つかむ(攫)ひく(引)攫み合ふ●いりくむ、ひきからまる

【拵攫】ダクダク つかみあひ。

拵

カイ

【拵】とらふ(捕)●つかむ(攫)ひく(引)攫み合ふ●いりくむ、ひきからまる

【拵】物の幹體より分岐せるもの(手・足・枝など)●かたる、人を欺きたぶらかす

【拵】かどはかす、人をたぶらかして誘ひ出す●つえ(杖)

【拵子】カイシ かたり、かどはかし、拐兒。

【拵勾】カイクウ あざむきかたる、あざむきうばふ。

【拵兒】カイジ 拐子に同じ。

【拵帶】カイトイ かどはかす、かたりて物をもちにげる。

【拵著】カイツク 人をかたり出して他に賣る、かどはかす。

【拵奪】カイツツ 欺きたぶらかして奪ふ。

【拵騙】カイトン かたり、かどはかす、人を欺きて金品を奪ふこと。

拵

ケン カン

【拵】つぐむ(拵)又拵に通ず

【拵口】カンコウ 口を閉ちて語らざること。

拵

キヨク

【拵】ふせぐ(禦)●こばむ、きゝいれぬ、ことわる、反抗する●ふせぎ、又防ぐ人●あたる(抵)●歴の横にあたる節●

方形(矩)又方形の陣
 【拒止】キョレ くひ止める、防ぎ止める、阻止。
 【拒扞】キョカン 防ぐ、防扞。
 【拒否】キョヒ いなむ、こばむ。
 【拒格】キョカク 拒否して従はざること。
 【拒絶】キョゼツ こばむ、ことわる、いなむ、はねつける。
 【拒諫】キョカン いさめをはねつける。
 【拒職】キョシキ ふせぎ職ふ。

類語

扞拒キョカン 反拒キョカン 前拒キョカン 固拒キョカン
 拒拒キョカン 辭拒キョカン 折拒キョカン

拓 タク
 拓 拓

①おす、手でおしつける。②ひろく(斥)ひろげる。③する(搦)石ずりにす。
 【拓本】タクホン 石刷の書物。
 【拓地】タクチ 土地を開くこと、開墾。
 【拓落】タクラク 世にあはぬ、おちぶれる、零落、落魄。
 【拓植】タクシキ 拓地と植民。

拔 バツ
 拔 拔

①ぬく(抽)ぬきとる(擻)のぞく(除)城を攻め落す。②人を引上げ用ふ。③はやしとし(疾)④放れ出る、ぬきんで聳ゆ。
 【拔刀】バツタウ 刀をぬく、ぬきみ。
 【拔出】バツシュツ ぬきだす、えりぬく。
 【拔河】バツカ 綱引の遊戯、牽鈞、拉繩。
 【拔貢】バツコウ 支那にて秀才の試験に及第したる優等者、秀才の意。
 【拔俗】バツソク 凡人よりすぐれる意。
 【拔萃】バツスイ ①多数の中より特にぬけ出す、群衆中より傑出する。②他人の文章の中から一部の章句を抜きとること。
 【拔距】バツキョ 人をぬき取る遊戯。
 【拔羣】バツダン 羣をぬくこと、衆人中よりぬけ出る。
 【拔錨】バツベウ いかりを上げて船が出帆すること、解錨。
 【拔擢】バツテツ 衆人中より抜いて用ゐる、多くの中からぬき出して選り取る(例)拔擢して採用する。
 【拔識】バツシキ 衆人中に於てみとめ知る。
 【拔山蓋世】バツサンガイセイ 頂羽の詩の力拔山氣蓋世より出でし語、勇壯の氣の形容、又非常なる努力を言ふ。
 【拔本塞原】バツホンサイゲン 本にかへりて正しく處置す。

【拔地倚天】バツチイテン 詩文の雄大なるを評していふ語。

類語

巧拔バクワ 奇拔バクワ 剪拔バクワ 英拔バクワ
 俊拔バクン 夷拔バクワ 爽拔バクワ 登拔バクワ
 超拔バクワ 不拔バクワ 賞拔バクワ 簡拔バクワ
 擻拔バクワ 抽拔バクワ 進拔バクワ 薦拔バクワ

拈 タダ
 拈 拈

①ひく(曳)②拈に作る
 拈に同じ

拈 アリ エウ
 拈 拈
 【拈把】タハ 稻をこぐ器、いなこぎ。
 【拈紫】タシ 出世する、高位につく。
 【拈擻】タラン まへだれ、胸當、エプロン。
 【拈音】エウオン 文法上の語、子音に半母音

拘 ク コウ
 拘 拘

の加つて生ずる一種の熟音、キヤ、キョ、シユ等の類。
 【拗體】エウタイ 近體漢詩、三體詩の類。
 【拗強】アウキヤウ すねる貌。
 【拘】ク コウ
 ①かゝふ、かゝへ(こむ)擁。②とらふ(執)つかまへる。③とらはる、つかまらる、囚はれる。④かゝはる、なづむ。⑤國訓かゝはらずと打消して反對の結果を生じたる意を表はす語。
 【拘士】コウシ 一事に執著して變通を知らぬをとこ。
 【拘囚】コウシウ ①とらへる、とらはれる。②捕はれし人、罪人。
 【拘引】コウイン 警察官が罪人を引立てると
 【拘忌】コウキ 氣にかける、はゞかる。
 【拘束】コウソク 人の自由を抑へつける、束縛する。
 【拘囚】コウレイ 牢獄、ひとや。
 【拘泥】コウヂ 物事にかゝはりなづむ、固著して變通を知らぬこと、拘子定規。
 【拘々】コウコウ かゝはるさま、なづむさま。
 【拘留】コウリウ ①囚へてとめおくこと。②自由刑の一、犯人を一定の場所にとらへ

置いて自由を許さぬ處分、禁足。
 【拘致】コウチ 捕へ来る、めしとり来る。
 【拘絆】コウハン 世事に心をひかされる。
 【拘執】コウシツ とらはれる、とらへる。
 【拘擻】コウケン とらふ、ざりことす。
 【拘禁】コウケン とらへておしこめる。
 【拘牽】コウケン ①かゝり合ひとなる。②引とめらる。
 【拘鎖】コウサ とらへつなぐ。
 【拘繫】コウケイ とらへてしばり置くこと、とらへつなぐ、拘束、拘鎖。
 【拘擥】コウレン 物事にひかれる、かゝはりひきつける。
 【拘禮】コウレイ 儀式に拘泥して臨機應變の働きなきこと。

類語
 官拘コウケン 執拘コウケン 絆拘コウハン 牽拘コウケン

拙 セツ
 拙 拙

①つたなし、まづい、へた、又つたなきこと。②自己、又自分の事に附する謙辭。③國訓つたなし、不運、卑怯。
 【拙工】セツコウ うてまへのおとる職工。
 【拙手】セツシュ ①へた、たくみでない。②自己の技術の謙稱。

拙作 セツサク 詩文の不出來なるもの、又自分の作品の謙稱。
 【拙劣】セツレツ つたなく劣る、へた。
 【拙吟】セツギン 拙作に同じ。
 【拙速】セツソク つたなくして早し、早けれどもつたなし。
 【拙妻】セツサイ 自分の妻の謙稱。
 【拙者】セツシャ 自己の謙稱。
 【拙荆】セツキヤ 自分の妻の謙稱、愚妻、荆妻、拙妻。
 【拙訥】セツトツ 辯説つたなきをいふ。
 【拙鳥】セツトウ 鳩の異名。
 【拙策】セツサク へたなはかりごと、拙計、拙謀。
 【拙謀】セツボウ 前に同じ。
 【拙誠】セツセイ つたなければどまじめなる貌
 【拙詠】セツエイ 拙作に同じ。
 【拙業】セツゲツ 感心せぬ事業、小業。
 【拙僧】セツソウ 僧侶が自己の謙稱、愚僧。
 【拙駭】セツガイ つたなくしておろかなり。

訓讀

【拙を守る】セツヲモル 榮達昇進を希はぬをいふ。
 迂拙セツ 樸拙セツ 古拙セツ 猥拙セツ

守拙セウ 弛拙セウ 巧拙コウ

招

招 セウ ケウ
①まねく、招き来らしむ、もとめる、めす(召)客を奨應す②まねき③あぐ(舉)指摘す、かゝげあげる④ほだす(絆)しばる、繋ぐ、羈束す

- 【招来】セウライ まねきて来らしむ。
- 【招引】セウイン よびよせる。
- 【招目】セウモク 看板、招牌。
- 【招延】セウエン よびよせる、招引。
- 【招々】セウセウ 手をあげ大聲で呼び招く貌
- 【招状】セウジヤウ 人をまねく案内状。
- 【招待】セウタイ 人を招きて待遇す、請ひ呼びてもてなす、招請。
- 【招致】セウチ 招引に同じ。
- 【招梗】セウコウ 吉を招き凶を繋ぐ。
- 【招喚】セウクワン まねき呼ぶ。
- 【招提】セウタイ 寺院、拓關提舎の轉訛、四方より僧侶の集り住する義。
- 【招集】セウシツ ①權利義務の關係によりて呼び集める②人を招き集める意。
- 【招會】セウクワイ 招集に同じ。
- 【招募】セウボ 召し募る、又募に應ずる人。
- 【招辟】セウヘキ 政府が賢人に官職を授ける

ふ、塵をはらふ①ひるがへる、ひるがへす(古く饒に通ず)②み(箕)ちりと

拜

拜 ハイ ヘ
①をがむ、かゝむ、ぬかづく、又その禮をがみ、おじぎ②官を授く③いたゞく、ありがたく思ふ④或る語の上に添へて敬意を示すに用ふ

- 【拜手】ハイシュ 禮拜の一、人を拜し頭を手の所までさげる法。
- 【拜冬】ハイトウ 冬至の當日に行ふ儀式。
- 【拜伏】ハイフク 拜み伏す。
- 【拜年】ハイネン 新年のよるこび、年賀。
- 【拜官】ハイクワン 役人になる、官職に就く。
- 【拜見】ハイケン ①見ることの敬稱②貴人に面謁すること。
- 【拜芝】ハイシ 對面の敬語、まみえる、お目にかゝる、拜顔、拜眉。
- 【拜承】ハイレイヨウ つゝしみて承る。
- 【拜受】ハイジュ 受ける敬語、いたゞく、お受けする、頂戴、拜戴。
- 【拜命】ハイメイ ①命令をつゝしみて承く②官をさづかる。
- 【拜具】ハイグ 謹しみてつづさに述べる、手紙の終りに書く語。

爲め召し出すこと。

拵

拵 ヘン フン
①うつつ、たゞく、手をうち鳴らす②はら

- 【招搖】セウエウ ぶらつく、さまよふ。
- 【招請】セウセイ 人を招きてもてなす。
- 【招牌】セウハイ 人を招く禮の意、看板。
- 【招誘】セウイウ まねきさそふ、誘ひ出す、引きよせる。
- 【招聘】セウヘイ 禮をそなへて招く、鄭重に召しかゝえる。
- 【招應】セウエイ さしまねく、招致す。
- 【招魂】セウコン 死人をまつり慰めること。
- 【招慰】セウエイ 人民を歸順せしめ安んず。
- 【招撫】セウフ 前に同じ。
- 【招輯】セウシツ 招き集めて安んぜしむる。
- 【招養】セウヤウ 死人に湯くわんをさせる牀
- 【招選】セウセン 選は迎、まねきむかへる。
- 【招選】セウセン まねき集めて選定す。
- 【招討使】セウタウシ 人民鎮撫の官の名。
- 【招商局】セウシャウキョク 支那の役所、政府所管の汽船の事を掌る所、清朝より始る。
- 【招魂社】セウコンシャ 靖國神社の舊名。

【拜儀】ハイギ 首をさげて禮拜す。

拵

【拜儀】ハイギ 首をさげて禮拜す。

- 【拜儀】ハイギ 首をさげて禮拜す。
- 【拜首】ハイシュ 拜みて頭が手に至るを云ふ禮法の一。
- 【拜春】ハイシュン 拜年に同じ。
- 【拜眉】ハイビ 拜芝に同じ。
- 【拜堂】ハイドウ 婚禮に新婦の行ふ禮。
- 【拜借】ハイシャク 借りる敬語、つゝしみて借用する。
- 【拜納】ハイナウ ①納めることの敬語②つゝしみて受ける③もとへをさめる敬語。
- 【拜除】ハイショ 官職を授く、役を申しつける、除は今迄の官をやめて新に上官を授くる義。
- 【拜啓】ハイケイ ①うやうやしく申上げる、書簡文の初に書く語、啓は陳述。
- 【拜捧】ハイホウ つゝしみて兩手に受ける。
- 【拜賀】ハイガ 謹みて喜びを申す。
- 【拜授】ハイジュ 官に任ず。
- 【拜章】ハイシャウ 官を受けし時のうけ書。
- 【拜復】ハイフク つゝしみて御答へする意。
- 【拜跪】ハイケイ 膝を屈しておじぎをする、拜みひざまづく。
- 【拜殿】ハイデン 神社の本殿の前面にある建物、參拜を行ふ所。
- 【拜聞】ハイカク 入夫、むこいり。
- 【拜誦】ハイショウ つゝしみて讀む意。

【拜金宗】ハイキンシュ 金錢をあげめ尊む義、又その者、黃金萬能主義。

拵

拵 クワツ
①くゝる、くゝりむすぶ、まとめる、ひきくるめる②あふ(會)よりあふ③いたる(至)きたる④はす(答)やはす⑤とりしまる⑥むすぶ、髪をゆふ(髻)

- 【拜金宗】ハイキンシュ 金錢をあげめ尊む義、又その者、黃金萬能主義。
- 【拜表即行】ハイヘウツカウ 上表を奉り未だ命令の下らざるに出發すること。

拵

- 【拜儀】ハイギ 首をさげて禮拜す。
- 【拜首】ハイシュ 拜みて頭が手に至るを云ふ禮法の一。
- 【拜春】ハイシュン 拜年に同じ。
- 【拜眉】ハイビ 拜芝に同じ。
- 【拜堂】ハイドウ 婚禮に新婦の行ふ禮。
- 【拜借】ハイシャク 借りる敬語、つゝしみて借用する。
- 【拜納】ハイナウ ①納めることの敬語②つゝしみて受ける③もとへをさめる敬語。
- 【拜除】ハイショ 官職を授く、役を申しつける、除は今迄の官をやめて新に上官を授くる義。
- 【拜啓】ハイケイ ①うやうやしく申上げる、書簡文の初に書く語、啓は陳述。
- 【拜捧】ハイホウ つゝしみて兩手に受ける。
- 【拜賀】ハイガ 謹みて喜びを申す。
- 【拜授】ハイジュ 官に任ず。
- 【拜章】ハイシャウ 官を受けし時のうけ書。
- 【拜復】ハイフク つゝしみて御答へする意。
- 【拜跪】ハイケイ 膝を屈しておじぎをする、拜みひざまづく。
- 【拜殿】ハイデン 神社の本殿の前面にある建物、參拜を行ふ所。
- 【拜聞】ハイカク 入夫、むこいり。
- 【拜誦】ハイショウ つゝしみて讀む意。

拵

- 【拜儀】ハイギ 首をさげて禮拜す。
- 【拜首】ハイシュ 拜みて頭が手に至るを云ふ禮法の一。
- 【拜春】ハイシュン 拜年に同じ。
- 【拜眉】ハイビ 拜芝に同じ。
- 【拜堂】ハイドウ 婚禮に新婦の行ふ禮。
- 【拜借】ハイシャク 借りる敬語、つゝしみて借用する。
- 【拜納】ハイナウ ①納めることの敬語②つゝしみて受ける③もとへをさめる敬語。
- 【拜除】ハイショ 官職を授く、役を申しつける、除は今迄の官をやめて新に上官を授くる義。
- 【拜啓】ハイケイ ①うやうやしく申上げる、書簡文の初に書く語、啓は陳述。
- 【拜捧】ハイホウ つゝしみて兩手に受ける。
- 【拜賀】ハイガ 謹みて喜びを申す。
- 【拜授】ハイジュ 官に任ず。
- 【拜章】ハイシャウ 官を受けし時のうけ書。
- 【拜復】ハイフク つゝしみて御答へする意。
- 【拜跪】ハイケイ 膝を屈しておじぎをする、拜みひざまづく。
- 【拜殿】ハイデン 神社の本殿の前面にある建物、參拜を行ふ所。
- 【拜聞】ハイカク 入夫、むこいり。
- 【拜誦】ハイショウ つゝしみて讀む意。

くゝる作用ある筋肉。
【拈胎蟲】クワツタイチュウなめくぢの異名。

類語
探括クワツ 囊括クワツ 肅括クワツ 包括クワツ
籠括クワツ 總括クワツ 綜括クワツ 結括クワツ

【拭】 シヨク シキ
ぬぐふ、のごふ、ふく、よごれを取
る。罪過を清め去る。きよむ(清)ふく
しづか(静)

類語
【拭布】シヨクフ 手拭の異稱。
【拭拂】シヨクフフ ぬぐひ去る。
【拭清】シヨクセイ ぶき清む。
【拭淨】シヨクジヤウ 拭ひ清む、拭清。

類語
收拭シヨク 拂拭シヨク 掃拭シヨク 按拭シヨク
拭拭シヨク 洗拭シヨク 拭拭シヨク

【拈】 ケツ キツ カツ
①はたらく、手口共にはたらく。鏡(手)
を擧げて持つ。②する(擧)③せまる
(過)

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

く働くさま
【拯】 シヨウ ジョウ
①たすく(援)すくふ(救)②あげる(舉)

【拯】 シヨウ ジョウ
【拯救】シヨウキウ 拯は救に同じ、たすけす
くふ。
【拯接】シヨウセツ すくひたすく。
【拯撫】シヨウブ 救ひいたはる。
【拯贖】シヨウセン 救ひにぎはす。

【拱】 キヨウ
①こまぬく②もつ(持)とる(執)③ひと
かへ④大なる壁⑤手を下さぬ、何事
もせぬ⑥両手で持つ程の大きさ
【拱手】キヨウシュ ①両手の指を組み合せて
敬禮する。②腕組して何事をもなさざ
るさま。

【拱】 キヨウ
【拱把】キヨウハ 拱は両手にて圍む、把は片
手にて握る、一握り、又その大きさ。
【拱抱】キヨウブ 次に同じ。
【拱拈】キヨウニフ 両手をこまぬきおしやく
すること、拱は手を胸に著けて敬禮す
るをいふ。
【拱壁】キヨウヘキ 美しく大なる玉。

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

類語
合拱キヨウ 垂拱キヨウ 把拱キヨウ 盈拱キヨウ

【拳】 ケン
①こぶし、げんこつ②にぎる(握)か
む(屈)③うれふ(憂)④をしむ(愛)⑤ね
んごろ(懇)又そのさま、うやうやしく(恭)
まごゝろある貌⑥さゝげもつ⑦ちから
(力)ゆみ(弓)⑧こぶして搭闘する武技、
又けん(一種の座敷遊技)

【拳】 ケン
【拳勇】ケンユウ 技術熟達して勇ましく強き
握り固めしもの。
【拳匪】ケンビ 清代の秘密結社の一、拳又
棒を以て人を撃つ術を練習し外国人及
び異教徒に危害を加ふるを目的とせし
亂賊、義和團。

【拳】 ケン
【拳握】ケンクワク にぎりこぶし、げんこつ。
【拳螺】ケンラ 貝の名、さびえの異名。
【拳銃】ケンジュウ ビストル、短銃。
【拳擊】ケンケン コガレしたふさま。
【拳闘】ケントウ こぶしにて戦ふ意、西洋に
て行はれる一種の勝負技、ボクシング。

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拳々服膺】ケンケンフクヨウ 捧持して従ひ守る

類語
強拳ケン 勤拳ケン 拘拳ケン 巨拳ケン
曲拳ケン 爪拳ケン 老拳ケン 連拳ケン
空拳ケン 握拳ケン

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ
【拈】 ケツ キツ カツ

める意、拈掠、拈賣。
【拈】 エツ エイ
①ひく(曳)ひきずる②ひく(引)さがる
【拈引】エイイン 地をひきずり行く。

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

拈拾ケン 提拾ケン 撥拾ケン 俛拾ケン
收拾ケン 副拾ケン 採拾ケン 決拾ケン

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ
【拈】 エツ エイ

【持參】チサン 物をもつて参る、持ち至る。
 【持戟】チゲキ 武器をもつ者、兵士。
 【持碁】チゴ 碁に勝つて負なきをいふ。
 【持摺】チテキ 手にもちて振り廻す。
 【持説】チセツ 己の意見を固く守る、又其言論、持論。
 【持滿】チマン 満を持す、弓を十分ひきしぼる、十分に用意を整へること、丁度一ぱいの所でもちこたへる。
 【持論】チロン 持説に同じ。
 【持齋】チサイ けがれを忌み戒を守る。
 【持藥】チヤク 用心の爲め常に用ゐる藥。
 【持議】チギ 持説に同じ。
 【持贈】チソウ 持參しておくる。
 【持續】チゾク 永く持ち續けること、いつまでも續く。
 【持分】チブン 一の共有財産に對して自己が権利を行使し得らるゝ範圍。
 【持主】チヌシ その物品の所有者。
 【持二兩端】チニリウタン 兩方の間にありて何れにも決定せざるさま。
 【持佛堂】チブツドウ 自分の居間にすゑ又は身につけて常に信仰する佛。
 【持參金】チサンキン 結婚の時嫁が夫の家へ持ち行く金。
 【持參人拂】チサンニバラヒ 何人を問はず手形

持

を持參したる者に其金額を支拂ふと。
 【持國天王】チコクテウワウ 四天王の一、東方の天國、王は四天王の一、東方の天國を守り善を賞し惡を罰する佛。
 【持久之計】チキウノケイ 勝負を早く決せず永く持ちこたえて敵を弱らしめる戦法。

類語
 匡持チキウ 護持チゴ 扶持チフ 倒持チタウ
 支持チシ 保持チホ 携持チケイ 劫持チキフ
 握持チク 操持チソウ 守持チシユ 懷持チクワイ
 負持チフ 住持チヂウ 植持チシヨク 把持チハ

【挂】クワイ ケイ
 ①かく、かゝる(掛)ひつかける、わかつかざる(割)分明にす
 【挂衣】クワイ 雨衣、蓑。
 【挂席】クワイセキ 舟の帆をあげること。
 【挂冠】クワイクワン 制服の衣冠を脱ぎて柱などに掛ける意にして官を去り職を辭すること、に言ふ。
 【挂冕】クワイメン 前に同じ、冕は大夫以上の冠。
 【挂綬】クワイジュ 挂冠に同じ。

挂

挂

側挂チケイ 剛挂チガウ 鈎挂チコウ 舉挂チキョ
 東挂チケイ

【指】シ
 ①ゆび、手足のゆびをさす、ゆびさす、ゆびを向けてさし示す、教へ知らせる、さしづをする、むね(旨)こゝろもち意向、わけ、意味
 【指山】シヤン ひささしゆび、食指。
 【指令】シレイ 伺書又は願書に對する官の答辯又は命令。
 【指目】シモク 人目を引く、目だつ。
 【指示】シジ ①箇所を示し教ふ、命令又は指揮すること。
 【指名】シメイ 其本人の名を言ふ、誰某に明かに言ふ意。
 【指定】シテイ それを指して定めると、これとと擧げて示し定める。
 【指使】シシ ①さしづして人をつかふ。
 【指事】シジ 漢字六書の一、字の形にて直ちに意味を示すもの。
 【指南】シナン 教へ導く、教導、指
 【指南車】シナンシャ 教へ導く、教導、指
 【指針】シシン 磁石の針、轉じて指導の意。

指

指

【指紋】シモン 指の腹にあるすぢ又はうづまき。
 【指教】シケウ さし示して教ふ。
 【指陳】シチン 指示して述べる。
 【指授】シジュ 示し教へる。
 【指畫】シクワク 指で畫きて丁寧な教へる。
 【指意】シイ ①こゝろ、おもむき、趣向。
 【指掌】シシヤウ 手のひらを指す意にして甚だ容易なること、無造作。
 【指揮】シキ 指揮に同じ、さしづ、下知。
 【指象】シシヤウ 天より形象を現して其の意を人に告げ諭すこと。
 【指摘】シテキ ①ゆびにて搔く、人の欠點秘事等をあばき出す、又書物の誤りを見附け出して擧げる。
 【指彈】シダン 指にてはぢく、轉じて人の不正行爲を忌みきらふ意、つまはじき。
 【指導】シダウ 教へみちびく。
 【指頭】シトウ 指のさき、指尖。
 【指塵】シキ ①さしづする、下知する、さしまねく意。
 【指嘆】シソウ けしかける、そゝのかす。
 【指數】シスウ 或る數の累數を示す數。
 【指趣】シシユ おもむき、こゝろ、旨。
 【指點】シテン 一々指して示す意。
 【指環】シクワン ゆびわ、支那三代の時代に

始るといふ。
 【指顧】シコ 指さして見渡す、手に取る如くに見ゆる意。
 【指梁】シシバウ 端を柱などに指込みたる梁
 【指貫】シシクワン 直衣・狩衣など著る時に用ゐる袴にして裾紐をつけてくゞり上げる様にしたるもの。
 【指圖】シシツ いひつけ、指揮、命令。
 【指南車】シナンシャ 支那古代の羅針盤。
 【指名入札】シメイニラツク 工事又は物件の購入を特に指名したる數人にのみ競争入札せしむること。
 【指圖人拂】シシツニバラヒ 債權者の指定したる人に向ひ支拂ふこと、名指人拂の手形等の如し。
 【指鹿爲馬】シシカヲシテウマトナス 人を馬鹿にする意、愚弄。
 【指示代名詞】シシダイメイシ 彼・此・其等の如く或る事物をさし示す名詞。

訓讀
 【指を希ふ】シヒ 希指(わね)をいひ、人の氣に合ふやうに力める、機嫌をとる(指は旨)。
 【指を屈す】シカクシ 屈指(ゆび)をいひ、指折りかぞへる。

意指シイ 食指シヨク 頤指シイ 微指シビ
 事指シジ 風指シフウ 目指シメク 上指シヤウ
 臂指シベ 使指シシ 脚指シキヤク 顧指シコ
 玉指シギョク 拇指シボ 將指シヤウ

【挈】ケツ ケイ
 ①さぐ(提)ひつさぐ、とゝのふ(整)板に書きし文書の名、又てがた
 【挈起】ケツキ 持ち揚げる。
 【挈提】ケツタイ 提げる意、ひつさぐ。
 【挈瓶智】ケツペイチ 手に提げて小さき瓶にはいる程の智慧。

【按】アン
 ①おさへる(抑)ひきとめる、抑止す、なてる(撫)なでさする、しらす、ただす、罪人又は惡事を檢挙する、巡察する、考へる(案)
 【按兵】アンペイ 進軍することを止める。
 【按司】アンジ 維新前琉球にて王子に次げる高官。
 【按治】アンチ 罪状などを調べてさばく。
 【按脈】アンミヤク 脈をはかる、診察。

按

【按殺】アキヤツ 罪にあて殺す。
【按院】アキケン 支那各省の首府にある按察使衙門。

【按排】アキバイ ①適當にかげんすること、鹽梅②宜い程に物事の順を定める。

【按問】アキモン 罪状などを取しらぶ。
【按絃】アキケン 琴をかたてる。

【按察】アキサツ 取しらべる、調査。
【按腹】アキブク あんま、腹を撫でさする意。

【按試】アキシ ばかりためす、こゝろむ。
【按獄】アキゴク 罪を調べ治む。

【按摩】アシマ 手にて身體をさすり揉みて惡血などを散らし病をいやす法、又之を行ふ人。

【按劍】アキケン かたなの柄に手をかくると刀を抜かんとしてつかを押へる。

【按據】アキキョ 安堵せしむる意。
【按疆】アキキョウ 國境を鎮護すること。

【按察使】アキサツシ ①宋代に始まる地方の政治風教等を見廻り取締る役人②我國にて同様の事を司つた古官。

【按分比例】アキブンヒレイ 或る數を他の多くの數に比例するやうに分配する算法。
【按圖求驥】アキブツモトメ 圖を按じて駿馬を求めんとする意にて机上の空論に等しく實際の效果は得られざるの意。

【拏】アキ 弄の俗字
國訓かせぐ、はたらく、家業につとむ

【拞】カク ①うつ(格)手で撃つ②たゝかふ(關)【拞止】カクシ 撃ちまじむ。
【拞拒】カクキョウ うち防ぐ。
【拞闘】カクタウ つかみあふ、くみうち、たゝき合ひ戦ふ。

【按】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】トウ ドウ ①うごかす(動)②ひく(援)【拞推】トウスイ かいへて押し動かす。
【拞撞】トウヂウ 突くやうに押し動かす。
【拞衝】トウシウ 押し動かすこと。

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】カウ ケウ ①古く按の字に代用す(但し學校の校は別)②はかる、彼と是とをくらべる計算する、はたらきや才能を調べて優劣をつける

【拞】ヤヨ ①互ひに引張り合ふ、入亂れて引張る②かち(機)又さを(驚)③撃に通じ用ふ

【挑】テウ ①いどむ、しかける、誘ひ起す②たはむれかゝる、情慾を發作させる③もてあそぶ(弄)④かゝぐ(拞)【挑夫】テウフ 人足に同じ。
【挑動】テウドウ そのかして人心を興奮せしむ。
【挑達】テウタク 挑は跳、達はほしいまゝ、ほしいまゝに跳り戯る義、落つきがなかくして我儘なること。
【挑戦】テウセン たゝかひをいどむ、いくさをしかける。
【挑發】テウハツ ①かゝげあげる②そゝのかす、しかける、けししかける。
【挑撥】テウハツ 前に同じ。
【挑擲】テウチキ かいげなげうつ。
【挑燈】テウテイ ①ともし火をかきたてる②ちやうちん(提灯)の別字。
【挑發的】テウハツテキ そゝるやうなおもむき(主として肉慾をそゝる意味にいふ)。

【拞】ヤヨ ①互ひに引張り合ふ、入亂れて引張る②かち(機)又さを(驚)③撃に通じ用ふ

【拞】アキ 國字
むしる、ちぎりとる、ちぎり離す

七畫

【拞】アキ ①ひらく(拞)おす(推)おしひらく、傍へ拞する②せまる(逼)ちかづく(近)③うつ(擊)背をうつ

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

【拞】アキ ①おし進む②會釋、應答。

振作。

【振盪】シントウ ふるひ動かす、振掉。

【振驚】シントウ 甚しくおどろかす貌。

【振天府】シントウ 宮中にあり日清戦争の戦利品を陳列する建物。

【振替貯金】フリカヘチヨキン 現金の送り方を郵便局に依託する方法にて其拂込金は一時其口座加入者の貯金となるもの。

類語

昭振シウ 分振ブン 嚴振ゲン 宣振セン 廣振ケン 奮振ケン 隆振リウ

搦

キヨク ぶつ、もつこ(土を運ぶ具)

搦

イフ オフ

ね

①とる(執)とり出す②くむ(酌)③こまぬく(拵)④おさふ(抑)しりぞける(退)

【搦】イフキウ 手にて搦ふ、又くむ。

【搦酌】イフキウ ぐむ、くみとる。

【搦損】イフソン 我儘を抑へ退ける意。

類語

飲搦イフン 探搦イフイ 損搦イフン 冲搦イフウ 推搦イフキ 奕搦イフキ 敬搦イフイ 謙搦イフン

挺

タイ

挺

①引きだす、脱出する②ぬく(抜)ぬきんづ(抽)進み出る、先に出る、すぐれる③なほし、たゞし(直)まつすぐ④ゆるやか(寛大)⑤はしる(走)

【挺出】タイシュウ ①秀でる、抜きでる、すぐれる②生え出る、延びる。

【挺立】タイリツ ①他に秀でる、人にすぐれる②高く聳え立つ貌。

【挺身】タイシン 身をぬきんづ、自ら進み出るさま。

【挺秀】タイシュウ 秀づる、すぐれる、挺傑。

【挺拔】タイバツ すぐれ秀づ、又その人。

【挺争】タイサウ 先んじて争ふ。

【挺進】タイシン 獨りぬきんですゝむ。

【挺特】タイトク 挺傑に同じ。

【挺々】タイタイ 正道に秀でたるさま、正直なる貌。

【挺傑】タイケツ 他に秀で拔んづ、又其人。

【挺然】タイゼン なみ／＼よりかけ離れたる貌、勝れて秀でたるさま。

【挺節】タイセツ 堅くみさを守る。

【挺戰】タイセン 眞先に進み出て戦ふ。

類語

英挺テイ 秀挺テウ 奇挺クイ 特挺テトク 標挺テウ 列挺テリツ

搦

ダキ

①もむ、さする(摩)②神に供へる米

挽

バンメン

挽

①ひく(引)引ばる②前より引きて進める③車をひく、死者を葬るとき其柩を牽き送る④國訓ひく(鋸)て材木を割る、ろくろで器物を作ること

【挽手】バンシユ 馬をうつむち。

【挽回】バンクワイ ひきもどす、もりかへす、取返す、恢復す。

【挽車】バンシャ ①車をひく②死人をのせて引く車、輓車。

【挽歌】バンカ ①葬式を送る時うたふ歌②哀悼の意を表はす詩歌、

【挽詩】バンシ 前に同じ。

【挽物師】ヒキモノシ ろくろ細工をする者。

拵

ハン

①ひるがへる(翻)②拵・拵に通ず

挾

ケフセフ

拵

①はさむ、さしはさむ、はさみ持つ②もつ(持)おびる(帶)③たすく(輔)④持みほこる⑤わきばさむ、こわきに抱へる⑥あまねし(挾)⑦十千の周期、十日めぐる(匝)

【挾日】ケフジツ 十千を日に配し甲より癸に至る一循環、十日間。

【挾旬】ケフジュン 前に同じ。

【挾扶】ケフフ 双方より抱へもつ。

【挾持】ケフチ 挟み持つ、心に抱きもつ、もつてゐる。

【挾義】ケフギ 正しき道心を抱く。

【挾輔】ケフホ かゝへたすける、介抱し輔佐す。

【挾護】ケフゴ 抱へ保護するの意。

【挾撃】ケフゲキ 敵をはさみうつ。

【挾書律】ケフショリツ 民間に於て詩書・禮樂の書を所有する事を禁する法律、秦の始皇帝の時設けられ前漢の惠帝四年に廢止せらる。

搦

挿の俗字

拵

タン

ひろふ、とる、ひろひとる(拾)ひろひ集める

【拵拾】タンシツ 拾ひ集むる意。

【拵菜】タンサイ つみな、野菜をとる。

【拵採】タンサイ 拾ひ取る、拾取。

【拵摺】タンセツ ①前に同じ②書中より其要點をぬき取る意。

拵

カウ

みだる、みだす、かきみだす

搦

ゴ

①ふる(觸)さはる②さかふ(逆)

搦

クキウ

①もる(土を籠に盛る)②細長いさま③すくふ(救)(古く救に用ゐらる)たすける

搦

コン

搦

拵

ラツラチ

とる、指さきでつまみとる

【拵采】ラツサイ つまみとる。

【拵摩】ラツマ 手に取りてなでさする。

搦

ハツハチ

旋の俗字

①やぶる(破)わかつ(分)うつ(撃)②数の八に借り用ゐる③國訓さばく、さばき(賣りこなす、裁判、打とける、とさ分け整理す)さばける、わかる

捍

カ

①扞に同じ、ふせぐ(拒)まもる(守)②ゆごて(弓を射るとき左臂に掛くるもの)

【捍塞】カシク 防ぎ止める、防止。
【捍撥】カシク 捍は樂器の弦をはじく義、ばちのこと。

捏

テツ オチ

招

①こぬ、こねる、ねりませる、捻聚②無根の事を作りなす
【捏造】ネツウ 土なごにて物をねり造る、轉じて無根のことを有るが如くつくりなすこと。

捐

セウ

捐

エン

①はらふ(拂)かする②かる(芟)草を艾りとする③のぞく(除)

①すつ(棄)すてる②失ふ、のぞく(除)③救助の爲に自分の物品を差出す、官位を得る爲めに金錢を政府に納める
【捐酒】エンシユ 酒をすつ。
【捐背】エンハイ 背戻の意、そむきもとる。
【捐瘠】エンセキ 棄てられてやせ衰ふ。
【捐館】エンクワン 住家を見すてる義、轉じて諸侯等の死をいふ。
【捐軀】エンク 身を棄つ、命を落す、死ぬ。

擲

カク

擄

①つのをとる②さす(刺)

捕

ホ

捕

とらふ、とる、取つて手に入れる、賊又は罪人をつかまへる、召とる
【捕亡】ホバウ 逃げし者を捕ふ。

捐

【捕吏】ホリ とりて、罪人を捕ふる者。
【捕役】ホヤク 罪人を捕へる役人、とりて、支那にては巡査のこと。
【捕治】ホチ 罪人を取り調べる。
【捕風】ホフウ 風をつかむ義、あてもなくしてものを探すことに喩ふ、又つかまへどころの無いこと。
【捕拿】ホナ 捕獲に同じ、おさへとる。
【捕捉】ホツク 捕ふ、おさふ、つかまへる。
【捕虜】ホロ 生擒、とりこ、捕はれ、俘囚。
【捕影】ホエイ 確證もつかまへどころもないこと。
【捕縛】ホバク 繩をかける、とらへ縛る。
【捕獲】ホクワク いけどる、捉へる、捕捉。
【捕繫】ホケイ とらへて牢獄に入れる。
【捕廳】ホチヤウ 我が警察署と等しき事務を執る支那の役所。

類語

漁捕ホロ 速捕ホライ 分捕ホブン 察捕ホサツ
逐捕ホツク 跡捕ホセキ 追捕ホツキ 督捕ホトク
捉捕ホツク 擊捕ホキキ 討捕ホトク 拿捕ホナ

抄

チヨク

①はかどる、はかどらす、はかゆく②をさむ、收斂する③うつ(打)

揆

ソン

①つかむ②おす(推)おしつける

八畫

捧

ホウ

捧

①さしあげ②両手で物を承ける、かまへる(抱)③だく④奉に同じ
【捧持】ホウヂ 恭しく両手にて捧げもつ、さしあげもつ。

【捧負】ホウフ ①たすける、扶助②かまへたりおぶつたりすること。
【捧腹】ホウフク 捧腹絶倒、両手にて腹をかかへる義、大いに笑ふ貌。

【捧腹】ホウフク 親を思ふ念に引かされて節を屈することに言ふ語。
【捧讀】ホウドク さしあげよむ、両手でさしあげて恭しく讀む。

捨

シヤ

捨

①すつ(棄)さしおく②神佛の爲めに金品を出す③心に忿念のなきさま
【捨札】シヤツダ 刑場に掲げる罪人の名札。

振

レイ

振

【捨身】シヤシン ①身命をなげ出す②俗界をはなれ佛門に入る。
【捨賣】シヤウ 物を捨てるが如く安く賣る投資り。
【捨小舟】シヤウネ 捨てられた小舟の如く寄邊なきさまにいふ。
【捨扶持】シヤフチ 身寄りなき者に惠與したる扶持米、徳川時代の社會政策の一。

捫

モン

捫

①ばち(撥)琵琶を鳴らすもの②ねぶ、ねぢる、ねぢれる(拗)③をる(折)④さく(撕)⑤もとる(戻)⑥國訓ねぢ、螺旋

①もつ(持)撫で持つ②ひねる(捻)③ひねりつぶす④なづ(撫)さする
【捫葛】モンカク 葛に似たる蔓草にて節あり龍尾又は虎葛ともいふ。
【捫著】モンシヤク もめる、ごたく、悶著。
【捫蝨】モンシツ 人の前にてしらみを取ることに、轉じて甚だ無頓着なる意。

挽

ワン

挽

擄

ハイ

擄

擄の古字

掬

ハイ

①うつ、両手でうつ②ひらく(摺)③押開 開閉の自在なる意。

掬

タク

たたく(摺)うつ(撃)打つ聲

据

キヨ

据

①はたらく、口と手と共に動く貌②手の病③よる(據)④もつ、挙げ持つ、又手がかれる⑤國訓すら、すゑつける、(神佛に物をそなへる、灸を灼く)

【据々】キョキョ 手を舉げて持つ貌。
【据騰】スエテン 自ら勞する事なくして他より御馳走を受けること、向ふから仕向けられること。
【据置】スエキ 現状の儘になし置く、現状維持。
【据置貯金】スエキチヨキン 或一定の年限中自

捲 ケン



由に引出さずしてつみ立てる貯金。
 ①まく(卷)をさむ(收)②いきほひ(勢)③こぶし(拳)④ほね折るさま
 【捲手】ケンシュ 巻きにぎりこぶし、拳骨。
 【捲束】ケンソク 巻き束ねる意。
 【捲勇】ケンユウ 腕力のつよきこと。
 【捲起】ケンキ 巻きあげること。
 【捲々】ケンケン 骨折りつとめる貌。
 【捲結】ケンケツ 巻き束ねて結びつける意。
 【捲握】ケンワク 手の内に巻き込み握る、轉じてしかと手に握る意。
 【捲土重來】ケンツシュウライ 土を捲く勢ひでまたくる、勢力を回復して再び襲ひ來ること、盛り返して出直す。
 【捶打】スチダク うつつ、むちうつ。
 【捶楚】スチソ むちうつ、罪の爲めむちうつ。
 【捶扑】スチボク 前に同じ。
 【捶捷】スチケツ 前に同じ。

捷 セフ



捷の俗字
 ①はやし(速)②かつ、戦ひにかつ③勝ち、勝利、分捕品④はやし、すばやし⑤挿に同じ、さしはさむ⑥ちかし(近)⑦捷勁⑧セフケイ 舉動の軽く速かなる貌、すばやきさま。
 【捷徑】セフケイ ①近道、間道、捷路②或事物に達する簡易なる方法。
 【捷書】セフショ 戦勝の報告書。
 【捷疾】セフシツ はやし、すばやし。
 【捷報】セフハウ 戦勝の通知。
 【捷々】セフセフ 軽く速かなる貌。
 【捷速】セフソク 舉動のすばやきこと。
 【捷給】セフキョウ 利口にして應對に巧みなり。
 【捷路】セフロ 近みち、間道。
 【捷獲】セフカク 分捕品、軍の獲得。
 類語
 狡捷セフカク 拳捷セフケン 才捷セフサイ 辯捷セフベン
 迅捷セフジン 雄捷セフユウ 輕捷セフケイ
 騰捷セフトウ 猛捷セフマウ 妍捷セフケン 便捷セフベン
 健捷セフケン 剛捷セフコウ 巧捷セフカウ 敏捷セフメイ

捺 ダツ



①おす(押)手で押しつける②とらふ(捕)③書法の一
 【捺印】ナツイン ①いんを押す、はんをつく②いんを押ししたるあとかた。
 【捺按】ナツアン ぐつと押しして少しの間おさへる意。
 【捺】ナツ ①よる(捺)②ひねる(捩)おさふ(按)
 【捺出】ナツシュツ ひねりだすこと、都合してうみ出す。
 【捺手捺足】ナツテナツソク 抜き足さし足。
 【捺抑】ナツヨク とりおさへること。
 【擽】ダ ①もつ(持)手に取る、とりおさへる②つかまへる、捉へる③あたる、ふる(觸)④つかまへる、捉へる、引出す、引ばり出す。
 【擽抑】ソクヨク とりおさへること。

捷 セイ



すむ(栖)すみか(幽居)
 【棲息】セイソク ①すむ、すみか②同棲、幽棲
 【掀】ケン ①あぐ(擧)手で高くさしあぐ②そびゆ(聳)そびだつ(峙)
 【掀々】ケンケン 高く聳え立つさま、高くかかぐるさま。
 【掀掲】ケンケイ 高くあぐる貌。
 【掀簸】ケンハ あり揚がる、あり揚げる
 【掀轟】ケンゴウ 高くひびきとどろくこと。
 【掃】サウ ①はらふ、はく、はらひ清む②すつ(棄)③こする、する(刷)なす
 【掃地】サウチ ちをはらふ④地面を掃除する⑤轉じてきれいになくなる、一物も留めざる貌。
 【掃刷】サウソウ 掃除に同じ。
 【掃帚】サウシウ ほうき、はらき。
 【掃拭】サウシツ 掃除に同じ。
 【掃除】サウジウ 塵埃を掃ひきよむ、掃清。

擽 セイ



【擽清】サウセイ はきよむ。
 【擽珍】サウジン はらひほろぼす、悪いものをのぞきつくす。
 【擽蘇】サウソ ①はらひ清む。
 【擽海】サウカイ 擽海法を見よ。
 【擽蕩】サウダウ ①盜賊などを平げ盡す②害毒・弊害・悪しき事柄等を除去する意。
 【擽滅】サウメツ 擽珍に同じ。
 【擽瀆】サウダク ①はらひ清む、擽除。
 【擽穢】サウタイ ①はらひ清む、擽除。
 【擽穢】サウタイ ①はらひ清む、擽除。
 【擽海法】サウカイハフ 海中に敷設又は沈没せられたる危険物を取り拂ふ作業。
 【擽愁帯】サウシュウライ 憂ひを拂ひ去る意、酒の異名。
 【擽部寮】サウベウリョウ 昔宮中の擽除を司る役所、其長官を擽部頭と言ふ。
 【擽晴娘】サウセイニョウ てる／＼坊主、天氣坊主、天氣の晴れるまじなひに紙にて人形を作り箒を持たせて軒につるす。
 【擽掃星】サウソウセイ 彗星、はらき星。
 類語
 揮掃サウウ 掃掃サウソウ 開掃サウカウ 淨掃サウジュウ
 閉掃サウヘイ 擽掃サウケウ 掃掃サウソウ

擽 タツ



①えらぶ(擇)②つらぬく(貫)
 【擽擽】タツタツ 人材を選び用ふ。
 【擽選】タツセン えらぶこと。
 【擽擽】タツタツ ①とる(取)ひろひとる(拾取)かすめとる(掠略)②けづる(剝)
 【擽拾】タツシツ 拾ひ取る、取り集める。
 【擽擽】タツタツ つみ取る、つまみ取る。
 類語
 采擽タツサイ 取擽タツク 拾擽タツシツ 精擽タツセイ
 抄擽タツショウ 摘擽タツテツ 燒擽タツショウ
 【授】ジュ ①さづく、あたふ(與)あてがふ、つたふ(傳)をしへる(教)②さづけ、さづかり
 【授衣】ジュイ 陰曆九月の異名。
 【授戒】ジュカイ 新に佛門に入る人に五戒・十戒・大小乗等の戒律を授けること。
 【授受】ジュジュ やりと、うけ渡し。
 【授産】ジュサン 次の②に同じ。
 【授業】ジュゲツ ①學問を授け教ふること②生活の道を授けること、生産の方法を

立て、やること。
 【授興】ジユコ さづけ興ふ、やる、わたす。
 【授賞】ジユシヤウ 賞して物をあたふ。
 【授爵】ジユシヤク 爵位を興ふること。
 【授時曆】ジユジレキ 支那元朝のこよみ。
 【授業料】ジユゲフレウ 教授を受ける謝禮、月謝。

【拵破】ホウハ うちやぶる。
 【拵拵】ホウケン かきあつめてひろふ。
 【拵拵】ホウケン 集め拾ふ。
 【拵拵】ホウケン うつ、うたれる。

又最も大切に秘蔵するもの。
 【掌院學士】シヤウケンガクシ 支那翰林院の長官
 訓讀
 【掌を反す】反レ掌 たなごころをさへす ①甚だ容易なる意 ②にはかに變るさま ③見易くわかり易きこと。
 【掌を抵つ】抵レ掌 たなごころをうつよるこんで手をたたく、大いに喜ぶ貌。
 【掌上に運らす】運レ掌上 しゃうじやうにぬぐて己の思ふ如くに取扱ふこと。

掉

テウ ダウ タウ
 ①ふるふ、振ひゆるぐ、ふるひ動かすをのゝく ②たじす(正)整頓する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

ホウ フ
 ①とる(把)かき取る、握りとる、食りとる、租税をとりあげる ②うつ(撃) ③さく(割) ④たふす、たふる(仆)

拵

コソ
 ①まず、まじふ(混) ②あはす、合同する

【被門】エキモシ 大門の両わきにある小門。
 【被省】エキシヤウ 宮中の官署。
 【被垣】エキエン 宮殿の側にある垣。
 【被庭】エキタイ 奥殿、皇妃宮女の居所、宮中正殿の旁舍。
 【被誘】エキイウ 助け導く。

類語

誘被イウ 振被エキ 提被エキ 宮被エキ
 仙被エキ 禁被エキ 宸被エキ 樞被エキ

掘

ア
 ①うごかす(掘)②とる(取)③あたふ、強ひて與ふ

掘

クツ コツ
 ①ほる、うがつ(穿)②ひとりぬきでる(特起)③いはや、あな(窟)
 【掘門】クツモン 穴の如き小門。
 【掘穿】クツセン ほり穿つ、掘鑿。
 【掘開】クツカイ 掘り開く、うがち開く。
 【掘起】クツキ 起り立つ貌。
 【掘機】クツキ 穴を掘る機械。

掙

サウ

掛

クワイ ケイ

掛

①さす(刺)②とりひしぐ(挫)③きる(剝)【掙得】サウトウ 稼ぎ儲ける。
 ①かく、かゝる(挂)②ひつかける③國訓かゝり、かゝる、かけ、うけもち(事務の擔當)④いりめ(入費)手はじめ(著手、端緒)⑤かけうり、かけね、かぶせる
 【掛冠】クワイクワン 官にて制定せし冠を掛げてかぶらざること、辭職する義。
 【掛錫】クワイシヤク 僧侶の止宿すること。
 【掛金】カケキン ①取引上の貸金②日掛け月掛けなどにかける金。
 【掛値】カケネ 定値より其幾割か高き値段
 【掛金燈】クワイキントウ 酸漿(ほづき)の異名、姑娘藥、燈籠兒。

掙

タウ チャウ

掠

①ふるひはる(揮張)②國訓ぢやう、おきて、規則
 ①かすむ、うばふ(奪)他人の物品を奪ふ②すれ違ひて行過ぐ③むちうつ(答)

掠

リヤウ リヤク

探

サイ

探

とる(取)②手にとる、つまみとる(摘)③えらぶ(選擇)④收め獲る、取り出す
 【探子】サイシ 芝居等の立役者。
 【探工】サイコウ 坑夫、かねほり。
 【採用】サイヨウ 人を取り用ふ、舉用、登用。
 【探伐】サイバツ 材木をきり出す。
 【探光】サイクワウ 光線を取り入れる。
 【探決】サイケツ 議長が議場にて議案の可否を取りきめること、轉じて一般に事を取りきめる意。
 【探拾】サイシツ 薪をとり木の實を拾ふ、轉じてひろひ取る意。
 【探納】サイナツ 人を引き入れ用ふ、取上げ、うけ入れる。

【探抱】サイイフ 水等をくみとる。

【探掠】サイリヤク 人の財物をかすめ取る。

【探集】サイシフ 探拾に同じ、ひろひ集める。

【探掘】サイクツ 礦石等をほり出す。

【探掘】サイセキ ひろひ取る、探拾。

【探掘】サイテキ つまみ取る。

【探掘】サイタク 多くの中より選び取る。

【探掘】サイテン 點をつけて優劣を定める。

【探掘】サイクツ つまみとる、探掘。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

【探掘】サイクワウ 土中よりあらがねを掘り出す。

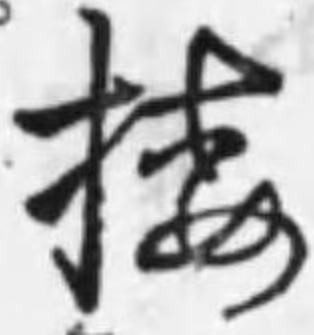
接

セフ セツ



①まじはる(交)あふ(會)あふ(合)②うく(承)③つゞく(連續)④ちかづく(近)となる⑤むかへうつ(遊撃)⑥すみやか(捷)⑦かつ(克)⑧さしはさむ(挾)⑨もてなす、あしらふ⑩つぐ、つぎ合せる

【接引】セツイン 引き近づける。
 【接手】セツレユ ①手をつらぬ②受け取る、落手。
 【接木】セツボク 人工にて木をつぎ合す、つぎ木、接樹。
 【接合】セツゴフ つぎあはす。
 【接比】セツヒ 近づきつらなる。
 【接近】セツキン ちかづく、近寄る。
 【接伴】セツバン 賓客をもてなす、又其事を司る人。
 【接見】セツケン 人を近づけて面會す。
 【接武】セツブ 武は跡、即ち後者が前者の跡をふむ意。
 【接骨】セツボツ 事に當り取扱ふ、又交際。
 【接骨】セツボツ 骨の折れたるをつぎ合す。
 【接吻】セツブン 人の唇又は手などに己の唇を當て、親愛の意をあらはす方法、くちづけ、英語のキツス(不図)の譯。

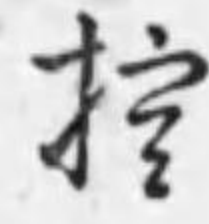


【接延】セツエン 人を引き入れてもてなす。
 【接待】セツタイ あしらひもてなす。
 【接聞】セツブン 直接本人につきて聞く。
 【接納】セツナフ 信用して聽き入れる。
 【接給】セツキョフ 人の問ひに對して即答す、すぐに答へる。
 【接線】セツセン 圓周の一點に觸れる線。
 【接遇】セツグウ もてなしあしらふ。
 【接戦】セツセン 敵味方入亂れて戦ふ。
 【接樹】セツジュ 接木に同じ。
 【接踵】セツシュウ かかとをつゞける、轉じて物事の續々と起りて絶えざる貌。
 【接續】セツゾク つながり續く貌。
 【接應】セツオウ 軍器・兵糧等を中絶せしめずして送り助けること。
 【接觸】セツショク 互ひに相ふれあふ。
 【接脚夫】セツキョクフ 人夫、にんそく。
 【接尾語】セツビゴ 或語の下に添へて別の意味を加へ又はその意をつよめる文法上の詞。
 【接骨木】セツボツク 灌木の一、にはとこ。
 【接續詞】セツゾクシ 文章・語句をつゞ言葉。
 【接頭語】セツトウゴ 或語の上に冠らせて他の意味を加へ又は意を強める文法上の語。
 【接合生殖】セツゴフセイショク 下等動物の生殖

法、即ち雌雄二個の體を接觸すれば自體が盛に分裂する生殖法。
 【接近聯合】セツキンレングフ 或事に關し利害關係を近づかしめて一體となすの意。
 【接觸電氣】セツショクデンキ 異種類の金屬を流れる電流が其接合部に於て顯はるゝ異様の電氣を言ふ。
 【接觸感覺】セツショクカンカク 異體が結合せんとする時に於ける特殊の感覺。

控

コウ



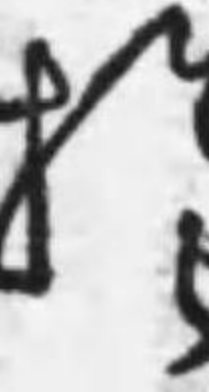
①ひかふ、ひかへる、引とむ(止)②つぐ(告)告げ訴ふ③なぐ(投)④うつ(打)⑤のぞく(除)⑥ひく(引)⑦國訓ひかふ(暫く待つ、座を構へる、書きとめる、うちにはに見る、遠慮してさし出ぬ、別に設ける)ひかへ(副本)

【控兒】コウジ 太鼓の異名。
 【控邸】コウテイ 下屋敷、別墅。
 【控柱】コウチウ 支柱の意、壁や扉の傾斜等を防ぐひかへ柱。
 【控制】コウセイ 他の自由をおさへとめる。
 【控弦】コウゲン 弓をひく、又其兵士。
 【控除】コウヂョ ひき去る、さしひく、扣除。
 【控勒】コウロク 控駈に同じ。

【控御】コウギョ 馬を控へて制使する如くに人の自由を制して治める。
 【控訴】コウソ 第一審の裁判に對し不服ありて再び裁判を求むる場合上級裁判所に訴へ出づる申立。
 【控駈】コウキョ 馬をつかふこと。
 【控禦】コウギョ ひかへふせぐ。
 【控駈】コウキョ 控駈に同じ。
 【控訴院】コウソウイン 地方裁判所の上にあるて其判決に對する上訴を裁判する所。

推

タイ スキ



①おす、おし進める、おしおとす、排擠、うつす、おしやる、進め與へる②奉ずる、あがめる③きはむ(究)たづぬ(釋)④なじる(詰)⑤おしうつる(變遷)⑥おしはかる(想像)⑦ほめる、選上げてすゝめる、奨めたゝへる⑧國訓おす(語勢を強める助詞)おして(強ひて)

【推及】スキキヤフ おし及ぶ、おし及ぼす。
 【推月】スキツキ 家並みの意。
 【推引】スキイン 人を引き立て用ふ。

【推本】スキホン 根源をたづねきはめる。
 【推古】スキコ 古をおしはかる。
 【推考】スキカウ おしはかる、察し考ふ。
 【推究】スキキウ おしきはむ、おしはかる。
 【推知】スキチ おしはかり知る、察知。
 【推歩】スキポ 天文学の語、日月五星の運行の度數をおしはかりて曆を作る術。
 【推服】スキフク 尊び心服する意。
 【推定】スキテイ おしはかり定める。
 【推勅】スキチツク 罪を取りしらべらる。
 【推事】スキジ 裁判官。
 【推治】スキチ 罪惡の事實をおしはかりて吟味す、推問。
 【推來】スキライ 未來の事をおし考へる。
 【推明】スキメイ おしはかりて明らかにす。
 【推尙】スキシヤウ おし尊ぶ、推尊。
 【推行】スキキョウ おしひろめる。
 【推按】スキアン 罪人を詮議すること。
 【推原】スキゲン 深くおしきはめる、推究。
 【推恩】スキオン 恩愛を人に施す。
 【推校】スキカウ おし考ふ。
 【推問】スキモン 罪を取調ぶ、推治、推究。
 【推勸】スキカン 罪狀を取しらべる。
 【推挹】スキイフ おし立つ、推しすゝむ。
 【推進】スキシン 他人をおしすゝむる意。
 【推理】スキリ 既知の事實を基礎として未

知の事項を推定する意識の作用。
 【推參】スキサン ①自分から進んでまゐる、參上②無禮なるふるまひ。
 【推移】スキイ うつりかはり、おしうつる。
 【推測】スキソク おしはかる。
 【推量】スキリヤウ おしはかる、推察、推測。
 【推尊】スキソン おし尊ぶ、あがめる、推尙。
 【推睡】スキスイ そらねむり。
 【推頌】スキショウ 人をすゝめほむ、推獎。
 【推算】スキサン おし考へてかぞへる。
 【推辭】スキジ 辭退する意。
 【推敵】スキキ 文章詩句等を練り工夫す。
 【推演】スキエン おし廣む、敷衍。
 【推察】スキサツ おし考ふ、おもひやる、想像す、推量、推考。
 【推誘】スキイウ 責任又は義務を他人に負す
 【推論】スキロン ①次第に廣く論じ及ぼす②或事理に基きて更に他の結論におしうつす。
 【推窮】スキキウ おしきはむ。
 【推輓】スキバン 車を後より押し前より輓く轉じて人を推しすゝむること。
 【推轂】スキコク 人を推舉すること。
 【推擇】スキタク 人を引立て用ふ。
 【推獎】スキキヤウ ほめすゝむ、推舉。
 【推榮】スキエイ 後からつゝきて意を通ず。

推 スキライ 見かけてたのむ。
 【推戴】スキタイ 上におしいたく。
 【推鞠】スキキク 推問に同じ。
 【推量】スキキョウ おし動かす。
 【推薦】スキセン 人を上におしすむ、推挙。
 【推鞠】スキキョク 罪をしたらべたぐす、鞠はた
 だす、推問。
 【推舉】スキキョ すすめあぐ、推薦。
 【推讓】スキジヤウ 自らをひかへて他を推し
 すゝめる。
 【推賢】スキカク 罪を充分に取り調べる。
 【推賢】スキキョ すすめすゝむ。
 【推尊式】スキソンシキ 羅馬舊教にて成績優秀
 の信者又は功勞者に對して死後聖號を
 贈る儀式。
 【推三阻五】スキサンソゴ 種々なる方法を以て
 邪魔する意。
 【推定遺産相続人】スキテイキサンソゴウクニン 遺産
 相続者なりと推定し得らるゝ資格者。
 【推定家督相続人】スキテイキカトウヤウソクニン 法律
 上當然家督を相続する順位にある者。

掩 エン アン
 【おほふ(蓋)おほひかくす、おしかく
 す(匿)お不意に襲ひ取る(遮)かば
 ふ(匿)お不意に襲ひ取る(賭博)一種
 (せにうち)おなでる(撫)めぐむ(恤)恤
 みかばふ(閉)おなじ(同)
 【掩邪】エンジャ 不正をかばひかくす。
 【掩没】エンボツ おはれかくる。
 【掩映】エンエイ おひかざす。
 【掩涕】エンテイ 涙をかかす。
 【掩苒】エンゼン 風が物を吹き靡かす貌。
 【掩殺】エンサツ 敵の不意に乗じて殺す。
 【掩々】エンエン 香氣高きさま。
 【掩蔽】エンシ 過失を隠しおほふ。
 【掩閉】エンバイ おほひふさぐ。
 【掩塞】エンサイ おほひとぢる。
 【掩蓋】エンガイ おほふ、又おほひ兵用
 語、敵軍を防ぐ爲めに壘壕等の上に水
 平に作る屋根。
 【掩鼻】エンビ 鼻をつまむ。
 【掩蔽】エンバイ おほひふさぐ、他人の見聞
 を妨げる。
 【掩翳】エンイ ①おほひかくす②かけ。
 【掩聰】エンソウ 耳をおほふ。
 【掩擊】エンキキ 敵の不意を襲ひうつ。
 【掩護】エンゴ ①おほひまもる、かばふ。
 【掩襲】エンシウ 掩撃に同じ。

措 ソ
 【おく(置)おとりはからふ、用ふ(さ
 し置く、やめる、廢す)ふるまひ(動作)
 おすおおく、其のまゝ、其のまゝにして
 おく、用ひぬ、又せまる(迫)はさむ(挟)
 ③さす(刺)④古く錯に通ず
 【措大】ソダイ ①書生、窮措大は貧書生を
 いふ②大事を擧措するに足る義で本来
 は美稱に用ゐたるも轉じて嘲罵又は謙
 遜の意をあらはす。
 【措止】ソレ 處置をつける。
 【措棄】ソキ 捨て、打捨つ。
 【措畫】ソクワ 處置す、取はからふ。
 【措置】ソチ 事を謀りて仕末をつける。
 【措辭】ソジ 文詩の詞づかひ、言ひまはし。

夜まはり、夜警、行夜
掬 キク
 ①すくふ、むすぶ(結)両手でしやくふ、
 手に盛る②左右の手に満つる程の量、
 片手に一ぱい、又両手に一ぱい③はな
 る(離)④一升の量
 【掬手】キクテ 手にてすくふ。

揀 エン
 ①よる(緣)②小役人、屬官③國訓じや
 う(承に通ず)官名、國司
 【掾史】エンシ 屬官、下役人。
 計掾 エン 獄掾 エン 承掾 エン 書掾 エン

揅 セン
 ①ぬく(抜)②きる(窮)はさみきる③し
 るし(驗)④つらぬく(貫)とし(銳)⑤國
 訓そるふ(完備、整齊)そるひ(まとまり
 し數の全部、一組、一具)
 【揅平】センヘイ きりたひらぐ。
 【揅割】センカ 分割する意。

揅 キ
 ①ひく(引)ひきずる②からかふ、あざ
 ける(嘲)③米を白より上げる④鶴を畫
 きたる婦人の衣服⑤ほめそやす
 【揅狄】エンテキ 婦人の衣服の一。
 【揅袂】エンベキ 長くしたる袖、ふりそで。
 【揅揚】エンヤウ 引き上げる、ほめそやす。
 【揅舖】エンポ 毛むしろ、毛を編みたる蓆。
 選揅 エン 扶揅 エン 擲揅 エン 挑揅 エン

手部 (八―九畫) 掬・揀・揅・揅・揅・揅

描

ベウ

描

【描金】ベウキン まき糸、漆と金銀粉とにて書く。

【描畫】ベウガク 糸がく。

【描摸】ベウボ 糸がく、うつす、描摹。

【描寫】ベウシヤ 畫きうつす、背せてうつす。

【描摹】ベウボ 描摸に同じ。

提

タイ ダイ シ チヤウ

提

【提】タイ ダイ シ チヤウ ①さぐ、ひつさぐ、手にさげ持つ、率ゐる、ひきおこす、掲げしめす、表はし出す、もち出す、すべくゝる【提】鼓の名【提】なげうつ(抛擲)【提】鳥の群れ飛ぶ貌【提】掲げ示す【提】ゆつくりとした貌【提】星の名【提】論理學上表示する名目

【提示】タイミ ①みせる、かゝげ示す。

【提出】タイシュ ①もち出す、さしだす。

【提刑】タイケイ 宋代に置きし地方の刑獄を取り調ぶる官。

【提兜】タイケウ 吟味すること。

【提供】タイキョウ 差し出す、持ち出す。

【提封】タイホウ 提は擧、封は封土、擧國又

は知行所、領分の意。

【提案】タイアン 議案を提出すること。

【提要】タイエウ 大要をつまみ取る。

【提孩】タイガイ 提は手をひつさげる、孩は初めて笑ふ年頃、轉じていとけない子供をいふ。

【提起】タイキ ①もちあげる、提擧【提】もち出す(例)訴訟提起。

【提挈】タイケツ ①互にたすけあふ【提】もち出す【手】手に物をさげ持つ。

【提掖】タイエツ 助けてひき用ゐる。

【提唱】タイシヤウ ①事に先ちて唱へ導く【意義】を説き示す(禪家の語)。

【提控】タイコウ ひきとゞめる。

【提々】タイタイ 上に擧ぐる貌、ひつさぐ。

【提督】タイトク 軍隊をさぐる人。

【提琴】タイケン ①胡弓に似たる樂器の名【洋樂器】ヴァイオリン。

【提携】タイケイ ①の目的を達する爲めに相扶助すること。

【提獎】タイキヤウ 人を取り立てる意。

【提撕】タイセイ ①提擧に同じ【振】ひおこす元氣を出す。

【提擧】タイキョ つかみひつさぐ。

【提擧】タイキョ 管理すること、轉じて廣く監督官の意に用ふ。

提

【提籃】タイラン 手さげ。

【提燈】タイトウ 提げて持歩くあかり、提灯。

【提衡】タイコウ 兩々相等しきこと。

【提頭】タイトウ 文章中天子に關することを別行の頭に移して敬意を表すること。

【提擧】タイケツ 武器をもつてうつ。

【提擧】タイケツ 提擧に同じ。

【提議】タイギ 議論をもち出す。

【提燈持】タイトウチ 提燈を持ちて人の前に進む者、轉じてお先棒に使はるゝ人を卑めて言ふ。

【提耳面令】タイジシレイ 丁寧な教へる意。

類語

嬰提タイ 奉提ホウ 攝提セツ 挾提ケツ 招提シウ 偏提ヘン 善提ゼン

插

サフ

插

【挿】サフ ①さす、さしはさむ(挿)さしこむ、かさす、かさしにす【挿】すき(挿)

【挿入】サフニウ 挿し入れる、さし込む。

【插花】サフクラ ①いけばな【花】をかかさしにす。

【插秧】サフアウ 稻の苗をうゑる。

【插刺】サフセキ ①さしはさむ、さす【に】なる

【挿畫】サフガク 書中に書込みし繪、さしゑ。

類語

秧插サフ 戴插サフ 雜插サフ 摘插サフ

反插サフ 懸插サフ 亂插サフ 散插サフ

栽插サフ 種插サフ

搦

チン

搦

【搦】チン ①さす(刺)うつ(撃)ねらつて刺し又は撃ちかゝる【搦】木を斫る音

揖

イフ シフ イツ

揖

【揖】イフ シフ イツ ①兩手を胸にあてる、手を揖いて上下或は左右にする(禮法の一)【揖】あつむ(禮)あつまる(聚)又そのさま

【揖拜】イフハイ 兩手を胸にあてる、又上下にする、又左右にする、何れも禮法。

【揖々】シフシフ あつまるさま。

【揖讓】イフジヤウ ①拱手の禮をなしてへりくだる【揖讓】位を譲り合ふ。

【揖遜】シフソン へりくだる貌。

揚

ヤウ

揚

手部 (九畫) 搦・揖・揚・換・揆

【揚】ヤウ ①あぐ、あがる、高く上る、名高くなる、盛んになる、立派に目だつ、激する【揚】満足する貌【揚】ほめあぐ(稱揚)【揚】の、鐘【揚】浙江・江西・福建の諸省

【揚言】ヤウケン 聲をはりあげて言ひふらす大言、聲名する、囂言。

【揚々】ヤウヤウ 得意なる貌(例)意氣揚々。

【揚擡】ヤウカウ ①證據をあげて其の趣を陳べる【揚擡】大畧、おほよそ。

【揚聲】ヤウセイ ①聲をはりあげる【揚聲】名譽のあがること。

【揚屋】ヤウヤ お茶屋、料理屋。

【揚眉吐氣】ヤウメイチキ マニツゲチキハク ①氣焰を吐くさま【揚眉吐氣】怒れるさま。

類語

悠揚ヤウ 颯揚ヤウ 升揚ヤウ 旌揚ヤウ

威揚ヤウ 對揚ヤウ 鷹揚ヤウ 飛揚ヤウ

發揚ヤウ 遊揚ヤウ 震揚ヤウ 稱揚ヤウ

宣揚ヤウ 震揚ヤウ 贊揚ヤウ 抑揚ヤウ

搜揚ヤウ 飄揚ヤウ 搖揚ヤウ

換

クワン

換

【換】クワン ①かふ(易)とりかふ、交易、改め變へる【換】かはる(變)入りかはる、あらたま

【換位】クワンキ 地位をかへること。

【換衣】クワンイ ころもがへ、更衣。

【換言】クワンゲン 言ひ換へる、他の言葉にて言ひあらはす。

【換刑】クワンケイ 罰金・科料等の代りに拘置に處するをいふ。

【換易】クワンエキ 取りかへる、更換。

【換氣】クワンキ 空氣をいれかへる。

【換替】クワンタイ とりかへる、交易。

【換算】クワンサン ①單位の異なる數量に計算しかへる【換算】兩替の意。

【換質】クワンシツ 質量を換ふる意。

【換銀】クワンギン 換算の【に】同じ。

【換鷲】クワンジュウ かきもの、書跡。

【換骨奪胎】クワンコツダツタイ 古人の詩文の意を取り語句を換へて己れの作となすこと

類語

改換クワン 代換クワン 畔換クワン 販換クワン

調換クワン 檢換クワン 易換クワン 更換クワン

揆

エン

【揆】エン ①おほふ(掩)一ぱいにふさがる、おほひかくす【揆】もとむ(求)さがす(探)【揆】ほろぶ、ほろぼす(減)

【拵取】エシユ おほひ取る。
【拵索】エシヤク さがしもとむ。
【拵蓋】エシガイ おほひかくす。

【撰】

アツ

撰

【握】

アク

①にぎる、にぎりもつ、掴み持つ。②にぎりこぶし(拳)③手をとる、しめる(占)自由にする。④にぎり、一にぎり程の量又は大きさ、にぎり持つところ。
【握力】アクリヨク ものをにぎるちから。
【握手】アクリユ 互に手を握つて親愛の情を示す。⑤西洋の禮儀⑥提携する。
【握沐】アクモク 洗ひ髪を結び了るを待たず髪を握りながら客に見えし周公の故事に因み政治に精勵する意、又賢者を優待する意。
【撰把】アクハ 握りもつ。
【撰拳】アクケン にぎりこぶし。
【撰髮】アクハツ 握沐に同じ。
【撰權】アクケン 實權を握りて自由にす。
【撰銀】アクダク 心狭くこせつく貌、催促。
【撰月摺風】アツキアツキアツキニナフ 風月を愛

するの情甚だ深きをいふ。

類語

一握 アツチ 撰握 アクク 吐握 アトク 把握 アハク
掌握 アウツク 拳握 アケン 兼握 アヘク 垂握 アスク

【揣】

シ スキ

①はかる(量度)又そのこと②ためす(試)推量する、考度する、さだむ(定)③のぞく(除)④察まるさま
【揣分】スキブン 己が分をさとり自ら安んずるさま。
【揣摩】シマ 己れの心を以て人を推測す。

【搦】

テイ

【措】

カイ カツ

措

①ぬぐふ(拭)けす(消)②たたく、うつ【措抹】カイマツ ぬぐふ。【措策】カイサツ 措は楷書の意、策はてん書。【措磨】カイマ すりみがく、朋友互ひに勵まし合ふ意。

す(散)①書畫をかく②さしづ(指揮)又その旗③そまぎ葉つ

【揮斥】キセキ ①ほしいまゝにふるまふ②勢つよくふるふ、疾迅。
【揮拍】キハツ ならず、うちならず。
【揮洒】キサイ 揮灑に同じ。
【揮染】キセン 筆を揮ひ紙を染める、轉じて書畫を書く意。
【揮掃】キソウ 書畫をかく筆勢の形容。
【揮毫】キガウ 揮染に同じ。
【揮掉】キテウ ふるひ起る貌。
【揮筆】キヒツ 揮染に同じ。
【揮發】キハツ 化學の語、液體が普通の溫度にて氣體となり上散すること、轉じて振ひ立つ、又氣の立つさま。
【揮揚】キヤウ ふるひあげ、振興す。
【揮粹】キスイ 振ひあがるさま。
【揮霍】キカク ①ふるひすてる、思ひ切つてすてる②早いさま。
【揮灑】キサイ 筆をふるひ墨をすまぐ、即ち書畫をかくこと。
【揮發油】キハツユ 揮發して香氣を放つ油、普通には石油より製す。

類語

毫揮 キガウ 錯揮 キヤク 初揮 キソウ 指揮 キシ

【撰】

セツ テフ

【撰】

ケツ カツ ゲキ

【援】

エン

援

①ひく(引)ひきあげ、引とる②たすけ、たすく(助)すくふ(救)又その者③つかまりたよる、よづ(攀)
【援手】エシユ 溺者の手を取り救ひ上ぐ、轉じて救助の意に用ふ。
【援引】エシイン ひく、ひつぱりあふ。
【援用】エシヨウ 或事柄を充分ならしめる爲め他の語句を採用すること。
【援兵】エシベイ 救ひの兵、加勢の軍兵。
【援助】エシヨウ たくすくふ。
【援庇】エシヒ たくすくばう、援護。
【援救】エシキウ 援助に同じ。
【援拯】エシシヨウ たくすくふ、援救。
【援軍】エシグン たくすくひの軍兵。
【援路】エシロ 援兵の來る道、救ひの道。
【援繫】エシケイ 手びき、出世の手づる。

【掲】

ケツ ケイ

掲

①かゝぐ、高くあげる
②かふ(負)③かゝげしめす④からげる
【揭示】ケイシ 掲げて一般に示す、貼出して衆に見す(例)揭示場。
【掲貼】ケイテウ 貼りかゝげる。
【掲榜】ケイバウ 看板をかゝげる。
【掲焉】ケイエン 著しく明かなる貌。
【掲載】ケイサイ 新聞・雜誌等に詩文・圖畫等をかきのせること。
【掲曉】ケイキョウ かゝげ示す、公に知らす。
【掲々】ケツケツ 長き貌、又高き貌。
【掲騰】ケツケツ 心おごるさま。
【掲斧入淵】ケツケツ オノツカガテフチニル 物を用ゐるに其所を得ざるにたとふ。

【揮】

キ

揮

①ふるふ、ふる(振)ふ②ひ示す③ちら
類語
掀掲 ケンケイ 小掲 ケイロ 掲掲 ケイロ 昭掲 ケイロ
表掲 ケイロ 擲掲 ケツケン 負掲 ケツケン

類語

【捷】

ケン

【擲】

ヤ

①あぐ、あがる(擧)②とづ(閉)ふさぐ(塞)又せき(關)③かつぐ(擔)になふ
【擲擲】ヤニ からかふ、なぶりもてあそぶ。
擲に同じ、からかふ

十畫

【搦】

コウ

搦

ひく(引)ひつばる、搦とは別字
【搦】カク ①たたく(敲)たたく潰す②はかる(商)はかり考へる③もつばらにす(專)一心になる、物を賣つて利益を獨占する。

【推巧】カクカウ 一つの業に巧みなること。
【推商】カクシヤウ 善悪をはかり定む。
【推場】カクチャウ 賣買を監督する所。

【振】 テン

①つかぬ(束)②のぶ(展)③ぬぐふ(拭)④まく(捲)

【損】 ソン

換

①へる(減)②少くなる、かく(缺)③うしなふ(失)④けづる(削)⑤つかぬ(疲)⑥へりくだる(過)⑦そこなふ(傷)⑧いたむ、こはれる⑨易の卦の名⑩國訓そこなふそこねる、そんじる、外れる、失敗す、人の氣をわるくす、機會を失ふ。
【損亡】ソンバウ そこねる、損をする。
【損友】ソニイフ 交はりて害となる友だち。
【損失】ソンシツ そこなひ失ふ、損亡。
【損料】ソンレウ 物品衣服類等の貸賃、即ち使用料。
【損抑】ソンヨク おさへつける。
【損害】ソンガイ 利益をそこなふ。
【損挾】ソンイフ 自らをおさへ制す。
【損益】ソンエキ 損失と利益。
【損耗】ソンコウ 損失に同じ。

扱

【損減】ソンゲン へる、なくなる、そこなふ。
【損傷】ソンシヤウ いため傷つく。
【損敗】ソンバイ そこなひ破る、敗殘。
【損奪】ソンダツ 奪ひ取る。
【損瘠】ソンセキ やつれる、つかれやせる。
【損爛】ソンラン 甚だしくいためそこなふ。
【損害保険】ソンガイボケン 偶發事故の發生に對する損害補填の契約。
【損害賠償】ソンガイバイシヤウ 他人に損害を加へたる時其額に相當する補償をなさしむる意。

類語

毀損ソン 銷損ソン 阻損ソン 折損ソン
撲損ソン 侵損ソン 瘦損ソン 費損ソン
減損ソン 虧損ソン 耗損ソン 加損ソン
増損ソン 抑損ソン 挾損ソン 傷損ソン

【搏】 ハク

搥

①うつ、手にてうつ、なぐる(毆)②とる(取)③つかみとる④とらふ(捕)
【搏殺】ハクツツ うちこらす、なぐり殺す。
【搏執】ハクシツ とらへる、召しとる。
【搏虎】ハクコ 虎を手にてうつ、轉じて無謀の意。
【搏填】ハクレン ねばつちをうつ、轉じて

【搥】 チク

①ひく(牽)②ひきつける③ひきつる(身體のひきつりて痛むこと)
【搥引】チクイン 引く、ひきつく。
【搥牽】チクケン ひきつく、牽制。

【擄】 ハウ

①こぐ(舟をこぐ)②うつ(打)③むらうつ罪人をむらうち懲らす
【擄人】ハウジン せんだう、水人、舟人。
【擄掠】ハウリヤク 罪人をむらうつ。
【擄捶】ハウスキ むち打ちて責む。
【擄笞】ハウチ 同上。

【搥】 サ

もむ、よる(撻)②ぢる

【搥】 サウ

搥

①かく(抓)②ひつかく、ひきこはす③さわぐ(騒)④さわがす、さわがし⑤國訓かく(爪でひきかく)⑥上に冠らせて勢ひを強める助辭
【搔首】サウシユ 頭をかく、心おちつかぬ貌、愁ある時などの動作。
【搔頭】サウトウ ①前に同じ②かんざし。
【搔亂】サウラン かき亂す。
【搔癢】サウヤウ かゆい所をかく、搔痒。
【搔擾】サウゼウ 騒亂に同じ、さわがし、又さわがす。

【搖】 エウ

揺

①うごく(動)②ゆるぐ、物がゆらく動く、おちつかぬ③うごかす、又動く貌
【搖曳】エウエイ ゆれうごく貌。
【搖車】エウシヤ ①乳母車②葦科植物の一、のゑんどう。

【搗】 タウ

搗

①つく、かつ(搗に同じ)②國訓かてる(つけ加へる意)
招搗エウ 扶搗フ 漂搗エウ 蕩搗エウ
鼓搗エウ 震搗エウ 傾搗エウ

【摺】 シ

①ふ(支)②つゝばる、支持す
【摺頤】シイ 手にてあごを支へる、頤ずををつく。

【擄】 ラフ ラツ

【搜】 シウ サウ

搜

①さがす。たづねる、もとむ、さぐる②みだる(亂)
【搜剔】サウチキ 探し出して惡しきを除く。
【搜查】サウサ 事實を探しよらべる。
【搜討】サウタウ さがしもとめる、搜索。
【搜索】サウサク 前に同じ。
【搜訪】サウハウ 人を探し出して訪ねる。
【搜探】サウタン もとめさぐる、搜索。
【搜々】サウサウ うごく貌。
【搜選】サウセン さぐりえらぶ。
【搜索】サウソ 探しあつめる。
【搜檢】サウケン さぐりしらべる。
【搜攪】サウカウ ①亂れる、擾亂②かきみだす、攪亂。
【搜攪】サウラン 搜索に同じ。

類語

研搜サウ 千搜セン 窮搜キウ 冥搜メイ
徧搜ヘン 博搜ハク 精搜セイ

搞

カウ
うつ(打)たく(敲)

摺

シン
①はさむ、さしはさむ(挿)②ふるふ(振)
【摺神】シシシ 官人が笏を大帯に挿むを言ふ、轉じて貴顯の人の稱。

搥

ヤク
①とる(扼・扼)とらへる(提)とりおさへる、しめつける②にぎる(握)
【搥殺】ヤクヤク しめ殺す、つかみこころす。
【搥腕】ヤクワン 腕を厳しく握る、奮ひて意氣こむ貌。

搥

タイ ツキ
①うつ(擊)たく(擗)なげうつ(擗)搥にてうつ
【搥打】ツキダ 搥にて物を打つ。

搥

ヂヤク サヨク
ダク
①とらふ(捕)とる(取)又そのこと②おさふ(按)③國訓からむ、捕へて縛る
【搥捕】ヂヤクサ 捕へる、からめ捕ふ。
【搥手】カラメテ 城の裏門、追手の對。

搥

トフ タフ
①する(搥)うつす(寫)しきうつす、碑文や法帖などを石ずりにする②しきうつし、又石ずりの類
【搥本】タフベン いしずりにしたる本。
【搥染】タフセン すりつけて染め出す。
【搥地錢】タフヂセン 唐代に於て茶商より收めし税金。

搥

ハン
①のぞく(除)はらひのく②うつす(移)はこぶ(運)
【搥入】ハンニフ はこび入れる。
【搥住】ハンヂユウ 引越し、宿換へ。
【搥房】ハンバリ 前に同じ。

携

攜の 俗字



搥

サ サク
しぼる、しぼりとる、おして汁をとる
【搥取】サクシユ しぼりとる、しぼる。

十一畫

搥

サツ
①うつ(搥)はらふ(掃)とりけす

搥

シヨウ
①つく(衝)②うつ(擗)

搥

キウ カウ
①しむ(絞)くゝる②もとむ(求)③めぐらす(纏)④つかぬ(束)

搥

サウ

搥

ハシラシ 物をはこぶ、運搬。

搥

タフ トフ
①つく(附)②かく(挂)ひつかける③のす(載)のる(乗)
【搥乘】タフジヨウ 船車に乗ること。
【搥客】タフキヤク 船車等に乗る客。
【搥載】タフサイ 船舶等に物を積みこむ。

搥

コツ
①みだす(亂)②にごす(濁)かきまはす③ほる(掘)あばく④力を用ゐる貌
【搥攪】ケランシ カゝげとる。

搥

シヤウ サウ
①とる(取)かすめとる②つく(突)つきあたる③みだる(亂)
【搥風】シヤウフウ 帆に風を受けて上る。
【搥掠】サウリヤク かすめ取る。
【搥奪】サウダツ トリ奪ふ、うばひ合ふ。

搥

ホウ
たゝく、つく(撞)

搥

ケン
①おほいなり(大)②ぬふ(縫)③さゝぐ(奉)さゝぐ持つ

搥

カク クワク
①とぐ(研)②きはめる(究)

搥

タク テキ
①うつ(打)②國訓つかむ(擗)搥持つ

搥

①つむ、つまむ②指し示す③ひろふ
【搥拾】テキシヨウ つまみだす。
【搥出】テキシュツ つまみだす。
【搥芳】テキハウ 花をつみ取る、摘花。
【搥要】テキユウ 多くの中より要所をつまみ取る、又其かき物。
【搥草】テキサウ 草をつむ、つまぐさ。
【搥歛】テキケン あばき出す、摘發。
【搥撮】テキサツ つまみとる。
【搥載】テキサイ 要點をつまみて書きのせる

搥

クワ
ひろし(寬)又横に大なるさま

搥

ソウ
①ひらく(發)②のぶ(舒)しく(布)
【搥藻】ナサウ 文詞のうるはしきを形容する語。

搥

ガイ
①すぶ(統)②すべて(總)③むすぶ(結)
あらふ(濯)すゝぐ(滌)ぬぐふ(拭)

搥

クワ

擻

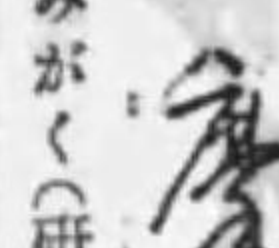
サイザ



①くじく(挫)くだく(折)碎き折る、他の勢力をひしぐ(至)はむ(沮)いたる(至)ほろぶ(亡)傷み害ふ(至)まぐさ、又まぐさかふ(至)心に思ひ悲しむ

摩

マ

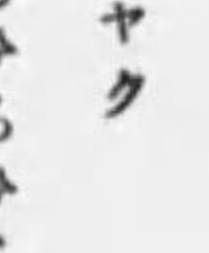


①する(擦)こする、みがく(研)ぬぐ

【擻】おしはかる(擻摩)せまる(迫)ちかづく(近)及ぶ、匹敵すなてさする(ト)すりへらす、消滅【摩天】マテン 天まで聳え立つこと、空中高く聳え立つ貌【摩尼】マニ 梵語(Muni)のあて字、龍王の腦中にとありと云ふ清浄なる珠、如意珠【摩耶】マヤ 梵語摩訶麻耶の略、大術・大幻・大清浄と譯す、釋迦の生母の名【摩娑】マサ 手にてこすること【摩訶】マカ 梵語(Maha)のあて字、大・多・勝の三義を含む語【摩滅】マツツ すべて消える【摩撫】マブ なでさする、按摩【摩擦】マツツ こする、すり合はす【摩盪】マタウ こそり磨く【摩疊】マルキ 敵疊に接近す(他人の詩文などが古の大家の作に匹敵するを賞揚して謂ふ)【摩羅】マラ 百合の異名【摩伽羅】マカラ 梵語にて鯨【摩訶陀】マカダ 梵語にて不害と譯す【摩利支天】マリシテン 印度の神にて火星の女神、國を守り兵戈を救ふ大力あり武士・力士等の守り神とす【摩乾軋坤】マケンフコン 天地に近づき迫る

擻

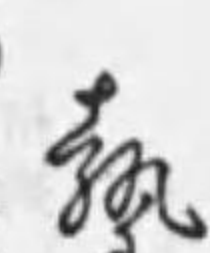
セキ シヤク



【擻】おしはかる(擻摩)せまる(迫)ちかづく(近)及ぶ、匹敵すなてさする(ト)すりへらす、消滅【摩天】マテン 天まで聳え立つこと、空中高く聳え立つ貌【摩尼】マニ 梵語(Muni)のあて字、龍王の腦中にとありと云ふ清浄なる珠、如意珠【摩耶】マヤ 梵語摩訶麻耶の略、大術・大幻・大清浄と譯す、釋迦の生母の名【摩娑】マサ 手にてこすること【摩訶】マカ 梵語(Maha)のあて字、大・多・勝の三義を含む語【摩滅】マツツ すべて消える【摩撫】マブ なでさする、按摩【摩擦】マツツ こする、すり合はす【摩盪】マタウ こそり磨く【摩疊】マルキ 敵疊に接近す(他人の詩文などが古の大家の作に匹敵するを賞揚して謂ふ)【摩羅】マラ 百合の異名【摩伽羅】マカラ 梵語にて鯨【摩訶陀】マカダ 梵語にて不害と譯す【摩利支天】マリシテン 印度の神にて火星の女神、國を守り兵戈を救ふ大力あり武士・力士等の守り神とす【摩乾軋坤】マケンフコン 天地に近づき迫る

摯

シ



①いたる(至)来る(至)きはむ(極)に(贊)進物(至)む(進)たけし(猛)まこと(誠)ねんごろ(懇)【摯極】シキョク 及ぶ、かぎり【摯獸】シジウ たけきけもの、猛獸

擻

サン



【擻】おしはかる(擻摩)せまる(迫)ちかづく(近)及ぶ、匹敵すなてさする(ト)すりへらす、消滅【摩天】マテン 天まで聳え立つこと、空中高く聳え立つ貌【摩尼】マニ 梵語(Muni)のあて字、龍王の腦中にとありと云ふ清浄なる珠、如意珠【摩耶】マヤ 梵語摩訶麻耶の略、大術・大幻・大清浄と譯す、釋迦の生母の名【摩娑】マサ 手にてこすること【摩訶】マカ 梵語(Maha)のあて字、大・多・勝の三義を含む語【摩滅】マツツ すべて消える【摩撫】マブ なでさする、按摩【摩擦】マツツ こする、すり合はす【摩盪】マタウ こそり磨く【摩疊】マルキ 敵疊に接近す(他人の詩文などが古の大家の作に匹敵するを賞揚して謂ふ)【摩羅】マラ 百合の異名【摩伽羅】マカラ 梵語にて鯨【摩訶陀】マカダ 梵語にて不害と譯す【摩利支天】マリシテン 印度の神にて火星の女神、國を守り兵戈を救ふ大力あり武士・力士等の守り神とす【摩乾軋坤】マケンフコン 天地に近づき迫る

摳

コウク



①かゝぐ(摳)からげる(衣服の裳をつまみあげる)さぐる(探)さがす

擻

チヨ



①のぶ(舒)誤つて擻蒲(ちよぼ)の擻に誤用す

擻

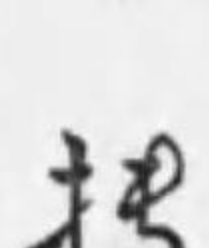
サク



①木の葉の落ちる聲(はらふ)拂(擻々)サクサク 落葉の音

擻

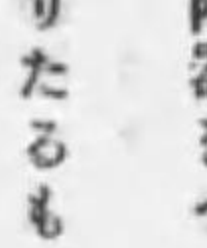
タン セン



①まるむ(圓)手にて圓くす(寄)にぎる(擻)恣にす(擻)もつばら(專)【擻一】センイツ もつばらにす、專一【擻沙】タンサ すなをまるめて團子にする又其だんど、結合力のなきに喩ふ【擻埴】タンシヨウ 土にて陶器をつくる、又その陶工

擻

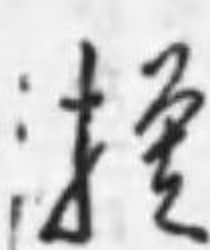
タンシヨ



【擻黍】タンシヨ きびを握りたるもの、擻飯

摸

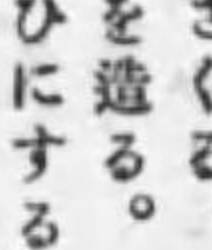
バク ボモ



【摸飯】タンパン にぎりめしをこしらへる、又にぎりめし、むすび

摸

モボ



①さぐる(探)さがす(摸)まねる(摹)【摸本】モホン 原本をまねうつしたる本【摸索】モソク 手さぐりにてさぐる【摸造】モゾウ 他に似せて物を造る【摸校】モコウ 物事をあいまいにする【摸擬】モレイ 手にてまねうつす【摸寫】モシヤ 手にてまねる、かたどりにする

摹

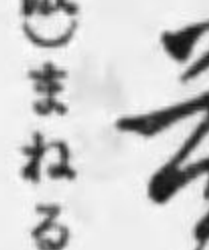
モボ



①のつとる(規)ならふ(做)まねる(摹)【摹本】モホン 原本より寫したる書物【摹臨】モリン 手本にまねてうつす【摹倣】モバウ まねをする、ならふ

擻

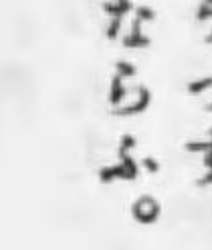
モボ



①のつとる(規)ならふ(做)まねる(摹)【摹本】モホン 原本より寫したる書物【摹臨】モリン 手本にまねてうつす【摹倣】モバウ まねをする、ならふ

擻

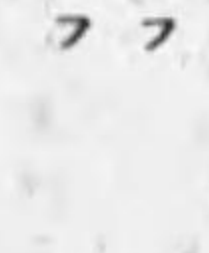
ロウ



【擻】おしはかる(擻摩)せまる(迫)ちかづく(近)及ぶ、匹敵すなてさする(ト)すりへらす、消滅【摩天】マテン 天まで聳え立つこと、空中高く聳え立つ貌【摩尼】マニ 梵語(Muni)のあて字、龍王の腦中にとありと云ふ清浄なる珠、如意珠【摩耶】マヤ 梵語摩訶麻耶の略、大術・大幻・大清浄と譯す、釋迦の生母の名【摩娑】マサ 手にてこすること【摩訶】マカ 梵語(Maha)のあて字、大・多・勝の三義を含む語【摩滅】マツツ すべて消える【摩撫】マブ なでさする、按摩【摩擦】マツツ こする、すり合はす【摩盪】マタウ こそり磨く【摩疊】マルキ 敵疊に接近す(他人の詩文などが古の大家の作に匹敵するを賞揚して謂ふ)【摩羅】マラ 百合の異名【摩伽羅】マカラ 梵語にて鯨【摩訶陀】マカダ 梵語にて不害と譯す【摩利支天】マリシテン 印度の神にて火星の女神、國を守り兵戈を救ふ大力あり武士・力士等の守り神とす【摩乾軋坤】マケンフコン 天地に近づき迫る

摺

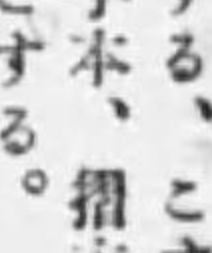
セフ シフ



①たゝむ(疊)をる(折)紙を折りしもの(摺)ひだ(皺)しわ(摺)くじく(をる)【摺帖】シラツツ をり手本、摺本【摺扇】シフマ すりこする【摺扇】シフセン あふぎ、撒扇、摺疊扇【摺拉】セフツツ とりひしぐ【摺剪】セフセン はさみ、鉄

摺

サン セン



①しなやかなる貌(女の手の形容)【摺執】サンシフ とる、とりもつ【摺々】サンサン 女の手のしなやかなる形容

擻

ヘウ



①うつ(擻)とぎす(閉)おつ(落)【擻】ねをうつ(憂)ひ苦む【擻】さしまねく(擻)

●きつさき(刀の末)●標に通ず
 【擗末】ヘウバツ 刀末、きつさき。
 【擗梅】ヘウバイ 梅の實の熟して落ちること
 轉じて嫁期の過ぐるをいふ。
 【擗々】ヘウヘウ 悲しみいたむ貌。

【擗】 フク
 さく(割)爪にてさく

十二畫

【擗】 ケツ ケイ
 ●うつ(討)●うが(穿)●ほる(擗)●か
 ●ぐ(擗)●擗をからげる

【擗】 ベツ ヘイ
 ●ひらく(開)●はらふ(拂)●書法の名
 擗に同じ

【擗】 ラウ レウ
 とる(水中に入りて物を取る)又鉤にか
 けて物をとる

【擗】 ケツ ケイ
 ●うつ(討)●うが(穿)●ほる(擗)●か
 ●ぐ(擗)●擗をからげる

【擗採】 ラウツイ 水中にて物をとる。
 【擗魚】 ラウツイ 魚貝をとる、漁擗。
 【擗淺夫】 ラウツイ 河さらへの人夫。

【擗】 カン

つよくいかる(勁忿)
 【擗然】 カンゼン ひどく怒る貌、赫怒。

【擗】 セン シユン
 ●もむ(揉)●もみくだく●ぬぐふ(拭)

【擗】 エイ
 手を拱きて敬意を表する禮容

【擗】 シン セン
 ●つまむ(摘)●とる(取)●つみとる

【擗】 タウ
 ●さふ(支)●つゝばる●ひかへばしら
 (支柱)●さをさす(棹)

【擗夫】 タウ 船頭、舟を漕ぐ人。
 【擗柱】 タウツウ さふ、さふへ柱。

【擗敗】 タウハイ 亂れやぶれる。
 【擗亂】 タウラン みだす、かき亂す。
 【擗擾】 タウセウ 苦しみ騒ぐ、亂し騒がす。

類語

擗擗 タウ
 驚擗 タウ
 曲擗 タウ
 回擗 タウ
 敗擗 タウ
 百折不擗 タウ

【擗】 セイ シ
 ●ひつさぐ(提)●さく(折)●ひきさく

【擗】 ソン
 ●くじく(挫)●おさふ(抑)●へりくだる
 (遜)一説には節度に趨く

【擗節】 ソンセツ おさへりくだる貌。

【擗】 デン ネン
 搭に同じ

●ひねる、よる(捻)●よりをかける、●
 斜めにかばす状態、にじる、ふむ(蹠)

【擗抹】 キンマツ ひねりなでる。
 【擗紙】 キンシ カみより、こより。

【擗刺】 タウセキ 舟にさをさす。
 【擗船】 タウセン 前に同じ。

【擗】 サツ サン
 ●ちる(散)●まく、ちらす●はなつ(放)

【擗水】 サツスイ 水をまくこと。
 【擗火】 サツカ 字畫の名、火を川に書く時
 の稱、れつくわ、連火。

【擗布】 サツフ ふりまく、ふりかける。
 【擗扇】 サツセン せんす、扇子。
 【擗網】 サツワウ うちあみ、たてあみ。
 【擗堞】 サツクワイ ばら／＼にこはす。
 【擗鹽】 サツエン 雪の異名。
 【擗水車】 サツスイシャ 街路に水をまくに用
 する車、又水をまく人を撒水夫といふ。

【擗】 ダウ タウ
 ●みだす、みだる(亂)●やぶる●たゆむ、
 たわむ、まげる(曲)●よわる(弱)●正
 當ならざること

【擗曲】 タウキョク たわめまげる、曲擗。
 【擗折】 タウセツ たわめくちく、摧折。
 【擗屈】 タウクツ たわめかむ。
 【擗挑】 タウテウ めぐる貌。

【擗】 ケウ
 ●たむ(矯)●ため直す●まげる(曲)●あ
 ●(擗)●あがる●強きさま

【擗擗】 タウツツ ひろひ取る。
 【擗然】 ケウゼン ●強き貌●あがる貌。

【擗】 ケキ
 ●うつ(擊)●もつ(持)

【擗】 テツ
 擗、擗の俗字

●すてる、のぞく(除)●とりのける●ひ
 ●らく(發)●はぐ(剝)●すたる(廢)

【擗去】 テツキョ 取りのける、擗廢。
 【擗回】 テツクワイ 一度出したものを取戻す
 ひつこませる(例)議案を擗回す。

【擗兵】 テツバイ 出陣せし兵を引きもどす。
 【擗退】 テツタイ 引あげる、立ち去る。
 【擗廢】 テツバイ 取りのぞく、取りすてる。
 【擗饌】 テツセン 神佛の供物を取りさげる。

【擗】 テツ
 擗、擗の俗字

【擗】 ケウ
 ●たむ(矯)●ため直す●まげる(曲)●あ
 ●(擗)●あがる●強きさま

撥

ハツ パチ ヘツ

撥

①をさむ(治)②のぞく(除)すてさる(そる(反)③ひらく、はねひらく(振) (樂器の絃を鳴らす器)④たて(大槓) 【撥去】ハツキョー とりのける、拂ひ去る。 【撥非】ハツキョー 禪家の語にて俗氣を意味す。 【撥刺】ハツキョー 弓をひき張る貌。 【撥條】ハツキョー ばね、ぜんまい。 【撥船】ハツキョー 貨物船。 【撥亂反正】ハツキョー ハンセイ亂を平げて治平にかへす、亂れた世を平和にする。

撻

シヤ

撻

①かすむ(擦)かすめとる ②をさむ(整) ひらく(開)さく(裂)さきひらく

撫

ア

撫

①なづ、さする(摩)②いたはる(勞)なぐさむ(慰)ねぎらふ(安)したがふ(循)③よりかゝる(凭)④うつ(拍)たたく(撫)や ⑤なづ、しづめる

【撫心】ブルン 心をなで安んず。 【撫合】ブタイ 支那の官名、巡撫。 【撫字】ブジ なていつくしむ、撫育。 【撫存】ブツン 愛しいたはる。 【撫有】ブイウ なて安んじて保つ。 【撫弄】ブルウ たはむれもてあそぶ。 【撫和】ブワ ひとつくしみ安んずること。 【撫委】ブキ 體を屈めて卑下するさま。 【撫育】ブイク ひとつくしみ養ふ、撫養。 【撫恤】ブシツ ひとつくしみめぐむ。 【撫柔】ブジュウ なて安んず、撫和。 【撫御】ブキョウ いたはり治める。 【撫勞】ブルウ いたはりねぎらふ。

撮

サツ

撮

①とる、つまむ②つまみ、一つまみ程の量、小量③ますめの名(今の一升の千分の一)④あつむ(業)⑤國訓とる(寫眞にうつす)つまみ(摘む所)

【撮土】サツド ひとつまみ程の土地。 【撮要】サツウウ 要點をつまみとる。 【撮影】サツエイ 寫眞をとる、うつす。 【撮摩】サツマ つまみとこする。

播

ハ ハン マン

播

①まく(蒔)種子を蒔く、まきちらす②しく、布き及ぼす③すつ(葉)④のがる(通)⑤さすらふ⑥のぶ、のべる(舒)⑦あふる(簸)⑧うつる(遞)

【播告】ハコク 廣く告げしらしむ。 【播植】ハシヨク まきうゑる、蒔植。 【播越】ハエツ 逃げとえる義、さすらふ。 【播棄】ハキ する、みはなす。 【播種】ハシユ たねをまく。 【播遷】ハセシ 遠方にさすらふ。 【播蕩】ハタウ 播越に同じ。

撰

サン セン

撰

①えらぶ、著述する、詩文などを作る、又述作、編纂、著作物②そなふ(具)③のり(則)④こと(事柄)⑤もつ(持)⑥選に通じ用ふ、えらぶ

【撰文】センブン 文章をつくる、又其文。 【撰次】センジ 次第を撰定する、文書にあ

らはして次第をつける。

【撰定】センテイ えらび定める。 【撰者】センシャ 詩文等の作者。 【撰述】センジツ 書物を作る、著述、著作。 【撰著】センチャ 前に同じ。 【撰集】センシツ えらび集める、又其書。 【撰碑】センヒ 碑文をつくる、碑文を書く。 【撰錄】センロク えらび記す、文章につくりてのこす。

撲

ハク ボク

撲

①うつ(撃)たたく、うち合ふ、なぐりあふ②ぶつかる、あたる③つゑ(杖)④むち(鞭)⑤ほろぼす(滅)⑥相撲はすまふ、角力

【撲殺】ボクツツ 打ち殺す。 【撲落】ボクラク 動きうつる貌。 【撲珍】ボクテン 打ち滅す、撲滅。 【撲馬】ボクバ 使ひならさぬ馬、あら馬。 【撲滅】ボクメツ 撲珍に同じ。

撻

タツ

撻

①うつ、うたれる、むちうつ②はやし(疾)③はげます(勵)

【撻答】タツチ むちうつ、答撻。 【撻脛】タツケイ 罪を白状させる爲め脛等をむちにてたたく。 【撻碎】タツサイ 打ちくだく。 【撻擊】タツキキ うちたたく。

撼

カン

撼

①うごかす、平和を破る②うごく(動)ゆるぐ

【撼動】カンドウ ゆり動かす。

【搥摩】カシマ うごかしせまる。
【搥龍機沙】カシリヨウハツシヤ 墓地などの地を相すること。

擻 ケキ ゲキ

【擻】(擻) うつ(擻) たゞく、なぐる、つゞみをうつ(擻) 撃鼓)。
【擻殺】タサツ うち殺す、撲殺。
【擻搥】タタラ うつ、むちうつ。

搥 タクワ

【搥】(搥) さがす(搥) かんがへる(考) しらべる(校) 拘束する、とらへる(考) とりしめる、局限する、制御する(檢に混用す)。
【搥束】ケンソク 取り締る(搥) 警察官が職權を以て一時人の自由を束縛すること。
【搥校】ケンカウ 唐代の官名、檢校(高野山などで寺務をとりあつた役人) 又古の盲人の官名。

檢 ケン

擁 ヨウ

①いづく(抱) かへる、もつ(持) とる(執) とりかこむ(抱) まもる(衛) たすける(助) とりかこむ(抱) ふさぐ(擁) さへぎる(遮) さへる

【擁立】ヨウリツ 助け守りておし立てる。
【擁抱】ヨウハク かへいだく。
【擁抱】ヨウイン 子供のよだれかけ。
【擁書】ヨウショ 書物を所蔵する意。
【擁遏】ヨウエツ 抑へとむ、擁遏。
【擁障】ヨウショウ ふくれる鏡、材木等に節やこぶなど多きこと。
【擁塵】ヨウジン 専心苦學力行して他を顧みざるさま。

【擁關】ヨウカン ふさぎとゞめる。
【擁樹】ヨウジュ 木を抱きかこむ(抱) 小兒を抱く意。
【擁蔽】ヨウヘイ おほひかくす、擁蔽。
【擁護】ヨウゴ 取圍みて助け守る、擁衛。
【擁書萬卷】ヨウショマンワン 多くの書物を蔵する意。

搗 ライ

【搗】(搗) 船艦をうちしづめる。
【搗刺】ガキレ 擊劍、又兩軍相戦ふこと。
【搗拊】ガキフ 樂器をうつ、たゞく。
【搗破】ガキハ うちやぶる。
【搗殺】ガキサツ きり殺す、うちころす。
【搗拵】ガキテウ 拍子木を打ちながら夜廻りをする、又その人。
【搗斬】ガキゼン きる、うちきる。
【搗搏】ガキハク 擊拊に同じ。
【搗痛】ガキツウ 甚しくいたむ鏡。
【搗退】ガキタイ うちしりぞける。
【搗拵】ガキテウ 擊拊に同じ。
【搗碎】ガキサイ 打ちくだく。
【搗滅】ガキメツ うちほろぼす。
【搗劍】ガキケン 刀にて斬合ふ術、劍術。
【搗賞】ガキショウ ふかく褒め賞す。
【搗斷】ガキダン うちきる、たちきる(罪人を勝手に處分す)。
【搗鮮】ガキセン 獸類の肉を屠る、鮮は新殺の内。
【搗壤】ガキジャウ 支那古代の遊戯の一(太平無事を謳歌すること) 土製の樂器をうちならすこと。
【搗擻】ガキジャウ うちはらふ。

擻 ヨウ

搗 ライ

【搗鉢】ライボン 搗鉢、すりばち。
【搗細】ライサイ すりつぶす。
【搗槌】ライツキ すりこぎ、れんぎ。
【搗針】スリバナ 物をすり碎くに用ゐる針。
【搗】(搗) かすむ(搗) う(獲)

擅 セン

【擅】(擅) 朝權をほしいままにす。
【擅朝】センチウ 朝權をほしいままにす。
【擅赦】センシャ ほしいままに赦す。
【擅場】センチャウ 場中ならぶ者なきこと、ひとりぶたい。
【擅斷】センダン ほしいままに事を取り極める、獨斷。
【擅橫】センワウ ほしいまま、専恣、橫暴。
【擅權】センケン 權力をほしいままにす。

擻 セン

擇 タク

【擇】(擇) えらぶ、すぐる、えりぬく(擇) えりわける、善惡の區別を立てる。
【擇交】タクカウ 交はる、人をえらぶ。
【擇言】タクゲン 長き言葉をえらびとる。
【擇拔】タクハツ よりぬく、撰拔。
【擇處】タクショ 居處を選ぶ、撰擇。
【擇遣】タクケン えらびつかはす。

擊 ケキ ゲキ

【擊】(擊) たゞく(撲) なぐる(擊) きる(斬) ころす(殺) せむ(攻) やいば(銃刃) 男かんなぎ(詰り責める) あてる、射る(撃) ぶつかる、あたる、抵觸する(目にとまる)

類語 簡擇カン 財擇サイ 選擇セン 妙擇ミョウ 銓擇セン 收擇シュウ 練擇レン 精擇セイ

擻 ケキ ゲキ

搥 タクワ

類語 要擊ヨウ 擻擊タウ 擻擊タツ 擻擊タウ

擻 セン

手部 (十三畫) 擻・擻・擻

擻・擻・擻

擻・擻・擻

【擗檢】サウケン しまり、しめくまり。
 【擗縦】サウジュウ あやつる、巧みに人を使ふ。
 【擗韻】サウイン 操守に同じ。
 【擗轉】サウヒ たづなを取る、馬を御す。
 【擗帆者】サウコシヤ 新聞・雑誌等の文筆に従事する者。

類語

雅操ガ 曲操キョク 節操セツ 風操フウ
 貞操テイ 賢操ケン 常操ジョウ 殊操ジュ
 俗操ゾク 清操セイ 士操シ 高操カウ
 志操シ 烈操レツ 松柏操シヤク

擗

ケイ 擗
 あぐ(擗)さぐ(擗)高くもちあげる、たむ(擗)ゆだめ(弓をため直す具)

【擗手】ケイレユ 手をさしあぐ。
 【擗天】ケイテン 樹木等の高くそびゆる貌。
 【擗起】ケイヤ 上に持ち上げる意、驚きて起き上ること。
 【擗揚】ケイヤウ 持ちあげる意。
 【擗腕】ケイヤ ものを捧げてひざまづく。

擗

サク ショク
 ①さす(刺)水中に居る魚や龜の類をや

すてつき刺してとる ②やす(魚をさし捕る具)

擗

ケイ
 ゆだめ(擗に同じ)弓を正しく矯める器

擗

クワン
 ③つらぬく ④きる(甲冑を著る)

擗

キン 擗
 ①とらふ(捕)とりこにす、いけどる ②とりこ、捕虜、俘囚

擗

タン 擗
 ①になふ、肩に物をかつぐ ②肩をもつ、味方す ③身につける ④ひきうく ⑤國訓

【擗夫】タンシヤ 荷をかつぐ男。

擗

ハク ヘキ 擗
 ①おやゆび(擗指)おほゆび ②つんざく、さく(擗)最もすぐれしもの

【擗指】ハクシ おやゆび、擗指、巨指。
 【擗裂】ハクレツ ひきさく、つんざく、劈裂。
 【擗窠】ハクソウ 築刻に用ゐる書體。

擗

キヨ コ 擗
 ①よる、たよる ②構へる、たてこもる

③おさふ(按)④たのむ(依託)よりかゝるよりどころ(根據、證據)⑤やすんず(安)⑥ひく(引)ひき合ひに出す、援引する ⑦ふせぎまもる(拒守)⑧國訓よんどころ

【擗火】キョクワ 螢の異名。
 【擗守】キョシユ たてこもりまもる。
 【擗窠】キョセツ ぬすみ取る。
 【擗掌】キョシヤウ 左手で右手を掩ふ貌。
 【擗城】キョジヤウ 城にたてこもる。
 【擗虚擗形】キョニヨリカゲツウツ 力を加ふるの不可なるに喩ふ。

類語

根據キョン 典據テン 雄據ユウ 虎據キョ

擗

タク テキ 擗
 ①ぬきんづ(抽)ぬく(抜)ぬき出す ②ぬき出して用ゐる、ぬきんづ(擗用)

擗

ヘキ
 ①うつ、胸をうつ(非常に悲しむ貌) ②かむ(屈)手足をかむめる

【擗擗】ヘキヨウ 甚しく悲しみ泣くさま。
 【擗擗】ヘキハウ 胸をうちて悲しむさま。

擗

タウ トウ 擗
 ①うつ(擗)たまく(擗)きづく(築)つきつきやぶる ②米をしらげる、うすつく(春)

【擗擗】タウシヤウ 擗擗してあげ使ふ、選用。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。

【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。

【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。
 【擗擗】タウシヤウ 擗擗して官職を授く。

類語

引擗テイ 擗擗テイ 擗擗テイ

【擗衣】タウイ 砧、衣をうつ、衣をきぬたにのせて槌でうつ。

【擗判】タウゼ 細かにつきくだく。

【擗砧】タウチン きぬたをうつ臺。

【擗虚】タウキョ すぎに乗ず。

【擗毀】タウキ 打ちやぶる。

【擗練】タウレン 布類をねること。

【擗衣石】タウイセキ うちばん、打物の盤。

擗

ラン

●とる(採)すべくゝる(總括)●とりもつ(採取)つまむ(撮)

【擗取】ランシユ 手にとる、とりもつ。

【擗要】ランニウ 書類中の要點を摘み取る。

擦

サツ

する、こする、なでる

【擦痕】サツコン 地殻に印せる氷河の痕跡。

【擦肉】スリキ 魚の肉をすりつぶしたるもの、丸めて吸物などの材料とす。

【擦過傷】サツクワシヤウ すつて生じたる傷、すりきず、かすりきず。

擧

キヨ

擧の本字●あぐ、高くさゝげる、もちあげる、ひきあげる(登用)あげる、掲げ出す、發する、攻めとる、とりあげる(没收)まうける、産む、御馳走をたべる、ものいふ、こたへる、言ひたてる、列べたてる●くはだて(計畫)●みな、こぞつて、残らず、●あがる、のぼる、行はれる、盛んになる、飛び立つ●ふるまひ、そぶり●用ゐられると、又擧で用ゐると

【擧人】キヨジン 古大學を卒業して式部省の官吏登用試験に應じたる者の稱。

【擧子】キヨシ 官吏登用試験の應募者。

【擧止】キヨシ ふるまひ、擧措。

【擧火】キヨクワ 火丸焚き飯を炊ぐ、生計を立てる義。

【擧手】キヨシュ ①手をあげる●擧手の禮は脱帽の代りにする禮式。

【擧句】キヨク ①連歌の最後の二句●末又は終り、はて。

【擧白】キヨハク 酒をのむ、杯をあげる。

【擧召】キヨセウ 官吏に採用すること。

【擧世】キヨセイ 社會せんたい、世人のこらず、よをこぞつて。

【擧用】キヨウ 引きあげて用ふ。

【擧行】キヨウ あげ行ふ、執行。

【擧削】キヨサク 人を用ゐること、しりぞけて其官籍から名を削ること。

【擧座】キヨザ 一室中に居る總ての人、一座の者残らずの意。

【擧宗】キヨソウ 一門残らずの意。

【擧按】キヨアン 引きあげて取り調べる。

【擧奏】キヨソウ 一々敷へあげて上奏する。

【擧家】キヨカ 一家全體、家内中。

【擧起】キヨキ 召し出す意。

【擧措】キヨソ 動作、ふるまひ、擧措。

【擧國】キヨク 一國の者残らず、國民全體。

【擧袖】キヨシュ 袖をまくりあげる。

【擧族】キヨゾク 一族の者のこらず。

【擧動】キヨドウ ふるまひ、擧止、動作。

【擧擧】キヨエン ①たのみにする●よち登る

【擧業】キヨゴフ 官吏登用試験の時の文章。

【擧選】キヨセン 秀才進士等を選抜する意。

【擧錯】キヨサク 擧措に同じ●擧削に同じ

【擧擧】キヨタク 擧擧して用ゐる意。

【擧證】キヨシヨウ しようこをあげ示す。

【擧足】キヨソク 人の擧げたる足を捉へること、轉じて人の言語上の誤りにつけたり責める意。

【擧世推】キヨセウサス 世の中の人こぞりて

推し尊ぶ義。

【擧手注目】キヨシュチウモク 敬禮の一、軍隊等にて行ふもの。

【擧國一致】キヨクタイイツチ 國民全體が利害關係を共にして一致するをいふ。

【擧一反三】イチャツゲサツハンス 一事を擧げて教ふれば自ら省みて三事を案ずる意轉じて極めて才智あること。

擗

エフ

おさふ、一本の指にておさへる

擗

シユ

おさふ、一本の指にておさへる

擗

シユ

おさふ、一本の指にておさへる

擗

シユ

おさふ、一本の指にておさへる

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

擗

シユ

光陰の速かなるに喩ふ。
 【擿】チキ 投げすつ、うちやる。
 【擿倒技】チキタウキ 逆立して舞ふわざ。
 【擿し舊呈し新】チキナゲウチシヤチキナゲ 年の去るを悲しみ又年を迎ふるを喜ぶ意。
 【擿し地作し金石聲】チキナゲウチバキシキコノコエヲナ ス詩句の調節の巧妙なるに喩ふ。

類語

放擿チキ 揚擿チキ 焚擿チキ 奮擿チキ
 投擿チキ 抛擿チキ 投擿チキ 散擿チキ

擴

クワク

擴

ひろく、ひろむ、廣くする。
 【擴大】クワクダイ おしひろむ、擴張。
 【擴充】クワクジュウ おし廣げて充分に發達せしむ、又ひろげ充す。
 【擴張】クワクヤウ おしひろめる、擴大。
 【擴散】クワクサン 二個の物體が外力の作用なくして混合する現象。
 【擴聲器】クワクシヨウキ ラヂオ又は電信音を高くする器具、ラウドスピーカー。

擷

ケツ

①とる、つむ、摘取②はさむ(衣服の)

擻

ハイ

①ひろく(發)おしひろく(排)②さげふり、ふりこ(振り)
 【擻脱】ハイダツ ①ひらきのぞく②身を脱して去る。
 【擻落】ハイラク はらひのぞく。

擿

ソウ

抖擿と連用して①僧侶が行脚すること、又其他僧②あぐ(擿)振ひ起す

擿

リヤク ラク

①うつ②はらふ(拂)③國訓くすぐる、こそぐる

擿

セウ

擿

①みだる(亂)さわがしくなる、亂雑になる②みだす、かきみだす③ならす(馴)

①やすんず(安)②やはらか(柔)やはらぐ、すなほ(順)
 【擿叛】ゼウハン みだれそむく。
 【擿亂】ゼウラン みだれさわぐ。
 【擿奪】ゼウダツ 亂に乗じて奪ふ。
 【擿類】ゼウレイ 世が亂れて安んぜざる貌。
 【擿々】ゼウゼウ さわぎ亂れる貌、擿亂。
 【擿擿】ゼウゼウ さわぎ亂る、紛擿。

類語

安擿ゼウ 紛擿ゼウ 雜擿ゼウ 騷擿ゼウ
 煩擿ゼウ 躁擿ゼウ 驚擿ゼウ 侵擿ゼウ
 怒擿ゼウ 憂擿ゼウ 寇擿ゼウ 惶擿ゼウ
 擿擿ゼウ 喧擿ゼウ

擿

テキ チヤク

①かゝぐ、あばく(發)あぐ(擿)②なげうつ(擿)③かく(擿)④すつ(擿)⑤かんざしの足、耳かきの類
 【擿伏】テキフツ 隠れたる悪事を發き出す。
 【擿發】テキハツ ほじくりだす、摘發。
 【擿擿】テキテキ つゞみの音。

擿

擿の略字

攀

ハン

攀

①よづ、下から上へつかまりのぼる、すがりつく、とりつく②ひく(引)
 【攀挂】ハンケイ 官吏登用試験に合格するを
 【攀投】ハンエン ①すがりたのむ、たよる②つかまひひく、よぢのぼる。
 【攀登】ハントウ よぢ登る。
 【攀縁】ハンエン 前に同じ。
 【攀戀】ハンレン 良吏の辭職し去るを吏民がなごりを惜しむこと。
 【攀攀】ハンハン 攀登に同じ。
 【攀龍附鳳】ハンリョウフホウ 龍につかまひ鳳凰につぎ従ふ、轉じて英主に従ひて功名を立てる意。

攢

チヨ

①のぶ(舒)②しく(布)

攢

攢の俗字

十六一十七畫

攏

ロウ

手部 (十五一十八畫)

攏

①とる(持)なづ②かすむ(掠)③をさむをさめる(理)
 【攏來】ロウライ 集まり來る貌。
 【攏撫】ロウブ 琴の絃をかなくてひねる。

攏

クン

ひろふ(拾)ひろひをさめる
 【攏撻】クンセキ 拾ひとること。

攏

クワク カク

①手をかへす②利益をひとりじめにする③はかる(商)

攏

攏に同じ

攏

カン

ませ、かこひ、矢來、木櫛

攏

ラン

さへぎる(遮)

攏

エイ

攏

攀・擿・擻・擿・擿・擿・擿・擿

擿

ジャウ

擿

せまる(迫)ちかづく(近)ふる(觸)
 【擿すむ(盜)他人の所有物を我有とする②はらふ、おひける③みだす、みだる(亂)④ゆづる(讓)⑤擿斥⑥ジャウセキ はらひしりぞく。
 【擿夷】ジャウイ ①外夷をはらひ逐ふ②幕末の頃一部の人士の唱へし主張。
 【擿除】ジャウヂョ はらひ除く。
 【擿排】ジャウハイ 前に同じ。
 【擿臂】ジャウヒ 腕まくり、勇み奪ひ立つ貌。
 【擿竊】ジャウセツ 盗みとる、窃かに盗む。

類語

猛擿ジャウ 寇擿ジャウ 披擿ジャウ 奪擿ジャウ
 擿擿ジャウ 狂擿ジャウ 擿擿ジャウ 擿擿ジャウ

十八畫

擿

ケイ

①たづさふ、もつ(持)②つらぬ(連)互ひに引合ふ、ともなふ(伴)所持する、帯びる③はなる、はなす(離)そのもの

六七三

【攝扶】テイフ たづさへ助く。
 【攝玩】テイグワン 手に取りて弄ぶ。
 【攝抱】タイハウ ①手を引く。懐ろに抱く。
 【攝貳】タイシ ①そむき離る。仲たがひ。
 【攝帶】タイタイ たづさへ帶ぶ、所持す。
 【攝提】ゲイタイ 互ひに助け合ふ。
 【攝擊】タイケイ 持ちあぐ。

攝

セフ テフ

攝

①とゝのふ、をさむ、整理(身づくろひする) ②たたく(佐) ③やしなふ(養) ④せまる(切迫) ⑤かぬ(兼) ⑥かりにその事を行ふ、代理する ⑦おそる(恐) ⑧かかぐ、ひきあげをる(揚をまくる) ⑨代理、兼職 ⑩むすぶ(結) ⑪やすんずるさま
 【攝生】セフセイ 身體を養ふ、養生。
 【攝衣】セフイ 著衣の亂れたるを整へる。
 【攝行】セフコウ 假りに政治をとり行ふ。
 【攝掌】セフショウ 或役を掌るに兼務の人を以てすること、攝官。
 【攝判】セフパン 朝官が他の職を兼ねる意。
 【攝官】セフクワン 役をかねる、又其人、兼官
 【攝政】セフセイ ①天子に代りて政を行ふ 又其人 ②天子を輔けて政事を行ふ職。
 【攝位】セフイ 臨時に君位を攝掌す、又其者

【攝家】セフケ 攝政關白に補せらるゝ資格ある家柄、九條・二條・一條・鷹司・近衛を五攝家と言ふ。
 【攝祚】セフソク 假りに帝位にある意、攝位。
 【攝理】セフリ 他人に代りて事を處理す。
 【攝養】セフヤウ 攝生に同じ。
 【攝關】セフクワン 攝政と關白の併稱。
 【攝警】セフセイ 恐れて正氣なき者を救す。
 【攝贊】セフサン たすけなましむ。
 【攝錄】セフロク 録は符、天子に代りて符をとるの意にて攝政の異稱。
 【攝然】セフゼン 安んずるさま。
 【攝津職】セフツシヨク 難波の離宮を管し且つ攝津の國を治むる職。
 【攝護脈】セフゴセキ 哺乳動物の体内に在りて尿道をめぐる筋。
 【攝生七養】セフセイシチヤウ 言語を少くして内氣を養ふ・色慾をいまして精氣を養ふ・滋味をうすくして血氣を養ふ・精液をのみて臟氣を養ふ・嗔怒をなすことなくして肝氣を養ふ・飲食を淡くして胃氣を養ふ・思慮を少くして心氣を養ふの七養生法。
 【攝生四要】セフセイシエウ 思慮を少くして神を養ふ・慾を少くして精を養ふ・勞を少くして力を養ふ・言葉少くして氣を養

ふの四攝養法。
 【攝受折伏】セフジュシヤクツク 攝受は苦修練行して其心を修攝する意、折伏は順逆二縁に對してたとひ杖木の難にあふとも佛法の教を説き聽かすの意。
 【攝家門跡】セフケモンセキ 攝家の子弟にして法主となれる寺院。
 【攝取不捨】セフシュブシヤ 佛が一切の衆生を捨てずして慈愛を垂るゝ意。
 【攝氏寒暖計】セフシカンナンケイ 氷點を零度沸騰點を百度としたる檢温器。
 類語
 兼攝セフ 何攝セフ 督攝セフ 總攝セフ 鎮攝セフ 權攝セフ
 十九—二十一畫
 【攪】クワン 曇
 とる(取)ひろふ(捨)
 【攪】クワン 曇
 ①あつまる(聚)むらがる(簇) ②あつむ
 【攪立】クワンリツ むらがり立つ。
 【攪眉】クワンメイ 顔をしがめるさま。

【攪所】クワンショ 天子の御遺骸を一時安置するところ、殯宮。
 【攪峯】クワンボウ 相重なれる峯、疊峯。
 【攪疎】クワンソ 攪はあつまる、疎はそびえる、山などの連なりそびゆるさま。
 【攪宮】クワンクウ 攪所に同じ。
 【攪集】クワンシュウ むらがり集まる。
 【攪叢】クワンソウ ①多くあつまるさま ②くさむら、やぶ、林藪。
 【攪雜】クワンザツ 集りならぶ貌。
 【攪々】クワンザツ ちらがり集まる貌。

攪

レン

①こふ(懸)したふ(慕) ②ひく(引)ひつかふる ③ひきつる、又その病
 【攪子】レンシ ぶた子、双子。
 【攪拘】レンコウ つながる、かゝはる。
 【攪腕】レンゼン 手足の曲りてのびぬ病。
 【攪蹠】レンヘキ 手足がまがりて伸びざる者心ざり。
 【攪々】レンゼン 戀ひしたふさま。
 類語
 聚攪レン 拘攪レン 締攪レン 攀攪レン 牽攪レン 牽攪レン 牽攪レン 牽攪レン 牽攪レン

【攪】クワン 曇
 ①ひろく(開) ②ゆるむ(緩) ③ちらす、散布する
 【攪飯】クワンパン 食後のひとやすみ。
 【攪書】クワンショ 書をひろき見る。
 【攪綫】クワンセン 衰へゆるむ。
 【攪錢】クワンゼン ぜにうちの遊び、ばくち。

攪

レイ

攪

タウ

①うつ(擊) ②ともがら(黨に通ず)
 【攪網】クワンマウ さであみ、たも、たま。
 【攪】カウ カク
 ①みだす、みだる(亂) ②かきまはす、ひきかく、入りまじる
 【攪拌】カウバン かきまはす、かきまぜる。
 【攪攪】カウカウ かき亂す、攪亂。
 【攪亂】カウラン かき亂る、攪攪。

【攪々】カウカウ 入り亂れたる貌。
 類語
 榮攪カウ 悲攪カウ 亂攪カウ
 攪攪カウ
 【攪】クワン 曇
 つかむ(攝)とる(取)もつ(持)
 【攪客】クワンカク すり、ちば、攪徒。
 【攪徒】クワント 前に同じ。
 【攪授】クワンジュ 琴の絃をつかみひく。
 【攪搏】クワンハク つかみとらへる。
 【攪撮】クワンサツ つかみとる。
 【攪噬】クワンシ つかみ食ふ。
 【攪攘】クワンジヤウ うでまくりす、腕ぐみ。
 類語
 觸攪クワン 掣攪クワン 擊攪クワン 擣攪クワン
 【攪】クワン 曇
 とる、もつ(持)手にしぎる、すべくるめる(總攪)まとめる
 【攪結】クワンケツ 取り結ぶ。

支部

支

①えだ、草木の枝、わかれ出た血統、凡てわかれ出たもの、汎稱②離れる、分裂する③さへ、さへふ、さへ保つ、つゝかふ、維持する、對抗し防ぐ④十千と組合せて年月日時方位等に配する十二支の稱⑤はかる(度)計算する⑥手足(肢)⑦わりあて(給)又てあて(給與)⑧てあし(肢に通ず)⑨支那の略稱⑩國訓はらふ(支拂)つかへ(支障)

【支子】シシ 妾腹の子、又本妻の長子以外の子、庶子。

【支川】シセン 本流より分れし川、えだ川。

【支干】シカン 十二支と十干。

【支出】シシュツ ①金銭を支拂ふこと、又その金員②妾腹の生れ。

【支用】シヨウ わりあて、使用す。

【支別】シベツ わかれたるもの、えだは。

【支抗】シカウ さへふせぐ。

【支善】シゼン 反對する、又さへへる。

【支券】シケン てがた、わりふ、證券。

【支那】シナ 國の名、もろこし、唐土。

【支店】シテン 本店の對、出店、分店。

【支拂】シハラヒ 支出に同じ。

【支柱】シチユウ さへばしら、つゝかひ棒、支柱。

【支派】シハ ①支流に同じ②わかれ、支部。

【支計】シケイ 會計、出納。

【支度】シタク ①あらかじめ用意すること②衣服を着けること、身じたく③食事すること。

【支胃】シチウ わかれの血筋、支族。

【支脈】シミヤク 山脈のわかれしもの、えだ分れの筋。

【支持】シチ さまへもつ、もちこたへる。

【支途】シト 金銭の使ひみち、仕拂、費途。

【支配】シハイ 事をそれへ、手配して處理する、長となつて管轄する。

【支庶】シシヨ ①わかれたる血筋、支族、庶子、妾腹の子。

【支族】シシツク 分れの血統、分家。

【支院】シケン 本山より分れたる寺院。

【支移】シイ 分ちうつす。

【支部】シブ 本部のわかれ。

【支流】シリウ ①本流より分れたる川②本家より分れ出たる家、分家。

【支給】シキウ 渡し與ふる意。

【支隊】シタイ 本隊より分れたる一隊、主として軍隊につきていふ。

【支解】シカイ 四肢を切斷する昔の酷刑。

【支路】シロ わかれみち、えだみち。

【支筋】シキン 物を與へてねぎらふ。

【支線】シセン 枝に分れたる線路。

【支障】シシヤウ さしつかへ、さしさはり。

【支辨】シベン ①支拂す、勘定②とりはからふ、とりさばく。

【支點】シテン 槓杆を固定せしむる所。

【支離】シリ ①分れ散りて全からざる貌、(例)支離滅裂②かたは、不具。

【支孽】シゲツ 妾腹の子。

【支屬】シゾク 支族のつゞき、分家の一族。

【支廳】シチャウ 分れたる役所、支部、分署。

【支配人】シハイニン 商店會社等の役員で事務を總括し支配する者。

【支拂命令】シハラヒレイ 債權者が債務者に債務の辨濟を要求する爲め區裁判所に申請せし時裁判所が債務者に對して發する命令、此命令を受けて支拂はず又は抗議せざる時は強制執行せらる。

【支拂停止】シハラヒテイ 商人又は銀行會社等が總債務の辨濟を爲す能はざるに至りたる時一時支拂を停止すると。

【支拂猶豫】シハラヒイロウ 財政的危機を救ふ

目的で臨時に政府が若干期間支拂を停止すること、モラトリウム。

【支離滅裂】シリノワレツチリノワレツチ ばらばら、又めちやゝになること。

類語

燕支シエン 收支シウ 指支シシ 特支シトク
約支シヤク 本支シホン 度支シタク 反支シハン
四支シシ 時支シジ 十二支シニシ

八畫

敲

①かたむく(傾)②そばだつ(側)【敲斜】キシヤ なゝめに傾くさま。

【敲々】キキ 物のそばたつ貌。

【敲器】キキ 金屬製の容器。

支部

支

①うつ、少しくうつ(小擊)②つゝみ(楚)③國訓しぶん

収

支に同じ、文とは別字

収

二畫

①をさむ、とりいれる、あつむ(棄)②とよふ(整)③とらへる(捕)④やすむ(息)とよむ(止)

【收入】レウニフ 金品をとり入れる、又は納め入る、うけいれ。

【收支】シウシ 金品の收入と支出、出納。

【收用】シウヨウ ①とりに上げて使用す。②官に取上げて上げる、沒收。

【收没】シウボツ 利益を収める、收益。

【收利】シウリ 利益を収める、受入る。

【收受】シウジュ 受取る、受入る。

【收恤】シウジユツ 窮民をめぐみをさむ。

【收按】シウアン 捕へて取調べる。

【收拾】シウシフ 拾ひ集める、とり纏める。

【收益】シウエキ 収利に同じ。

【收納】シウナフ 取り入れ納む。

【收容】シウヨウ ①取り入る②入れをさむ。

【收除】シウイシ 織女神の異稱。

【收得】シウトク 穀類等を取り入れる。

収

【收接】レウセツ 取入れて接近す。

【收掠】レウリヤク 財物を掠め取る。

【收採】レウサイ 取り入る、とりをさむ。

【收集】シウシフ 集む、とりあつむ。

【收税】シウゼイ 税金を取立てる。

【收賄】シウワイ わいろをとる。

【收置】レウチ 取りよせる、をさめ置く。

【收遮】シウセキ 取りあげひろふ。

【收熱】シウジユク みのりたるを取り入れる。

【收監】シウカン とらへて牢舎に入れる。

【收擅】シウセン をさめて占有す。

【收養】シウヤウ 収めて養ふ。

【收瘞】シウエイ をさめ葬むる、收葬。

【收縛】シウバク をさめあつめる。

【收縛】シウバク 罪人を召し捕る。

【收縮】シウシュク ①ちぢまる、引しまる②節減する。

【收斂】シウレン ①收穫に同じ②税金を取り立てる③引き締める。

【收藏】シウザウ とり入れて藏す。

【收繫】シウケイ 捕へて獄につなぐ。

【收穫】レウワウク 穀類をとり入れる、又その取入れ高。

【收攬】シウラン とり集む。

【收攬】シウラン とよぶなをひきあげる。

【收入源】シウニフゲン 財源、即ち收入より生

ずる資本。
【收生婆】シウセイバ 生兒を取りあぐる人即ち産婆、助産婦。
【收斂劑】シウレンザイ 筋肉・粘膜等をひきしめる藥劑。

類 語

厚收シウ 善收ゼン 舍收ガシ 秋收シウ
掩收シウ 田收シウ 聚收シウ 藏收シウ
徵收シウ 覆水不レ收フクマラス

攷

考の古文

攷

三 畫

攸

イウ

攸

①語助の辭、ところ(所)②ゆつくりしたる貌(悠)③遠き貌。

改

カイ

改

①あらたむ、更へる、新らしくす、しなほす、これまでの事をやめて善くす

る②あらたまる③國訓あらため、あらたむ(調査、吟味)あらためて(更に、事新らしく)あらたまる(四角ばる)。

【改元】カイゲン 元年、又年號を改む。
【改化】カイクワ 舊くて悪きをあらためて新しくよい方に向ふこと。

【改心】カイシン 心をいれかへる、心を正す。
【改正】カイセイ 改め正しくす、悪しきを改めたす。

【改札】カイサツ 切符を改める、その人。
【改名】カイメイ 名まへをかへる。
【改良】カイリヤウ あらためてよくする。

【改作】カイサク 改め作る、作りなほす。
【改宗】カイシュウ 従來信仰せる宗旨を他のものにかへる。

【改易】カイエキ ①かへる、又つくりかへる②徳川時代士分に科せし刑罰、其家祿を沒收し士籍を除く。

【改命】カイメイ 従來行はれし事を改める。
【改修】カイシュ 改めをさむ、なほす。
【改悟】カイゴ 従來の過をさとり改める、前非を悔いあらためる。

【改封】カイホウ 大名の領地を替る、國がへ。
【改革】カイカク 根本より改めかへる。
【改進】カイジン あらため進む、善き方に改めて進む。

【改造】カイゾウ 改め造る、つくり直す。
【改善】カイゼン 悪しきを去り善きに直す。

【改悛】カイケン 改悟に同じ。
【改道】カイダウ 是迄行はれし道を改む。

【改過】カイカウ あやまちを改める。
【改新】カイシン 物事の新しくなる意。
【改嫁】カイカ 再嫁、二度目のよめいり。

【改歳】カイサイ としがあらたまる、新年になる、改年、改春、改曆。

【改竊】カイキョウ 改めること、やめること。
【改曆】カイレイ ①改歳に同じ②こよみあらためつること。

【改醜】カイシウ 二度嫁入りすること。
【改轍】カイテウ 車の通る道を改めかへる、以前の仕方を改めるに喩ふ。

【改竄】カイサン 文章の字句を書き換へる。
【改觀】カイクワン 面目をあらたにす。

類 語

修改シウ 刊改カイン 遷改カイン 増改ゾウ
懲改チョウ 副改カイン 回改カウイ 釐改カウイ

攷改カイン 變改カイン

攻

コウ

攻

①せむ、せめる、うつ(伐)をかす(侵)過失をとがめる②をさむ(修)學問を修業す、とぐ、みがく(研)③つくる(作)ならふ(習)④かたし(固)

【攻玉】コウキョク 玉をみがき上げる。
【攻伐】コウバツ せめうつ、伐は罪あるものをうつ。

【攻守】コウシュ 攻めること、守ること。
【攻拔】コウバツ 攻めて敵陣をおとしいる。

【攻究】コウキウ 事理をさめきはむ、討究。
【攻取】コウキョ せめとる。

【攻討】コウタウ 攻めうつ、攻伐。
【攻陷】コウケン せめておとし入れる。

【攻措】コウソ 攻伐に同じ。
【攻虚】コウキョ 敵の備へなきを攻む、擊虚。

【攻堅】コウケン 強き敵を攻む。
【攻圍】コウキ 攻めかこむ。
【攻勢】コウセイ 守勢の對、敵にせめかゝるいきぐみ。

【攻撃】コウゲキ ①兵力を以て攻めうつ②言論を以て論じつめる。
【攻療】コウレウ 病をいやす、治療。

拏

學の俗字

四 畫

放

ハウ

放

①はなつ、はなす、はなたる、おひはらふ(逐)鳥流しにする②おく、構はずに置く③解きはなつ、自由を與ふ④すてる、すてさる⑤ゆるす(縱)ゆるしにがす⑥いたる(至)⑦よる(依)⑧ならふ(倣)⑨ほしいまま(恣)⑩ほしいままにす、わがまま⑪のばす、ひろげる⑫射る、

飛ばす、かゝげ示す⑬ゆつたりとす

【放下】ハウカ ①すて置く②手から出す。
【放人】ハウジン 世を逃がれた人。

【放士】ハウシ 前に同じ。
【放火】ハウカ 火をつける、つけ火、火をはなつ。

【放生】ハウジヤウ 捕はれし生物を放ちやる
【放心】ハウシン ①うつかりして居ると②放逸せし良心③安心する、放神、放念。

【放伐】ハウバツ 追ひはなつ、又うちはらふ。
【放任】ハウニン なりゆきにまかす、打ち棄て、置く、なげやりにする。

【放言】ハウゲン 思ふままに物を言ふ。
【放佚】ハウイツ わがまま、きまま、放逸。

【放屁】ハウヒ へをひること。
【放吟】ハウイン 聲を發してうたふ。

【放免】ハウメン 捕へし者を許し自由にす。
【放牧】ハウボク 牛馬類をはなし飼ひにす。

【放念】ハウネン 放心の④に同じ。
【放洋】ハウヤウ 船にて海外に行く。

【放流】ハウリウ 鳥ながしにす、罪を蒙り逐はれて流浪すること。
【放神】ハウシン ①心をほしほしにす②安心するさま、放心、放慮。

【放射】ハウシャ 鐵砲などをうつ、發射。
【放浪】ハウラウ 意のままに遊び暮す、又所

【放學】ハロウ 安心すること。
 【放逸】ハロウ 其日の課業をしまふ。
 【放逐】ハロウ 恣に大言を吐くさま。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 思ふ儘なる行動をとり更に顧みざること。
 【放逐】ハロウ 退けて用ゐざること。
 【放逐】ハロウ 氣まゝにして亂暴なり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ わがまゝにふるまふこと。
 【放逐】ハロウ なげやりにす、うつちやる。
 【放逐】ハロウ 鷹を飛ばして小鳥をとらへること、たかどり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 鞆又はさゝら等を鳴らして歌舞する僧形の者、田樂法師。
 【放逐】ハロウ 無線電話を聴取者に向つて放送する所。
 【放逐】ハロウ 牛かひの童子。
 【放逐】ハロウ 功徳を積む爲め飼ひたる魚鳥を放ちて法を修むる法會、陰曆八月十五日石清水八幡宮祭の時行ふ。
 【放逐】ハロウ 文法に拘らずして筆勢の大膽なる文章。
 【放逐】ハロウ 諸種の光の現象を現はす原因にてニュートンの主唱せし説。

【放逐】ハロウ 安心すること。
 【放逐】ハロウ 其日の課業をしまふ。
 【放逐】ハロウ 恣に大言を吐くさま。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 思ふ儘なる行動をとり更に顧みざること。
 【放逐】ハロウ 退けて用ゐざること。
 【放逐】ハロウ 氣まゝにして亂暴なり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ わがまゝにふるまふこと。
 【放逐】ハロウ なげやりにす、うつちやる。
 【放逐】ハロウ 鷹を飛ばして小鳥をとらへること、たかどり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 鞆又はさゝら等を鳴らして歌舞する僧形の者、田樂法師。
 【放逐】ハロウ 無線電話を聴取者に向つて放送する所。
 【放逐】ハロウ 牛かひの童子。
 【放逐】ハロウ 功徳を積む爲め飼ひたる魚鳥を放ちて法を修むる法會、陰曆八月十五日石清水八幡宮祭の時行ふ。
 【放逐】ハロウ 文法に拘らずして筆勢の大膽なる文章。
 【放逐】ハロウ 諸種の光の現象を現はす原因にてニュートンの主唱せし説。

【放逐】ハロウ 安心すること。
 【放逐】ハロウ 其日の課業をしまふ。
 【放逐】ハロウ 恣に大言を吐くさま。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 思ふ儘なる行動をとり更に顧みざること。
 【放逐】ハロウ 退けて用ゐざること。
 【放逐】ハロウ 氣まゝにして亂暴なり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ わがまゝにふるまふこと。
 【放逐】ハロウ なげやりにす、うつちやる。
 【放逐】ハロウ 鷹を飛ばして小鳥をとらへること、たかどり。
 【放逐】ハロウ 放逐に同じ。
 【放逐】ハロウ 鞆又はさゝら等を鳴らして歌舞する僧形の者、田樂法師。
 【放逐】ハロウ 無線電話を聴取者に向つて放送する所。
 【放逐】ハロウ 牛かひの童子。
 【放逐】ハロウ 功徳を積む爲め飼ひたる魚鳥を放ちて法を修むる法會、陰曆八月十五日石清水八幡宮祭の時行ふ。
 【放逐】ハロウ 文法に拘らずして筆勢の大膽なる文章。
 【放逐】ハロウ 諸種の光の現象を現はす原因にてニュートンの主唱せし説。

【政府】セイ 國家の統治機關、憲法よりいふ時はその憲法上の大權を行使する機關なれば國務大臣・樞密顧問をも含む。
 【政典】セイ 兵寇に關する事を掌り王を佐けて邦國を治める法則。政治に關するすべての法則。
 【政事】セイ 政事上の事柄、まつりごと。
 【政治】セイ ①一國を統御する施設、まつりごと。②政事の能く行きといくと。
 【政況】セイ 政界のありさま。
 【政界】セイ 政治に關する社會、政海、政治社會。
 【政法】セイ 政令の①に同じ。
 【政柄】セイ 政治を行ふ權力。
 【政客】セイ 政界の人々、政治家。
 【政要】セイ 政治の主眼。
 【政條】セイ 政令の①に同じ。
 【政社】セイ 同意見の政治家の團體。
 【政敵】セイ 施政上已と意見を異にするもの。
 【政務】セイ 國政、政治に關する事務。
 【政教】セイ 政治と教育、又政治と宗教。
 【政海】セイ 政界に同じ。
 【政略】セイ 政治上のかけひき、政策。
 【政術】セイ 政治上のかけひき、政策。

【政道】セイ 政經に同じ。
 【政策】セイ 政治のやりかた。
 【政費】セイ 政治を行ふ入費。
 【政黨】セイ 政治の仕方。政治に與る地位。
 【政綱】セイ 政治の要、政要。
 【政綱】セイ 政治上の大則、政治の綱紀。
 【政論】セイ 政治に關する談論、政論。
 【政黨】セイ 政治に同じ、又政派に通ず。
 【政論】セイ 政治の是非得失についての談論。
 【政經】セイ 政治の軌範、政道。
 【政權】セイ 政治を行ふ權力、政柄。
 【政體】セイ 一國の政治方針のたて方。
 【政廳】セイ 政務を取扱ふ役所。
 【政合國】セイ 各國は其の内政に於て各々獨立するも外交關係に限りて相共通するを云ふ、又その關係國。
 【政治學】セイ 政治又は政策を研究する學問。
 【政治家】セイ 一國の政治にたづさはる人々、又政事に通ぜる人。
 【政務局】セイ 外務省に屬し専ら外交上の事務を行ふ所。
 【政務官】セイ 大臣に直屬して施政に

【政黨内閣】セイ 官僚内閣の對、政黨員にて組織する内閣。
 【政黨政治】セイ 政黨内閣によつて行はれる政治。
 【政略結婚】セイ 愛情の結合にあらず他に何かの目的・野心等ありて行ふ結婚。
 【政如二蒲蘆】セイ 蒲蘆は葦、葦の極めて生長速かなる如く治績の舉ることが速かなるをいふ。
 【政如二魯衛】セイ 魯衛の祖は元兄弟にして特に親しかりしより轉じて兩國政治の相似たるをいふ。
 【政府委員】セイ 政府より任命せられたる委員にして議場に於て自由發言權を有す。
 【政を報ず】セイ 報政を主上に言上すること。

類語
 家政セイ 私政セイ 軍政セイ 仁政セイ
 惠政セイ 峻政セイ 文政セイ 明政セイ
 機政セイ 曲政セイ 良政セイ 稔政セイ
 寬政セイ 善政セイ 執政セイ 聖政セイ

朝政セウ 美政セヒ 舊政セウ 施政セヒ
刑政セウ 外政セウ 徳政セウ 時政セヒ
邦政セウ 苛政セヒ 内政セウ 肅政セウ

五畫

更の本字

【故】コ

あ

【故】コ ①ふるし(古・舊)又ふるいこと、昔のこと
と口もと、以前、さき、むかし、亡くなつたこと、死んだこと
【故】コ ②ふるなじみ、舊知(こと)(事)事柄、できごと、變事(ゆゑ)(理由)わけ
【故】コ ③ゆるよに、かるがゆゑに、上を承けて下を起すことば、わざと(故意)ことさらに、又わざとしたこと(幸)もとより(素)
【故人】コジン ①古き友達、昔の友人
【故土】コト 昔遊びしことある土地
【故山】コサン 故郷、ふるさと
【故夫】コフ もとのをつと、前夫
【故式】コシキ 昔からのしきたり

【故老】コラウ 年寄り、老人。
【故地】コチ 前に所有せし土地、舊領地。
【故衣】コイ ふるき衣服、ふるぎ。
【故吾】コゴ 以前の自分、昔のわれ。
【故志】コシ ①古の事を記したる書物
との志、素志。
【故里】コリ ふるさと、故郷。
【故例】コレイ 昔の事がら。
【故宅】コタク もとの家、前に住みたる家。
【故城】コジヤウ 昔城のありたる所、又古城。
【故事】コジ 昔ありし事、ふるごと。
【故殺】コサツ 故意に人を殺す。
【故居】コキョ 故宅に同じ。
【故造】コゾウ 故ありてわざと造り設く。
【故知】コチ ふるき知人、昔の友だち。
【故侶】コリョ 故知に同じ。
【故紙】コシ ぼろ紙、ぼろ、反古。
【故苑】コエン 昔のその。
【故記】コキ ふるきかきもの、舊記。
【故都】コト 昔首府たりし都會。
【故郷】コキヤウ ふるさと、故山に同じ。
【故家】コカ 昔よりつゞきたる家、舊家。
【故智】コチ 昔の人のなしたる策略。
【故粟】コソク ひねの米、古米、新米の對。
【故買】コバイ 不正品と知りながら買ひとること、けいづかひ。

【故巢】コサウ ふるす、昔すめるところ。
【故趾】コシ 昔建造物のありしあと。
【故園】コクワン ①ふるさと、故郷
②又久しくつゞき來れる園。
【故程】コテイ もと來りし道。
【故園】コエン ①故山に同じ
②古苑に同じ
【故意】コイ わざとする、知りてなす、殊更になす料簡。
【故道】コダウ もとの道、舊道。
【故路】コロ 前に同じ。
【故城】コキョ 故趾に同じ。
【故弊】コヘイ 古びてやぶれたるもの。
【故態】コタイ いつものくせ、又舊態。
【故障】コショウ ①さしつかへ、さしきはり
②不服の申立。
【故歲】コサイ 古き年、前の年、舊歲。
【故實】コジツ ①古き事實
②古の禮式。
【故瘡】コサウ ふるき、古瘡、舊瘡。
【故縁】コエン 前よりの縁、昔の縁。
【故舊】コキョウ 昔よりの知人。
【故蹟】コシヤウ ふるきあしあと、古人のなしたる形跡。
【故轍】コラツ 前に通りし車の跡、轉じて古くより行はれし道、昔の方法。
【故寵】コチヨウ 昔にかはらぬ寵愛。
【故人意】コジシイ 舊交を忘れざる心持。

類語

朋故コホ 法故コフ 温故コワン 深故コシ
典故コテン 智故コチ 久故コキウ 他故コタ
小故ココウ 歡故コクワン 僚故コレウ 事故コジ
知故コチ

六畫

【效】カウ

效

【效】カウ ①ならふ(倣)まねる、學ぶ
【效】カウ ②さづく(授)さしだす
【効】カウ ③いさを、てがら(績)きよめ、しるし(效能)
【效力】カウリキョク ④きよめ、效驗(骨)骨を、る、はたらく
【效用】カウコウ ⑤きよめ、つかひみち(骨)骨をりて役たつこと。
【效果】コウコウ ⑥よき出来ばえ、しあげ具合。
【效逆】コウギャク ⑦不順なることをいたす。
【效能】カウノウ ⑧效力の(骨)骨に同じ。
【效祥】カウシヤウ ⑨目出度き兆をあらはす。
【效誠】カウセイ ⑩まごころをいたす。
【效愚】カウグ ⑪心力を注ぐことの謙稱。
【效績】カウセキ ⑫てがらをたてる。

類語

則效コソク 報效コハウ 放效コハウ 師效コレ
勞效カウ 實效カウ 施效カウ 符效カウ
顯效カウ 忠效カウ 勳效カウ 殊效カウ
績效カウ 驗效カウ 藥效カウ

七畫

【敍】カウ

敍

【敘】カウ

敘

【教】カウ

教

【敍】カウ 叙に同じ
【敘】カウ 前に同じ
【教】カウ ①をしふ、をしへさとす、いましめ、みちびく(指導)智をひらく
【教】カウ ②諭告、命令(宗教)の略、宗旨、又は學派(しむ、せしむ(令))
【教】カウ ③道德、道義(つぐ(告))
【教】カウ ④學業をさづける、學問(惡人を善導す)
【教主】カウシユ ⑤宗教をひらきし人、教祖、宗祖。

【教令】カウレイ 天子のさしづ、諭告。
【教化】カウカク ①教へ導いて善良なものにする
②佛語にては惡人を善人に導くこと。
【教示】カウジ 教へしめす、示しさとす。
【教戒】カウカイ をしへいましむ。
【教判】カウパン 佛敎の教理を宗派によつて分類すること。
【教坊】カウバウ 歌舞遊藝を教へる所。
【教官】カウクワン ①教育に従事する官吏、官學の教員
②教化を掌るつかさ。
【教命】カウメイ 皇后の命令、令旨、懿旨。
【教典】カウテン ①人民を教へ導く法則
②宗敎上の基本となる教典。
【教育】カウイク をしへそだてる、しつけ。
【教則】カウソク 敎授に關する規則。
【教唆】カウソク ソムのかす、煽動する、教へて惡智慧をつける。
【教員】カウイン 學業を授くる人、先生。
【教草】カウサウ 敎授の材料。
【教師】カウシ ①教員に同じ
②宣敎師。
【教書】カウショ ①大統領の發する諭告書
②我國にては將軍の發したる命令書。
【教授】カウジユ ①子弟に學問を授ける人、又其官職
②官立の高等學校專門學校以上の學校の敎師
③又教へさづく。

【教習】クワシテ 教へならはす。
 【教諭】クワユ 教へさせしむ。
 【教案】クワアン 教授の順序・方法等をしるしたる草案。
 【教勸】クワクワン 教へいましめらるる、警戒。
 【教場】クワジャウ ① 學業の教授訓練を行ふ所。② 宋代に武術を教練せし所。
 【教訓】クワクワン ① 教へしむ。② 軍隊學校等に於て兵卒生徒に戰時に對する訓練を施すこと。
 【教會】クワクワイ 基督教徒の集會所。
 【教程】クワクワイ 教授又は教育の方法形式。
 【教義】クワキ ① 教育の本旨。② 宗教上の主たるむね、宗旨。
 【教訓】クワクワン 教へならはす。
 【教誡】クワクワイ 教訓に同じ。
 【教誨】クワクワイ 教訓に同じ。
 【教誨】クワクワイ をしふ、又をしへる。
 【教範】クワハン 教範に同じ。
 【教導】クワダウ 教へ導く。
 【教諭】クワユ ① 教諭に同じ。② 中學程度の學校の教師の職名。
 【教職】クワキョク 教育に従事する職。
 【教鞭】クワベン 教授に要する鞭、轉じて教授すること。
 【教授】クワセウ 教へならはす、獸類などをしこむ、教訓。

こむ、教訓。
 【教勸】クワクワン 教へ勸める。
 【教權】クワクワン 教師が學生を支配し教導する權力。
 【教觀】クワクワン 教相と觀法、教相は一宗の教義、觀法は各宗旨の眞理を觀得するをいふ(佛語)。
 【教科書】クワクワシヨ 學校教育に要する規定の書物。
 【教文學】クワクワガク 基督教の教理組織時代の哲學を稱す。
 【教育者】クワイクワシヤ 教育を行ふ者、主として學校教師をいふ。
 【教法論】クワホウロン 教授方法に就ての論說如何にせば確實應用熟練を得べきかを論ずるもの。
 【教唆犯】クワサツハン 教へそゝのかして犯罪行為をなせしめたること。
 【教務所】クワムシヨ 教育事務を取行ふ所。
 【技術論】クワジユツロン 教授方法、教授の運用方法。
 【教理論】クワリロン 教理又は教義を論理的に論究するもの。
 【教學半】クワシツルハナナブナカバナナ 人を教ふることは同時に亦我學を助ける故に其學ぶ業の半に居るの意。

【教導團】クワダウダタン 陸軍の下士を養成したる所。
 【教一講一】イチュウシヤウヘツサウワタル 天才的の理解力を有すること。
 【教外別傳】クワウガイベツデン 經典又は言語などに依らずして以心傳心を旨とする禪宗の教法。
 【教相判釋】クワウチウハンシヤク 教判に同じ。
 【教學相長】クワウガクアヒチヤウズ 教ふると學ぶと相俟つて我學業を増進するの意。
 【教授善知識】クワシユクニゼンチヤク 佛語、三善知識の一、教授の師。

類語
 異教 クワクイ 類教 クワクイ 傳教 クワクイ
 國教 クワクワ 邦教 クワクワ 師教 クワクワ
 餘教 クワクワ 胎教 クワクワ 典教 クワクワ 文教 クワクワ
 立教 クワクワ 風教 クワクワ 政教 クワクワ 禮教 クワクワ
 善教 クワクワ 時教 クワクワ 至教 クワクワ 形教 クワクワ
 收教 クワクワ 失教 クワクワ 徳教 クワクワ 庭教 クワクワ
 明教 クワクワ 告教 クワクワ 三遷教 クワクワ

か(嚴) 足のおほゆび つとむ(勉)
 【敏活】ビンクワツ ざとし、すばやし。
 【敏性】ビンキョウ ずばやし性質。
 【敏速】ビンソク ざとくすみやか、敏疾。
 【敏疾】ビンシツ 前と同じ。
 【敏悟】ビンゴ ざとし、悟敏。
 【敏捷】ビンセツ ずばしこと、捷敏。
 【敏智】ビンチ ざとくして智慧あること。
 【敏達】ビントツ ざとくして事理に通達す。
 【敏腕】ビンワン うでき、ずばやし手腕。
 【敏給】ビンキツ 口だつしや、口巧者。
 【敏銳】ビンエイ ざとくするどし、鋭敏、捷敏。
 【敏慧】ビンケイ ざとし、りこう、機敏、銳敏。
 【敏過】ビンマイ すぐれてかしこし。
 【敏聰】ビンソウ すぐやくしてざとり早し。
 【敏錄】ビンロク よくきれる録、とがま。
 【敏議】ビンギ 事理にざとく見識の明かなること。
 【敏贖】ビンセン さとくして智慧にとむ。
 【敏有レ功】マツケレバコウマツ ヒ勉むれば成功す。

夙敏 ビンソク 幼敏 ビンゴ 修敏 ビンシツ 貞敏 ビンテイ
 深敏 ビンシン 勤敏 ビンキン 恭敏 ビンキョウ 膽敏 ビンダン
 不敏 ビンブ 捷敏 ビンセツ 假敏 ビンケイ
 救 キウ

① すぐふ、なやみ苦める者をたすける、危い場合をたすける。② たすけ(助)もり(護)③ さむ(治)とむ(止)④ たす(正)

【救凶】キウキョウ 饑饉の年にうゑに悩める人を救助す、救荒。
 【救火】キウカ 火をすぐふ、火事を消し止める。③ 消防夫。
 【救世】キウセイ 世をすぐふ、即ち世の中の迷へる人々を救ひ導く。
 【救助】キウジツ 救ひ助ける、救恤。
 【救命】キウメイ 人命を救ふ、死をすぐふ。
 【救恤】キウシツ すぐひあはれむ、救済。
 【救荒】キウカウ 飢饉をすぐふ、凶年の困苦を助け救ふ、救凶。
 【救災】キウサイ わざはひを救ふ。
 【救時】キウジ 時世をすぐふ、時弊を匡す。
 【救船】キウセン 助け船、難破船を助ける船。
 【救急】キウキツ 危き場合を救ひ助く。

【救授】キウエン すぐひ助く、救助。
 【救解】キウカイ 人の罪をすぐはんとして辯護すること。
 【救弊】キウヘイ 衰へたるものを救ふこと、衰へやぶれたるをすぐふ、拯弊。
 【救藥】キウヤク 危きをすぐひて防ぎ止む。
 【救療】キウリョウ 病氣をなほすこと、救藥。
 【救濟】キウサイ すぐふ、救恤、濟救。
 【救難】キウナン 救済に同じ。
 【救護】キウゴ 救ひまもる、助けて保護す。
 【救世主】キウセイシュ すぐひぬし、人の罪惡を救ひよめる者、基督の異名。
 【救世軍】キウセイグン 軍隊組織にて傳道する耶穌教の一派。
 【救命帶】キウメイタイ 水に溺れることをふせぐ具、救命浮囊。
 【救助民】キウジツミン 國家又は他人より生活上の救助を受ける人。
 【救済學】キウサイガク 耶穌の贖罪の事業により人類を救済する學。
 【救護班】キウゴハン 平時又は非常時に設けたる救護團。
 【救荒植物】キウカウワシヨクツツ 飢饉年に穀物野菜の代用食料に供せられる植物。

類語
 救援 クワエン 救護 クワゴ 救濟 クワサイ 救恤 クワシツ 救済 クワサイ 救恤 クワシツ

匡救 キョウキョウ 垂救 シュキョウ 遠救 エンキョウ 備救 ビキョウ
 振救 キンキョウ 外救 ガイキョウ 後救 ゴキョウ 療救 リョウキョウ
 防救 ボウキョウ 援救 エンキョウ 奔救 ホンキョウ 促救 ソクキョウ
 驅救 キョウキョウ 濟救 セイキョウ

敵

ギヨ

音楽をやめる時の合圖に用ゐる樂器の名

救

勅に同じ

救

ガウ ヨウ

救

【救】あそぶ(遊)たはむる(戯)◎おごる(傲)おごり◎かまびすし(傲)◎君位に登るべくして登らず死して諡號なき人の稱◎畏れる貌、一説によろこぶさま
 【救民】ガウミン なまけ遊ぶ人民。
 【救々】ガウガウ ◎おごる貌◎長き貌。
 【救情】ガウジヨウ ◎おごりなまける。
 【救遊】ガウユウ きまゝに遊ぶ。
 【救頑】ガウガン ◎おごりあなどる。
 【救蔑】ガウベツ ◎おごりて他をあなどる。

敗

ハイ

敗

【敗】やぶる(破)こぼつ(毀)くづす(頽)つぶす(潰)くつがへす(覆)◎きづく(傷)くだく(碎)◎まける、まかす(負)ほろぼす(滅)◎くさる(腐)◎不良となる◎成功せざる貌
 【敗子】ハイシ 家産を破る、放蕩兒。
 【敗亡】ハイバウ ◎敗れる、敗滅◎まける、敗北。
 【敗北】ハイペク 戦に破れ逃ぐ、敗走、敗遁。
 【敗死】ハイシ 敗北して戦死す。
 【敗走】ハイソウ 敗れ走る、敗北、敗遁。
 【敗衣】ハイイ やぶれ著物、つゞれころも。
 【敗没】ハイボツ やぶれほろぶ。
 【敗朽】ハイキウ くさる、くちる。
 【敗屋】ハイウ しばらや、破れし家。
 【敗軍】ハイグン まけいくさ、敗けたる軍勢。
 【敗酒】ハイシュ 腐りたる酒。
 【敗紙】ハイシ まける、戦ひにまける。
 【敗訴】ハイソ ぼぐ、反古紙。
 【敗筆】ハイペツ まけくち、裁判にまける。
 【敗遁】ハイトン 戦破れて逃げ走る。
 【敗退】ハイタイ まけしりぞく、退却。
 【敗敵】ハイテイ こはれ破る、敗弊、破敵。
 【敗將】ハイシャウ 敗軍の大將。
 【敗滅】ハイメツ 敗亡に同じ。

【敗荷】ハイカ 破れたる蓮の葉。
 【敗散】ハイサン やぶれちる。
 【敗報】ハイハウ 敗戦のしらせ。
 【敗盟】ハイメイ 約束をやぶる、違約。
 【敗鼓】ハイコ やぶれて役立たぬ太鼓。
 【敗架】ハイカ 役にたぬ綿、ふるわた。
 【敗喪】ハイサウ 敗亡に同じ。
 【敗業】ハイゲツ 不成功、失敗、事業にしくじる。
 【敗腐】ハイフ 破れくさる、腐敗。
 【敗徳】ハイタク 人道にはづれし行爲。
 【敗戦】ハイセン 戦にやぶれる、まけいくさ、敗軍。
 【敗餘】ハイヨ やぶれたる後、敗戦のあと。
 【敗頽】ハイタイ 破れくづる、敗壞、頽敗。
 【敗績】ハイセキ 戦にまける時は其功績を失ふことより廣く事のやぶれるに言ふ。
 【敗爛】ハイラン 破れたゞれる、腐敗、腐爛。
 【敗壞】ハイクワイ やぶれくづれる。
 【敗天公】ハイテンコウ やぶれ笠、天の形のみ笠の如きより天公と言ふ。
 【敗徳漢】ハイタクカン 徳義を破る者、不徳義の人、悖徳漢。
 【敗軍將不レ可ニ以言勇】ハイグンシャウハユウラ イベカラズ 敗軍の將は再び軍事を説くの資格なし。

訓讀

【敗に因りて功を爲す】因レ敗爲レ功 さいによ

類語

喪敗 サウバイ 毀敗 クイバイ 窮敗 キウバイ 倦敗 クワンバイ
 壞敗 クワイバイ 沮敗 ジュバイ 破敗 ハバイ 潰敗 クヅバイ
 伴敗 バンバイ 腐敗 フバイ 勝敗 ショウバイ 絶敗 ケツバイ
 興敗 キウバイ 決敗 ケツバイ 臭敗 クワイバイ 穿敗 センバイ
 荒敗 クワウバイ 爛敗 ランバイ 傾敗 ケウバイ 散敗 サンバイ
 退敗 タイバイ 損敗 ソンバイ 優勝劣敗 ユウショウレイバイ

八畫

敵

ハイ

敵

【敵】やぶる(敗)きれぐに破る◎まける(負)しくじる◎つかる、つからす(疲弊)ちぎれやぶる(蹙)◎おほふ、おほひ(敵)◎物事がわるくなる◎政事がわるくなつて風俗が衰へる◎自分の物に冠せていふ卑下の語
 【敵甲】ヘイコウ 破れたる鎧、弊甲、弊鎧。
 【敵衣】ヘイイ 破れたるきもの。
 【敵邑】ヘイイフ 自分の國の謙稱。

訓讀

【敵兵】ヘイヘイ 兵を疲らしそなふ。

類語

夷敵 エイテキ 寛敵 カンテキ 高敵 カウテキ 弘敵 コウテキ
 廣敵 クワウテキ 平敵 ヘイテキ 顯敵 ケンテキ 博敵 ハクテキ
 峻敵 ジュンテキ 疏敵 シュテキ 清敵 セイテキ

八畫

敵

シヤウ

敵

【敵】たかし、土地などが高くて四方の見はらしがよい◎心ひろし(寛大)◎ひろびろとしてほがらかなこと
 【敵寛】シヤウクワン 廣やかなるさま。
 【敵廣】シヤウクワウ 前に同じ。
 【敵密】シヤウクワツ ひろくとしたるさま。
 【敵老子】ヘイラウシ 己が師を人に向つて稱する謙詞。

訓讀

【敵業師】ヘイゲツシ 敵老子に同じ。

類語

【敵】敵を受く】受レ敵 へいさく 疲弊したる國家を引きうける意。
 【敵】あへて、無理に、強ひて◎失禮ながらあへてす、思ひきつて行ふ◎いさま

し、進取斷行の氣象がある。

【敢行】カンカウ 思ひ切つて行ふ。

【敢死】カシシ しにもの狂ひ、必死。

【敢決】カシクワ 決斷力あること。

【敢勇】カシユウ 思ひ切つて勇ましき貌。

【敢是】カシゼ 是なりと信じたる事を勇敢に斷行する貌。

【敢爲】カシキ 斷乎として行ふさま。

【敢直】カシチヨク 正しく勇敢なる貌。

【敢然】カシゼン 思ひ切つて行ふさま。

【敢毅】カシキ 毅然として行ふさま、敢然。

【敢戰】カシセン 意を決して勇敢に戦ふこと。

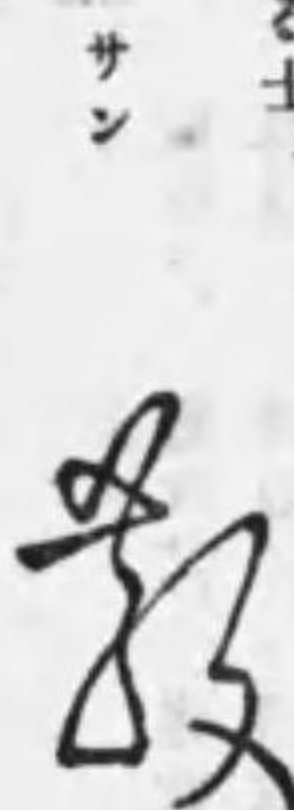
【敢斷】カシダン 決斷心に富む。

【敢不敵】カシフカン ぐづ／＼して更に堪があかぬさま。

【敢不當】カシフタウ 自ら進んで其事に當らざるのさま。

【敢死士】カシシノシ 死ぬのし、武者、犬死を敢てする士。

散



【散】サン ちる、ちらす、消えうせる、にげる(亡)にげ去る、分れひろがる、はなつ(放)外に出る、乱れちらばる、しまりのないこと、ほしいまゝ、ひま、仕事

がない(むだ、役にたゝぬ、粉末の薬) ①琴の曲の名(足がふら／＼する(踏に通ず) ②國訓ある、ちらす(花が落ちる、にじみ廣がる、あらず)

【散人】サンジン ①世を捨てたる閑人 ②才能なく無用の人、やくにたゝぬ人。

【散士】サンシ 前の①に同じ。

【散木】サンボク 役に立たざる木、無用の材。

【散文】サンブン 韻律なき普通の文章。

【散冗】サンジュウ 一定の職なきを言ふ。

【散史】サンシ 民間に在りて文筆を業とする人、無官の文士。

【散失】サンシツ ちりてなくなる。

【散光】サンクワウ 光線反射の方向が一定せずして四方に離散するさま。

【散布】サンフ ちりひろがる、まきちらす。

【散吏】サンリ 閑散の地位に居る役人。

【散在】サンザイ 點々としてある、ちらばつてある。

【散地】サンチ ①用をなさざる土地 ②閑散なる地位 ③戦時に於ける自領地の稱。

【散位】サンキ 位のみにて實務なき官職。

【散志】サンシ 志定まらず意決せざる貌。

【散佚】サンイツ 方々にちらばること。

【散兵】サンペイ 兵をまばらに配置する陣取又ちらばり居る兵士。

【散材】サンザイ 散木に同じ。

【散坐】サンザ まばらに坐すこと。

【散步】サンポ 一定の目的なくぶら／＼歩くこと、そぞろあるき。

【散見】サンケン ちらほらと見える、所々に見える。

【散金】サンキン 天の川の異名。

【散官】サンカン 閑散なる地位にある官職。

【散茶】サンチャ ひき茶。

【散員】サンギン 事務のひまなる役員。

【散財】サンザイ 金錢を浪費すること、むだづかひすること。

【散殊】サンシユ いろ／＼に異なるさま。

【散馬】サンバ 野飼の馬。

【散缺】サンクツ ちり／＼に缺けうせる。

【散逸】サンイツ 紛失すること、散亂して無くなる。

【散彈】サンタン ちらばり飛ぶ彈丸。

【散掠】サンリョク 分捕すること。

【散陽】サンヤウ 冬になつても氷雪なく暖かなるをいふ。

【散閑】サンケン 氣ばらしすること。

【散佚】サンイツ 散逸に同じ。

【散策】サンサク 散歩に同じ。

【散溢】サンイツ あふれ流れること。

【散適】サンテキ 散閑に同じ。

【散會】サンカイ 集合等が終りて人々の分れ散ること。

【散亂】サンラン ちり亂れる、ちり／＼、ちらばること。

【散漫】サンマン ちり／＼ばら／＼にて統一がない、だらしがたい。

【散髮】サンハツ 髪をふり亂す、又ざんざり。

【散儒】サンジュ ①役に立たぬ學者、世の用をなさぬ學者 ②閑散なる學者。

【散寫】サンシャ むやみに書くこと。

【散樂】サンラク おどけたる事をする舞樂、野人の音樂。

【散積】サンセキ 蓄積したる財寶を散ずる。

【散錄】サンロク 順序次第を立てず書き記したるもの、漫録、隨筆。

【散撲】サンボク 純朴なる性質を失ふ貌。

【散學】サンガク ①學校の授業の終り ②不規則に學ぶこと。

【散擲】サンテキ ちらしなげうつ。

【散職】サンシヨク 散官に同じ。

【散藥】サンヤク こなぐすり、粉藥。

【散鬱】サンウツ 氣ばらし、うさばらし。

【散鹽】サンエン 海水を煮沸して出來た鹽。

【散文的】サンブンテキ 詩の格調なく情味の乏しきこと、詩的の對。

【散文詩】サンブンシ 韻律なき散文的な詩。

【散酒風】サンシユウフウ 氣ちがひ又は醉狂の貌

【散脂大將】サンシテイヤウ 女神の子の異名。

類語

虚散	衰散	飛披	披散
敗散	走散	朽散	零散
費散	瑣散	糜散	溼散
聚散	布散	發散	移散
降散	吹散	追散	揮散
進散	荒散	廻散	泄散
興散	亡散	沮散	冗散

【敦】トン タイ

①あつし、人情が厚い、篤厚、醇厚 ②あつくす、てあつくす ③さかんなり(盛) おほいなり(大) ④くらし、耳目なく何事も知らぬ貌(取とめなき貌(混池) ⑤つらぬ(陳) ⑥つとむ(勉) ⑦せまる(迫) なげうつ(擲) ⑧とがめ、とがめる ⑨いかる(怒)そしる(詆) ⑩をさむ(治) ⑪獨居して移らぬさま ⑫むらがる ⑬黍稷を盛る具

【敦弓】トンキウ 天子の用ゐる立派なる弓。

【敦化】トンカワ 篤實ならしめる様に人民を敦へみちびく。

【敦朴】トンボク 親切にして飾なき貌。

【敦和】トンカワ 人情ふかくやはらかなり。

【敦厚】トンコウ ①人情のこまやかなること ②物事に入念なること。

【敦故】トンコ 古き友人に對しても厚き情を持つ貌。

【敦應】トンオウ 人情のこまやかなること。

【敦固】トンコ いきましく、心の激するさま。

【敦崇】トンシュウ 尊敬の念厚きこと。

【敦教】トンキョウ 深くいましめる。

【敦諭】トンユ 丁寧に教へさす。

【敦業】トンゲツ わざを練ること。

【敦陸】トンリク 非常に陸じく親切なる貌。

【敦雅】トンガ 質朴にして俗に流れざること。

【敦恩】トンオン つゝしみ深きこと、人情あつきこと。

【敦樸】トンボク 物事に誠意あるさま。

【敦閑】トンケン ねんごろに取調ぶること。

【敦學】トンガク 學業に熱心なること。

【敦篤】トンタク 人情のこまやかなること。

【敦穆】トンモク 人情厚くして温和なること。

敷

敷の略字

九畫

敬

ケイ キヤウ

敬

① うやまふ、うやまひ、郷重にする。つゝしむ心、うや／＼しくつゝしむみぶかし、つゝしむみ、謹慎。書簡等に用ゐて敬意を表する語。

【敬止】ケイシ つゝしむ安んじて妄りに求めざる貌。

【敬白】ケイハク うや／＼しく申上げる意、手紙の文の末尾に書く語。

【敬若】ケイニヤク うやまひ従ふ。

【敬具】ケイグ つゝしむ申す意にて手紙の終りに書く語。

【敬忠】ケイチュウ 君主を敬し忠誠を盡す。

【敬待】ケイタイ 敬ひて叮嚀にもてなす。

【敬重】ケイチュウ うやまひ重んず。

【敬服】ケイフク 敬ひて服従すること。

【敬承】ケイセイヨ ① つゝしみてうけたまはる。② うや／＼しく受けつぐ。

【敬畏】ケイイ ① つゝしむ恐れる。② 神をうやまひまつること。

【敬敏】ケイミン さとくしてつゝしむみ深し。

【敬虔】ケイケン つゝしむみかしこむ。

【敬復】ケイフク つゝしみて返答する貌。

【敬意】ケイイ うやまふ心。

【敬尊】ケイソン うやまひ尊ぶ。

【敬順】ケイジュン 敬ひつゝしみて従順なり。

【敬遜】ケイソン 敬してへりくだる。

【敬遠】ケイエン ① うやまひ憚りて接近せざる貌。② 表面は敬し内心にうとんず。

【敬愛】ケイアイ うやまひしたしむ。

【敬稱】ケイセイヨ 陛下・殿下等の如くうやまひ稱するとなへ、尊稱。

【敬慎】ケイシン つゝしむみ深し、深く慎む。

【敬慕】ケイボ うやまひ慕ふ。

【敬應】ケイオウ つゝしむみしたふ。

【敬款】ケイケン あがめほめる。

【敬禱】ケイベン つゝしみて帝位を傳ふ。

【敬親】ケイシン ① 敬ひしたしむ。② 親を敬してつかへる。

【敬禮】ケイレイ つゝしむみ禮拜す、其こと。

【敬寵】ケイチュウ 敬してふかく愛す。

【敬懼】ケイク おそれつゝしむ、かしこむ。

【敬讓】ケイジョウ うやまひへりくだる。

【敬虔主義】ケイケンシユイ 温かき感情を以て忠實に信教を奉ずる主義。

【敬遠主義】ケイエンシユイ うまくあがめ奉つて遠ざけるやりかた。

【私敬】ケイシ 謹敬ケイシ 祇敬ケイシ 歡敬ケイシ

【不敬】ケイフイ 和敬ケイイ 嚴敬ケイシ 重敬ケイヨウ

【崇敬】ケイケン 親敬ケイシ 尊敬ケイシ 深敬ケイシ

十一一畫

【敲】カウ

① 打ち(短かきを敲といひ、長きを答といふ)。② 打ち(鑼撃)。③ たたく(叩)。④ 國訓たつき(石灰と赤土と苦鹽と砂を混じて叩き固めるもの)。

【敲土】カウド 泉水床等を作るに用ふる土。

【敲拉】カウラフ 敲は短かき打ち、打ち叩きかためる意。

【敲撼】カウカン たつき動かす。

【敲擊】カウキヤウ つ、たつき。

【敵】テキ

① あだ(仇)かたき、我と戦ふもの、又我に手むかふもの。② あひて(對手)③ 争ふ、對抗する、てむかふ(抵抗)④ 對比する、我と同等となる、釣合ふ、相手

【敵手】テキシユ ① かたき、あだ。② 相手、我と匹敵する者。

【敵背】テキハイ 敵軍のうしろの方。

【敵情】テキジヤウ 敵方の様子。

【敵視】テキシ ① かたきと視なすこと。② 我と戦ふ敵の兵士。

【敵兵】テキヘイ 我と戦ふ敵の兵士。

【敵國】テキコク 對等の國、我と戦ふ相手國。

【敵勢】テキセイ 敵軍の勢力。

【敵機】テキキ 敵軍の軍事飛行機。

【敵愾】テキザイ ① 敵と戦はんとするいきこみ。② 公敵にあたり報ゆ。

【敵陣】テキチン 敵營に同じ。

【敵意】テキイ ① 敵とする意志。② 反對す。

【敵勝】テキリヨ 敵のえびす、敵のやから。

【敵對】テキタイ 敵として向ふ。

【敵騎】テキキ 敵の騎兵。

【敵應】テキオウ 敵に相對すること。

【敵營】テキエイ 敵の陣營。

【敵綱】テキカウ 五分々々の勢ひにて並ぶ。

【敵艦】テキカン 敵の軍艦。

【敵藥】テキヤク 敵の彈藥、敵彈。

【敵儲】テキショ 敵のうち出す砲彈。

【敵彈】テキダン 敵のうち出す砲彈。

【敵懐心】テキガイシン 敵に對して恨みを晴さんとする心。

【敵本主義】テキホンシユイ 第一目的にあらざるものを第一目的の如く装ふこと、明智光秀の「吾が敵は本能寺にあり」の故事よりいひし語。

【敵前上陸】テキゼンジャウリク 敵の面前に船をつけて兵士を上陸せしめること。

類語

抗敵ケイコウ 匹敵ヒツ 仇敵テキキ 猛敵マウキ

強敵ケイキヤウ 雄敵ユウ 小敵テキキ 隣敵リン

堅敵ケン 暴敵ハウ

【敷】ケイ

とほし(遠)はるか(遠)

① しく(施)のべしく、ひろがる。② つらぬ(連)ならぶ、陳べる。③ あまねく(徧)ひろく(廣)④ 國訓しく(物の下に据ゑる)しき(しくこと又しく物)又敷金の略、音のシク、シキに借り用ふ。

【敷大】フダイ 形の大きいなること。

【敷求】フキウ 廣くさがしもとむ。

【敷弘】フコウ あまねくひろめる。

【敷告】フコウ 廣くしらしむ、布告。

【敷衍】フニン ① 或意味を充分ならしめる爲め他の語句を附加すること。② おしひろぐ、ひろげる。

【敷宣】フセン あまねくのべ示す。

【敷奏】フソウ 天皇に申し上げ、奏聞。

【敷施】フシ 布きおよぼす。

【敷教】フケウ 宗教等をあまねく弘める。

【敷設】フセツ かまへ設ける、しきすゑる。

【敷陳】フチン 廣くのべしらす。

【敷暢】フチャウ おしひろむ、しきひろげる。

【敷演】フエン 一つの意味を他の方向にひろげるのばして説く。

【敷胸】フク 景色のはつきりとしたる貌。

【敷臺】フクダイ 玄關前の板敷。

【敷々】フクフク しきならべる貌。

【敷發】フサン あまねくひろげること。

【敷居】フキ 引戸或は障子などの通る道に用ゐる横木。

【敷】シユ ス スク

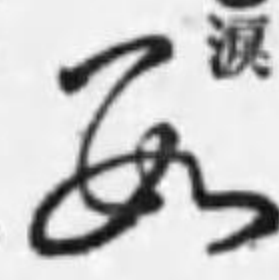
① かぞふ、計算する。② かぞに違する、かぞがある。③ せむ(責)なじる。④ かぞ(多少の意)又定まりし量。⑤ 敷へられる程の、二三の、若干の。⑥ わざ、技術。⑦ はかりごと(術)敷。⑧ すぢみち(道理)あり

さま①まはりあはせ、人の運不運②しばし(度々)しばし、幾度もくりかへす③こまかし(細密)④擧げていふ、数に入れる⑤事物の多少を計算する學問⑥はやし(疾)ちかし(近)

【數口】スウコウ 五六人の人數。
【數四】スウシ さんよど、三つ四つ。
【數字】スウジ 数の符號とする文字。
【數行】スウカウ ①文字の五六行②涙の落ちる形容。

【數奇】スウキ 不幸、ふうん。
【數重】スウチュウ 幾重にもかさなること。
【數寄】スウキ ものずきの意、風流、好事。
【數詞】スウジ 量又は数の多少を示す詞。
【數術】スウジツ かけひき、はかりごと。
【數量】スウリヤウ かさ或は分量。
【數器】スウキ 數量又は分量をはかるもの權衡。

【數學】スウガク 算術・代數・幾何・三角法等の如く數の理論・計算の方式を研究する學問。
【數獻】スウケン 數杯に同じ、五六ばいの酒。
【數智】スウチ 目のこまかな細。
【數珠】スウシユ 百八個の珠を紐に貫き佛を拜する時に用ゐるもの。
【數多】スウタ 數多きを言ふ。



【數塚】スウツカ 砂を高く圓く編笠の如くもりあげ多くの矢をさす所。
【數々】スウサツ ①忙しき貌、繁忙②たびたび、しばし。
【數窮】スウキウ 時々困難に陥るの意。
【數寄屋】スウキヤ 風流なる小さき家、茶會の小庵。
【數米而炊】スウベイコウヘチカシ 極めて瑣細の事にも意を用ゐる意。
【數罪俱發】スウザイグハツ 一人で二つ以上の罪を犯して居ることが同時にあらはれること、現行刑法の併合罪。

類 語
常數 スウジョウ 定數 スウテイ 名數 スウメイ 權數 スウケン
成數 スウセイ 全數 スウゼン 無數 スウム 度數 スウド
等數 スウトウ 官數 スウカン 次數 スウジ 異數 スウイ
枚數 スウマイ 命數 スウメイ 術數 スウジュツ 小數 スウコウ
逆數 スウギャク 口數 スウコウ 分數 スウブン 算數 スウサン
奇數 スウキ 偶數 スウブ 智數 スウチ 意數 スウイ
道數 スウダウ 員數 スウインズ 計數 スウケイ

【敲】スウ 驅の古字
十二畫

【整】セイ ①とよふ、たゞす(正)をさむ(理)②ひとしくす(齊)そろふ、そなはる(備)
【整列】セイレイ 正しくならぶ。
【整肅】セイソウ 正しくして嚴かなる貌。
【整理】セイリ ①正しくとよむのふ②商工業者が其事業に失敗して債務の整理をなし陣容を立て直すをいふ。
【整然】セイゼン 正しくて整ひたる貌。
【整備】セイビ ①とよむのふ、整ひて筋道のたてるさま。
【整飭】セイチョウ ①とよむのふ、整ひて筋道のたてるさま。

【整頓】セイトン 物の整ひ片付きたると。
【整飾】セイシヨク きちんと整へかざる。
【整數】セイスイ 一又は一の倍數。
【整齊】セイセイ 整然に同じ。
【整調】セイテウ 舵手の次に居て氣勢をそろへる漕手。
【整々】セイセイ 整齊に同じ。
【整嚴】セイゲン 能くともひて嚴かなり。
【整齊花】セイサイカ 花瓣の大小形狀相ひとしきもの。

類 語
高整 セイカウ 完整 セイワウ 裁整 セイサイ 修整 セイシュウ

【整】セイ 整の俗字
十三畫

【斂】エキト ①いとふ、あさる、うむ(倦)②やぶる(敗)くづれる(頹)
【斂去】レンキョ やめて立ちさる。
【斂束】レンソウ あつめて取しまる、あつめてたばねる。
【斂官】レンクワン 租税をあつめる官。
【斂衽】レンジン 服装を正しくするさま。

【斂】レン ①をさむ(收)あつむ(棄)内に仕舞ふ、死者を納める②引き縮める、ひきしめる、やめる、しまふ③をさまる
【斂手】レンシユ 手をささめる、何事もせざるにいふ。
【斂去】レンキョ やめて立ちさる。
【斂束】レンソウ あつめて取しまる、あつめてたばねる。
【斂官】レンクワン 租税をあつめる官。
【斂衽】レンジン 服装を正しくするさま。

【斂】レン ①をさむ(收)あつむ(棄)内に仕舞ふ、死者を納める②引き縮める、ひきしめる、やめる、しまふ③をさまる
【斂手】レンシユ 手をささめる、何事もせざるにいふ。
【斂去】レンキョ やめて立ちさる。
【斂束】レンソウ あつめて取しまる、あつめてたばねる。
【斂官】レンクワン 租税をあつめる官。
【斂衽】レンジン 服装を正しくするさま。

支 部 (十二—十六畫)

整・斂・斂・斂・斂 文 部 文

【斂】ヘイ ①たふす、殺したふす②たふる、死んで横はる、死ぬ、いのち終る③ほろぶ(滅)失敗する
【斂死】ヘイシ たふれて死す。
【斂後已】タフレナリヤム 死ぬまで奮闘する。

【斂】ヘイ ①たふす、殺したふす②たふる、死んで横はる、死ぬ、いのち終る③ほろぶ(滅)失敗する
【斂死】ヘイシ たふれて死す。
【斂後已】タフレナリヤム 死ぬまで奮闘する。

【斂】ヘイ ①たふす、殺したふす②たふる、死んで横はる、死ぬ、いのち終る③ほろぶ(滅)失敗する
【斂死】ヘイシ たふれて死す。
【斂後已】タフレナリヤム 死ぬまで奮闘する。

【斂】カウ 國の名、后稷の封ぜられた所
【斂】カウ 國の名、后稷の封ぜられた所
【斂學半】カウガクハナハナカバ 人に教へる時
は我が學力をもます意。

【文】ブン モン ①あや、もやう、かた(形象)②いろつや(彩色)③現象④外部、すゑ⑤ふみ(文章)⑥もんじ(文字)⑦ことば(語句)⑧人智の進むこと⑨學問の一種⑩法律規則⑪錢の稱、又その數を示す語⑫かざる(飾)うはべを繕ふ、又しあげる、修飾する⑬禮儀作法になれて優美なること⑭國訓ふみ(書物、手紙)もん(穴錢の稱、足袋の大小を表はす語)
【文人】ブンジン ①文學を修むる人、文學に通じたる人、文士②文徳ある人。
【文士】ブンシ 文學にたづさはる人、一般に詩歌・小説・戯曲等の作者。
【文才】ブンサイ 文學上の才、文筆の才能。
【文字】ブンジ 支那の書物の名。
【文化】ブンクワ ①科學の進歩すること、開化②刑罰を用ゐず人民を治めること。
【文火】ブンカ 武火の對、とろび、ぬるび。
【文史】ブンシ 文章と歴史。
【文巧】ブンカウ 表面をうまくかざる。

【文名】ブレノイ 能文家としてののほまれ。
 【文甲】ブレノイ 瑠璃(たいまい)の異名。
 【文吏】ブレノイ 文官、又法律を司る官。
 【文臣】ブレノイ 武官以外の官吏。
 【文衣】ブレノイ あや模様のある美しき衣服をいふ。
 【文具】ブレノイ たからがひ。
 【文身】ブレノイ 入墨をすること、ほりもの。
 【文典】ブレノイ 文章に關する法則。
 【文采】ブレノイ あや、かざり、もやう。
 【文面】ブレノイ 顔に入れ墨すること、又その顔の書状等の文章。
 【文宗】ブレノイ 文章の大家。
 【文明】ブレノイ 文物が進歩して世の開けるをいふ、開化。
 【文官】ブレノイ 文臣に同じ。
 【文相】ブレノイ 文部大臣の略稱。
 【文物】ブレノイ 文明を進歩せしめる禮樂・法律・制度などをいふ。
 【文房】ブレノイ 學問を勉強する室、書齋。
 【文政】ブレノイ 文治によつて行ふ政治。
 【文昌】ブレノイ 學問の事を司るもの。
 【文具】ブレノイ 筆墨紙の類、文房具。
 【文治】ブレノイ 武斷の對、學問・法令等にて世を治めること。
 【文思】ブレノイ 文章をつくる考案。

【文苑】ブレノイ 文壇に同じ。
 【文法】ブレノイ 文章に關する法則。法律規則、又こま／＼しき規則。
 【文脈】ブレノイ 文章の骨子、文章のすぢみち。
 【文林】ブレノイ 文學者のなかま、文壇。
 【文通】ブレノイ 手紙のやりとり、おとづれ。
 【文武】ブレノイ 文事と武事。周の文王と武王。
 【文柄】ブレノイ 學問上の勢力、又は權力。
 【文科】ブレノイ 學科の一、文學の科目。
 【文圃】ブレノイ 文材に同じ。
 【文舫】ブレノイ かざり立てたる船。
 【文格】ブレノイ 文學上のおきて。
 【文家】ブレノイ 文章の原稿を埋めたつか。
 【文恭】ブレノイ 文學に通じて恭敬の道に適ふこと。
 【文書】ブレノイ 書類、かきもの。
 【文野】ブレノイ 文明と野蠻。
 【文弱】ブレノイ 武事を忘れ文藝に溺れる。
 【文案】ブレノイ 文章をつくる考案。机。
 【文備】ブレノイ 武備の對、學問上の設備。
 【文庫】ブレノイ 書籍を保管する蔵。文章筆硯等を入れる箱。
 【文酒】ブレノイ 文章を作りながら飲む酒。
 【文馬】ブレノイ かざりたてたる馬。

【文華】ブレノイ 文學の盛んなること。文明の美。
 【文章】ブレノイ 思想を發表する主體。かざり、もやう、あや。國の文明を形成する制度・禮樂。道徳の美。
 【文陣】ブレノイ 文壇に同じ。
 【文深】ブレノイ 文意のゆきとよく貌。
 【文組】ブレノイ もやうを表はしたる組紐。
 【文教】ブレノイ 文學のをしへ。文治により人民をみちびく。
 【文棟】ブレノイ 文壇の長老。
 【文雅】ブレノイ 文筆に長じ風流なること。
 【文理】ブレノイ 物事の筋道。文派。
 【文運】ブレノイ 文學の趨勢、文學の盛んなる氣運。
 【文彩】ブレノイ 文采に同じ。
 【文犀】ブレノイ 犀の角のあやあるもの。
 【文雄】ブレノイ 文學に秀でたる人、文宗。
 【文蛤】ブレノイ はまぐりの異名。
 【文筆】ブレノイ 文章詩歌をつくるわざ。
 【文詞】ブレノイ 文章のことば、文章と辭句。
 【文集】ブレノイ 文章を集め記したるもの。
 【文義】ブレノイ 文意に同じ。
 【文業】ブレノイ 文學上の技術。
 【文會】ブレノイ 文學上のよりあひ。
 【文意】ブレノイ 文章の大意、文義。

【文話】ブレノイ 文學に關する話。
 【文綾】ブレノイ 織物の一、あやぎぬ。
 【文綱】ブレノイ 法律、法網。
 【文綺】ブレノイ 文采に同じ。飾りめかす。
 【文飾】ブレノイ 文章上のかざり、轉じて凡てのかざり、又表面をかざること。
 【文語】ブレノイ 文章上のことば、又文章と言語。
 【文綵】ブレノイ 文采に同じ。
 【文墨】ブレノイ 文字、文章。
 【文徳】ブレノイ 文教の力、學問の徳。
 【文豪】ブレノイ 文學上の達人、文宗。
 【文箴】ブレノイ 文章作製上の心得。
 【文談】ブレノイ 文話に同じ。
 【文樂】ブレノイ 文學にのみ關係せる音樂。
 【文勳】ブレノイ 文藝上の功績。文治上の功勞。
 【文選】ブレノイ 活版を組立てる活字を拾ひ集めること、又その人。
 【文翰】ブレノイ かきもの、文書。
 【文翻】ブレノイ 文章の異名。
 【文聲】ブレノイ 文響に同じ。
 【文織】ブレノイ あやある織物。
 【文壇】ブレノイ 文學者の社會、文林。
 【文學】ブレノイ 學問・藝術。學事に關する官職。政治・法律・經濟・自然科學以

外の學問、特に小説・詩歌・戯曲に關する學問。
 【文繁】ブレノイ かざりの多きこと。
 【文綾】ブレノイ あやあるちりめん。
 【文辭】ブレノイ 文章と辭句、あやある言葉。
 【文意】ブレノイ 學問の道。
 【文藝】ブレノイ 學問と技藝。
 【文牒】ブレノイ 公文書、官文書。
 【文曜】ブレノイ 日・月・五星の類。
 【文鏡】ブレノイ 紙等の移動を防ぐ爲めにのせ置くおもり。
 【文籍】ブレノイ 書物、書冊。
 【文簿】ブレノイ 帳簿の總稱。
 【文緝】ブレノイ 美しくあやどるぬいとり、ぬひ模様、又其衣服。
 【文羅】ブレノイ 卓越せる文章。
 【文獻】ブレノイ 文は典籍、獻は賢者、よりどころとなす確かなるもの。學問に貢獻するの意。
 【文鱈】ブレノイ 海魚の名、とびのうを。
 【文鷓】ブレノイ 鷓鴣を船首に畫きて飾りとする船。
 【文藻】ブレノイ 文章、ふみ。文采に同じ。
 【文譽】ブレノイ 名文のほまれ、文章家としての名譽。
 【文體】ブレノイ 文章の體裁又は形式。

【文月】ブレノイ 陰曆七月の異稱。
 【文句】ブレノイ 文章の句讀。人の言行を惡く言ふこと。
 【文字】ブレノイ 思想言語等を表示する記號。もんく、言葉。
 【文言】ブレノイ 文章になつてゐる言葉。易經十翼の一、乾坤二卦を解釋したるもの。
 【文盲】ブレノイ 無學者、あきめくら。
 【文珠】ブレノイ 文章の異名。法身・般若・解脱の三徳をそなへし文珠菩薩のど。
 【文化史】ブレノイ 文明の進歩を明かに記したる歴史。
 【文法吏】ブレノイ 規定に通曉せる官吏。
 【文房具】ブレノイ 文具に同じ。
 【文明史】ブレノイ 文化史に同じ。
 【文昌星】ブレノイ 北斗七星の第一星。
 【文無害】ブレノイ 法律を濫用曲解して人を害せぬこと。
 【文獻學】ブレノイ 民族文化の性質を研究する學問。
 【文字交】ブレノイ 文學者の交際。
 【文字飲】ブレノイ 詩文の會のさかもり。
 【文部省】ブレノイ 國家の教育行政に關する事務を處理監督する最高官廳。
 【文不レ加レ點】ブレノイ 文章中更に缺

【文武兩道】ブウブウリキウダウ 文道と武道。

【文武兼備】ブンブクケンビ 文徳と武徳とをかねそなへること。

【文恬武嬉】ブンテンブキ 文武官共に安逸をむさぼり禍快の起るを知らざるを言ふ。

【文質彬彬】ブンシツヒンヒン はてとちみとがほどよくそるふ貌。

【文藝復興】ブンゲイフククウ 十四五世紀の頃煩瑣哲學が衰へて一般の人々が教權の束縛を脱し希臘・羅馬の古代思想を渴仰して其文藝を復興するに至つた事實。

【文獻不足】ブンケンブツク 書籍や學者に乏しきこと。

【文臣不愛錢】ブンシンハゼニチカシセツ 文學を解する者の心事の高潔なるをいふ語。

【文藝中心主義】ブンゲイチュウシンシユイ 諸種の事皆文藝を中心として行動せんとする主義。

【文藝獨立主義】ブンゲイドクリフユイギ 一切の社會的現象と關係を絶つて文藝生活をなさんとする方針。

【文を守る】シツレブン ばんをまもる 武力や暴力を用ゐず成文法によりて事をさばく。

【文を賣る】ウレブン ぶんをうる 他人の爲めに

己が文章を金に代へて補助す。

【文を屬す】屬レブン ぶんぞくす 文章を作る。

【文を舞はし法を弄ぶ】舞レブン弄レ法 ぶんをまはしはふをもてあそぶ 成文を無視し法律を濫用すること。

【文事ある者は必ず武備あり】有ニ文事一者必有ニ武備一 ぶんじあるものはかならずぶひあり 學問にすぐれし者は武藝にも亦長ず、即ち文武兩立の意。

類語

- 逸文 イツブン 奇文 キブン 好文 コウブン
- 懿文 イブン 彩文 サイブン 雄文 ユウブン 天文 テンモン
- 人文 ジュンブン 言文 ゴンブン 深文 シンブン 飛文 トビブン
- 綺文 キブン 空文 クウブン 斯文 シブン 移文 イブン
- 允文 インブン 藻文 ソウブン 藝文 エイブン 舊文 クウブン
- 麗文 レイブン 蒼文 ソウブン 翰文 カンブン 秘文 ヒブン
- 詩文 シブン 古文 コブン

四一七畫

【齊】 齊の略字

【齋】 齋の略字

【斌】 ヒン

文と質とがそるふ、あや飾りと地味な所と程よく釣合ふ(彬に同じ)

八一七畫

【斐】 ヒ

あやのあるさま、美しく盛んなるさま

【斐々】 ヒヒヒヒ うるはしくあやある貌。

【斐然】 ヒゼン 前に同じ。

【斑】 ハン

まだら、ぶち(色の雜り合ひて文あること) ②總體中的一部分

【斑文】 ハンモン まだら、もやう、ぶち。

【斑白】 ハンパク 白髪あたま、老人の異稱。

【斑竹】 ハンチク 斑點ある竹、まだら竹。

【斑衣】 ハンイ もやうの派手なる著物。

【斑紋】 ハンモン 斑文に同じ。

【斑々】 ハンバン まだらなる貌。

【斑猫】 ハンネウ 毒蟲の名、斑蝥。

【斑鳩】 ハンキウ 小鳥の一、いかるが。

【斑蝥】 ハンメウ 斑猫に同じ。

【斑爛】 ハンラン もやうありて美しきさま。

【斑枝花】 ハンシキヤ 熱帯産の植物の名。

あや(文采)もやう

斗部

【斗】 トウ

①十升のますめ、又ます(量器の總稱) ②ひしやく(酒を酌む柄杓)又ひしやくの形したる物 ③星宿の名 ④かど立ちてまがれると⑤たちまち(忽)⑥どら(陣中にて用ゐるもの)

【斗入】 トニウ かど立ちて突き入る、喰ひ込む、するどくきれこむ。

【斗大】 トダイ 一斗ます程の大きさ。

【斗牛】 トギウ 星の名、北斗星と牽牛星。

【斗出】 トシュツ 尖る、つき出る。

【斗方】 トハウ 四角なる掛軸。

【斗米】 トベイ 一斗の米。

【斗門】 トモン 水を出し入れする桶の口、又單に水門。

【斗室】 トシツ 小きき部屋。

【斗星】 トセイ 北方にある星、北斗星。

【斗柄】 トヘイ 北斗星の第三位より第七位に至る三星の稱。

【斗食】 トシヨク 身分低き官吏、一日に一斗の食祿の意。

【斗拱】 トキョウ 柱上にあるますがた。

【斗格】 トカク 柄がき、とかき。

【斗酒】 トリュウ 一斗の酒、多量の酒。

【斗宿】 トリュウ 星の名、二十八宿の一。

【斗帳】 トチャウ 小ききとばり。

【斗絶】 トゼツ かど立ちて折れこむ。

【斗符】 トセウ 僅かの分量を入れる器、人物の小なるにいふ語。

【斗量】 トリヤウ ますにて量る程の多き量。

【斗極】 トキョク 斗星に同じ。

【斗祿】 トロク 僅少の扶持米。

【斗箕】 トキ 星の名、斗星と箕星。

【斗解】 トコク 柄又柄目の意、一斗と一石。

【斗稱】 トリョウ ますとはかり。

【斗魁】 トクワイ 劍の尖端が星の如くするどきもの。

【斗膽】 トタン 一斗ます程のきも、膽力の

大なるを云ふ。

【斗儲】 トチヨ わづかのたくはへ。

【斗糧】 トリヤウ 僅かの食糧。

六畫

【料】 レウ

①はかる、おしはかる(推測)ますめをかぞふ、數をかぞへはかる ②はかり、ますめをさめる、はからふ ③物事のもとしる(材料) ④あてがひもの、てあて(給與品) ⑤使用する物品 ⑥代金 ⑦なづ(拵)撫でる

【料地】 レウチ 用地、使用する土地。

【料金】 レウキン だいきん、ねだん。

【料紙】 レウシ 用ふる紙、所用の紙。

【料校】 レウカウ 材料をはかり考ふる意。

【料理】 レウリ ①食物を割烹すること ②物事をさめること。

【料峭】レウセウ 春の寒さの形容。
 【料量】レウリヤウ ①ものをはかる②又ますめのこと。
 【料簡】レウケン ①はかりえらぶ②考へ、意見又かんべん、宥免。

【斜月】シヤゲツ ①入りかけた月②香の名。
 【斜角】シヤカク ①ひしがた②鈍角と鈍角。
 【斜雨】シヤウ 横ざまに降る雨。
 【斜巷】シヤカウ 花柳の巷、いろまち。
 【斜封】シヤホウ ①なゝめに手紙を封じる(辭令書に用ゐる)。

類語
 詩料シロウ 食料シヨク 廩料リン 計料ケイ
 公料コウ 給料キョウ 使料シロウ 雜料ジロウ
 奉料ホウ 材料ボウ 度料ドウ 飲料エイ

七畫

【斛】コク 斗の十倍の量①石のます、こくます②ますめ、ます

【斜陽】シヤヤウ ゆふひ、夕陽。
 【斜視】シヤシ ①やぶにらみ、流し目に見る。
 【斜暉】シヤキ ①次に同じ。
 【斜暉】シヤクン ①なゝめの日光、夕日の光。
 【斜對】シヤタイ すぢむかひの意。
 【斜影】シヤエイ 斜にさすかげ。
 【斜方形】シヤハウケイ 平行四邊形の角の直角ならざるかたち。
 【斜長石】シヤナガシキ 長石の一種にして曹達を多量に含む。

【斜】シヤ ①なゝめ、はすかひ、さか(坂)傾くと②ちる(散)③不正、又よこざま、よこ(横)④國訓なゝめならずと打消しの語に用ゐてひと通りならず、なみ大抵でない等の意を表す

【斜長石】シヤナガシキ 長石の一種にして曹達を多量に含む。

【幹】カク ①めぐる、めぐらす②とりもつ、周旋する。
 【幹流】アツリウ めぐり流れるさま。
 【幹葉】アツキ すてる、うつちやる。

【幹】カク ①めぐる、めぐらす、まはす②つかさどる

【斤】キン 重量の稱(十六兩の目方)①はかり(秤)②まさかり、をの③きる(斫)④うつ(打)⑤あきらか(听)⑥國訓きん(目方の稱、普通百六十匁)

【斤】キン 重量の稱(十六兩の目方)①はかり(秤)②まさかり、をの③きる(斫)④うつ(打)⑤あきらか(听)⑥國訓きん(目方の稱、普通百六十匁)

【斛】カク ①めぐる、めぐらす②とりもつ、周旋する。

【斤】キン 重量の稱(十六兩の目方)①はかり(秤)②まさかり、をの③きる(斫)④うつ(打)⑤あきらか(听)⑥國訓きん(目方の稱、普通百六十匁)

斤部

【斤】キン 重量の稱(十六兩の目方)①はかり(秤)②まさかり、をの③きる(斫)④うつ(打)⑤あきらか(听)⑥國訓きん(目方の稱、普通百六十匁)

【斤】キン 重量の稱(十六兩の目方)①はかり(秤)②まさかり、をの③きる(斫)④うつ(打)⑤あきらか(听)⑥國訓きん(目方の稱、普通百六十匁)

類語
 狹斜シヤウ 端斜シヤン 傾斜シヤイ 盤斜シヤン
 迴斜シヤウイ 從斜シヤウウ 橫斜シヤウウ

【學】カ 玉の杯、禾稼の形を畫き量六升を入れ献酬の禮に用ゐるしもの

【斛】シン ①くむ(酌)くみとる、くみわける②さかもりする③物事を程よくはかる、事情をくみとる、手加減する

【幹】カク ①めぐる、めぐらす、まはす②つかさどる

類語
 孤斟シリン 不斟シリン 淺斟シリン 滿斟シリン
 盈斟シリン 小斟シリン 獻斟シリン 酌斟シリン

【幹】カク ①めぐる、めぐらす、まはす②つかさどる

類語
 揮斥シキ 貶斥シキ 指斥シキ 推斥シキ
 排斥シキ 擯斥シキ 攘斥シキ 黜斥シキ
 退斥シキ 沈斥シキ

【斧】フ ①をの、まさかり、木をきる具、又いさ道具②きる、をのにて物をきる

【斧】フ ①をの、まさかり、木をきる具、又いさ道具②きる、をのにて物をきる

【斧】フ ①をの、まさかり、木をきる具、又いさ道具②きる、をのにて物をきる

【斧】フ ①をの、まさかり、木をきる具、又いさ道具②きる、をのにて物をきる

【斧】フ ①をの、まさかり、木をきる具、又いさ道具②きる、をのにて物をきる

【斧鑿痕】フツクノアト 詩文・書畫等を作るに餘りにいぢり過ぎて自然の趣を失ふこと、細工し過ぎたる痕跡。

類語

快斧クワイ 巨斧キョ 勁斧テイ 樵斧セツ 資斧フシ 長柯斧チヤウ 蟻螂斧ノウラウ

斫

シヤク

①きる(斬)きり倒す、きりくづす、切りはなす②おろか(愚)

類語

斫斫シヤク 斫斫シヤク 刺斫シヤク 齒斫シヤク 斫斫シヤク 探斫シヤク 開斫シヤク 劈斫シヤク

七十八畫

斬

サンザン

斬

①きる(斫)切りはなす②ころす(殺)又

伐ち減ぼす①たつ(斫)たゆ、つきる②喪服の一、裁ちたるまゝ縫はざる衣服する③草木を刈取ること④退治すること、とりのぞくこと。

【斬伐】ザンバツ ①罪人を斬ること、うち減ぼす②木を切ること。

【斬首】ザンシユ 首を切る、又切落したる首、うち首。

【斬級】ザンキフ 敵の首をきりとる、しるしをあげる。

【斬殺】ザンサツ きりころす。

【斬罪】ザンズイ 死刑、首をはねる刑罰。

【斬新】ザンシン 新しき形にて奇抜なると。

【斬髮】ザンパツ さんざり、散髮。

【斬級】ザンキフ 斬級に同じ。

【斬奸狀】ザンカンジヤウ 次に同じ。

【斬盜狀】ザンタウジヤウ 悪人を殺すに至つた趣意書。

【斬馬劍】ザンバナケン 名劍の名、馬をもよく斬り得らるゝ程の鋭い劍。

【斬刻哀】ザンコクアイ 身をきらられるほどの悲しみ。

【斬蛇劍】ザンダノケン 名劍の名、漢の高祖が

蛇を斬りたる劍。【斬し將奉し旗】シヤウワキリハタラマク 敵將を殺し敵の旗を奪ふこと。

類語

腰斬エウ 擊斬ゲン 屠斬ダン 斷斬ダン 擒斬ザン 俘斬フン

斷

サク

きる(斬)たちきる、處斷する

斯

シ

斯

①か、かく、かゝる、又この、これ、こゝ②無意味の助字③さく(折)くじく(挫)④いやし(賤)⑤かしらづみ⑥しるし(白)

九畫

新

シン

新

①あらた、あらたなり、あたらし、あらたにす②あらたに、はじめて、このたび③にひ、あら④新事物⑤王朝の號⑥新人⑦新らしき思想の持ち主⑧罪をゆるされて新たに生きたる人⑨新婚の人。

【新曲】シンキョク 作曲して日尙ほ淺き音樂のふし、新らしき歌曲。

【新宅】シンタク 新築の家。

【新米】シンマイ ①その年に出来たる米②新參の者を侮りていふ語。

【新兵】シンヘイ 入營して間のなき兵士。

【新作】シンサク ①あらたにつくりし文藝の作品②新たに設けつくる、新造。

【新妝】シンサウ あらたに化粧す。

【新枕】シンシン 初めて男女が同衾すること

【新味】シンミ 其年に味はふ初物。

【新昏】シンコン 新婚に同じ。

【新泥】シンディ 塗りたての壁。

【新案】シンアン あたらしき工夫、初めて思ひつきしもの。

【新帝】シンテイ 新たに即位ありし天子。

【新郎】シンラウ にひむこ、はなむこ。

【新律】シンリツ 新法の②に同じ。

【新春】シンシュン はつはる、早春。

【新派】シンパ ①新たに組織したる黨派②俳優の舊派に對する稱。

【新院】シンエン 新たに上皇となられし方の稱號。

【新酒】シンシュ ①その年に醸造したる酒。

【新條】シンジョウ 新しく設けられたる法律。

【新參】シンサン 新たに仕へる、新たに仲間に入る、又その者。

【新造】シンゾウ ①初めて造る②他人の妻の若きものゝ稱。

【新進】シンシン ①あらたにすゝみ出る②新らしき思想の持主にて前途有望な者。

【新梢】シンセウ ①竹の異名②新たに芽を出せし枝。

【新涼】シンリョウ はつ秋に感ずる涼しさ。

【新鬼】シンキ 最近に死んだ人、新佛。

【新教】シンキョウ 羅馬舊教に反對して唱へられたる基督教の一派、プロテスタント。

【新設】シンセツ 初めてつくりまうける。

【新婦】シンブ ①はなよめ②息子のよめ

婦人の謙稱。
 【新規】シンキ ①あたらしきこと ②新法のことに同じ。
 【新報】シンバウ 新しき報道、又それを書きしるしたるもの、轉じて新聞紙のこと。
 【新婚】シンコン あらたに結婚すること。
 【新晴】シンセイ 雨あがりの空。
 【新渡】シント 最近外國より渡りたる物。
 【新開】シンカイ 新墾に同じ。
 【新粧】シンシャウ つくりたてのけしやう、新たに裝ふ。
 【新陽】シンヤウ 初春の意。
 【新嘗】シンシャウ 其年の新穀を神に奉りまた天皇もきこしめす神事。
 【新説】シンセツ 新らしき學說。
 【新調】シンテウ ①新たに作る ②新曲。
 【新術】シンジュツ あらたに授かる官位。
 【新聞】シンブン ①日本にては毎日の出來事を報道する出版物 ②清國にては新しき事件、耳あたらしき話。
 【新撰】シンセン 新たに書物をつくること。
 【新曆】シンレキ ①新らしきこよみ ②太陰曆に對し太陽曆のこと。
 【新緑】シンリョク 初めて芽ざしたるみどり色、初夏の若葉。
 【新趣】シンシュ 清新なる趣向。

【新穀】シンコク 其年初めて取りし米穀。
 【新編】シンペン 流行品、新らしきかた。新たに編纂したる書籍。
 【新醅】シンパイ 新しく醸造せしもろみ酒。
 【新禧】シンキ 新年のよろこび。
 【新學】シンガク 新しい學問、しんきな學。
 【新寮】シンリョウ あたらしき家。
 【新聲】シンセイ 新曲に同じ。
 【新築】シンチク あらたにきづく。
 【新雕】シンテウ 新版に同じ。
 【新羅】シンラ 古代朝鮮の一邦土。
 【新燎】シンリョウ かゞり火。
 【新墾】シンコン 荒地を開墾する意、又其地。
 【新鮮】シンセン 新らしく清らかなること。
 【新舊】シンキウ 新らしきと古き、新古。
 【新籍】シンセキ 新らしき帳簿、又は新刊書籍類。
 【新篋】シンキョウ 本年生じたる竹の皮。
 【新體】シンタイ あらたに工夫したる體裁、しんきの工夫。
 【新湯】シンタウ 人の未だ入らざるふる。
 【新生涯】シンセイガ 新たな方面、新らしき局面。
 【新世界】シンセイカイ ①北亞米利加洲と濠洲利洲 ②新たに開かれたる場所。
 【新相知】シンサウチ 新らしき友だち。

【新面目】シンメンモク あたらしき趣き、嶄新なる趣向。
 【新嘗祭】シンシャウサイ 其年の新穀を神に奉り天皇もきこしめす大祭、毎年十一月廿三日に行ふ。
 【新發意】シンハツイ 新たに佛門に入りし者。
 【新機軸】シンキタク 從來の品に一段と嶄新味を加へたるもの、新案。
 【新體詩】シンタイシ 西洋の詩風をまねて作りし長歌。
 【新年宴會】シンネンエンカイ ①一月五日宮中にて新年を祝するため百官に酒肴を賜はる宴會 ②總て新年を祝して催す宴會
 【新陳代謝】シンチンタイシヤ 古きものはさり新らしきものゝ入りこむをいふ、轉じて新舊入れかはること。
 【新婚旅行】シンコンリョウリョク 結婚を祝福して新夫婦のする旅行、ホネムトンの課。
 【新聞辭令】シンブンジレイ 官吏の任命等を新聞が豫想して紙上に書くことをいふ。
 【新沐者彈冠】シンボクシャダンクワン マラタニモクスルモノハクワシラハジク
 我身を潔くせんと欲するものは其附屬物をも清潔にすべしとの意。
 【新涼入二郊墟】シンリョウニキョウキョ 新しき涼氣が村はづれ迄來りしこと、轉じて大分涼しくなりたるをいふ。

類語

一新シンイツ 日新ニツシン 維新イシン 珍新シンシン
 鮮新センシン 履新リンシン 更新カウシン 最新サイシン
 時新ジシン 嶄新サンシン 温古知新オンコチシン

十一二十一畫

斲

タク きる(斲)木をきる、けづる(削)

斲

斲の俗字



①たつ(絶)きる(截) ②見すてる、廢す、ことわる(謝絶) ③さだむ(決) ④さばく、裁判する ⑤専一なる貌、まごころのある貌 ⑥必ず、きつと ⑦わかつ(分)分れる ⑧きつと、かならず ⑨國訓ことわり、ことわる(わけ)を述べる、挨拶する、わびる)

【斲水】タンシキ 水道の水をとめる。
 【斲片】タンペン きれはし、きれよくにてまとまらぬもの。

【斲乎】タンコ きつぱり決するさま。
 【斲行】タンカウ 思ひきつて決行すること。
 【斲決】タンケツ とり定める、決断の意。
 【斲言】タンゲン 断定したる言、いひきる。
 【斲弦】タンゲン きれたる弓づる。
 【斲念】タンネン 思ひきる、あきらめる。
 【斲屋】タンガイ 眞二つに切りたる如く急なるがけ。
 【斲定】タンテイ さばく、取りきめる。
 【斲岸】タンガン 險しき、きりぎし。
 【斲金】タンキン 友情のふかきをいふ語、極めて厚い交情。
 【斲食】タンシキ 食物をたつ、宗教苦行の一。
 【斲面】タンメン こぐち、きりくち。
 【斲限】タンゲン きまりをつける、界を定む。
 【斲罪】タンザイ 罪を断じて刑に行ふ。
 【斲雲】タンウン きれん、の雲、ちぎれぐも。
 【斲酒】タンシユ 酒をのむことをやめる。
 【斲峯】タンボウ けはしき峯。
 【斲送】タンソウ なげすめる、うちやる。
 【斲港】タンカウ 堀どめ、ゆきどまりの川、港はえだ堀。
 【斲根】タンコン ①根をたちきること ②陰莖をたちきること。
 【斲崖】タンガイ 斲崖に同じ。
 【斲梅】タンバイ 梅雨のあくこと。

【斲案】タンアン 論理學の語、前提より推論せられたる断定。
 【斲業】タンギ 關係をたつこと。
 【斲訟】タンシヨウ 訴訟事件を裁断すると。
 【斲斬】タンゼン たち切る。
 【斲梗】タンカウ 轉々として定まらざる貌。
 【斲絶】タンゼツ ①きつぱり絶ゆること、又杜絶すること ②家がつぶれる。
 【斲割】タンカウ 物事を切りもりして宜しき様にすること。
 【斲落】タンラク 段落に同じ、文章等のひとくぎり、又物事の一くぎり。
 【斲然】タンゼン 斲乎に同じ。
 【斲腸】タンチャウ 悲痛の切なるさま(例)斲腸のおもひす。
 【斲辟】タンベキ つみを決定す。
 【斲魂】タンコン 心をいため苦しむ。
 【斲疑】タンギ 疑を絶ちきること、即ち疑の晴れたる貌。
 【斲獄】タンゴク 訴訟を聴き處断すること。
 【斲截】タンサイ たちきる、切断。
 【斲綻】タンタン きれほころぶ。
 【斲篇】タンペン 短き文章、断編も同意。
 【斲線】タンセン 線が絶ち切れること、又切れたる糸。
 【斲穀】タンゴク 穀物をたち食はぬと、斲食。

【斷層】ダンソウ 地層にひびわれを生じたるをいふ。
 【斷機】ダンキ 斷機之誠を見よ。
 【斷橋】ダンキョウ 中斷されて渡れぬ橋梁。
 【斷簡】ダンカン 斷片の文章、きれんくの書きもの。
 【斷壞】ダンクワイ 崩壞する貌。
 【斷々】ダンダン きつぱりする。
 【斷續】ダンゾク きれたり續いたり。
 【斷巖】ダンガン きり立ち聳えたる岩。
 【斷末魔】ダンマツマ 死にぎは、臨終。
 【斷金交】ダンキンマヅマリ 交はりの極めて親密なるをいふ語。
 【斷金契】ダンキンチキリ 水魚の契り、即ち極めて固き約束、又は親しき交際。
 【腸花斷】チヤウワタダン 秋海棠の異名。
 【斷頭臺】ダントウダイ 罪人の首をきるだ、死刑に處するだ。
 【斷二糧道】ダンニリヤウダウ 兵糧の道をたつこと。
 【斷二奔路】ダンニホンロ 逃げみちをたつ。
 【斷章取義】ダンシヤウクシギ 詩文を作るとき作者の本意を度外し自己の用となす所のみきりはなして用ゐること。
 【斷髮文身】ダンパツブンシン 斷髮して入れ墨をすること、野蠻の風習。

【斷機之誠】ダンキノイマシメ 孟母が機を断ちて孟子をさとしたる故事に因み親が親切に子をさとすをいふ。
 【斷二牛馬二截二盤區】ダンニウバニセツパンイタクル 飯の非常に鋭利なるにいふ。
 類語
 果斷クワ 雄斷ユウ 勇斷ユウ 剛斷ガウ
 獨斷ドク 武斷ブダン 明斷メイ 決斷ケツ
 裁斷サイ 聽斷テイ 嚴斷ガン 專斷セン
 評斷ヘン 沈斷シン 處斷ショ 英斷エイ
 偏斷ヘン 速斷ソク 臆斷オク 判斷ハン
 宸斷シン 勅斷チヨク 專斷セン 節斷セツ
 戡斷カン 斬斷サン 斬斷サン 伐斷ハツ

方部 方

方、かた、方角、むきとところ(所)場所、土地(所)がら(事件)おこく、はなつ(放)たもつ(有)四方の板、ふだ(札)轉じて書物(みち)道義(向)ふ所(行先)よろしきかなふこと(くらぶ(比較)ひとし(等)まさきに、ちやうど、恰も)わかつ(別)たゞし(正)ならふ(效)さかふ、そむく(わざ)わざ(技藝)技術、特に醫術や神仙術(種)類)あたる(當)しかた、やりかた、謀略(國訓)かた(仕様)、みどころ、爾くなりかかつてゐる時、又所(物事)を取扱ふ者、人を指す敬語
 【方人】ハウジン 味方の者、かたうど。
 【方丈】ハウジヤウ 寺の住職の居室は一丈四方を標準としたるより轉じて住職のこと(神仙)の住むといふ海中にある山(一丈)四方のひろさ。
 【方士】ハウシ 周代の官名(仙術)を研究する道士又は方術の士。
 【方土】ハウト 地方、くに。
 【方寸】ハウシン 一寸四方、轉じて僅かなる大きさ(心)のある所、又單に心、むね、胸中。
 【方井】ハウセイ くりみ天井。
 【方内】ハウナイ 天下、國內、人の世。

【方斗】ハウト 正方形の樽。
 【方册】ハウサク 書籍、記録、文書。
 【方冬】ハウトウ 陰曆十月の異稱。
 【方田】ハウテン 縦横のひとしき田畑。
 【方正】ハウセイ 行の正しきこと、又その人。
 【方今】ハウコン 現時、只今、いまの世。
 【方外】ハウグワイ ①人道外の義で世を捨てること、後世主として僧侶のことをいふ(國)の外、蠻地。
 【方向】ハウカウ 進み行く方角。
 【方式】ハウシキ 方法形式、かた。
 【方技】ハウキ 醫藥に關する技術。
 【方頁】ハウケツ おさへどころなきこと。
 【方位】ハウイ 方角と位置。
 【方志】ハウシ ①正しき志(地方)の事情を記せる書類。
 【方折】ハウセツ 四角にをれまがる。
 【方里】ハウリ 土地の面積を計るに用ゆる單位にして一里四方のひろさ。
 【方伯】ハウハク 一地方の大名、大諸侯。
 【方言】ハウゲン 地方の語、くになまり。
 【方角】ハウカク 東西南北等のむき、又目的の方、あてど。
 【方枕】ハウチン 四角の枕、即ち箱枕。
 【方柿】ハウシ ごしよがき。
 【方物】ハウブツ 方土の産、土地の産物。

【方社】ハウシヤ 四方の神と土地の神。
 【方金】ハウキン 徳川時代の貨幣、つぶきん。
 【方重】ハウチュウ 端正にして重みあると。
 【方便】ハウベン 佛が衆生を導く爲の假の手段(ま)にあはせの手段、便宜の方法。
 【方計】ハウケイ 手段、はかりごと。
 【方面】ハウメン ①かくばつたかほつき(一)方面、むき、方向。
 【方皇】ハウワウ さまよふ、彷徨に同じ。
 【方員】ハウイン 四角とまるがた。
 【方針】ハウシン ①方角を示す針(め)めざす方目的、主義。
 【方直】ハウチヨウ 端正にして率直なると。
 【方案】ハウアン もくろみ、もくろみ考へるの意。
 【方矩】ハウコ 曲尺、かねざし。
 【方壺】ハウコ 神仙の住む海中五島の一。
 【方術】ハウジュツ ①わざを練磨すること(神仙)の術、不思議の術。
 【方隅】ハウコク すみ、一方のすみ。
 【方策】ハウサク ①はかりごと(方册)書物。
 【方罫】ハウケイ 碁盤の上にある縦横の線。
 【方廉】ハウレン 正直にして潔白なること。
 【方賄】ハウワイ 地方に産する財貨、方物。
 【方略】ハウリヤク 計策、はかりごと。
 【方圓】ハウエン まると四角、方員。

【方積】ハウセキ 四角なる面積。
 【方潔】ハウケツ 方廉に同じ。
 【方劑】ハウヂ 藥を調合すること、調劑。
 【方輿】ハウイ 大地、つち。
 【方檢】ハウケン 正しきおこなひ。
 【方轍】ハウエン 車の轆を正しくならべる。
 【方嚮】ハウカウ 方向に同じ。
 【方鏡】ハウキヤウ 四角のかげみ。
 【方嚴】ハウゲン 正直にして嚴格なること。
 【方寸地】ハウシンチ わづかの場所。
 【方山冠】ハウサンクワン ①昔の人の被つた冠(高い)山の四角なもの。
 【方位角】ハウイカク 磁石の子午線の方向と地理學上の子午線の方向との角。
 【方面寄】ハウメンキ 一方面を守るべき任務をたのむこと。
 【方程式】ハウテイシキ 同價値の二つの式より未知數を索める代數學の算法。
 【方解石】ハウカイシキ 礦物の一、光線を二重に屈折する特質を有するもの。
 【方量官】ハウリヤウカン 土地を検する役人。
 【方頭魚】ハウトウキョ 魚の名、あまだひ。
 【方向轉換】ハウカウケンバウ 向ひ進む方向をかへる、むきをかへる。
 【方面委員】ハウメンイ 市町村の囑托を受け或地區内の社會事業に従事する役員

【方伯連帥】ハクハクレンスキ地方の諸侯。
【方納國鑿】ハクベイエンサク物事の合はざるに譬ふる語。

【方田均税法】ハクヂンケンセイハフ 宋の王安石の立てし徵税法の名。
【方法的淘汰】ハクハフテキタウダ 人爲的淘汰と同意。

類語

上方ハクヤウ 別方バクバフ 十方バクシウ 他方ハク
新方ハクシン 貞方ハクテイ 良方ハクリョウ 外方ハクガイ
多方ハクタフ 諸方ハクシヨ 蠻方ハクマン 正方ハクセイ
奇方ハクキ 小方ハクコウ 醫方ハクイ 精方ハクセイ
矩方ハクコウ 藥方ハクヤク 忠方ハクチュウ 端方ハクタン
藩方ハクハン 百方ハクヒャク 開方ハクカイ 直方ハクジキョウ
遠方ハクエン 下方ハクカウ 禁方ハクキン

四一五畫

於

於

【於】ヨリ(比較の語)よりもヨリに、を(てに)を(は)ヨリに(此)この所に、この場にヨリて、方つて、至つて、及んでヨリお

旁に同じ

於

ける、兩者の關係比較を示す語。稱呼の上に冠する語(居)歎息また感歎の聲、あ、から(位置を示す)

【於乎】ハク 嗚呼と同じ、感歎の聲。
【於邑】ハク 煩悶すること、憂へるさま。
【於咽】ハク ながきむせぶ貌。
【於菟】ハク 虎の異名。
【於戲】ハク 歎息の聲、あ、嘆美の聲

類語

【施捨】ハクシヤ 恵み與へること。
【施從】ハクシユウ 見え隠れに跡をつけゆく。
【施爲】ハクシキ 事を行ふ、又ほどこす、する、なす、施行。
【施設】ハクシセツ ころらへ設ける。
【施脱】ハクシキヤウ 上より頂戴すること。
【施賑】ハクシジン 物を與へて悦ばしむ。
【施與】ハクシヨ 物をあたへほどこす。
【施濟】ハクシサイ 物を恵み與ふ。
【施鍼】ハクシシン 針を體にさして療治する。
【施用】ハクシヨウ 爲し行ふ、事を行ふ。
【施主】ハクシシュ 檀那の意、僧侶に物を與ふる者。非儀法事の時其主となる人。
【施療】ハクシリョウ 無代にて病者を診療す。
【施餓鬼】ハクシガキ 餓鬼に施す意、即ち無縁の亡者の靈を弔ひて讀經供養すること。

類語

【施評】ハクシヒョウ そばからの評議。
【施搜】ハクシソウ 廣くさぐりだす。
【施註】ハクシチュウ 本文のわきに書く解釋。
【施牌】ハクシパイ 矢を防ぐたて。
【施薄】ハクシハク まじる、混合。
【施燭】ハクシロク あまねく照す。
【施燭】ハクシロク 混合して一となすこと。見違へる意。
【旁若無人】ハクニヤクムジン 人を人とも思はぬ勝手なる振舞をなすこと。

六畫

旁

旁

【旁】ハク 側、わき、ほとり(邊)あまねく(普)ひろし(廣)につくり(漢字の右方)ヨリ(依)旁午は交はり横はる、縱横する。旁確は混同する、ひるがる。馬が馳驅して休まぬ貌。國訓かた(づ)ついで、がてら、どのみち)【旁引】ハクイン あまねく引き出す、廣くさぐり出す、つぶさに考察す。
【旁午】ハクゴ 往來の頻繁なるさま。
【旁求】ハクキウ 廣く求める、限なくさぐる。
【旁行】ハクコウ 廣く行わたる。横にゆく。【旁系】ハクケイ 直系に對して云ふ語にし一系圖の分れ筋、分れの血すぢ。
【旁妻】ハクサイ 妾婦の意。
【旁唐】ハクタク 限りなく廣がるさま。
【旁々】ハクハク 馬の馳驅してやすまぬ貌。
【旁穿】ハクセン 何れへも通じ得ること。
【旁側】ハクソウ そば、わき、側に侍する人。
【旁進】ハクシン 廣く通達すること。

【旃旄】ハクテン 旗の垂れ下れる所。遊に同じ。旄に同じ。

【旃】ハクテン 旗の垂れ下れる所。遊に同じ。旄に同じ。

類語

【旃旄】ハクテン 旗の垂れ下れる所。遊に同じ。旄に同じ。

旃

旃

【旃】ハクテン 旗の垂れ下れる所。遊に同じ。旄に同じ。

類語

千旆(セン) 旆旆(ヘイ) 將旆(シヤウ) 羽旆(ウ)

旆

①はた(旆旗の總稱)②種々の色の帛を以て邊をつゞれる旗③旗の垂るゝ貌、又その形に似たるもの

訓讀

【旆を旋らす】旋旆(ヘイ)を引きかへす。軍旗を後にかへす、軍隊を引きかへす。

類語

懸旆(ケン) 旗旆(ヘイ) 羽旆(ウ) 飛旆(ヘイ) 錦旆(キン) 戎旆(ジュウ) 幡旆(ハン) 大旆(ダイ)

旅

①五百人の軍隊の稱、轉じて軍隊の意もろく(衆多)民衆②たび、たびす、さすらひ、旅行③山神を祭ること④部下の義(つらぬ、ならぶ(列)とも)にす(俱)⑤順序をたて、共に並べる⑥易の卦の名⑦ついで(序)

旅

【旅力】リョリョク 衆多の貌、もろくの意。

【旅生】リョセイ 種をまかず生える、野生。

【旅行】リョコウ たびをする、道ゆき。

【旅次】リョジ 旅行の泊り、旅舎。

【旅店】リョテン 是たごや、旅館。

【旅券】リョケン 海外へ旅行する者に對して外務大臣が與ふる許可證。

【旅客】リョカク たびと、旅人。

【旅亭】リョテイ 旅館、はたごや。

【旅食】リョシヨク 旅にあること。

【旅思】リョシ 旅中のおもひ、旅の情緒。

【旅宿】リョシュク 旅亭に同じ。

【旅情】リョジョウ 旅思に同じ。

【旅寓】リョヨウ 旅中のかりずまひ。

【旅途】リョト たびち、旅のみち。

【旅愁】リョシュウ 旅行中に感ずる悲哀、旅情のせつなき。

【旅酬】リョシュウ 祖先の祭りの後に行ふ酒宴の禮。

【旅程】リョテイ 旅途に同じ。

【旅費】リョヒ 旅の入費、ろぎん。

【旅賈】リョカ 行商人、旅あきうど。

【旅團】リョダン 二個聯隊より成る軍隊。

【旅裝】リョサウ 旅の仕度。

【旅魂】リョコン 旅中のこゝろ、旅思。

【旅館】リョカン 旅店に同じ。

旅

旒

①めぐる、まはる(廻轉)②返す、かへる(反)③めぐらす、向きをかへる④かへつて、還つて⑤ゆばり(小便)⑥ゆ

旒

類語

一旅(イチ) 愁旅(シュウ) 羈旅(キ) 逆旅(ギャク) 商旅(シヤウ) 帝旅(テイ) 征旅(テイ) 彊旅(キヤウ) 祖旅(ソ) 進旅(シン) 軍旅(クン) 師旅(シ) 行旅(コウ) 賓旅(ヒン) 武旅(ブ)

七一九畫

旒に同じ

旒

下の句も五七七の三句から出來た歌。【旒乾轉坤坤】ケンテララコソコソケンテララコソコソ 天地を回轉する意、轉じて國家を改革し面目を一新せしむること。

類語

廻旒(クワイ) 周旒(シュウ) 轉旒(テウ) 盤旒(ハン) 凱旒(ガイ) 班旒(ハン) 展旒(ゼン) 便旒(ベン) 規旒(キ) 環旒(カン) 幹旒(カン) 渦旒(ク)

旌

①はた、旆旗の總稱②旗竿の上に旆の尾をつけ之にさいいた鳥の羽をつけて垂らしたる旗③あらはす(表)表彰する

旌

【旌引】セイイン 表はし掲げる。

【旌功】セイコウ 功績を表示すること。

【旌別】セイベツ 善惡を識別すること。

【旌命】セイメイ 人材をあげ用ゐる、又はた。

【旌門】セイモン 旗を以てかざり作りし門。

【旌表】セイヘウ 美德・善行等を公表すること。

【旌旆】セイヘイ 指揮する旗。

【旌旆】セイヘイ 旆旗に同じ。

【旌掲】セイケイ 衆人に示すやうに書いてはり出す。

【旌旗】セイキ 是た、主として指揮する旗。

旌

旒

旒旒と連用す、旗のひらめく貌

旒

【族】ソク ①やから、うから、みうち、なまこあつまる(衆)むらがる(族)②物がいりくんでゐる所③うち、かばね、姓氏④一人の罪のため一家親類皆罰せらるゝこと⑤矢のさき、やじり(鐵)

【族人】ソクジン 親類縁者、一門の人々。

【族子】ソクシ 親族の子ども②姪。

【族父】ソクフ 祖父母の兄弟、父のまたい

とこ、おぼちび。
 〔族生〕ソクセイ 族生に通ず、むらがり生ず。
 〔族味〕ソクシ 鶉の異名。
 〔族姑〕ソクコ 祖母の女きやうだい。
 〔族殺〕ソクサツ 三族を刑しころす。
 〔族制〕ソクセイ 家族に關する制度のこと、家族制度。
 〔族姻〕ソクイン 嫁又はむこの家族。
 〔族宗〕ソクソウ 一族の人。
 〔族姓〕ソクセイ ①族と姓、家族及其姓氏②同姓と異姓③家柄の尊卑貴賤。
 〔族望〕ソクバウ ①立派なる家柄②一門のほまれ。
 〔族滅〕ソクメイ 族殺に同じ。
 〔族稱〕ソクショウ 華族・平民等の如く身分の階級のとなへ。
 〔族譜〕ソクフ 一族の系圖。
 〔族類〕ソクルイ 一門、しんるゐ。
 〔族籍〕ソクセキ 身分と戸籍、族稱と人別。
 〔族黨〕ソクタク 一族、徒黨、家人。
 〔族類〕ソクルイ おなじやから、親族一門、同族。
 〔族外弟〕ソクグワイテイ 祖父の兄弟の子。
 〔族祖姑〕ソクソコイ ①とこおほをば、祖父の女いとこ。
類語

一族ゾイチ 庶族ゾク
 名族ゾメイ 宗族ゾク
 同族ゾドウ 非族ゾヘク
 分族ゾブン 疆族ゾキョク
 大族ゾダイ 姓族ゾセイ
 枝族ゾエツ 豪族ゾゴク
 素族ゾソ 華族ゾカ
 類族ゾルイ 絶族ゾゼツ
 世族ゾセ 異族ゾイ
 官族ゾカン 他族ゾカ
 種族ゾシュ 別族ゾベツ
 姻族ゾイン 門族ゾモン
 苗族ゾヘウ 貴族ゾキ
 皇族ゾクワウ 賤族ゾセン
旖 テウ
 ①はた(龜と蛇との圖を畫きたるはた)
 ②帛の長さ八尺のはた
旒 リウ
 ①はたあしのがれさがれる部分②たれの前後に下げたあたまかさざり
 〔旒旒〕リウリウ たれのつきし旒。
 〔旒冕〕リウメン 貴人の冠、玉飾を前後に垂れたるもの。
 〔旒綬〕リウシウ ①はたあし。
 〔旒縵〕リウマン 旗のながし、旗にたれさがれるもの。
類語 玉旒リウヨク 宸旒リオン 采旒リヨイ 冕旒リオン

球旒リウキウ 寶旒リウヘイ 端旒リウタン 藻旒リウソウ
十一十六畫
旖 イ
 ①旖旎は旗のひらめくさま②盛んなり
 ③たなびくさま、雲が横はるさま
 〔旖旎〕イチ 旗のひら／＼となびくさま。
旗 キ
 ①はた、はたの總稱②しるし(表標)③星の名(其に同じ)④清時代の軍隊の稱
 〔旗下〕キカ ①大將に直屬する武士、麾下
 ②徳川家直參の武士、はたもと③大將の居る本陣。
 〔旗手〕キシュ 旗もち、軍旗を維持する者に
 して聯隊少尉が之れをつとめる。
 〔旗色〕キシキョク 旗の紋、はたじるし、旗幟。
 〔旗竿〕キカン ①はたざを、杠。
 〔旗亭〕キテイ 料理店、遊郭、藝妓屋、はたごや。
 〔旗章〕キシヤウ 旗色に同じ。
 〔旗魚〕キキョウ 魚の名、かぢきまぐる。
 〔旗鼓〕キコ 戦争用のはたとつゞみ④戦

場④軍勢、兵力。
 〔旗標〕キハウ 旗章、旗色に同じ。
 〔旗幟〕キシ ①はたのぼり、軍旗②はたじ
 るし、はたいてる③敵味方を區別する標
 度(例)旗幟を鮮明にする。
 〔旗幟〕キカシ 一艦隊中司令官旗を掲げ司
 令官の坐乗せる軍艦。
 〔旗幟〕キカシ 是た。
 〔旗本衆〕ハタモトシウ 徳川時代將軍直參の士
 にして將軍家のお目見得を許されたる
 武士。
 〔旗幟鮮明〕キシシメイ 旗色の明かなること
 轉じて己が主義を明らかならしむ意。
類語
 羽旗ヨリ 雲旗レイ
 支旗キデン 華旗キクワ
 旌旗キキョウ 槍旗キキョウ
 旛旗キペン 天旗キテン
 采旗キサイ 牙旗キガ
 白旗キハク 修旗キシウ
 青旗キセイ 赤旗キセキ
 幟旗キヤウ 旗旗キヘイ
 降旗キカウ 義旗キギキ
 義旗キギキ 戎旗キジュウ
 懸旗キケン 酒旗キシュ
 幟旗キヤウ 幟旗キヤウ

壇 セン
 赤地の旗にて周代公卿の立てしもの
 クワイ
旜 クワイ
 ①はた、赤地の帛にて作り大將の指揮
 するに用ゐし旗②いしゆみ(大木にて
 作り石を飛ばして敵をうつもの)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜)②あが
 る(揚)
旞 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旞)②あが
 る(揚)
旟 スキ
 はた(旌に似たるもの)
旗 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旗)②あが
 る(揚)
旘 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旘)②あが
 る(揚)
旙 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旙)②あが
 る(揚)
旛 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旛)②あが
 る(揚)
旜 ヨ
 ①はた(朱鳥と隼とを畫きし旜

【既發】キハツ 既におこりしこと。
 【既塵】キリン 毎月給せられる扶持米。
 【既濟】キセイ 易の卦名。
 【既生魄】キセイハク 陰曆の月の十七日。
 【既得權】キトクケン 法令に依り又は特定の行為をなしたる爲め既往に於て獲得したる權利をいふ。
 【既知數】キチスウ 未知數の對、代數學上の語にして既に値の知れ居る數。
 【既往不咎】キワウハトガメ 過ぎたる事實は咎むるに及ばずの意。

用ゐる語)
 【日工】ニツコウ ひかせぎ、日雇ひ仕事。
 【日夕】ニツセキ 晝も夜も、日夜。
 【日子】ニツレ ①ひかず、日數②日づけ、年月日③太陽の子、ひのみこ。
 【日中】ニツチュウ まひる時、又ひるのうち。
 【日午】ニツゴ 正午、まひる。
 【日々】ニツニツ ひび、まいにち。
 【日刊】ニツカン 毎日版にして發刊すると。
 【日出】ニツユツ ひので、日がでる。
 【日用】ニツヨウ 日ごとに用ふ、まいにち用ゐる。

【日星】ニツセイ 太陽と辰星。
 【日者】ニツシヤ ①昔日、さきの日②日の吉凶にてうらなふ人。
 【日食】ニツシヨク 日蝕に同じ。
 【日限】ニツケン 約束した當日、ひぎり。
 【日凍】ニツトウ 陰曆十一月の異稱。
 【日乘】ニツジヨウ 日々の記録、日誌。
 【日常】ニツジヤウ ふだん、平素、ひごろ。
 【日俸】ニツボウ 日給に同じ。
 【日參】ニツサン ①毎日神佛に參詣すること②日々役所に出勤すること。
 【日神】ニツシン ひのみかみ、天照大神。
 【日域】ニツキキ ①日の出づる處②日の照るかぎり、あめがした。
 【日記】ニツキ 日乗に同じ。
 【日進】ニツシン 日ましに進む。
 【日程】ニツテイ 毎日の仕事に對する見積。
 【日暮】ニツキ ①ひかげ、日光の影。
 【日給】ニツキツ 日々支拂ふ給料。
 【日勤】ニツキン 日々通ひつとめる。
 【日新】ニツシン 日々新しく進歩する意。
 【日景】ニツケイ 日昇に同じ。
 【日暈】ニツウン 太陽の周圍を雲氣が取かこむ現象。
 【日當】ニツタウ 日々支給する手當。
 【日精】ニツセイ 菊の異名。

日部

日

ジツ ニツ

日

①ひ、ひかげ、ひあし、太陽②ひる(晝)③日數のとなへ④つきひ(光陰)⑤ひと(一日)⑥とき(時)⑦ひび、ひごと、毎日⑧さきに(往者)⑨のちのひ、あけのひ⑩こよみ(曆數)⑪日の吉凶等を占ふ⑫國訓ひ(天皇の御事を申し奉るに)

【日蒸】ヒコウ 或障害物の爲め日光の照さぬ所。
 【日出國】ニツシュツコク ひいづるくに、日東。
 【日射病】ニツシヤビヤウ 強き日光にさらされて生ずる病氣、熱帯地方に起る。
 【日章旗】ニツシヤカキ 日の丸のはた。
 【日頭鏡】ニツトウケン 毎日うはまへをはねること、又そのかね。
 【日陰者】ヒカゲモノ かくれ人、世に知られることを憚る人。
 【日本魂】ニッポンタマシヒ 日本國民固有の精神大和魂。
 【日耳曼】ゼルマン(German)のあて字、獨逸。
 【日省月試】ニツセイゲツシ 毎日毎月官吏の勤務を視察する意。
 【日進月歩】ニツシンゲツポ 日に月に進歩して止まぬこと。
 【日新月盛】ニツシンゲツセイ 日に新らしくなり月に盛大におもむく。
 【日亦不足】ヒトモタカラズ 終日之を爲すも猶ほ事をなすに足らぬこと。
 【日改月化】ヒナラタマリツキニクワス 日々月々學問が進歩すること、總て物事が良くなる意。
 【日不移晷】ヒキアラワツマズ 日影が動かぬ、

時間経過せぬ貌。
 【日不三暇休】ヒカクワセズ 一日も休まぬ。
 【日中則長】ヒチウスレバスマナハチカタムク 次に同じ。
 【日中則移】ヒチウスレバスマナハチウツル 日もまひる以後は段々と傾ぐが如く物もみつればかくる意。
 【日出三竿】ヒイデサシカン 日が高く昇る貌。
 【日就月將】ヒニナリツキニスム 日に月に學業が進歩す意、すべて物事が順調に捗ることにいふ。
 【日暮途遠】ヒコクレチトホシ 前途なほ遠く目的の容易に達せられぬさま。
 【日薄西山】ヒセイヤシニセマル 日がくれかゝる、年老いて將に死せんとするさま。
 【日月無私照】ジツグワハシセウナレ 恩恵を施すことの公平無私なるさま。
 【日出處天子】ヒイラトコロノテンシ 昔支那にて日本國の天子のことをいふ。
 【日々新又日新】ヒニアラタニアラタナリ 毎日日絶えず進歩する意。
 【日附後定期拂】ヒツケゴトイキハラヒ 手形を振出したる日附より一定の期限に至りて後支拂ふ爲替手形。
 【日月逝矣歲不我與】ニチグワニクトロシワレトセナラズ 日月の過ぎることの早きをいふ。
 【日計不不足歲計有餘】ニツケイタラズサイケイアラ

【日誌】ニツシ 日記に同じ。
 【日暮】ニツボ 日暮がた、ひぐれ。
 【日課】ニツクワ 毎日なすべき仕事の課程。
 【日輪】ニツリン 太陽、ひ。
 【日蝕】ニツシヨク 太陽と地球間との一直線上に月が合致し月の爲めに太陽の一部或は全部を見ることを得ざる現象。
 【日曆】ニツレキ 日乗に同じ。
 【日牌】ニツハイ 死者の位牌の前に毎日物を供へて供養すること。
 【日録】ニツロク 日記に同じ。
 【日月】ジツグワ ①日と月②つきひ、光陰③一日、また一月④日、太陽(月は無意味の助字)。
 【日方】ヒカタ 西南より吹く風。
 【日付】ヒツケ 文書に記入しある年月日。
 【日外】ヒツワイ いつぞや、かつての日、日前に同じ。
 【日延】ヒノベ 期日をのばす、延期。
 【日和】ヒヨリ 空もやう、天氣、晴天。
 【日歩】ヒツ 百圓に對する一日の利息の割合をいふ。
 【日待】ヒマチ 陰曆十五日の夜、寢ずして日の出を祭ること。
 【日嗣】ヒツギ 天皇の御即位。
 【日賦】ヒツ 借金返済に對する毎日の額。

【日蒸】ヒコウ 或障害物の爲め日光の照さぬ所。
 【日出國】ニツシュツコク ひいづるくに、日東。
 【日射病】ニツシヤビヤウ 強き日光にさらされて生ずる病氣、熱帯地方に起る。
 【日章旗】ニツシヤカキ 日の丸のはた。
 【日頭鏡】ニツトウケン 毎日うはまへをはねること、又そのかね。
 【日陰者】ヒカゲモノ かくれ人、世に知られることを憚る人。
 【日本魂】ニッポンタマシヒ 日本國民固有の精神大和魂。
 【日耳曼】ゼルマン(German)のあて字、獨逸。
 【日省月試】ニツセイゲツシ 毎日毎月官吏の勤務を視察する意。
 【日進月歩】ニツシンゲツポ 日に月に進歩して止まぬこと。
 【日新月盛】ニツシンゲツセイ 日に新らしくなり月に盛大におもむく。
 【日亦不足】ヒトモタカラズ 終日之を爲すも猶ほ事をなすに足らぬこと。
 【日改月化】ヒナラタマリツキニクワス 日々月々學問が進歩すること、總て物事が良くなる意。
 【日不移晷】ヒキアラワツマズ 日影が動かぬ、

時間経過せぬ貌。
 【日不三暇休】ヒカクワセズ 一日も休まぬ。
 【日中則長】ヒチウスレバスマナハチカタムク 次に同じ。
 【日中則移】ヒチウスレバスマナハチウツル 日もまひる以後は段々と傾ぐが如く物もみつればかくる意。
 【日出三竿】ヒイデサシカン 日が高く昇る貌。
 【日就月將】ヒニナリツキニスム 日に月に學業が進歩す意、すべて物事が順調に捗ることにいふ。
 【日暮途遠】ヒコクレチトホシ 前途なほ遠く目的の容易に達せられぬさま。
 【日薄西山】ヒセイヤシニセマル 日がくれかゝる、年老いて將に死せんとするさま。
 【日月無私照】ジツグワハシセウナレ 恩恵を施すことの公平無私なるさま。
 【日出處天子】ヒイラトコロノテンシ 昔支那にて日本國の天子のことをいふ。
 【日々新又日新】ヒニアラタニアラタナリ 毎日日絶えず進歩する意。
 【日附後定期拂】ヒツケゴトイキハラヒ 手形を振出したる日附より一定の期限に至りて後支拂ふ爲替手形。
 【日月逝矣歲不我與】ニチグワニクトロシワレトセナラズ 日月の過ぎることの早きをいふ。
 【日計不不足歲計有餘】ニツケイタラズサイケイアラ

【日出而作日入而息】^{ヒイッテナシヒイッタイコフ} 自然のまゝに活動して無理をせぬさま。

【日ならず】^{不レ日} ひならず。①日数が多くかからぬ、日限を定めぬ。②日も暮れぬ。

【日を倍し行を井す】^{倍レ日并レ行} ひをばし、夜を倍す。一日に二日の行程をゆく、晝夜休まざるさま。

【日を曠しうし久しきに彌る】^{曠レ日彌レ久} ひをむなしくし久しきに彌る。光陰をむだに過して事をなさざるさま。

類語

- 元日 ^{ジツ} 晝日 ^{ジツ} 翌日 ^{ジツ} 旭日 ^{キョク}
- 旬日 ^{ジュン} 往日 ^{ウジツ} 忌日 ^{キニチ} 定日 ^{テイジツ}
- 旦日 ^{タン} 白日 ^{ハク} 烈日 ^{レイ} 落日 ^{ラク}
- 仄日 ^{シツ} 夕日 ^{セキ} 殘日 ^{ザン} 終日 ^{シュウ}
- 不日 ^フ 社日 ^{シャ} 常日 ^{ジョウ} 閒日 ^{カン}
- 即日 ^{ジュツ} 曆日 ^{レイ} 平日 ^{ヘイ} 臘日 ^{ラツ}
- 累日 ^{レイ} 惡日 ^{アク} 連日 ^{レン} 積日 ^{セキ}
- 醒日 ^{セイ} 吉日 ^{キチ} 曠日 ^{クワン} 曩日 ^{ノウ}
- 齊日 ^{サイ} サイニチ

一一二畫

【旦】^{タン} 旦 旦 旦

①あした、あさ、夜あけがた。②夜をあかす。③あきらか(明)。④ねんごろなるさま。

【旦夕】^{タンセキ} ①あさとばん、朝夕。②切迫せるさま。③極めて短いあひだ。

【旦那】^{タンナ} ①毎あさ。②懇ろなる貌。施主、轉じて婢僕に對して恵み與ふる者又妾が其の夫を呼ぶ語。

【旦昏】^{タンコン} 夜あけ方とくれがた。

【旦明】^{タンメイ} 夜の明けがた。

【旦晝】^{タンジュウ} 日中、ひるま。

【旦過】^{タンカ} 僧侶の一拍する所。

【旦暮】^{タンボ} ①且昏。②急迫の貌。③早く来る時をいふ。④あけくれ、つね。

- 曉旦 ^{タウタン} 元旦 ^{ゲンタン} 拂旦 ^{フキタン} 聖旦 ^{セイタン}
- 晴旦 ^{セイタン} 晨旦 ^{シンタン} 平旦 ^{ヘイタン} 月旦 ^{ゲツタン}
- 爽旦 ^{スウタン} 震旦 ^{シンタン} 早旦 ^{ソウタン} 明旦 ^{メイタン}
- 朔旦 ^{ソクタン} 日旦 ^{ニツタン} 今旦 ^{イマタン} 歲旦 ^{サイタン}
- 正旦 ^{テイタン}

【旨】^シ 旨 旨 旨

①むね、おもむき(意趣)。②よし(美)。うまし、うつくし。③うまい、美味である、おいしい。④わけ(意味)。⑤天子のおぼしめし。

【旨甘】^{シカン} 美味なる食物。

【旨肴】^{シカウ} 新らしく味よき魚。

【旨酒】^{シシュ} うまい酒、美酒。

【旨義】^{シギ} 意味、わけ、むね。

【旨意】^{シイ} 大意、むね、おもむき。

【旨蓄】^{シチク} 貯藏せる美味の食物。

【旨趣】^{シシュ} 旨意に同じ。

類語

- 音旨 ^{オンシ} 高旨 ^{カウシ} 慈旨 ^{ジシ} 淵旨 ^{エンシ}
- 中旨 ^{チュウシ} 奧旨 ^{オウシ} 盛旨 ^{セイシ} 芳旨 ^{ホウシ}
- 密旨 ^{ミツシ} 精旨 ^{セイシ} 宗旨 ^{シュウシ} 甘旨 ^{カンシ}
- 上旨 ^{ウエシ} 聖旨 ^{セイシ} 詔旨 ^{シウシ} 宸旨 ^{シンシ}
- 本旨 ^{ホンシ} 遠旨 ^{エンシ} 雅旨 ^{ヤシ}

一一三畫

【旬】^{ジュン} 旬 旬 旬

①十日、十日間。②とを(十)。③あまねし(徧)。④ひとし(均)。⑤みつ(滿)。⑥國訓しゆん(野菜・魚鳥等の味の最もよき季節、又轉じて凡ての物事の適當したる時期)。

【旬日】^{ジュンニチ} 十日間、十日ばかり。

【旬年】^{ジュンネン} 十年、十年ばかり。

【旬朔】^{ジュンシヨク} 十日とついたち。

【旬餘】^{ジュンヨ} 十日あまり。

【旬歲】^{ジュンサイ} 一年間、まる一年。

- 來旬 ^{ライジュン} 上旬 ^{ジョウジュン} 中旬 ^{チュウジュン} 下旬 ^{クワジュン}
- 初旬 ^{ソトジュン} 由旬 ^{ユジュン}

【旭】^{キョク} 旭 旭 旭

①あさひ、朝日、又日の出る貌。②驕れる貌、自得の貌。③又鼓動する聲。

【旭日】^{キョクニツ} あさひ、朝暉。

【旭旦】^{キョクタン} 日の出る頃。

【旭光】^{キョククワウ} あさひのひかり。

【旭々】^{キョクキョク} ①おごれる貌、自得の貌。②鼓動のするさま。

【旭暉】^{キョククイ} 旭光に同じ。

【旭旗】^{キョクキ} 日の丸のはた。

【旭輝】^{キョクキ} 朝光の輝くさま。

【肝】^{カン} 肝 肝 肝

①日がくれる(暮)。②盛んなる貌。【肝々】^{カンカン} さかんなる貌。

【肝食】^{カンシヨク} 勤務したる爲め晩く食事をす、事務に勉強す。

【旱】^{カン} 旱 旱 旱

①ひでり。②水なし、又水路に對し陸路のこと。

【旱天】^{カンテン} 夏の空、又ひでり。

【旱道】^{カンダウ} 陸路、水の無い道の義。

【早乾】カンカン ひでりにて水のかれると。
 【早雲】カンウン ひでりの雲。
 【早路】カンロ 早道に同じ。
 【早儉】カンケン ひでりにて禾穀稔らぬと。
 【早稻】カンタク をかば、陸田に作る稻。
 【早勉】カンパン はげしきひでり。
 【早潦】カンレウ ひでりと大雨ふり。
 【早蕪】カンゴウ かたくり、かたこゆり。
 【早水晶】カンセイシウ 礦物の一、硼砂。
 【早針盤】カンセンパン 羅針盤。

四畫

【峇】時の古字

【旺】ワウ

旺

①うつくし(美)又美しき光②さかな

【旺々】ワウワウ 盛んなる貌。
 【旺相】ワウワウ 清く榮ゆること。
 【旺盛】ワウセイ 極めて盛んなること。

【晏】ビン

①秋のそら、秋天②そら、天空

【昂】カウ

昂

①あがる(舉)高まる②物價があがる
 ③あきらか(明)④馬の行く貌⑤元氣ある
 貌、又激す

【昂々】カウカウ ①明らかなる貌②馬の走る貌③物價などの高くなる貌

【昂星】カウセイ 七曜星。

【昂然】カウゼン 得意なる貌②元氣に満ちたるさま。

【昂騰】カウトウ 物價などの高くなること。

【昉】シヨク

ソク

①かたむく(日が午後にかたむく)かたよる②ひるすぎ、午後

【昉】ハン

ハン

【昉】コン

昉

①のち、あと②あとつぎ、子孫③あに(兄)④あきらか(明)⑤おほし(衆)

【昆玉】コンギョク 兄弟、昆季に同じ。

【昆仲】コンチュウ 男のきやうだい。

【昆布】コンブ 海草の一、緑褐色帯状をなして叢生する、こぶ、ひろめ、綸布。

【昆池】コンチ うみ、海洋。

【昆季】コンキ ①昆は長兄、季は末弟、又兄弟②おとらと。

【昆命】コンメイ 物體の圓き貌。

【昆弟】コンテイ あにとおとらと、兄弟。

【昆後】コンゴ あとつぎ、子孫。

【昆孫】コンソン 來孫の子、玄孫の孫。

【昆蟲】コンチュウ ①むし、蟲の總稱②節足動物の一綱目で頭・胸・腹の三部が分明に區分し節ある六足を有するもの。

【昇】シヨウ

昇

①のぼる、上にあがる、日があがる、物事がよい方へ上達する②のぼす、あげる③たひらか(平)

【昇天】シヨウテン ①天にのぼる②盛んなる

【昇平】シヨウヘイ 穩かに治まる意、泰平。

【昇采】シヨウサイ 藥品の一、白色の荒い粉末で劇しい毒性を有す、鹽化第二水銀。

【昇級】シヨウキョウ 官位を進め任ず。

【昇降】シヨウカウ ①官位または地位が進みのぼる②等級がのぼる。

【昇給】シヨウキョウ 給料の増すこと。

【昇進】シヨウシン 昇級に同じ。

【昇殿】シヨウテン 参内を許さるゝこと、又その資格、即ち四位以上及藏人の六位の者。

【昇殿】シヨウテン 天皇の崩御、登遐。

【昉】ハウ

昉

①あきらか(明)②はじめて、まさに(適)

【昊】カウ

昊

①夏のそら、夏空②そら(天)

【昊天】カウテン ①夏のそら、又單にそら②天の神。

【昌】シヤウ

昌

①さかななり(盛)勢が盛んである、甜である②うつくし(美)よし(善)③あやめ(眞滿)④もの(物)

【昌平】シヤウヘイ 國榮え世静かなる貌。

【昌乎】シヤウフ ①さかななる形容。

【昌本】シヤウホン 藥草の一、あやめの根。

【昌言】シヤウゲン ためになる言葉、金言。

【昌阜】シヤウフ 盛大なるさま。

【昌々】シヤウシヤウ 盛んなる貌。

【昌然】シヤウゼン 前に同じ。

【昌盛】シヤウセイ さかん、繁昌、隆昌。

【昌富】シヤウフウ 運氣盛んにして富む。

【昌運】シヤウウン 盛んなる運命、さかななるまはりあはせ、盛んなる時勢。

【昌陽】シヤウヤウ 長命の藥、あやめの類。

【昌熾】シヤウシ ①さかななるさま、昌乎。

【昌平紋】シヤウヘイモン 切りつけしたる紋。問所。

【明】ミヤウ

明

①あきらか、光かやくこと、事理に通ずること、あらはれること、たしかなこと、はつきりしてゐること、よく見分けること②あきらけし、あきらかにす、あきらむ、あかす、發揮する③あく、夜があける④ひる(晝)⑤あす(明日)⑥かしこいひと(賢人)⑦此の世現世⑧かみ(神明)⑨王朝の名(明朝)⑩陽(陰の對)⑪有形(無形の對)⑫國訓あ(空虚になる)ひらく、すむ

【明火】メイカウ あかるき光。

【明日】メイニツ あす、あくる日。

【明月】メイゲツ ①あきらかなる月②陰曆八月十五日の月、又十五夜、もちづき。

【明文】メイブン 法典などに明記された立派なる簡條文。

【明王】メイオウ ①賢明なる王②佛語、佛の守護神。

【明天】メイテン 明日。

【明主】メイシュ 明王の●に同じ。

百昌シヤウ 文昌シヤウ 克昌シヤウ 盛昌シヤウ 蕃昌シヤウ 繁昌シヤウ 豊昌シヤウ

【明水】ノイスキ 神佛に供へたるお水。
 【明且】ノイタシ 明日のあき。
 【明白】ノイハク あきらか、疑ひなきさま。
 【明示】ノイシ ありかたに知らす。
 【明允】ノイイン 智ありて誠實なること。
 【明光】ノイクラウ あきらかなる光り。
 【明衣】ノイイ 祭式等に使用する衣服。
 【明秀】ノイシュウ 明らかにしてさとし。
 【明言】ノイゲン きつぱりと断言す。
 【明地】ノイヂ あからさま、つゝみかくさざるさま。
 【明命】ノイメイ 天の命令。
 【明快】ノイクラウ ①あきらかにして心地よし ②議論などの筋道のたてるさま。
 【明良】ノイリヤウ 賢明なる君の許には善良なる臣あること。
 【明府】ノイフ 太守縣令、我國の知事を尊んで言ふことば。
 【明々】ノイイ 極めて明らかなり。
 【明河】ノイカ あまのがは、銀河。
 【明法】ノイハフ あきらかなるのり、立派なるおきて。
 【明果】ノイクラウ 明智果斷の意。
 【明亮】ノイリヤウ 明らかにしてほがらか。
 【明指】ノイシ 明らかなる趣旨命令。
 【明幽】ノイウ ①この世とあの世 ②あきら

明

かとからき。
 【明時】ノイジ よく治れる世。
 【明際】ノイシ 兎の異名。
 【明信】ノイシン ①たしかなる音信 ②まじりけなき真心。
 【明珠】ノイシユ 光りかゞやく玉、寶珠。
 【明器】ノイキ 葬式に用ゐる諸道具。
 【明哲】ノイテツ 事理に明らかにして賢し、又其人。
 【明悉】ノイシツ 明らかにしつくす。
 【明朗】ノイラウ あきらかにしてほがらか。
 【明訓】ノイケン 立派な教へ、明白なる教訓。
 【明堂】ノイダウ ①天子巡狩の時の引見所 ②天子が政治をとり給ふ所。
 【明淑】ノイシュウ 明かにして清き貌。
 【明細】ノイサイ はつきりとくはし、詳細。
 【明敏】ノイミン 事に明るくして才智あり。
 【明教】ノイキウ 道理を明らかに教へ導く。
 【明習】ノイシユ ①くはしくならぶ。 ②明らなる手本、よき模範 ③すぐれたる鑑定。
 【明淨】ノイジヤウ 清くして奇麗なること。
 【明清】ノイセイ 清く明かなり。
 【明智】ノイチ 智慧ありて物事に通達す。
 【明綯】ノイケン 明らかにして美し。
 【明滅】ノイメイ 明くなつたり暗くなつたり
 【明詔】ノイセウ 明らかなるみことりのり。

【明眞】ノイレン 公明にして誠實。
 【明發】ノイハツ 將に明けんとする頃、よあけがた。
 【明媚】ノイビ 鮮かにして美麗なるさま。
 【明視】ノイシ 兎の異名、又公平に視る意。
 【明暗】ノイアン あかるきとくらき。
 【明聖】ノイセイ 智徳の卓越したること、又其人。
 【明肅】ノイシュウ すぢみちが明かにして秩序整然たるさま。
 【明殿】ノイテン 貴人の墓側のごてん。
 【明辟】ノイヘキ 明君に同じ。
 【明遠】ノイエン 明白深遠の意。
 【明極】ノイキョク 厳正なる處罰。
 【明察】ノイサツ ①明らかに見とほす ②こまかに視察す。
 【明徹】ノイテツ たしかに證明をする。
 【明道】ノイダウ 道理を明かにすること。
 【明義】ノイギ 前に同じ。
 【明德】ノイトク ①人道に適ひたる行ひ ②一點曇りなき本性。
 【明暢】ノイチャウ 議論の筋道のよく立てるさま、音聲のはつきりせる貌。
 【明著】ノイチャウ 明らかにあらはる。
 【明粹】ノイスイ 一點のまじりなく明らかなるさま。

【明達】ノイタツ 事理に明らかに通ず。
 【明練】ノイレン 鮮かに熟練すること。
 【明輝】ノイキ 光り輝くさま。
 【明經】ノイケイ ①官吏登用試験の科目 ②王朝時代大學寮の漢學科。
 【明激】ノイキヤウ 水をよくすめるさま。
 【明毅】ノイキ 智識に富み意志強し。
 【明強】ノイキヤウ すこやかにしてたゆみなきこと。
 【明曉】ノイゲウ 明らかにさること、よくわかる。
 【明悉】ノイシツ 明らかにしてさかんなり、公明正大。
 【明辨】ノイベン 明らかに見わけける。
 【明確】ノイキヤウ 明かにして確實なること。
 【明鏡】ノイキヤウ ①明かにすめる鏡 ②くもりなき心、又手本とすること。
 【明闇】ノイアン あかるきこととくらきこと。
 【明聰】ノイソウ 智識の卓越せること。
 【明斷】ノイダン はつきりと判断す。
 【明瞭】ノイレイ あきらかなり、はつきりせること。
 【明徹】ノイテツ 德行高き人のなしたるあとかた。
 【明證】ノイシユウ あきらかなるしるし。
 【明覺】ノイキョク 精神内容を明かに知覺す。

【明辯】ノイベン ①明らかにときわく ②はつきりせる辯舌。
 【明驗】ノイケン あきらかなるしるし。
 【明鑑】ノイカン ①よく形のうつる澄んだ鏡 ②明らかなる手本、よき模範 ③すぐれたる鑑定。
 【明顯】ノイケン あきらかにあらはる。
 【明星】ノイセイ ①金星、曉に見ゆるをあけの明星、夕に見ゆるを宵の明星と稱す ②其の社會で最もすぐれたる人。
 【明神】ノイシン あらたかなる神。
 【明藥】ノイヤク 藥品の一。
 【明々地】ノイイチ 地は助字、あからさま。
 【明庶風】ノイシロフウ 東風、こちかぜ。
 【明障子】ノイシヤウジ 障子、昔は襖を障子と云ひ現今の障子を明障子と云ふ。
 【明目張膽】ノイモクチャウタン 目をあきらかにしきもをはつて少しも油断せぬこと。
 【明月之珠】ノイゲツノタマ 明月の如く暗夜に光る寶玉。
 【明々白々】ノイイハクハク 極めて明かなる貌
 【明々赫赫】ノイイキウキウ ①あかるくかゞやくさま。 ②聖賢哲人は身を
 【明窗淨几】ノイサウジヤウキ きれいなる書齋に
 【明哲保身】ノイテツヒタモツ 聖賢哲人は身を

全うするに理に背かざること。
 【明眸皓齒】ノイバウコウシ 美人の形容、明らかなる目元と眞白なる齒。
 【明視距離】ノイシキョリ 物體を明瞭に見ること、眼を勞せざる程近き距離の意。
 【明道學派】ノイダウガク 識仁を本とする儒學の一派。
 【明察秋毫】ノイシヤウカウマウ 眼力強き貌。
 【明鏡止水】ノイキヤウシスイ 明鏡と止水、心の空虚なるに喩ふ。
 【明七才子】ノイシチサイ 明七子、李千鱗・王世貞・吳國倫・徐中行・宗臣・梁有譽・謝茂秦の七文學者。
 【明法博士】ノイハフハカセ 明の大學寮に於て格式律令を教へたる人。
 【明王不枉法】ノイワウハフマゲズ 明王は天下の法度を一部少數者の爲めに枉げることなく厳然と保持する意。
 【明珠出老蚌】ノイシユラウバウヨリイメ つまらぬ親にかしこき子の出来るに喩ふ。
 【明三目一達三四聽】ノイサンメクニシチサイサウニタツス 廣く四方を視聽して至らざる所なき意。
 【明鏡不照二其裏】ノイキヤウモツノウラヲララズ 明鏡なりと雖も裏面は照さず、賢者なりと雖も缺點は免れずの意、轉じて人の

長所を探りて龜鑑となすべしとの意。
【明主愛二一嘖一笑】ノイシユハイワビシイワセフツツ
レム 明君はかるくしく心中を顔にあ
らはさず。

類語

- 【證明】コトワカ 備明チヨ 聰明チヨ 文明チヨ
- 【光明】クワウ 輝明チヨ 神明チヨ 聰明チヨ
- 【昭明】セウ 失明チヨ 平明チヨ 聖明チヨ
- 【啓明】ケイ 清明チヨ 晦明チヨ 賢明チヨ
- 【嚴明】ゲン 微明チヨ 證明チヨ 聲明チヨ
- 【透明】トウ 黎明チヨ 因明チヨ 不明チヨ
- 【闡明】チン 柳暗花明チヨ

昏

コン

昏

①くらし、日がくれて明かでない、ひ
ぐれ②くれ、夕ぐれ、たそがれ、よる
③道理にくらし、おろか(愚)④わかじ
に(天逝)命名以前に子供が死ぬこと⑤
めとる(古く婚に通ず)みだる(亂)
【昏札】コシヤツ 人間が生れて未だ命名せざ
る中死亡するをいふ。
【昏夜】コシヤ よる、暮、夜。
【昏々】コンコン ①くらし②おろかなる貌。
【昏因】コシイン 婚姻、結婚。

【昏盲】コンバウ くらし、無智。
【昏迷】コンマイ 智くらして迷ふこと。
【昏姻】コンイン 昏因に同じ。
【昏昧】コンマイ 心のくらきこと、おろか。
【昏怠】コンタイ 心くらくて怠る、怠慢。
【昏眩】コンケン 暗くして見えざること。
【昏倒】コンタウ 目まひして倒れる。
【昏眩】コンケン 昏眩に同じ。
【昏聩】コンケイ よるとひる。
【昏絶】コンゼツ 絶息すること、
人事不省に陥ること。
【昏惑】コンワク 愚かにして迷ふ。
【昏情】コンテイ 昏意に同じ。
【昏極】コンキョク 昏亂して宮刑を受けた者。
【昏華】コンカ 目かすみてくらし。
【昏睡】コンスイ 死したるが如く睡るさま。
【昏亂】コンラン 心くらみてみだる。
【昏黄】コンワウ 日のくれがた、たそがれ。
【昏寒】コンカン みだしすつ。
【昏嫁】コンカ よめにゆく、よめ入り。
【昏膏】コンコウ 昏盲に同じ。
【昏漢】コンカン 愚人、物事にくらき人。
【昏管】コンカン 昏盲に同じ。
【昏暮】コンボ びぐれ、ゆふぐれ。
【昏黑】コンコク 日没して眞暗になること。
【昏暴】コンバウ 理にくらくして亂暴なり。

昏

類語

- 【幽昏】ウ 新昏コン 昭昏セウ 黃昏コウ
- 【老昏】ロウ 冥昏メイ 且昏チン 耗昏コウ
- 【奠昏】テン

智

コツ フツ

よあけ、早朝

易

エキ イ

易

①かふ(更)かはる(變)としかへる、あ
らためる②書物の名(易經)③天地間の
事物の變化④卦を置きて占ふこと⑤や
すし、たやすし、てがる、おだやか(穩)
やすらか(安)⑥あなどる(慢)かるんず
(輕)⑦をさむ(治)⑧はぶく(省)
【易占】エキセン くらなふ、又うらなひ。
【易者】エキシャ くらなひをする者、卜者。
【易異】エキイ ときかふること。

【易理】エキリ くらなひの道。
【易換】エキクワン 易置に同じ。
【易象】エキシヤウ くらかた、易にあらはれ
し現象。
【易筮】エキセイ くらなひ、易占。
【易聖】エキセイ 易理に精通したる人。
【易置】エキチ ときかへおく。
【易錫】エキシキ くらりの異名。
【易數】エキスウ 易によつて陰陽吉凶をわき
まへる易術學の道。
【易學】エキガク 周易の學問。
【易贊】エキサン 臥したる牀を取り換ふる意
にて人の死ぬること。
【易斷】エキタン 易の判断を言ふ。
【易簡】エキカン 易直に同じ。
【易々】エキエキ 容易なる貌、たやすい貌。
【易直】イチチク てがる、簡易。
【易略】イチリヤク かんたん、てがる。
【易行道】イチヤウダウ 念佛の功德により阿彌
陀如来の助力をもつて佛となること。
【易衣並食】エキイヘイシヨク 貧困にして衣食に
窮すること。
【易子折レ飯】コソカヘネキヤル 籠城して食に
窮し子を食に易ふより轉じて悲惨なる
状態。

易

昔

セキ シヤク

昔

①むかし、いにしへ②ひさし(久)③ゆ
ふべ(古く夕に通ず)よる(夜)④ほじ、
(乾肉)⑤きのふ、昨日、昨今又四五日前
【昔日】セキジツ むかし、さきのひ。
【昔在】セキザイ そのかみ、そのむかし。
【昔年】セキネン 過ぎ去りし年、まへの年。
【昔々】セキセキ よごと、毎夜。
【昔時】セキジ 昔日に同じ。
【昔者】セキシャ むかし。
【昔愁】セキシュ 過去のうれひ。
【昔歳】セキサイ 去年、昨年。
【昔氣質】セキシキ 老人などの頑固にして
時代に副はざるをいふ。

昔

類語

- 【一昔】イチセキ 古昔コキ 通昔ツウ 嚙昔チウ
- 【曩昔】ナウセキ 往昔ワキ 在昔ザイ 崇昔シュウ

听

キン キ

五畫

星

セイ シヤウ

星

①ほし②星の如くちらばりてあるもの
斑点③つきひ(光陰)④天文⑤樞要の人
物の義に用ふ⑥國訓ほし(てん、ぼち)
樞要の點、思ふつぼ(圖星)
【星火】セイカウ ①小さき火②星のひかり、
轉じて物の急なること。
【星斗】セイト 斗は北斗星と南斗星のこと
一般に星のこと。
【星布】セイフ 星の配列せる如くならぶ。
【星次】セイジ 星のやどる所、星座。
【星位】セイイ 三台の位の稱。
【星行】セイカウ ①朝はやく行く②流星の如
く早く行く。
【星辰】セイレン ほし、ほしのやどり。
【星使】セイシ 勅使、公使。
【星夜】セイヤ ①星をいたゞき夜行す②星
のあらはれる夜、ほしづきよ。
【星座】セイザ 星のとまる場所、星のやど
り、星次、星宿。
【星官】セイクワン ①天文を見る役人②星の

【星書】セイショ 天文学に關する書籍。
 【星河】セイカ あまのがは、銀河。
 【星流】セイリウ 星の流れる如く速かなる意。
 【星奔】セイホン 晝夜奔走するさま。
 【星宿】セイシュク 星座に同じ。
 【星度】セイド 星辰の運行する度合。
 【星術】セイジュツ ①天文の學術 ②星にて占ふ吉凶。
 【星移】セイイ 年月の経過するをいふ。
 【星々】セイセイ 星の如く散點すること。
 【星期】セイキ 婚姻の期日。
 【星發】セイハツ 星のある中出發す、即ち未明に發足すること。
 【星傳】セイデン 急な時に出す宿場の馬、はやうちの馬。
 【星算】セイサン 天文曆數。
 【星漢】セイカン 星河に同じ。
 【星馳】セイチ 星の流れる如く速かに走ること、非常に早き貌。
 【星駕】セイガ 星發に同じ。
 【星營】セイエイ 星、星のやどり。
 【星霜】セイシュウ 霜は毎年降り星は一年間に一周すること、因みに一ヶ年のこと。
 【星盤】セイハン 磁石、羅針盤。
 【星羅】セイラ 星の如く多く列なること。

【星遷】セイテン まとひつく、まつはりつく。
 【星職】セイシキ 天文と將來のことをかきたる書。
 【星兜】セイカブト 兜の鉢一面に星の如き鏝の突起したるもの。
 【星月夜】セイゲツヤ 星が月の如く輝き見ゆる夜、ほしづきよ。
 【星鹿毛】セイカグ 馬の毛色の名、鹿の毛に白點ある如き馬の毛色。

類語
 大星タイ 小星セウ 明星ミヤウ 隕星ウイン
 辰星シン 歳星サイ 壽星ジュ 恒星コウ
 列星レツ 經星ケイ 彗星スイ 奔星ホン
 飛星ヒ 衆星シュウ 德星トク 景星ケイ
 瑞星ズイ 樞星シュウ 耀星ヨウ 繁星ハン
 華星カワ 曙星セウ 曉星セウ 權星ケン
 衛星エイ 尾星ビ 斗星トウ 虛星キョ
 羅星ラ

【映畫】エイガ 活動寫眞等の如く光線によつて物の像をうつしあらはすこと。
 【映帶】エイタイ 色艶の互ひに映り合ふと。
 【映發】エイハツ はえうつる、うつり現はる。
 【映像】エイザウ 光の曲折又は反射によつて物體の影の生ずるをいふ、又そのかげ。
 【映暉】エイマウ 薄暗くぼんやりしたる貌。
 【映輝】エイキ 照らしうつす。
 【映山紅】エイサンコウ さつきの異名。
 【映日果】エイジツクワ いちぢくの異名。

類語
 虚映キョ 耀映ヨウ 透映トウ 照映セウ
 美映ビ 暉映キ 蔭映イン 掩映エン
 光映クワウ 榮映エイ 炳映ヘイ 寫映シヤ

昂

昂の俗字

春

①はる、四季の第一の年のはじめ ②立春から立夏に至る迄、一月より三月迄又は三月より五月迄の稱 ③男女の情交 ④人の血氣さかんなる頃 ⑤和氣満ちて平靜なるに譬ふ ⑥とし(歳月) ⑦よはひ(齡) ⑧おこる(作) ⑨唐時代の酒

【春上】シュンジョウ はるのみや、皇太子。
 【春分】シュンブン 春の氣節の名、二十四氣の一、三月二十一日頃。
 【春心】シュンシン ①春めく心 ②いろけ心、色情。
 【春水】シュンスイ はるのみづ、春のかは。
 【春江】シュンカウ はるのかは。
 【春光】シュンクワウ 春のながめ、春景色。
 【春色】シュンシキ 春の麗かなる陽氣、春光。
 【春季】シュンキ 春の季節、又春のすゑ。
 【春坊】シュンバウ はるのみや、東宮。
 【春事】シュンジ 春季の農事。
 【春宮】シュンキウ 春坊に同じ。
 【春思】シュンシ 年若き男女間の心情。
 【春宵】シュンセウ 春のよる、春のゆふべ。
 【春官】シュンクワン 周代に禮法祭祀を司りし官職。
 【春服】シュンフク 春きる著物。
 【春信】シュンシン 春のおとづれ。
 【春泉】シュンセン 春の流水、春のいづみ。
 【春郊】シュンカウ 春の郊外。
 【春風】シュンフウ 春ふくのどかな風。
 【春情】シュンジョウ 色氣ある男女間の心。
 【春秋】シュンシュウ ①春と秋 ②歳月又年齢 ③孔子の著書の名 ④支那歴史上の一時期
 【春意】シュンイ 春のよどかなこゝろもち。

【春畫】シュンガウ 男女交接の状態を描きたる畫、俗にまくら繪。
 【春游】シュンイウ 春季のあそび。
 【春菊】シュンキク 野菊に似たる野菜。
 【春眠】シュンミン 春の短かき夜のねむり。
 【春陽】シュンヤウ 春のあたゝかなる光、又春の時節。
 【春陰】シュンイン 春がすみ、花ぐもり。
 【春寒】シュンカン 春季のさむさ、はるさむ。
 【春景】シュンケイ はるげしき、春色。
 【春機】シュンキ いろけ、色情。
 【春融】シュンユウ 春のよどかさ。
 【春裝】シュンサウ 春の衣裳、春のよそほひ。
 【春喧】シュンケン 春のあたゝかさ。
 【春夢】シュンム 春の夜のゆめ、轉じてはかなきこと、の意。
 【春閑】シュンケン 夫婦生活の尙ほ日淺きと
 【春餘】シュンヨ 春のすゑ。
 【春蘭】シュンラン 蘭の一種。
 【春蠶】シュンサン 春季に繭をつくる蠶、はるこ。
 【春秋高】シュンシュウカウ 高齡、年老ひたると。
 【春風蘭】シュンフウラン はばたん。
 【春待月】ハルマチツキ 陰曆十月の異稱。
 【春慶塗】シュンケイヌリ 和泉國の塗工春慶の發明した塗もの。

味

味の俗字

①夜あけどき、ほのぐらき頃 ②くらし暗黒、道理にくらし、おるか ③佛語にて心を專にする意 ④をかす(冒)

【味且】マイタン 夜あけ方、早朝。
 【味谷】マイコク 日の入る所、西方。
 【味死】マイシ 死を冒す意、其言ふ所にし
 て若し不當ならば死を以て詫びる意。
 【味爽】マイサウ 夜あけ、あけぼの。
 【味々】マイマイ くらき貌。
 【味迷】マイノイ 道理に暗くして迷ふ。
 【味茫】マイバウ 廣くしてうす暗き貌。
 【味冥】マイノイ くらし、ほのぐらし。
 【味頑】マイグワン 迷信を抱き頑固なる意。
 【味蒙】マイモウ 分明ならざる貌、道理にく
 らきこと。
 【味踪】マイソウ 跡をくらす、失跡。

類語

童昧ドウ 幽昧ウイ 草昧サウ 蒙昧マウ
 曖昧アウ 冥昧マイ 疑昧グイ
 迷昧マイ 蕪昧フイ 頑昧グワン 愚昧グイ
 隱昧イン 昏昧コン 騎昧グイ 朦昧マウ
 幼昧ユウ 背昧ハイ 茫昧バウ 三昧サン

昨

きのふ、以前の日、前日
 【昨天】サクラン 昨日、きのふ。
 【昨日】サクロフ きのふ、昨天。

响

あたまむ、あたまめくむ

昏

昏に同じ

昭

セウ

①あきらか、あらはれて著しい、照り
 かやく②あきらかにす③明らかなる
 こと、光明④あきらかに⑤廟の順序(太
 祖のものを中央にしてその左に置かれ
 るもの)
 【昭回】セウクワイ 明らかにめぐる。
 【昭示】セウシ 明らかにしめす、明示。
 【昭代】セウダイ 太平の御代、目出度き御代。
 【昭明】セウメイ 明らかなるさま、明著。

類語

三昭サン 布昭フ 宜昭イ 光昭ク
 顯昭ケン 聰昭ソウ 明昭メイ

是

シセ

①よし(善)たよし(正)②善きこと、又
 善しとするもの、主義・方針等③この
 (此)前を承けて新たに言ひ起す語、又
 そこにある事物を指す語④これ(代名

【晔々】イクイク 光りかやく。

映

テツ イツ

日がかたむく、午後になる、夕日になる
 【映麗】イツレイ 容貌が優れて美しい。

昴

パウ

すばる(星の名)二十八宿の一

昵

チツ

昵

①したしむ(親)むつむ(睦)②ちかづく
 (近)親しみ愛するもの
 【昵比】チツビ 親しみ近づく。
 【昵交】チツカウ 親しく交はる。
 【昵近】チツキン 心やすくなじむ、又その人。
 【昵狎】チツカク 親しみなれる。
 【昵懇】チツコン 親しくす、心やすし。
 【昵藩】チツパン 王室と親戚なる諸侯。

昶

シヤウ チャウ

①ながし、ひさし、日永し②とほる(通)
 ③のぶ(暢)のびる(舒)

曷

ハイ

①あきらか(明)②人名

昞

曷に同じ

晝

晝の省文

六畫

晷

朝の古字

時

シジ

時

①とき(時刻、時節、時期、時世)過ぎゆ
 く光陰、一年又は一晝夜の區分、又そ
 の時②しほ、をり、機會、しゆん、さか
 り、適當なる時機、主要なる期間、か
 ぎり、期限、時の吉凶、定まれる時、定
 期、年代、時世、哲學上にては空間、文法
 上にては過去・現在・未來の稱、時に適
 す、時にあふ③ときに、をりしも、た
 まく、をりく、ときたま④ときと
 して、往々⑤うかゞふ(伺)をりを考へ

昱

イク

昱

あきらか、日の光、日が輝きて明るし

る●古く是に同じ、この、これ、こゝに●國訓とき(適當なる時期の意)又助辭として用ふ。

【時人】ジジン 其時代の人、當時の人。

【時下】ジカ 只今、現在、この節。

【時中】ジチュウ 其時に適當する意。

【時代】ジダイ ときと年代。

【時文】ジブン 現代行はれてゐる通用文體。

【時令】ジレイ 年中行事を記したるもの、歳時記。

【時好】ジカウ 其時代の流行。

【時局】ジキョク 其事件の成行、時代の局面。

【時雨】ジリウ 時折降る雨、程よく降る雨、秋冬の頃の雨、しぐれ。

【時事】ジジ 其時代に起りたる事柄。

【時夜】ジヤ 鶏が時を告げる夜の時刻。

【時祀】ジシ 四季の祭祀。

【時宗】ジシュウ 後宇多天皇の建治二年一編上人の創めたる淨土宗の一派。

【時宜】ジイ 其時に適して都合よきと。

【時刻】ジコク とき、時間。

【時服】ジフク その季節に適當する衣服。

【時英】ジエイ 梅花の異名。

【時俗】ジソク 其時代の風俗、時の習はせ。

【時風】ジフウ 前に同じ。

【時計】ジケイ 時をはかる器、とけい。

【時食】ジシヨク 四時の食物、其季節の食物。

【時病】ジヘイ 其當時の弊害、時弊。

【時疫】ジエキ 流行病、はやりやまひ。

【時效】ジカウ 法律上の語、法定の期間經過により権利が生じ又は消滅する。

【時常】ジジヤウ つね、ひごる。

【時務】ジム 時に應じてなすべき務め、その時の政治。

【時差】ジサ ①甲乙兩地方の時間の差②平均時と太陽時との差。

【時々】ジジ をり、とき／＼。

【時患】ジケン その時世のわづらひ。

【時候】ジコウ 季節、四時の變り目のこと。

【時望】ジバウ ①當時の人々の希望②その當時のにんき。

【時祭】ジサイ 四季をり／＼の祭祀。

【時習】ジシヤク ①とき／＼に習ひ學ぶ②時俗に同じ。

【時鳥】ジチュウ 四季をり／＼になく鳥、又ほととぎす。

【時牌】ジハイ 時刻を示す爲めの札。

【時運】ジユン 時のまはり合せ、時代のなりゆき。

【時評】ジヒヤウ その當時の批評。

【時國】ジケン 地球の南極及び北極兩點を通過する大圓。

【時裝】ジヤウ 流行のよそほひ。

【時勢】ジセイ 時のいきほひ、世の有様。

【時稱】ジシヨウ その時のほまれ。

【時會】ジクワイ 時を定めて寄り集まると。

【時態】ジタイ 當時のありさま。

【時豪】ジガウ 其當時に傑出する人物。

【時様】ジヤウ はやり、流行。

【時論】ジロン 當時の評議、其時代の輿論、時人の評論。

【時價】ジカ その時の相場、市價。

【時弊】ジヘイ 其時代の弊害、時病。

【時機】ジキ ①時勢のうつりかはり②はかりごと③をり、はずみ、機會。

【時代相】ジダイサウ その時代の社會のありさま。

【時代劇】ジダイゲキ 現代劇の對、昔の出來事を脚色したる劇。

【時代物】ジダイモノ 古き時代の物、昔もの。

【時世粧】ジセイサウ 當世風のよそほひ。

【時辰儀】ジシヤン 時計。

【時雨化】ジリウカ 仁徳天皇が民をうるほして順化し給ひし故事、轉じて適當なる時機に降る雨。

【時運政】ジユンサウ 其時代をよく治めて平安ならしめる政治。

【時々刻々】ジジコクコク たえず、不斷に。

【時代思想】ジダイシヤウ その時代に於て一般の思想を代表すべき最も勢力ある思想をいふ。

【時代思潮】ジダイシヤウ その時代の思想界のおもむき。

【時代錯誤】ジダイサカゴ 舊時代の政策・主義・思想等をそのまゝ現代にあてはめて行はんとするより起る誤り。

【時代精神】ジダイセイシン 其時代に於ける社會人心間に一貫して起る根本思想。

【時效中斷】ジカウチュウタン 時日の効力が法定又は自然的の事由により遮斷せらるゝこと、法律上の語。

【時差之餐】ジシヤノアン 季節々々の食物等を神前に供ふること、又その供物。

【時不レ可レ失】トキウシナラベカラズ 好機逸すべからず、時をはずしてはならぬ。

【時間如二黄金】ジカンハワウゴンゴトシ 時の貴重なることを戒めし語。

【時者難レ得而易レ失】トキハエガタクシテウシナラベカラズ 機會は得難くして失ひ易ければ逸せざる様にすべしとの意。

改める。

【時と浮沈す】奥レ時浮沈(ときとふらんす) 時につれて或は榮え或はおとろへる。

【時と俯仰す】奥レ時俯仰(ときとふげんす) 前に同じ。

【時に遇はず】不レ遇レ時(ときにはあはず) 志を達すべき時運に出遇はぬ。

類語

恒時ジコウ 四時ジシ 微時ジビ 利時ジリ
 曩時ジナウ 盛時ジセイ 農時ジノウ 花時ジクワ
 少時ジセウ 昔時ジセキ 近時ジキン

【晃】クワウ

①あきらか(明)ひかる(光)てらす(照)か、やく(暉)②日光の二字を合併せし文字に使用することあり

【晃々】クワウクワウ 輝き照す貌。

【晃曜】クワウエウ 輝き光る。

類語

光晃クワウクワウ 炫晃クワウクワウ 眩晃クワウクワウ 炯晃クワウクワウ
 晶晃クワウクワウ 皓晃クワウクワウ

【皎】クワウ 皎に同じ

【晉】シン

①進めのはす②武帝司馬炎の建設せし王朝の名、又五代の時石敬瑭の建てしもの③國の名(今の山西省大原縣の東北)④易の卦の名

【晉書】シンシヨウ 西晉・東晉を通じて十五代百五十年間の歴史を記したるもの。

【晋】シヤウ

①まひる(日中、正午)②しばしの時間

【响午】シヤウゴ 晝、正午。

【响飯】シヤウハン ひるめし、晝飯。

【晏】アン

①はれる(晴)②おそし(遅)③安らかなり、おだやか、安んず④美はしく鮮かなり⑤人の姓

【晏兮】アンタリ 鮮明なる貌。

【晏如】アンチヨ やすらかなる貌、安泰。
【晏息】アンシク やすむ、いこふ。
【晏眠】アンミン 朝おそくまで眠る。
【晏起】アンキ 朝おそく起る。
【晏清】アンセイ 静かなり、おだやか。
【晏々】アンアン やすんずる貌、柔順なる貌。
【晏娛】アンゴ 心を安んじ楽しむさま。
【晏然】アンゼン 落ちつけるさま、晏如。
【晏寧】アンネイ やすらか。
【晏駕】アンガ 帝王の崩すること。
【晏子春秋】アンシユンチュウ 晏平仲の言行を記せる書。

【晏子御者】アンシノゴロシヤ 晏平仲の御者が主人の威をかりて威張つて居るうち妻より離縁を要求されて後悔せし故事。
類語 晏安アン 静晏アン 早晏アン 寧晏アン 清晏アン 普晏アン 息晏アン

【晏子御者】アンシノゴロシヤ 晏平仲の御者が主人の威をかりて威張つて居るうち妻より離縁を要求されて後悔せし故事。
類語 晏安アン 静晏アン 早晏アン 寧晏アン 清晏アン 普晏アン 息晏アン

晒 曬の省文

七畫

晚

メンバン 晩

①くれ、日の没する時。おそし(早の對)おくれる、後世の意、末の時期。くれ(暮)日がくれる、終りに近し。
【晚冬】バントウ 冬のすゑ。
【晚生】バンセイ 後より生る、先輩に對する自稱。
【晚禾】バンクワ おそく稔る稻、おくての稻。
【晚成】バンセイ 成功のおそきこと。
【晚年】バンネン 一生の末年、老年。
【晚花】バンカワ おそざきの花。
【晚來】バンライ ゆふかた、ひぐれ。
【晚苗】バンベウ おそまきの苗。
【晚風】バンフウ 夕方に吹く風、夕風。
【晚春】バンシュン 春の終りのころ。
【晚秋】バンシュウ 秋のすゑのころ。
【晚兒】バンジ まゝ子、繼兒。
【晚唐】バンタウ 支那の中唐より末唐に至る八十年間の稱。
【晚酌】バンシヤク 夕飯の時に飲む酒。
【晚婆】バンバ 後妻、後添への妻。
【晚夏】バンカ 夏のすゑのころ。
【晚婚】バンコン 中年後に結婚すること。
【晚暉】バンキ 夕日のひかり、夕陽。
【晚煙】バンエン ゆふげむり、夕がすみ。
【晚暮】バンボ 夕暮、老境に入りしこと。
【晚鳥】バンリウ ゆふがらす、晚鴉。

【晚翠】バンスイ 冬枯の時にも色をかへぬときは木の緑、又其の草木。
【晚稻】バンタウ 晩禾に同じ。
【晚漚】バンセイ 夕暮のさびしき。
【晚照】バンセウ 夕陽、入り日の光。
【晚餽】バンキウ 夕飯、やしよく。
【晚稼】バンカ おそく植ふしいね。
【晚眺】バンテウ 夕ぐれのけしき。
【晚苔】バンタイ おそく出来たるつばみ。
【晚就】バンシウ 晩成に同じ。
【晚景】バンケイ 晩眺に同じ。
【晚餐】バンサン 晩飯、ゆふめし。
【晚節】バンセツ 晩年の節操。
末の時。晩年に同じ。

【晚熟】バンジュク みのりのおそきもの。
【晚鴉】バンア 晩鳥に同じ。
【晚學】バンガク 晩年になりてする學問。
【晚霞】バンカ 夕ふがすみ。
【晚鐘】バンシュウ いたりあひの鐘の聲。
【晚鶯】バンアウ 晩春になくうぐひす。
【晚鶯】バンアウ 雨のはれ夕ぐれ。
【晚鶯】バンアウ 夕ふがすみ、ゆふもや。
【晚食當肉】バンシヨクニクニワタル 夕飯は美食する意。

類語

早晩

昨晚 今晩 明晩

晝

①日あらはる、日のひかり、ひかげ。あきらか(明)

晝

①ひる(日中)朝より晩までの間。地名。國訓ひる(正午、まひる)

【晝日】チウジツ ひる、一日。
【晝夜】チウヤ ひるとよる、日夜。
【晝宵】チウセウ ひるとよる。
【晝間】チウカン ひるま。
【晝寢】チウレン ひるね、午睡。
【晝錦】チウキン 立身して故郷にかへる意。
【晝夜兼行】チウヤケンコウ 晝も夜も急ぎ行くこと、轉じて仕事を急いですることにいふ。

【晝間興行】チウカンキョウギヤウ 晝間開演される芝居、マチネー。
類語 晝居、マチネー。

永晝 炎晝 修晝 山晝
清晝 白晝 正晝 嘉晝
殘晝 徹晝 且晝 昏晝
晴晝 春晝 平晝 昏晝

晞

①かわく(乾)ひる、乾燥す。あく(明)夜があける

晷

あきらか、日さかんなり、あきらかなるひかり

晡

①ゆふべ(夕)ひぐれ、くれ。申の時、(今の午後四時)

【晡下】ホカ 午後四時すぎ。
【晡夕】ホセキ 夕ぐれがた、ひぐれ。
【晡時】ホジ 申の刻、今の午後四時頃。

晷

①あきらか、てらす。光る貌

晷

晷に同じ

晷

晷に同じ

【晷明】ゴメイ あきらかなる貌。
【晷歌】ゴカ 心打ち解けて歌ふ。
【晷語】ゴゴ 晷言に同じ。

【晷言】ゴゲン 遇つて物語る、向ひ合ひて語る。
【晷明】ゴメイ あきらかなる貌。
【晷歌】ゴカ 心打ち解けて歌ふ。
【晷語】ゴゴ 晷言に同じ。

【晷言】ゴゲン 遇つて物語る、向ひ合ひて語る。
【晷明】ゴメイ あきらかなる貌。
【晷歌】ゴカ 心打ち解けて歌ふ。
【晷語】ゴゴ 晷言に同じ。

類語

秀晷

言晷 神晷 英晷

院

あきらかなる貌

晦

①くらし(味)光がなくて暗い、かすかにして知りたし。くらます、かす

【晦明】クワイメイ よるとひる。
【晦盲】クワイマウ ①目がくらむ。世のみだれたるさま。

【晦明】クワイメイ よるとひる。
【晦盲】クワイマウ ①目がくらむ。世のみだれたるさま。

【晦朝】クワイチク みそかといついたち。
 【晦冥】クワイノイ くらし、まつくら。
 【晦匿】クワイトク くらましかくす。
 【晦澁】クワイシヨウ 文章の意味のあひまいなるさま。
 【晦藏】クワイイダウ かくしくらます。
 【晦顯】クワイゲン 隠れるとと現はれると。

【晨風】シシフウ ①風はやぶさの異名。
 【晨星】シシセイ ①あけがたのほし②まばらにて数の少きさま③よあけ、あけがた。
 【晨省】シシセイ 早朝父母の安否を伺ふと。
 【晨暮】シシキ あさひかげ、旭光。
 【晨暉】シシキ 旭光、あさひかげ。
 【晨起】シシキ 朝はやく起る。
 【晨朝】シシチウ 晨旦に同じ。
 【晨齋】シシサイ 朝食、朝飯。
 【朝餐】シシサン 前に同じ。

【類語】
 隱晦クワイ 月晦クワイ 昏晦クワイ 霧晦クワイ
 濁晦クワイ 明晦クワイ 朝晦クワイ 溷晦クワイ
 顯晦クワイ 韜晦クワイ 陰晦クワイ 幽晦クワイ

【類語】
 清晨シシ 靜晨シシ 宵晨シシ 詰晨シシ
 霜晨シシ 牝鶏晨シシ
 八畫

皓

カウ 日出づること、あきらか

晨

①よあけ(夜明)あした(旦)あさ、早且
 ②あしたにす、朝の時を報ず③農事を司る星の名(房星)夜明
 【晨旦】シシタン あさ、あした。
 【晨光】シシクワウ 朝日のひかり。
 【晨昏】シシコン あさばん、朝夕。
 【晨炊】シシシキ 朝はやく飯をたく。
 【晨門】シシモン 門番、番人。

普

①あまねし(徧)ひろし(博)おほいなり
 (大)②くらし(暗)③歐洲の國名、普魯西(Prussia)の略
 【普及】フキヤ あまねくゆきわたる、ひろく行きとどく。
 【普汎】フハン あまねくひろし、一般に。
 【普告】フコウ ひろく告げしらす。

普

【普汎】フハン 普及に同じ。
 【普施】フセ 一般的に實施すること。
 【普現】フゲン あまねく現はれる。
 【普通】フツウ なみく、又一般。
 【普徧】フヘン 普汎に同じ。
 【普恩】フオン 一般に恵みを與へること。
 【普賢】フケン 普賢菩薩の略稱。
 【普進】フシン 一般にすすめること。
 【普博】フハク 一般にひろめる意。
 【普選】フセン 普通選挙の略。
 【普請】フシン 僧侶が一般壇家よりの寄附金にて寺院佛堂等を建築する意、轉じて一般の土木工事のこと。
 【普及版】フキヤパン 一般に廣める爲め安價にして刊行する書物。
 【普化宗】フケシユウ 佛教にて禪宗の一派。
 【普化僧】フケシユウ 普化宗の僧侶、尺八を吹きて托鉢する僧。
 【普門品】フモンジン 一般人を佛道に導き入れる法を明かにしたる經文。
 【普通學】フツウガク 常識の養成を主とする學問、中等學校の教科。
 【普天之下】フテンノモト 日月のてらす限りの國土、天下。
 【普通教育】フツウケイイク 普通一般の常識品性を修養せしむる目的にて施す教育。

景

ケイ エイ
 ①ふぜい、けしき、風致②ありさま、あふぐ(仰)したふ(慕)③めでたし、おほいきい(影)そへもの、景品④うつくし、又白し

景

【景天】ケイトン べんけい草。
 【景仰】ケイギヤウ 仰ぎ慕ふ意。
 【景行】ケイキョウ 大なる道、ひろき道。
 【景光】ケイクワウ ①めでたき光り、恩徳②つきひ、光陰。
 【景色】ケイシキョク 山川などのおもむき。
 【景況】ケイキョウ ありさま、景氣。
 【景物】ケイブツ ①けしき②そへもの、景品。
 【景星】ケイセイ 目出たき星、瑞星。
 【景致】ケイチ おもむきある景色、風致。
 【景氣】ケイキ ①元氣、意氣②金融の状態③やうす、有様。
 【景迹】ケイセキ 身持ち、行狀。
 【景風】ケイフウ 四方の和風、西南の風。
 【景候】ケイコウ 折々のありさま。
 【景昨】ケイツク 大なるさいはひ。
 【景従】ケイジユウ つきまとふ、まつはる。
 【景勝】ケイショウ 勝れたる山水の景色。
 【景雲】ケイウン めでたきくも、瑞雲。
 【景福】ケイフク 大なる幸福。
 【景慕】ケイボ あふぎしたふ。
 【景趣】ケイシュ 景色に同じ。
 【景曜】ケイユウ 光りと影。
 【景鏢】ケイリョウ すぐれたる美德。
 【景初曆】ケイシヨレキ 景帝の時に作られたるこよみ。

晴

①はる、雨やむ、天氣がよい、陰の對はれ、ちらやかなる天氣、雨の降らぬ天氣②國訓はる、はらす(障害の散する貌)
 【晴川】セイセン あめあがりの時の川。
 【晴天】セイテン はれたる空、天氣のよきと。
 【晴旦】セイタン 晴天の朝。
 【晴空】セイキウ はれたる空。
 【晴和】セイワ はれたるのどかなること。
 【晴雨】セイウ 晴天と雨天、はれとあめ。
 【晴朗】セイラウ 晴和に同じ。
 【晴嵐】セイラン 晴れたる時の山のかすみ。

皙

セキ あきらか(明)はつきりと見える

晰

皙に同じ

晴

セイ

類語

幽景ケイ 佳景カイ 野景ケイ 風景ケイ
 和景ケイ 韶景ケイ 芳景ケイ 光景ケイ
 照景ケイ 美景ケイ 晚景ケイ 遠景ケイ
 絶景ケイ 好景ケイ

【晴陰】セイイン はれとくもり。
 【晴虛】セイキョ 晴空に同じ。
 【晴霄】セイセウ 一點の雲なく晴れたる空。
 【晴麗】セイレイ はれとくもり。
 【晴麗】セイレイ 空のはれて明かなる鏡。
 【晴雨計】セイウケイ 晴雨を計る器械。
 【晴天白日】セイテンハクジツ 身に一點の曇りなく潔白なること。

【晷刻】カク 日光のひかげ、日光のつきひ、光陰。
 類語 日晷ニツ 月晷ゲツ 寸晷スン 光晷クワウ
 尺晷セキ 暮晷ボク 晨晷シン

【智慧】チエ ざとり、分別、俗に智恵。
 【智謀】チボウ 賢明なる策略。
 【智識】チシキ ①ちゑ ②事理に通達せること ③悟を開きし人。
 【智辯】チベン 智恵と辯舌。
 【智囊】チナウ 一身皆智なる意、ちゑのふくろ、即ち智識の豊富なるに喩ふ。
 【智能犯】チノウン 文書偽造・詐欺等の如く智能に關する犯罪。
 【智能權】チノウケン 著作意匠等に關し其進歩を保護する爲に特に認めたる權利。
 【智能考査】チノウカウサ 人の心性・機轉等をためして見ることに、メンタルテスト。
 【智過二萬人】チノウニニマンニシヨウ 才智が多の人に卓越せること。
 【智者千慮有一失】チノウセンニシヨウニシツアラシ 才智にすぐれし人も多くの考へのうちにはたまにあやまつこともある、弘法も筆の誤りの類。

晶

①あきらか、きら／＼と明るき鏡ひかり、きらめき光るさま、ひかる(光)
 ②寶石の名、水晶石英の類
 【晶系】シヤウケイ 礦物結晶の區分の系統。
 【晶光】シヤウクワウ きらめくひかり。
 【晶瑩】シヤウエイ あきらかにひかる、光明。
 【晶々】シヤウシヤウ 光りきらめく鏡。
 【晶耀】シヤウエイ 晶瑩に同じ。

晷

ひかげ(日の影)又影、地上に掛てた物

【智力】チリヨク 智識の働き。
 【智巧】チキョウ ①悪ぢゑ ②賢明なたくみ。
 【智者】チシヤ ちゑある人、賢者。
 【智育】チイク 智識の啓蒙を主とする教育。
 【智見】チケン ちゑ、ざとり、智覚の人。
 【智能】チノウ ちゑと才能。
 【智術】チジユツ かしこきはかりごと。
 【智略】チリヤク 才智計謀、智謀。
 【智得】チトク 智識を得る意。
 【智教】チキョウ かしこきはかりごと。
 【智慮】チリヨ 賢くして思慮あり。
 【智齒】チシ 成人の上下の顎骨の最も奥に生ずる臼齒、おやしらず。

類語 天智テン 萬智マン 奇智キ 性智セイ
 洪智フウ 神智シン 殊智シュ 敏智ミン
 傑智ケツ 冥智メイ 多智タ 深智シン
 勇智ユウ 才智チ 仁智ニン 辨智ベン
 明智メイ 故智コ 賢智ケン 小智セウ

庵

①おほふくらし、又そのさま
 【庵昧】アンマイ くらし、やみ。
 【庵々】アンアン くらき鏡。
 【庵曖】アンエイ 空の曇りて暗き鏡。
 【庵霽】アンサイ 草木のしげれるさま。

暇

①いとま、ひま、ゆつくりせる鏡、閑散
 ②やすみ(休)仕事おし、又無事のとき
 ③さかんなり、おほいなり(大) ④國訓いとま(主従の縁ざり、わかれ、ひま)
 【暇日】カジツ 暇の時、休みの日。
 【暇逸】カイツ 無事にして安閑なる鏡、ひまて遊んでゐる。
 【暇豫】カヨ ひまにて安らかに休む鏡。
 【暇餘】カヨ ひまの時、時間ある時、手すきの時。
 類語 逸暇イツ 休暇キョ 公暇コウ
 官暇クワン 小暇セウ 閑暇カン 寬暇カン
 餘暇ヨ 寸暇スン 寛暇カン

暉

ひかり(光)ひかる、かゞやく(輝)
 【暉如】キチヨ 光り輝く鏡。
 【暉芒】キバウ ひかり、光線。
 【暉夜】キヤ 螢の火。
 【暉映】キエイ てらしうつす。
 【暉々】キキ 光り輝く鏡、燿々、煌々。

類語 暉暉キキ 酒暉シユ 醉暉スシ 日暉ニチ
 月暉ゲツ 重暉ジュウ 白暉ハク 交暉カウ
 船暉セン 暉暉キキ 夕暉セキ 斜暉シヤ
 晚暉バン 光暉クワウ 朝暉チウ 残暉ゼン
 鮮暉セン 鮮暉セン 鮮暉セン 鮮暉セン

暄

あたまか、又春の末
 【暄和】ケンワ やはらく、やはらか。
 【暄妍】ケンケン 奇麗なり、うつくし、あざやかで奇麗。
 【暄温】ケンオン あたまかなる鏡。
 【暄風】ケンフウ のどかな風、はるかせ、温和なかぜ。
 【暄煦】ケンキョ 温暖なること、あたまかし。
 【暄暖】ケンナン 前に同じ。

暈

①かさ、月がさ、日がさ、又その形の輪狀の模様
 ②くらむ、めがくらむ(眩)めまひ、船車に酔ふ
 ③曇りてぼんやりせるさま
 【暈船】ウンセン 船にぶふ、船暈。
 【暈迷】ウンメイ めまひ。

暎

①つよし(強) ②もだゆ(悶)もだゆる、氣がふさがる
 【暎】ケン ケイ

たがふ(違)はなれる
 【暖睡】ケイキ そむいてみる貌。
 【暖開】ケイキツ そむき離れる。

【喝】 エツ
 あつさあたり、暑氣あたり、傷暑
 【喝死】エツレ 暑さにあたりて死亡す。

【暍】 キ
 ひかり、日光、光の盛んなるさま

【暑】 シヨ
 ①あつし(日光のきびしきこと)あつさ
 (熱)又夏の意に用ふ②夏の時節
 【暑中】シヨチュウ 夏日の暑き期間。
 【暑月】シヨゲツ 夏の季節、夏月、陰曆六月の異名。
 【暑沸】シヨフツ 酷暑、まなつ。
 【暑氣】シヨキ 夏の暑さ。
 【暑喝】シヨクツ あつさあたり。
 【暑汗】シヨアジ 蒸しあつし。
 【暑熱】シヨネツ 非常に暑きこと。

暑

【暖】 ダン
 ①あたゝか、あたゝかし②あたゝかさ
 ③あたゝむ、ぬくめる④あたゝまる⑤やはらか
 【暖衣】ダニイ ①暖かき衣服、よきもの
 ②あたゝかく著る。
 【暖房】ダンパウ ①へやをあたゝめる②家を移した賀の宴。
 【暖肚】ダント ①はらまき、腹おび。
 【暖風】ダンフウ あたゝかなる風。
 【暖和】ダンワ 氣候温暖にして長閑なり。
 【暖氣】ダンキ ①あたゝかさ。
 【暖席】ダンセキ 婚禮後三日目に行ふ盛んなる酒宴。
 【暖婆】ダンバ ゆたんば。
 【暖飽】ダンボウ 暖かに著て十分に食す、轉じて何不足なく暮すこと。
 【暖爐】ダンロ 火を焚きて室内をあたゝめる西洋家具の一、暖房、ストーブ。

暖

【暖燭】ダンタク ①はるがすみ。
 【暖簾】ノレン 日光をよける布帛。
 【暖簾師】ノレンシ よき品を見本にして悪しき品を賣るが如き商人。
 【暖衣飽食】ダニイハウシヨク あたゝかく著又美食すること、不自由なく暮すにいふ。

【暗】 アン
 ①くらし、光がくらい、光明がない、おろか、愚昧、ふかし(深)おくぶかし、くろし(黒)くろずむ②くらがり、よる(夜)③隠れて知れぬさま④暗くものすごし⑤人しれず、あんに、ひそかに⑥そらんず(誦)
 【暗火】アンカワ 消えかゝりし火。
 【暗示】アンシ 事物の真相を或程度迄説明してそれとなく全班を知らせること。
 【暗合】アンガフ 兩方の言行・事實等が期せずして一致すること。
 【暗君】アンクン おろかなる君主。
 【暗昧】アンマイ おろかなること。
 【暗記】アンキ そらでおぼえる、そらんず。

暗

類語

【残暑】ゼンショ 薄暑ハク 餘暑シヨ 毒暑ドク
 溽暑ジュク 蒸暑ジョウ 寒暑カン 盛暑セウ
 烈暑レツ 酷暑コク 隆暑リウ 炎暑エン
 劇暑ゲク 甚暑ジン 虐暑ゲツ 焦暑セウ

【暗室】アンシツ 日光を遮断したる室、又くらくして人の居らぬへや。
 【暗流】アンリウ 地下をながれる水流、轉じて表面にあらはれぬ機運。
 【暗殺】アンツツ 下手人の分らぬ様に殺す、やみうち。
 【暗香】アンカウ いづことも知れず来る匂。
 【暗黒】アンコク まつくら、くらやみ。
 【暗冥】アンメイ くらがり。
 【暗射】アンシャ あてなしに弓をひく、又あてはれざる事をいひあてる。
 【暗涙】アンルキ 忍んで泣く涙。
 【暗疎】アンソ ①そらんにて書きしるす。
 【暗々】アンアン ①くらし、又ふかし。
 【暗弱】アンジヤク 身體の弱き性質。
 【暗愚】アング 事理にくらし、おろか。
 【暗想】アンサウ あて推量。
 【暗渠】アンキョ 地下をとほるみぞ。
 【暗溝】アンコウ 地下を通すみぞ。
 【暗號】アンガウ 第三者に知らしめざる符號
 【暗算】アンサン そら勘定、むなざん。
 【暗澹】アンタン 暗くして明かならざる貌。
 【暗誦】アンシヨウ そらにておぼえる、そらよみ。

【暗暖】アンナイ あいまい、愚昧。
 【暗礁】アンセウ 水中にかくれたるいは。
 【暗礁】アンゼン 泣かざるせみ。
 【暗黨】アンタウ 秘かに結合したる仲間。
 【暗々裡】アンアンリ 知らず知らずの間に、それとはなしに。
 【暗黒面】アンコクメン 表面にあらはれぬあしき部面、人間の秘密や世間の裏面。
 【暗中摸索】アンチュウモクソク くらがりにてさぐり求む、あて推量にてはかる。
 【暗中飛躍】アンチュウヒョク 人に知らしめずして活動すること。
 【暗生毒計】アンセイドクケイ 秘かにたくらんだ悪計の意。
 【暗黒時代】アンコクジダイ 戦争のみにて世のみだれたる時代。
 【暗號註解】アンガウチュウケイ 秘密文書又は暗號を解釋したるもの。
 【暗號電信】アンガウデンシン 他人の解し得ざる符號にて發する電報。
 【暗箭傷人】アンセンシヨウナヒナ 知らず知らずの間に他人の名譽を害すること。

【暍】 ヤウ
 ①日の出、日の出る所②かわく、かわかず(乾)③あきらか(明)はれ(晴天)かわく、ひからびる
 【暍谷】ヤウコク 昔東方の一隅に日の出る所ありと想像したる其所。

暍

十一一畫

【暍】 ミヤウ メイ
 ①くらし(晦)かすかにして暗し②くれる(暮)日かくれる③さびし(寂)もの淋しきさま
 【暍々】ノイノイ 物淋しきさま。

暍

【暍】 カウ コウ
 明るし、しろし(皓)又そのさま
 【暍然】カウゼン しろきさま、皓然。

暍

【暢】 チャウ
 ①のぶ(舒)のびる、のびくする②と

暢

【暢月】 チヤウゲツ 陰曆十一月の異稱。
 【暢美】 チヤウビ 極めて美しきこと。
 【暢茂】 チヤウモ 草木のうびしげること。
 【暢舒】 チヤウジヨウ のびす、のびる。
 【暢通】 チヤウツウ ひろく行き渡るさま。
 【暢陽】 チヤウヤウ 春の長閑なる氣、春陽。
 【暢達】 チヤウダツ のびる、發達する。
 【暢適】 チヤウシキ のびやかに樂しきさま。

類語

布暢【チヤウ】 恬暢【チヤウ】 遼暢【チヤウ】 條暢【チヤウ】
 曲暢【チヤウ】 曉暢【チヤウ】 舒暢【チヤウ】 宣暢【チヤウ】
 上暢【チヤウ】 通暢【チヤウ】

暫

ザン

暫

①しばし、しばらく、間もなく②國訓
 しばらく(やゝ久し、餘程ひさし)
 【暫且】 ゼンシヨ しばらく、しばし。
 【暫定】 ゼンテイ 一先づ取りきめる。
 【暫時】 ゼンジ 暫且に同じ。
 【暫遊】 ゼンユウ かりの遊び、しばしの遊び。
 【暫雨】 ゼンユウ しばし雨まる、滞在、逗留。

暮

セツ

暮

ボ

暮

①くる、日くる、ひぐれ、年が末になる、
 時が迫る、さかりを過ぎ、年よる②おそ
 し(晩)③よる(夜)④くらし(昏)⑤くれ
 國訓くらし(一日を終る、世渡りをする
 月日を送る)くらし(生活)
 【暮天】 ボテン ゆふぐれの空。
 【暮年】 ボネン 晩年に同じ、老いたる時。
 【暮角】 ボカク 夕暮にきく角笛のこゑ。
 【暮夜】 ボヤ よる、よなか。
 【暮春】 ボシュン 春のすゑ。
 【暮色】 ボシヨク ユふがたの景色。
 【暮砧】 ボチン よるのきぬた。
 【暮雪】 ボセツ 夕方におちる雪。
 【暮煙】 ボエン ユふげの煙、ゆふけむり。
 【暮陰】 ボイオン 夕日のかげ。
 【暮歳】 ボサイ 年のくれ、又晩年。
 【暮齒】 ボシ 暮年に同じ。
 【暮々】 ボボ よごと、まいばん。

【暮鐘】 ボシヨウ ユふぐれの鐘の音。
 【暮鷄】 ボチ くれのからす、ゆふがらす。
 【暮齡】 ボレイ 暮年に同じ。
 【暮鶴】 ボイ ゆふがすみ。
 【暮色春樹】 ボシヨクシュンジュ 友情の切なるを
 いふ語。

類語

幽暮【ボウ】 垂暮【ボク】 殘暮【ゼン】 埋暮【マイ】
 朝暮【チヤウ】 闇暮【アン】 薄暮【ハク】 晨暮【シン】
 且暮【チヤウ】 商暮【シヤウ】 晚暮【バン】 夕暮【セキ】
 冥暮【メイ】 衰暮【スイ】 末暮【マツ】 曉暮【キョウ】

曝

チツ

曝

①衆星のきらめくさま②小屋のさま
 ちかづく(近)したしむ(親)なじむ
 【曝就】 チョウジツ 親しみなぢむ

暴

パウ

暴

①そこなふ(害)しへたぐ、傷害す、あら
 し、あらす、やぶる(破)②はやし(疾)は
 げし③にはか(猝)卒然④てあら、あは

【暴徒】 パウト 亂暴をする輩、あばれ者の
 なかま。
 【暴逆】 パウギャク 暴戾にして道にそむく。
 【暴起】 パウキ 突然におこる、突發。
 【暴虐】 パウギャク 非理非道に人を殺す、む
 こたらしくしへたげる。
 【暴動】 パウドウ あら／＼しき舉動、不穩な
 るふるまひ。
 【暴慢】 パウマン 粗暴にしてあはれる。
 【暴溢】 パウイツ 河水などにはかにあふれ
 流れること。
 【暴掠】 パウリヤク 力づくにて取る。
 【暴落】 パウラク 急に物價等の下ること。
 【暴富】 パウフ 急に財産家となる。
 【暴飲】 パウイン 度をすごして飲む、むやみ
 へのむ。
 【暴貴】 パウキ にはかに尊者となる、には
 か長者。
 【暴酷】 パウコク 荒くしてむごたらし。
 【暴漢】 パウカン あばれもの、ならずもの。
 【暴々】 パウバウ 亂暴なる貌。
 【暴横】 パウワウ 亂暴にて無理をおし通す。
 【暴興】 パウコウ 暴起に同じ。
 【暴舉】 パウキョ 無謀なる企、亂暴なる行爲。
 【暴露】 パウロ ①屋外にさらすこと②かく
 れたる事實のあらはれること。

類語

苛暴【カウ】 陵暴【リョウ】 剛暴【ゴウ】 強暴【キヤウ】
 猛暴【メイ】 昏暴【コン】 酷暴【コウ】 刻暴【コク】
 侵暴【イン】 卒暴【ソツ】 横暴【ワウ】 虐暴【ギャク】
 恣暴【ジ】 驕暴【キョウ】 傲暴【オウ】 慢暴【マン】

曝

カン

曝

①かわかす(乾)さらす(曝)②かわき
 しぼむ③あつし(熱)あつさ

十二畫

瞭

レウ

あきらか(明)少しあかるし
【瞭然】レウゼン あきらかなる貌。

暹 セン
①ひので(日出)日がのぼる。②國名、暹羅。
【暹羅】シヤム 亞細亞の東南にある國の名

噉 トン
あさひ(朝日)ひので(日出)

噉 エイ イ エツ
かざす(蔚)おほふ(蔽)くもる、くもりて風あること。
【噉風】エイフウ 空曇りて風の吹くこと。
【噉々】エイエイ 空くもりてくらき貌。

類語
【噉】陰噉 エイン 烟噉 エイン 塵噉 エイン
昏噉 エイン 曉噉 エイン 氣噉 エイン

暨 キ
いたる(至)およぶ(及)くみす、あづかる(與)ともに、とつよし(果毅)の

貌)強くして勇まし。②日あらはる、をはみ(已)
【暨々】キキ 強くして勇ましき貌。

曄 エフ イフ
①さかんなり(盛ん)ひかる(光)かやく(輝)稻妻の閃めくさま
【曄煜】ニフイク 盛んなる貌。
【曄々】ニフニフ さかんなるさま。

曆 レキ リヤク
①こよみ、日月星辰の運行を推算して季節・時令を定める法、又それを記録したるもの。②かたどる(象)かぞふ(としつき(年月)よはひ(齡)よ(年代)まはり合せ、運命
【曆日】レキジツ こよみ、こよみにて定めたる日、月日。
【曆年】レキネン ①こよみにて定めたる一年としつき、歳月。
【曆尾】レキビ 年のくれ、年のをはり。
【曆官】レキクワン 曆の事を取扱ふ役人。
【曆命】レキメイ よはひと天命。
【曆象】レキシヤウ ①こよみを推算して天體の運行を視ること。②天體の運行、又日

月星辰。
【曆道】レキダウ 古の陰陽寮にて曆法を作りしもの。
【曆數】レキスウ ①こよみ。②廻り合せ、運命。
類語
改曆 レキカイ 短曆 レキタン 律曆 レキリツ 星曆 レキセイ
步曆 レキホ 算曆 レキサン 籌曆 レキチウ 簿曆 レキボ
太陽曆 レキタイヤウ 太陰曆 レキタイイン

曇 タン ドン
くもる、くもり、雲がかゝる、雲が空をおほふ貌。②國訓くもり(はつきりせぬ貌)光がぼんやりしてうすぐらきさま、色つやを失ふ
【曇天】ドンテン くもりたる空。
【曇晴】ドンセイ くもりとはれ。
【曇雲】ドンウン くろくも。

瞳 トウ
朝日の見えそめること、又その光景

曉 ゲウ ケウ
あかつき、あけぼの、よあけがた。さ

曖 アイ
くらし(暗)蔽はれてくらし。かざす(蔚)おほふ(蔽)
【曖昧】アイマイ 物事が分明せぬこと、徹底せぬさま、まぎらはしいこと、はつきりせぬ、うろん。
【曖々】アイアイ ぼのぼのらき貌。

曦 シヨ
曦の略字
十四畫

曙 ショ
あけぼの、よあけ、あかつき。夜があける、日が出る
【曙日】ショジツ あさひ、旭日。
【曙月】ショゲツ のこりの月、殘月。
【曙光】ショクワウ 夜あけのうすあかり。善き事のおこるしるし。
【曙鳥】ショウ 明けがらす、夜あけに鳴くからす。
【曙鷄】ショウキ 前に同じ。
【曙曦】ショウキ あさひ、旭日。

とる、しる(知)あきらか(明)まをす(白)とし(慧)とく(説)さとす、教ふる
【曉天】ゲウテン あげがたの空、よあけの天。
【曉旦】ゲウタン あげぼの、あけがた。
【曉示】ゲウシ さとし知らしむ、諭示。
【曉妝】ゲウサウ 早朝の化粧。
【曉到】ゲウタウ さとりいたる、通達す。
【曉星】ゲウセイ あげの星、少數のものにたとへていふ語。
【曉悟】ゲウゴ さとる、會得する。
【曉烏】ゲウウ 夜明のからす、あけがらす。
【曉起】ゲウキ 黎明に起床する、はやおき。
【曉覺】ゲウケツ 佛事の朝のつとめ。
【曉通】ゲウツウ よくさとる、さとり通ず。
【曉習】ゲウシフ さとりなれる、熟練、練習。
【曉晨】ゲウシン 黎明、よあけ。
【曉噓】ゲウウ さとす、言ひきかす。
【曉然】ゲウゼン 明にさとる、はつきり知る。
【曉達】ゲウタン さとり通ず。
【曉解】ゲウカイ さとり會得する、得心する。
【曉會】ゲウクワイ さとる、會得する。
【曉鷄】ゲウキ 曉鳥に同じ。
【曉鷄】ゲウキ 曉鳥に同じ。
【曉鷄】ゲウキ 曉鳥に同じ。
【曉鷄】ゲウキ 曉鳥に同じ。
【曉鷄】ゲウキ 曉鳥に同じ。

暴 バウ
いそぐ、早く趨く、にはか(猝)

晔 キヤウ シヤウ
①しばらく。あきらか(明)あかす、明らかにす。②さきに(曩)以前、前日。むかふ(向)

類語
【晔】清晔 ゲウセイ 知晔 ゲウチ 雲晔 ゲウム
指晔 ゲウシ 通晔 ゲウツウ 昏晔 ゲウコン 洞晔 ゲウトウ
明晔 ゲウメイ 風晔 ゲウフウ 遂晔 ゲウスキ 春晔 ゲウシュン

【曙草】アケボノグサ 櫻の異名。
【曙染】アケボノゾノ 曙の空の如く紅又は紫等にてぼかし染めたもの。

類語

拂曙シヨフ 開曙シヨイ 煙曙シヨシ 殘曙シヨシ

喙

ボウ モ モウ

くらし、日が未だ明るくない、ぼのぼのし、うすぐらし
【曖昧】モウマイ ①うすぐらし ②道理にくらきこと。
【曖曖】モウモウ 日の光ほのぼのらし。

曩

曩の本字

曛

タン

①くれる、日くる ②たそがれ、たそがれどき、ひぐれがた ③いりひ(入日)夕日の光
【曛夕】タンセキ たそがれ、入日。
【曛日】タンジツ ゆふ日、夕陽、落陽。
【曛黃】タンクワウ 夕方、たそがれ。
【曛黒】タンコク ゆふやみ、日ぐれてくらし。
【曛霞】タンカ ゆうやけ、晚霞。

【曠廓】クワクワクワ 廣々として大なるさま。
【曠適】クワクワチキ 心ひろく自得すること。
【曠歲】クワクワサイ 月日をむだに費す。
【曠廢】クワクワハイ ①おろそかにする ②すたれる。
【曠職】クワクワシヨク 曠官に同じ。
【曠達】クワクワバク 廣々として遠きさま。
【曠懷】クワクワワイ 廣々としてわだかまりなき心。
【曠世之度】クワクワセイド 大なる氣がまへ、世を見くびる程の大なる器量。
【曠日彌久】クワクワヒキウ 時日を空費して久しきに及ぶこと、曠日持久。

類語

弘曠クワクワ 空曠クワクワ 餘曠クワクワ 照曠クワクワ
久曠クワクワ 清曠クワクワ 放曠クワクワ 遼曠クワクワ
怨曠クワクワ 貧曠クワクワ 夷曠クワクワ 雅曠クワクワ
間曠クワクワ 遐曠クワクワ 平曠クワクワ 高曠クワクワ

十六-十九畫

曠

ギ

曠

ひのひかり(日光)日のいろ(日色)

【曠霧】クンム ゆふぎり。

曜

エウ

曜

①ひかり、日の光 ②日月辰星の總稱 ③かじやく(耀) ④七星を日に當て呼ぶ稱(一週)
【曜乎】エウコ かじやく鏡。
【曜煜】エウイク 光り輝くさま。
【曜魄】エウハク 月の異名、又北斗星の異名。
【曜々】エウエウ 光り耀くさま。
【曜靈】エウレイ 太陽、日輪。

類語

七曜ニシチ 輝曜エウク 晃曜エウワウ 光曜エウワウ
文曜エウブン 景曜エウケイ 陽曜エウヤウ 震曜エウシ
照曜エウシヨウ 明曜エウメイ 榮曜エウエイ 靈曜エウレイ

十五畫

曝

バク ホク ボク

曝

暴の俗字 ①かわく、かわかす(乾) ②さらす(曬)あらはる(露)
【曝背】バクハイ ひなたぼこり。
【曝書】バクシヨ 書物の蟲干をすること。

曠

ロウ

①ひので(日出)日出で、あかるし ②くらし、うすぐらし、ぼのぼのし、日かすかに見ゆ

曩

ダウ ナウ

曩

①さき(以前)むかし、さきのもの、以前に、前日、既往 ②さきに、其むかし、曾て ③ひさし(久)

曠

サイ シ

曠

①さらす(暴)日に乾かす ②のぶ(舒)

日部

日

エツ ナチ

日

①いふ、いはく(言)口を開きてものを

曠

クラウ

曠

①あきらか(明)障礙物なくして明るし ②むなし(空)むなくす、からにす、缺けてなし ③とほし(遠)おほいなり(大)ひろし(悠)ひさし ④おろそかにす、むだにす

【曠士】クラウシ 心のゆつたりせる人。
【曠古】クラウコ 前例なきこと、未曾有。
【曠夫】クラウフ 獨身の男。
【曠官】クラウカン 職務をおろそかにする、勤めを怠る。
【曠放】クラウハウ 小事にかまはずしてさつぱりせること。
【曠度】クラウド 度量の廣きこと、宏量。
【曠原】クラウゲン 廣々としたる野原。
【曠望】クラウバウ 眼界のひろきながめ。
【曠淡】クラウタン 心のさつぱりせること。
【曠野】クラウヤ 廣くのばす。
【曠逸】クラウイツ 曠原に同じ。
【曠焉】クラウエン 物事にしまりなきこと。
【曠焉】クラウエン ひろくとしたるさま。
【曠絶】クラウゼツ 後がたえて空しくなる。
【曠達】クラウダツ 心が廣々として大なるさま、豁達。

二畫

曲

キョク

曲

①まがる、かじまる、かじむ、ひがむ ②まぐ、よこしまする、折まげる、ゆがめる、自己の意に反して屈從す ③よこしま(邪僻)まがり ④こわけ、入りこみしすみ ⑤す(贅) ⑥音楽の一段落 ⑦あやがある、あや、單調ならず ⑧つぶさに、くはしく ⑨へんぴ、片田舎 ⑩曲尺【キョクシヤク】 尺度の一、かねざし ⑪直角にまがりたる形。
【曲引】キョクイン 音楽の一段落、ふし。
【曲水】キョクスイキ うねり曲りたる水流。
【曲江】キョクコウ 入江、いりうみ。
【曲庇】キョクヒキ 事實を曲げて悪をかばふ。
【曲成】キョクセイ さまかく作りなほす。
【曲折】キョクセツ ①折れまがる ②こみ入つた事情 ③文章等の筋道が入りくみて變

化の多きさま。

- 【曲糸】キョクシヨク 後のまるく曲りし椅子。
- 【曲私】キョクシヨク よこしま、又私すること。
- 【曲房】キョクシヨク 人の氣づかぬ室。
- 【曲制】キョクシヨク 規則通り行はぬ意、規則を曲げて行ふ。
- 【曲邪】キョクシヨク よこしま、不正。
- 【曲屈】キョクシヨク 自己の主義主張を曲げて心ならずも屈する意。
- 【曲直】キョクシヨク 是と非、善と悪。
- 【曲眉】キョクシヨク 三日月なりに曲つた眉、美人の眉の形容。
- 【曲者】キョクシヨク よこしまの行爲をなす者、くせもの。
- 【曲浦】キョクシヨク まがり入込みし海、いり江。
- 【曲馬】キョクシヨク 馬を使用してなす藝當、きよくのり。
- 【曲梁】キョクシヨク 魚を捕ふる具、やな。
- 【曲救】キョクシヨク 許すべからざる者を赦すこと。
- 【曲媚】キョクシヨク 自己の主義を枉げてこびへつらふ。
- 【曲筆】キョクシヨク 事實を曲げてかき記す筆の先にて細工する意。
- 【曲惡】キョクシヨク よこしま、邪惡。
- 【曲解】キョクシヨク 事實をまげてときあらはす、あたらしぬ解釋。

- 【曲暢】キョクシヨク 詳しうのべる。
- 【曲踊】キョクシヨク をどる、をどり。
- 【曲樹】キョクシヨク 折曲げて作つたうてな。
- 【曲說】キョクシヨク 正しくない言論。
- 【曲盡】キョクシヨク ①詳細にきはむ、残らず仕おぼす ②音楽歌舞の一段落。
- 【曲撓】キョクシヨク まげたわむ、ためる。
- 【曲調】キョクシヨク 音曲の詩歌。
- 【曲論】キョクシヨク 理非を分たずして論ず、又その議論。
- 【曲線】キョクシヨク まがりたるせん、複雑なるすぢ。
- 【曲鞠】キョクシヨク つぶさに問ひきはめる、細かに事情を推究する。
- 【曲瓊】キョクシヨク まがたま。
- 【曲禮】キョクシヨク 日常の禮儀作法。
- 【曲藝】キョクシヨク ①小き技能 ②普通の仕方と異なる面白き藝、かるわざの類。
- 【曲譜】キョクシヨク 音楽の調子の符號。
- 【曲寵】キョクシヨク 情實關係にて過當の寵愛を受けること、又その寵愛。
- 【曲辯】キョクシヨク むりにこじつける、言葉たくみにいひまげる。
- 【曲聽】キョクシヨク 是非を分たずして人の言に屈従すること。

- 【曲水宴】キョクシヨク 古三月三日に文人等が流水の邊にて水上より盃を流し己が面前を流れすぎざる先に詩を賦し其盃を取りて酒を飲みし遊びより始まり文人墨客の風流なる酒宴をいふ。
- 【曲水流觴】キョクシヨク 前に同じ。
- 【曲水之樂】キョクシヨク 清貧に安んじて猶ほ樂しむ意。
- 【曲突徙薪】キョクシヨク わざはひを未然に防ぐにたとへし語。
- 【曲磴盤旋】キョクシヨク 曲りくねりたる石段。
- 【曲學阿世】キョクシヨク 修得したる學理を曲げて世の人にこびへつらふ、轉じて正當ならざる學問を修めて世の人氣に投ぜんと力むること。

- 類語
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 一曲イフ | 委曲キョク | 心曲シヨク | 屈曲キョク |
| 部曲キョク | 郷曲キョク | 紆曲キョク | 雅曲キョク |
| 清曲キョク | 海曲キョク | 限曲キョク | 邪曲キョク |
| 音曲キョク | 聲曲キョク | 歌曲キョク | 樂曲キョク |
| 審曲キョク | 餘曲キョク | 新曲キョク | 諺曲キョク |
- 【史】 史の俗字

曳

- エイ
- ①ひく、ひつばる、ひきずる、引よせる、ひくまづく(頓)つく、揃へる、ひかれる、ひかれる。
 - 【曳白】エイハク 詩文を作り得ず唯白紙をひねりながら考へて居る貌。
 - 【曳杖】エイヂョウ 杖をひく、杖策すること。
 - 【曳聲】エイセイ 物を曳く時發するかけ聲。
- 類語
- 搖曳ニウ 陰曳ニウ 掣曳ニウ 流曳ニウ
 - 馳曳ニイ 陵曳ニイヨウ 牽曳ニイ 倒曳ニイ

史

更

- カウ
- ①かふ(替)あらたむ(改)かはる(代)改まる、新たになる、かへる、あらためる、新らしくす、取かへる、變じ改める、新たになる、變ず、かはる、こもこも交互に、ふける(夜過ぐる)一夜を五分したる時刻の稱、漢代賦役の稱、さらに、かされて、あらたに、また、またも、つぐ(續)ふ(經)通過する、國訓さら(新らし、いふまでもなし)さら
 - らに(決して)一向に、さら、
 - 【更月】カウゲツ 陰曆二月の異稱。
 - 【更互】カウゴ かはる、に代る、交互。
 - 【更正】カウセイ 改めなほすこと、改正。
 - 【更生】カウセイ いきかへる、生れかへる。
 - 【更衣】カウイ ①衣がへ ②昔の女官の一。
 - 【更改】カウカイ 更正に同じ。
 - 【更定】カウテイ 改めさだめる。
 - 【更迭】カウテツ 地位がかへる、入れかへる。
 - 【更始】カウシ 革新と言ふが如し、やりなほし、改めはじめ。
 - 【更鼓】カウコ 夜中時をしらす太鼓。
 - 【更換】カウカン とりかへる、とりかはる。
 - 【更張】カウチャウ 今までゆるんでゐたものを緊縮すること。
 - 【更新】カウシン 改正したる事實を行ふ、やりなほし。
 - 【更番】カウバン 交代して番にあたる。
 - 【更遷】カウテン かはりあふ、入りかへる。
 - 【更紗】カウサ 染物の模様、又其織物。
- 類語
- 三更カウサン 四更カウシ 五更カウゴ 初更カウショ
 - 紛更カウマシ 踐更カウセン 過更カウワ 變更カウヘン

曷

- カツ
- ①いづくんぞ(焉)なんぞ、何として、どうして、とむ(止)おふ(逐)およぶ、いつか、何の時、蠅に通ず、すくもむし
 - 【曷爲】カツキ 何が故に、なんすれぞ。

書

- シヨ
- ①ふみ、文字にて記せしもの、總稱、書物、てがみ、かく、揮毫、かきしるす、書きとめる、じ、文字、書經の略稱
 - 【書刀】シヨタウ 昔支那にて竹札に文字を書くに用ゐた小刀。
 - 【書工】シヨコウ 文字を書く人、書家。
 - 【書册】シヨサツ とちほん、書物。
 - 【書中】シヨチュウ ①手紙の文章のなか、書物のうち。
 - 【書生】シヨセイ ①學問をする青年、學生、②他家に寄食して家事に使はれる傍ら

書

學問する者。
 【書札】シヨクツツ ふみ、手紙。
 【書目】シヨクモク 書籍の目録。
 【書式】シヨクシキ ①文書の一定の方式 ②文字の書き方 ③かきやく、書記。
 【書佐】シヨクサ 書記役、書記。
 【書卷】シヨクワン ①書籍に同じ。 ②書齋、又書店に同じ。
 【書房】シヨクバウ 書齋、又書店に同じ。
 【書帙】シヨクテウ 書物、又書物を覆ふつゝみ。
 【書林】シヨクリン 書物の多く集りたる所の意。ほんや、書籍店。
 【書法】シヨクハフ ①文字の書き方 ②文章の作り方。
 【書店】シヨクタン 書肆に同じ。
 【書典】シヨクテン 書物に同じ。
 【書物】シヨクモノ ほん、書籍。
 【書客】シヨクカク 書家、字かき。
 【書狀】シヨクヤウ ①てがみ、手簡。 ②支那の周制にて二十五家の土地、二十五家を一里として一里に一社を立て其戸口と田地の段別とを記したる帳簿を其社に納めたるもの。
 【書信】シヨクシン 手紙のたより。
 【書風】シヨクフウ 文字のかきぶり。
 【書面】シヨクメン 手紙、書札。
 【書庫】シヨクコ 書籍を保管する庫。

書

【書屋】シヨクヤク 書物を入れる家、書樓。
 【書院】シヨクイン ①學問所、學校 ②貴人の奥座敷。
 【書架】シヨカ 本だな、書棚。
 【書記】シヨキ ①書佐、かきやく ②書きとめる、記録す。
 【書契】シヨクケイ 支那太古の文字。
 【書格】シヨクカク 書物に載せるたな、書棚。
 【書笈】シヨクキツ 書籍箱、ほんばこ。
 【書家】シヨカ 字かき、能書家。
 【書淫】シヨクイン 度を過して讀書すること、みだりによむ。
 【書堂】シヨクドウ 書籍店に同じ、ほんや。
 【書棚】シヨクバウ 書架に同じ。
 【書肆】シヨクシ 書齋のたばり。
 【書窓】シヨクソウ 書齋のまど。
 【書畫】シヨクガワ 文字と繪畫。
 【書策】シヨクサク 本のまきもの、書卷。
 【書傳】シヨクデン 古の賢人の述作物。
 【書備】シヨクビ 書きものをする人、筆耕。
 【書聖】シヨクセイ 書家、書道の達人。
 【書肆】シヨクシ 書籍店、ほんや。
 【書道】シヨクドウ 文字を書く法。
 【書廚】シヨクチュウ 書籍に同じ。
 【書跡】シヨクセキ 筆のあと、文字の形。
 【書損】シヨクソン 書き誤り、書きごこなひ。

【書箱】シヨクシヤウ ①ふばこ、ほんばこ。 ②書肆に同じ。
 【書篋】シヨクケツ 書籍に同じ。
 【書樓】シヨクロウ 書物を入れる所。
 【書經】シヨクキヤウ 五經の一、堯舜禹の事蹟言説を首とし殷周二代の事蹟文章を集めたるもの。
 【書翰】シヨクカン 書札に同じ。
 【書齋】シヨクサイ 勉強する室、讀書室。
 【書蹟】シヨクセキ 書跡に同じ。
 【書類】シヨルキ ①かきもの、文書。 ②書を讀むのみにて意義に通ぜざる者に喩ふ。
 【書櫃】シヨクク 本箱に同じ。
 【書簡】シヨクカン 書面に同じ。
 【書癖】シヨクヘキ 書物を愛好する性癖。
 【書簿】シヨクボ 書籍と帳簿。
 【書癡】シヨクチ 書物にのみ心を奪はれて世事を顧みぬこと。
 【書牘】シヨクツク 書札に同じ。
 【書籍】シヨクシキ 書物、ほん。
 【書體】シヨクタイ 文字のかきやう、字形。
 【書畫】シヨクガ 書物のかみをくふ蟲、紙魚。
 【書換】シヨクカヘ 書面又は文書を認め換る。
 【書記官】シヨクキカン 書記の事を司る官、主

として内閣諸省の長官に直屬せる者。
 【書院造】シヨクインソウ 足利時代の建築様式の種類。
 【書畫會】シヨクガワクワイ 書畫をかき又は品評するために催す會。
 【書換日】シヨクカヘニチ 公債株券の権利移轉に對する名義書換をなす一定の日。
 【書不盡言】シヨクヘンジン 文字にては言葉を十分に書きあらはし得ぬ意。
 【書判拔萃】シヨクハンバツクサ 書法と判決文辭の巧拙を見て官吏を登用すること。字は【書足レ記三姓名】シヨクヘキニキサンシヨクシヨクニナリトシテ字には差支なしとの意。

【曹】サウ ソウ ①なかま、ともがら ②裁判を取扱ふ役人、轉じて下役、屬官 ③つぼね、局室 (や) ④國の名(今の山東省曹州府)
 【曹子】サウシ 部屋、部屋住の貴公子。
 【曹司】サウシ ①禁中の用部屋にて官人女官の詰所 ②普大學寮の教場。
 【曹偶】サウオウ 朋輩、ともがら。
 【曹長】サウチャウ 陸軍下士官の一。
 【曹達】サウダツ 酸化ナトリウム、又炭酸曹達の略、英語(Soda)のあて字。
 【曹掾】サウゼン 役所のしたづかさ、屬官。
 【曹輩】サウバイ 曹偶に同じ。
 【曹司住】サウジジ 一家の主人とならず部屋住ひのもの。
 【曹洞宗】サウドウシュウ 禪宗の一派、道元禪師が本邦にひろめしもの。

①ながし(長)ひろし(廣)はてなし(無)きめよし、つやよし、うつくし、うるはし巧みにてうまし ②つく(突) ③なし(無)はてなし、長きさま
 【曼目】マンモク はるかにながめる、遠望。
 【曼陀】マンダ 佛語、淨土にて常に天より降らす花。
 【曼衍】マンエン はてしなきさま、無限。
 【曼々】マンマン 長くしてはてしなき貌。
 【曼辭】マンジ 美しく飾れる言、巧辯。
 【曼麗】マンレイ うるはし、うつくし。
 【曼陀羅】マンダラ ①一具の法門を圖に現はしたるもの ②淨土の實相を寫した圖。
 【曼陀羅華】マンダラガハ ①白蓮華の義 ②毒草の名、きちがひなすび。
 【曼珠沙華】マンジュシャガ しびとばな、彼岸花、多く墓所などに生ず。
 【曼理皓齒】マンリカウシ ①きめよき肌と白き齒 ②轉じて美人の形容。

校書シカウ 白書シハク 簡書シカン 讀書シドク
 銘書シメイ 六書シロク 篆書シテン 隸書シレイ
 群書シグン 楷書シカイ 行書シギヤウ 草書シヤウ
 圖書シト 兵書シヘイ 軍書シグン 備書シボク
 竹書シチク 抄書シセウ 籀書シシウ 曝書シハク
 官書シクワン 券書シケン 儒書シジュ 禱書シトウ
 著書シチウ 投書シトウ 好書シカウ 逸書シイウ
 樂書シガク 律書シリツ 藏書シザウ 史書シシヤ
 寫書シシヤ 尙書シヤウ 聖書シセイ 史書シシヤ

【曼】マン マン
 類語
 爾曹シニ 別曹シニ 吾曹シニ 我曹シニ
 卿曹シケイ 汝曹シニ 若曹シニ

類語
 衍曼シエン 延曼シエン 秀曼シウ 靡曼シマン
 蕭曼シセウ 婉曼シマン 流曼シリウ 長曼シチャウ

會

ソウ ソウッ

會

①かつて、以前に、今までに、從來②すなはち(乃)③祖父の父、又孫の子④あぐ、あがる(擧)⑤かさなる(層)⑥ます(増)⑦す(末)

【會加】ソウカ 重なり増すこと。
【會祖】ソウソ 先祖、せんぞ。
【會孫】ソウソン 孫の子、ひまご。
【會益】ソウエキ ふやす、ます。
【會雲】ソウウン かさなりたる雲、層雲。
【會遊】ソウイウ かつて遊びたる意、以前に遊びたること。
【會閣】ソウカク 二階以上の建築物。
【會樓】ソウロウ 前に同じ。
【會經】ソウケイ 前に通りたることある道。
【會祖母】ソウソボ ひば、祖母の母。
【會祖父】ソウソフ びぢぢ、祖父の父。

替

テイ タイ

替

①かはる(代)かへる②すつ(棄)すてる③しりぞける④すたる(廢)やむ(止)やめる、とりさる⑤ほろぶ(滅)なくなる⑥まつ(待)⑦ゆるむ(弛)

最

サイ

最

①もつとも、ことに、いちばん②あつまる(聚)むらがる③第一、又は極限、第一にすぐれる、又その者④と、のふ(齊)⑤すべて(凡)大略⑥官吏の功績第一等

【最一】サイイツ いちばんはじめ、最初。
【最大】サイダイ いちばん大なる意。
【最上】サイジヤウ 最も上、最もよし、最上等
【最中】サイチュウ ①たゞなか、もなか②たけなは、まんなか。
【最初】サイシヨ 最一に同じ。
【最前】サイゼン さきに、まへに、まへかた。
【最終】サイシュウ 一番終り、どんじまひ。
【最後】サイゴ 一番しまひ、をはり。
【最期】サイキョ 死際、いまはの際、又自殺。
【最愛】サイアイ 一番かあゆがる、最も大切

類語

【替換】タイカワン かへる、又かはる、易換。
【替解】タイカイ なまける、なまけ怠る、サボル。
【類替】ライタイ 隆替ライウ 興替ライウ 荒替ライウ
【類替】ライタイ 廢替ライウ 蓋替ライウ 交替ライウ

會

クワイ エ

會

【會戰】クワイセン 敵味方が出合ひて戦ふ、かつせん。
【會館】クワイクワン 集會所、クラブ。
【會議】クワイギ 人々が集つて評議すること②相談をする機關。
【會讀】クワイドク 寄合つて讀書すること。
【會式】クワイシキ 寺院にて行ふ佛事の寄り合ひ、又日蓮宗が毎年十月十三日に行ふ祭祀。
【會得】クワイトク 會了に同じ。
【會陰】クワイイン 陰門と肛門との間、俗にありのとわたり。
【會釋】クワイシヤク 挨拶、御じぎすること。
【會者定難】クワイヂヤウニヤウ 生ある者は必ず死し會ふ者は必ず別るゝ如く人生の無常なるをいふ。
【會計年度】クワイケイニド 官署にて會計上用ふ一年間のくぎり、毎年三月末日を以て一定す。
【會席料理】クワイセキレイ 集會の席上に出る料理、上品なる料理の意。
【會稽之恥】クワイケイノハヂ 戦敗の恥辱、吳王夫差の爲め會稽山に破られたる越王勾踐が其恥辱を忘れぬ爲め臥薪嘗膽の苦を積み、汝會稽の恥を忘れたるか」と自ら責め勵まして終に復讐を遂げたる故にする。

九一十畫

會

クワイ

會

①あふ、一致する、人にあふ、對面す、よりあふ、てくはす、であふ、あつまる、寄りあふ、あつまりごと、約してあふ、遭遇す、一つになる②以上のこと、さとのさとりしる(理解)③よせる、あつめるをり(機)しを④かんぢやう(會計)⑤ち(繪)⑥ちかひ(盟)⑦たま(時々)ちようど其時⑧かならず、きつと⑨かんむりのぬひ
【會了】クワイレウ よくわかる、了解する、良く理解する。
【會弔】クワイテウ あつまりとむらふ。
【會心】クワイシン 心になふ、氣に合ふ。
【會合】クワイガフ 集りあふ、おちあふ。
【會同】クワイドウ ①人々のより合ひ②水流が落ち合ふこと③周制にて諸侯が天子に拜謁すること。
【會見】クワイケン 面會する、對面する。
【會社】クワイシヤ 二人以上が營利の目的を以て營む法人組織の團體。
【會食】クワイシヨク 人々が一所に集まりて食事すること、又其宴會。
【會面】クワイメン あふ、對面す。
【會悟】クワイゴ さとる、會得する。
【會席】クワイセキ ①集會の席②會席料理。
【會計】クワイケイ 金銀物品等の出納を勘定

【會萃】クワイスイキ 集めあはせること。
【會商】クワイシヤウ 集まりて相談す。
【會匪】クワイヒ 悪者どもの寄り集ること。
【會堂】クワイドウ ①耶穌教の寺、教會②衆人のよりあふ所。
【會費】クワイヒ 寄集り等に要する入費。
【會期】クワイキ 開會の始めより閉會に至るまでの期間。
【會集】クワイシフ 多くの人のより集ると。
【會葬】クワイサウ 葬式に加はること。
【會遇】クワイグウ であふ、ゆきあふ。
【會意】クワイイ ①心に納得す、心になふ②漢字構造法の一。
【會話】クワイワ ①外國語にて話す②向合つてかたる。
【會盟】クワイメイ 會合してちかふ。
【會試】クワイシ 昔支那の試験の一。
【會稽】クワイケイ 金品の出納會計。
【會賦】クワイフ 税金を賦課すること。
【會獵】クワイレツ ①戦争を申込むに婉曲に言ふこと②寄り集りて狩獵すること。
【會談】クワイタン 人々が寄り集つて相談すること、又その相談。
【會課】クワイクラ 集會の規約。
【會親】クワイシン 近親の寄合ひ、親族會議。

【會戰】クワイセン 敵味方が出合ひて戦ふ、かつせん。
【會館】クワイクワン 集會所、クラブ。
【會議】クワイギ 人々が集つて評議すること②相談をする機關。
【會讀】クワイドク 寄合つて讀書すること。
【會式】クワイシキ 寺院にて行ふ佛事の寄り合ひ、又日蓮宗が毎年十月十三日に行ふ祭祀。
【會得】クワイトク 會了に同じ。
【會陰】クワイイン 陰門と肛門との間、俗にありのとわたり。
【會釋】クワイシヤク 挨拶、御じぎすること。
【會者定難】クワイヂヤウニヤウ 生ある者は必ず死し會ふ者は必ず別るゝ如く人生の無常なるをいふ。
【會計年度】クワイケイニド 官署にて會計上用ふ一年間のくぎり、毎年三月末日を以て一定す。
【會席料理】クワイセキレイ 集會の席上に出る料理、上品なる料理の意。
【會稽之恥】クワイケイノハヂ 戦敗の恥辱、吳王夫差の爲め會稽山に破られたる越王勾踐が其恥辱を忘れぬ爲め臥薪嘗膽の苦を積み、汝會稽の恥を忘れたるか」と自ら責め勵まして終に復讐を遂げたる故にする。

【會計検査院】クワイケイケンサケン 官金及官有物の會計事務を検査監督する官廳。
 事より出づ。

類語
 高會クワイ 大會クワイ 期會クワイ
 都會クワイ 參會クワイ 事會クワイ 朝會クワイ
 離會クワイ 聚會クワイ 面會クワイ 臨會クワイ
 據會クワイ 小會クワイ 法會クワイ 公會クワイ
 盛會クワイ 雅會クワイ 詩會クワイ 畫會クワイ
 機會クワイ 同會クワイ 尙齒會クワイ

場

ケツ

①さる(去)たけく壯なる貌
 【場來】クワイ 去ることゝ來ること。

月部

月

ゲツ

つき、太陰、地球の衛星の一〇一年を十二分したる區間①月數の單位②つき(光陰)としつき③一月の間、毎つきつき④月光、つきかけ⑤國訓月の

もの(月經) 月光のさす所。 月
 【月下】ゲツカ 月光のさす所。
 【月子】ゲツジ つき、月。
 【月夕】ゲツセキ 陰曆八月十五夜、月の夜。
 【月令】ゲツレイ 年中行事を月に配して規定したるもの。
 【月刊】ゲツカン 毎月一回發行する印刷物。
 【月旦】ゲツタン ①月朔に同じ②人物批評。
 【月白】ゲツパク ①つきあさぎ色。
 【月光】ゲツクワ ①つきあさぎ色、月のひかり。
 【月牙】ゲツガ 三日月。
 【月朶】ゲツダ 菊の異名、おきなぐさ。
 【月事】ゲツジ 婦人の月のもの、月經。
 【月來】ゲツライ 一二箇月このかた。
 【月兔】ゲツトウ 月の異名。
 【月亮】ゲツリョウ 月。
 【月信】ゲツシン 月事に同じ。
 【月要】ゲツユウ 一箇月分の會計。
 【月面】ゲツメン 月の表面、轉じて美しき顔。
 【月食】ゲツシヨク 月蝕に同じ。
 【月俸】ゲツボウ 月々に支給せられる給金。
 【月宮】ゲツクウ 月、月の世界。
 【月朔】ゲツサツ つきのついたち、朔日。
 【月桂】ゲツケイ ①月のかけ、月光②高等官試験に及第したる榮譽。
 【月晦】ゲツクワイ 月のみそか、つごもり。

【月華】ゲツカワ 月のひかり。
 【月脚】ゲツキヤク 月光の地上に寫りしもの
 【月城】ゲツジャウ 城の三の丸。
 【月經】ゲツケイ 婦人の月のもの、月信。
 【月陰】ゲツイン 月かけ。
 【月給】ゲツキョフ 月俸に同じ。
 【月卿】ゲツケイ 攝政・關白・大臣を公と云ひ大納言三位以上を卿と云ふ、轉じて公卿の異稱。
 【月琴】ゲツキン 支那の樂器の一、
 【月暈】ゲツウン 月の周圍に生ずる雲氣。
 【月魄】ゲツハク 月の精、つきしろ、月靈。
 【月餘】ゲツヨ ひとつきあまり。
 【月頭】ゲツトウ 月のかゝり、つきはじめ。
 【月廬】ゲツリン 月々受ける扶持米。
 【月謝】ゲツシャ 毎月授業料。
 【月節】ゲツセツ 新月の正中時より起算したる時間の稱で陰曆の日のよりどころとなるもの。
 【月賦】ゲツフ 纏りたゞ金を月々に割當てゝ支拂ふこと。
 【月蝕】ゲツシヨク 地球が日と月との間に挟りて太陽の光りを遮る位置に來りたる時月面の全部又は一部分がくらくらなる現象。
 【月臺】ゲツダイ 屋根のなき座敷。

【月靈】ゲツレイ 月魄に同じ。
 【月籠】ゲツロウ 月とすつぽん、相違の甚だしきに喩ふる語。
 【月毛】ゲツモウ 馬の毛色の一種、茸毛に似て赤色を帯びたるもの、又其馬。
 【月次】ゲツジ 毎月、つきごと。
 【月下白】ゲツカハク ①つきあさぎ。
 【月白色】ゲツハクシヨク ①つきあさぎ。
 【月桂冠】ゲツケイクワン 勝利のしるしとして認められたるもの。
 【月宮殿】ゲツクウテン 月の世界の御殿。
 【月桂樹】ゲツケイジュ 樹木の一、ローレル。
 【月見草】ゲツミクサ 萩の異名。
 【月見月】ゲツミツキ 陰曆八月の異稱。
 【月下氷人】ゲツカミヨウジン むすぶの神、轉じて婚姻のなからど。
 【月盈則食】ゲツメイソク 物盛なれば必ず衰ふる意。
 【月滿則虧】ゲツマンソク 前に同じ。

訓讀
 【月に歩す】歩レ月 つきにはす 月夜にあるき行く、月かけを踏んであるく。
 類語
 大月ゲタイ 小月ゲチヨウ 佳月ゲカ 半月ゲハン
 陽月ゲヤウ 暢月ゲチヤウ 夕月ゲセキ 吉月ゲキツ

良月ゲリョウ 明月ゲメイ 朗月ゲラウ 風月ゲフウ
 歩月ゲホ 季月ゲキ 曉月ゲキョウ 殘月ゲゼン
 烟月ゲエン 初月ゲショ 皓月ゲコウ 素月ゲソ
 二畫
 【有】イウウ
 ①あり、居る、物が實在す、所持せられてある、生ずる、起る、自然に存在す②無の對、ある意③「何」と連用して「あらん」とよむ④たやすし、かまはぬ、何とも思はぬ⑤たもつ、もつ、又その物⑥國號又は他の或る語に冠する助辭⑦したしむ(親)⑧古く又に通ず⑨數字の間に置く時は「と」の意を表す
 【有力】イウリョク ①ちからのあること、權力のあること②見込の確實なること。
 【有心】イウシン わざとする、故意。
 【有司】イウシ ①やくにん、官吏、百官。
 【有用】イウユウ ①いりよう、役にたつ。
 【有名】イウメイ ①著名②名義だけあると。
 【有志】イウシ ①同意を表すること、又其者。
 【有事】イウジ ①事件がもちあがる、又變事が起る。
 【有形】イウケイ ①一定の形を有せること、又
 その物。
 【有政】イウセイ まつりごと、政事。
 【有限】イウゲン かぎりあり、きりがある。
 【有毒】イウドク 毒がある、毒をふくむ。
 【有待】イウタイ 期待すること。
 【有害】イウガイ 害がある、毒がある、ためにならぬ。
 【有夏】イウカ 支那本土、中華。
 【有秋】イウシュ 五穀のよくみのる秋。
 【有苗】イウベウ 支那南方の蠻族の名。
 【有益】イウエキ 利益がある、ためになる。
 【有効】イウコウ ①其物の資格がある②効力がある。
 【有情】イウジョウ 生きて喜怒哀樂の心を有せるもの。
 【有望】イウバウ みこみがある。
 【有終】イウシュウ 終りが立派、終を全うす。
 【有道】イウダウ ①道理に適ひたること②道徳を身に供へる。
 【有爲】イウキ 事を成し遂げる力がある。
 【有隙】イウキヤク 仲のあしきこと、仲たがひ。
 【有衆】イウシュウ 人民、蒼生。
 【有罪】イウズイ 罪がある、又其こと。
 【有數】イウスウ ①數へ得る程の少數②ゆびをり數へる、有名。
 【有餘】イウヨ ①あまりあり、やゝ多し。

【有德】イウトク 徳をそなへて人望ある意。
 【有職】イウシヨク 昔から儀式・典禮などを調べる學問、又其人。
 【有體】イウタイ 事實通り、ありのまま、ありてい。
 【有明】アリマク ①夜あけ迄月があること。②夜通しとぼして置くあかり、常夜燈。
 【有様】アリヤマ やらす、ありやう。
 【有無】ウム あるとなき、あるなし、又いやおう。
 【有愧】ウキ 懺悔の心あること。
 【有漏】ウロ ①煩惱の中になやみ迷ひて悟りを開かぬ。②凡夫の境涯又は現世。
 【有縁】ウエン ①はなるべからざる因縁あること。②たよりあること。
 【有力者】イウリョクシヤ 徳望・勢力又は技術ある人。
 【有夫妻】イウフカン 妻が夫以外の男と情交關係を結ぶこと。
 【有苗者】イウキョウシヤ 流行病の微菌を体内に宿せる者。
 【有菌鼠】イウキン シヤ 肺病の菌を有せる鼠のこと。
 【有機的】イウキテキ 生理的機能に支配せられて起る心的状態。
 【有機體】イウキタイ 生活機能を有せるもの。

即ち動植物の類、有機物。
 【有權者】イウケンシヤ 法律上一定の權利を有せる者、主として議員を選挙する權利等にいふ。
 【有頂天】ウチヤウテン ①一事に夢中になりて他事にはうはの空となる貌。②佛教にては無色界の最高天。
 【有終之美】イウシュウノビ 物事の結果の立派なること。
 【有根有柢】イウコンイウセウ 物ごとに秩序ありて正しきこと。
 【有脚陽春】イウキヤクヤウレン 陽春の物をあたむる如く到處にて恩を施す意。
 【有期徒刑】イウキトクイ 罪人をしてその服役期間定役に服せしむること。
 【有價證券】イウカセウケン 時價をもつて賣買せらるる證券。
 【有憑有據】イウヒヨウイウキョ 確實なる證據あること。
 【有罪破産】イウザイハサン 破産宣告を受けた債務者が詐偽怠慢等の手段により債權者を害しその爲め處刑せらるること。
 【有名無實】イウメイムジツ 名ありて實なし、外形のみにて事實の伴はざるにいふ。
 【有産階級】イウサンカイキフ 勞働者・貧民(プロレタリア)に對して中産階級以上の人。

人、資木家階級、ブルジョア(Bourgeoisie)の譯。
 【有卦無卦】ウケムケ 運のよき年と惡しき年のまはり。
 【有待之身】ウタイノミ 佛教にて凡夫のこと。
 【有耶無耶】ウヤムヤ どつちつかず、あいまい、不分明。
 【有爲轉變】ウケテンペン 世の中のうちつり變り易きをいふ、人生の無常なるさま。
 【有無相易】ウムフヒカウ 我有するものを以て他の無きものとかわると、有無相通ず。
 【有象無象】ウゾウムゾウ 世の中にありとあらゆるもの、有形無形。
 【有意的注意】イウイテキチュウイ 用意周到なる注意。
 【有レ始者必有レ終】ハジメアルモノハカナラズマハリヤ 物事は總て限りありとの意。
 類語
 烏有ウウ 專有イゼン 固有コウ 豐有ホウ
 空有クウ 富有フウイウ 備有ビウ 奄有エン
 撫有ブウ 共有コウイ 保有ホウイウ 兼有ケン

朋

ホウ ホウ

①とも、なかま、たぐひ、師を同じうする者、同門、あひ弟子。②一對のたる(楯)。
 ③古く貨幣に用ゐたる二つの貝。
 【朋友】ホウイウ ともだち、友人。
 【朋比】ホウヒ かたよりに組すること。
 【朋曹】ホウソウ 朋友に同じ。
 【朋輩】ホウバイ 身分年齢等同じ位の友達。
 【朋黨】ホウタク ①友だち、なかま。②同志が相結んで黨外の者を排斥する團體。

通ず
 【服用】フクヨウ ①衣服をきる。②薬を吞む。
 【服色】フクシヨク 衣服の色あひ。
 【服役】フクエキ ①兵役に従ふ。②罪囚が苦役につくこと。③つかはれてつとめる。
 【服忌】フクキ 喪服と忌中。
 【服車】フクシャ 公事に用ゐる車。
 【服事】フクジ 服従して仕へる。
 【服務】フクム ①務めに就く。②職務を奉じつとめる。
 【服従】フクジュウ したがひつく、服屬。
 【服御】フクゴ 天子の御用の衣服車馬。
 【服章】フクシヤウ 制服につけるしるし。
 【服罪】フクザイ 罪におちる、自分の罪惡を承認すること。
 【服裝】フクサウ ナリふり、よそほひ、身なり。
 【服飾】フクシヨク ①衣服のかざり。②規定の装束につけるしるし、服章。
 【服翼】フクヨク 蝙蝠の異名。
 【服膺】フクヨウ 肌身を離さぬ、良く覚えて忘れぬこと。
 【服屬】フクゾク ①つきしたがふ、服従。②忌服のかゝる親類縁者。

五・六畫
 麗服レイフク 綈服ケイフク 冕服メンフク 悅服エツフク
 思服シフク 常服ジョウフク 御服ゴフク 祭服サイフク
 時服ジフク 輕服ケイフク 從服ジュフク 產服サンフク
 攝服セツフク 馴服ジュンフク 威服イフク 章服シヤウフク
 集服シュフク 被服ヒフク 畏服イフク 愆服エンフク
 寒服カンフク 肅服ソフク 欣服キンフク 歡服クワンフク
 壓服エツフク 制服ジフク 順服ジュンフク 歎服タンフク
 儀服イフク 著服チャフク 美服ミフク 歎服タンフク

類語
 淫朋インホウ 佳朋カホウ 百朋ヒヤク 邦朋ホウ
 友朋ユウホウ 交朋カウホウ 親朋シンホウ 舊朋キウホウ
 黨朋タクホウ 賓朋ヒンホウ 酒朋シュホウ

服

フク ブク

①きもの、身につけるもの。②きる、まとぶ。③もちゐる(用)つける、忘れぬ、佩びる。④したがふ(従)従はせる。⑤周代王畿外五百里四方の土地。⑥おもふ(思)⑦おこなふ(行)つく(を)をさむ(治)⑧ならふ(習)⑨従事す(こと)事(つ)とめ(職務)⑩えびら(簾)⑪罪に伏す又薬をのむ⑫四頭立の馬車の中央の馬⑬なれし(しむ)狎親⑭ぶく(喪中の服)⑮旬に

類語
 衣服イフク 春服シュンフク 法服ハフフク 心服シンフク
 亵服シヤフク 微服マイフク 禮服レイフク 屈服クツフク

朔
 ①ちどまる(縮)氣がすくむ。②ついたちづき(陰曆一日に見える月)。

①ついたち(月の初めの日)②はじめ(始)③きた(北)北の方④古歳末に天子が諸侯に頒つた來年の曆⑤天子の政令

【朝日】チカジツ ついたち、月の第一日。
 【朝北】チカホク 支那北方の地、轉じて北方。
 【朝旦】チカタン ついたちの朝。
 【朝地】チカチ 朝北の地方。
 【朝風】チカフウ きたのかぜ、北風。
 【朝晦】チカクワイ ついたちとみそか。
 【朝望】チカバウ ついたちと十五日。
 【朝禽】チカケン 北方の鳥、雁の異名。
 【朝漠】チカバク 北方の沙漠。
 【朝邊】チカヘン 北の方。
 【朝扉】チカヒ きたむきの窓。
 【朝風】チカフウ あらい北風。

朕

チン

朕

朕

①われ(我)古は上下共に用ゐしが秦の始皇廿六年より特に天子の自稱となす
 ②きざし(兆)③あやし(怪)

朕

セン

【朗】ラウ ほからか、あきらか(明)

【朗月】ラウゲツ ほからかに晴れたる月。
 【朗旦】ラウタン 夜のあけはなれし頃。
 【朗吟】ラウギン ほからかにうたふ。
 【朗悟】ラウゴ 才ありてさとり早し。
 【朗抱】ラウハウ 清く曇りなき心。
 【朗々】ラウラウ ほからかなるさま。
 【朗然】ラウゼン ほからかなる貌。
 【朗詠】ラウエイ 聲をあげてほかかに詩歌を唱ふ。
 【朗達】ラウダツ 心情清く明かにしてこたわり無きこと。
 【朗瞻】ラウゼン ほからかにうたふ。
 【朗讀】ラウダク ほかかに讀みあげる、さえたる聲にて明かに讀みあげる。

類語
 英朗ラウエイ 皎朗ラウケウ 高朗ラウカウ 通朗ラウツウ
 潔朗ラウケツ 清朗ラウセイ 聰朗ラウソウ 開朗ラウカイ
 爽朗ラウサウ 明朗ラウメイ 韶朗ラウセウ 昭朗ラウシャウ
 曠朗ラウクワン 晴朗ラウセイ 燭朗ラウジュク 煥朗ラウワン

朗

朗の古字

【望】バウ マウ ①のぞむ、遙かに見たす、高く見上る、轉じて尊びしたふ、まつ、待ちまうける、のぞむ、ねがふ②ながめ、のぞみ、人氣、ほまれ、ねがひ③うらみ、うらむ④柴を焚きて山川の神をまつること、又その祭禮⑤はづ、又去りて後を顧みぬさま⑥陰曆十五日、もち

【望月】バウゲツ もちづき、十五夜の月。
 【望外】バウグワイ 希望したよりもその結果の勝れること、豫想外。
 【望羊】バウヤウ 望洋に同じ。
 【望見】バウケン 望洋に同じ。
 【望祀】バウセイ 柴を焚きて遙かに山川の神を祭る。
 【望氣】バウキ 空中の氣によつて人事の吉凶をうらなふこと。
 【望洋】バウヤウ 遠く視る貌、ぼんやりとして取りとめなき貌。
 【望族】バウツク 名門の家柄、門閥。
 【望秩】バウジツ 望祀に同じ。
 【望祭】バウサイ 前に同じ。
 【望々】バウバウ 立去りて後を顧みざる貌。
 【望雲】バウウン 旅行中父母を慕ふ心、(望雲

之情(参照)。故郷をなつかしと思ふ、懐郷。

【望郷】バウキョウ 故郷をなつかしと思ふ、懐郷。
 【望蜀】バウシヨク その上／＼となほ怨ばること、足る事を知らざる貌。
 【望塵】バウジン 人の來るをまつ義。
 【望樓】バウロウ 物見臺、物見やぐら。
 【望覽】バウガン しきりに望み希ふ、渴望。
 【望履】バウレイ 貴人尊者に對面することの謙辭、顔を見むと云ふを避けて其足を望むといふ義。
 【望夫石】バウフセキ 武昌の北山にあり貞女が夫の遠征を見送りて立つたまふ石と化したりと傳ふる石。
 【望遠鏡】バウエンキョウ とほめがね。
 【望雲之情】バウウンノジヤウ 子が親を思ふ心、狄仁傑が故郷の空を望み其下にある父母をしたひ思へる故事。

類語
 貴望バウキ 才望バウサイ 名望バウメイ 位望バウレイ
 德望バウタク 資望バウシ 僞望バウヘン 非望バウハイ
 鄉望バウキョウ 族望バウソク 合望バウカフ 美望バウメイ
 眺望バウテウ 願望バウガン 民望バウミン 群望バウグン
 怨望バウエン 希望バウキョウ 歡望バウカン 人望バウジン
 曠望バウクワン 秀望バウシュウ 思望バウシ 遠望バウエン

遠望バウエン 仰望バウヤウ 高望バウカウ 絶望バウゼツ

【朝】チウ ①あさ、あした、夜の明けはなれし時、夜明より食事までの間②夕・暮・夜・晩の對③一日、ひとよき、その場所等の意④臣の君にまみゆること、参内⑤君主が政治を行ふ所⑥とふ(訪)たづねる⑦一人の君主の統治する年代、又一系の君主がつゞきて統治する間⑧あつまる(集)小流が大河にそゞること、又そのさま⑨向ひ行く、向く、向き至る

【朝夕】チウセキ あさゆふ、あけくれ、あさばん、平生。
 【朝士】チウシ ①官途にある士
 ②周代の官職の一。
 【朝化】チウカフ 朝廷の仁徳、又單に政治。
 【朝列】チウレツ 役人の地位、朝臣の列位をいふ。
 【朝旭】チウキョク あさひ、旭日。
 【朝旨】チウシ 天子の御心、政府の意志。
 【朝臣】チウジン 朝廷に仕ふる人、又政府の

朝

朝

朝

役人。

【朝衣】チウイ 朝廷に出仕する時の制服。
 【朝典】チウテン 國家の法典、朝廷の法則。
 【朝廷】チウテイ 國政を行ふ所、廟堂。
 【朝見】チウケン 臣下が参内して天子に拜謁すること。
 【朝宗】チウソウ 河水が海に集り流れこむこと②諸侯が天子に拜謁すること。
 【朝來】チウライ 朝より、夜明から。
 【朝命】チウメイ 君主のおほせ、朝廷の命令。
 【朝社】チウシャ 朝廷と社稷。
 【朝服】チウフク 朝衣に同じ。
 【朝和】チウワ 朝海風と陸風と替る際に起る無風の時、あさなぎ。
 【朝雨】チウウ あさのあめ。
 【朝紀】チウキ 國家の憲章。
 【朝威】チウキ 朝廷の威光。
 【朝政】チウセイ 朝廷のまつりごと。
 【朝規】チウキ 朝廷のきそく、官則。
 【朝柄】チウヘイ 朝廷の權力。
 【朝班】チウハン 朝列に同じ。
 【朝宴】チウエン 宮中のさかもり。
 【朝貢】チウコウ 諸侯・屬國等が朝廷に奉るみつぎもの。
 【朝庭】チウテイ 朝廷に同じ。
 【朝務】チウム 施政の事務。

【朝寄】テウキ 朝廷よりの委任。
 【朝眷】テウケン 天子の御めぐみ。
 【朝哺】テウホ あさばん、よるひる。
 【朝堂】テウタウ 朝廷に同じ。
 【朝章】テウシヤウ 朝典に同じ。
 【朝賀】テウガ 諸侯群臣などの参内して賀を奉ること。
 【朝野】テウヤ 政府と民間。
 【朝菌】テウキン あさ生えて晩に枯れるといふきのこ、極めて短命なることの喩。
 【朝意】テウイ 朝旨に同じ。
 【朝陽】テウヤウ ①あさひ、旭日、朝旭、朝暉。②朝日に向ふ所、東面したる山地(山西を夕陽といふ)。
 【朝暉】テウキ 朝旭。
 【朝暉】テウキ あさひ、朝旭。
 【朝會】テウクワイ ①諸侯臣下が朝廷へ参り集まること。②學校にて行ふ朝の集會。
 【朝儀】テウギ 宮中内の作法儀式。
 【朝綱】テウカウ 朝廷の綱紀、朝章。
 【朝聘】テウパイ 諸侯が朝見して貢物を奉り天子の御機嫌をうかがふこと。
 【朝敵】テウテキ 朝廷の敵、天子に叛する者。
 【朝憲】テウケン 朝廷の規則、國家のおきて。
 【朝暮】テウボ 朝と暮、朝とゆふ。
 【朝餽】テウク 朝餼に同じ。

【朝暉】テウキ 朝暉に同じ。
 【朝謁】テウエツ 朝見に同じ。
 【朝餐】テウサン 朝餼に同じ。
 【朝議】テウギ 政府の政策、朝廷のはかりこと。
 【朝覲】テウキン 朝見に同じ。
 【朝曦】テウキ あさひ、旭日、天譴。
 【朝露】テウロ 朝のつゆ、はかなきことに喩ふ。
 【朝權】テウケン 朝廷の権力威勢。
 【朝議】テウギ 朝廷に於ける政治上の相談。
 【朝日宮】テウジツミヤ 伊勢の天照大神の御宮。
 【朝三暮四】テウサンボクシ 宋の狙公が猿に向ひ日々朝は三個夕は四個宛の木の實を與ふべきことを言ひしに衆猿はその少きを怒りし爲め然らば朝は四個夕は三個宛與ふべしと言ひかへ猿に満足せしめし故事に因み詐謀をめぐらして人を愚弄することに喩ふる語。
 【朝令暮改】テウレイボカイ 朝に命令を下し夕に變へる、即ち法令頒發のためあてにならぬこと。
 【朝雲暮雨】テウウンボウ 巫山之夢の故事に因み男女の情交をいふ。

【朝改暮變】テウカイボヘン 物事に變更多くして更に決定せざること。
 【朝秦暮楚】テウシンボクソ あしたは秦國に居り夕は楚國に泊る、即ち住所が定まらずして三界を流浪する意。
 【朝々暮々】テウテウボボ 朝に夕に、毎あさ每ばん。
 【朝種暮穫】テウシュボククツ 朝種を付けて暮にかりとる、即ち時日の無き譬。
 【朝聞夕死】テウブンセキシ 朝に人道をきき、さとは夕に死すも悔なしとの意。
 【朝歌夜絃】テウカゲケン 朝は歌ひ夕は音楽を奏する、終日遊樂に耽ること。
 【朝齋暮鹽】テウサイボエン 朝は野菜を食ひ夕には鹽をなめる意にて極貧なる譬。
 【朝不謀夕】テウボモウセキ 朝は謀るに暇もなき様に急迫したる状態。

類語
 本朝テウコン 崇朝テウキウ 歷朝テウレキ 皇朝テウワウ
 清朝テウチウ 當朝テウタウ 天朝テウテン 聖朝テウセイ
 國朝テウコク 盛朝テウセイ 顯朝テウケン 帝朝テウテイ
 登朝テウトウ 參朝テウサン 肅朝テウソク 廟朝テウミウ
 入朝テウニウ 來朝テウライ 南朝テウナン 廟朝テウミウ
 明朝テウメイ 今朝テウキョウ 廢朝テウハイ 北朝テウペキ

【暮】キ

ひとまはり(めぐりて始めにかへる迄)一周、一周年。
 【暮月】ケグツ 暮るひとつき。
 【暮年】ケネン 暮る一年。
 【暮匪】ケフイ ひとめぐり。

【期】キ

①とき、然るべき時、適當の時、よき機會、定めたる期日。②時日に限る、約束の日をきめる。③ねがふ、前以てきめる、見當をつける。④ひとまはり、一周年、朝より晩まで、又百年間。⑤をはる(卒)。
 【期日】ケジツ 定めの日、日限。
 【期月】ケゲツ ①あらかじめ定めたる月。②まる一箇月。
 【期年】ケネン 満一年、一周年。
 【期成】ケセイ 成るを期す、必ず。
 【期門】ケモン 後漢の時の天子の護衛兵。
 【期服】ケフク 一年の喪。
 【期限】ケゲン 定めの時、ひざり、かぎり。
 【期約】ケヤク 日限を定めて約束す、契約。

【期待】キタイ

待ちまうける、あてにして待つ。
 【期望】ケバウ 期待してまち望む。
 【期間】ケカン 豫め定めたる時日の間。
 【期會】ケクワイ 日限を豫め定めて會合す。
 【期節】ケセツ ころほひ、季節、時候。
 【期頤】ケイ 百歳の齡、身體自由ならざる故座して人を使ふ意。
 【期成原因】ケセイゲンイン 當然の結果を生む原因。
 【期々艾々】ケケイガイ 聲のどもる貌。
 【期滿免除】ケマンニョウ 一定の期限を経過したることによりて或法律上の義務を免るゝこと。

類語

歸期ケキ 心期ケシン 深期ケシン 佳期ケカ
 嫁期ケカ 時期ケジ 花期ケクワ 會期ケクワイ
 幽期ケウ 瓜期ケクワ 星期ケセイ 最期ケサイ
 年期ケネン 初期ケキョウ 學期ケガク 滿期ケマン

十一十六畫

【腫】トウ

月の出でんとする時の光、月ので

【朦】ボウ

①おほいなり(大)②ほのか、おぼろ。③月の入る時のひかり。
 【朦朧】モウロウ ①おぼろ、月かげのほのかなる貌。②うつとりしたるさま。
 【朦朧車夫】モウロウシャ 鑑札のない車夫、悪車夫。
 【朦朧會社】モウロウクワイシャ 内容が不充實にして危険なる會社、又法律の裏をくじつて仕事をす悪會社。

【朧】ロウ

①月の出づるとき、又月の入る時、うつとりせる月の光。②おぼろなり。
 【朧月】ロウゲツ おぼろつき、又春の月。
 【朧明】ロウメイ 月が出て、明らかなる貌。
 【朧々】ロウロウ うすぐらくおぼろなる貌。

【木】ボク

ボク モク 木部

【未設】^{ミセツ} まだつくりまうけぬ。
 【未期】^{ミキ} ①まだ草木が芽を出さぬ間。②まだ事故のきざぬ中、未然。
 【未發】^{ミハツ} 未だ表面にあらはれざるこ
 と、未だ起らぬこと。
 【未婚】^{ミコン} まだ結婚せぬこと。
 【未詳】^{ミシヤク} まだ詳しくわからぬ。
 【未著】^{ミチャク} まだ到着せぬ、まだつかぬ。
 【未遂】^{ミスエ} まだ成し遂げざること、ま
 だ實行して居らぬ前。
 【未聞】^{ミモン} まだ聞いたことがない、ま
 だ知らぬ。
 【未然】^{ミゼン} まだならぬまへ、**未**
 事の起らぬ前。
 【未熟】^{ミジュク} ①物事の十分整はぬこと。②
 果實が良く實らぬこと。③修業の足らぬ
 こと、上達せぬこと。
 【未滿】^{ミマン} 定められし數に足らぬと。
 【未練】^{ミレン} 思ひきれぬさま、あきらめ
 られぬこと。
 【未濟】^{ミサイ} まだ全く済まぬと。
 【未了因】^{ミライイン} 十分に結ばれぬ過去の
 因縁。
 【未丁年】^{ミテイネン} 未成年に同じ。
 【未亡人】^{ミバウジン} ごけの自稱、自分も夫
 と共に死すべきにまだ生存して居る意

【未成年】^{ミセイネン} 未丁年、一人前になら
 ぬ男女。
 【未知數】^{ミチスウ} 數學上未だ知れざる數の
 意、轉じて一般に前途の知り難きもの
 にいふ。
 【未定稿】^{ミテイカウ} まだ推敲せざる原稿。
 【未決監】^{ミケツカン} 罪の決定せぬ囚人を入
 れ置く所。
 【未來派】^{ミライハ} 伊太利に起りし文藝其他
 各方面に對する新しき運動にてすべて
 活動の表現を旨とする主義の稱。
 【未來記】^{ミライキ} まだ來ぬ先の事を豫言し
 たる記録。
 【未曾有】^{ミゾウ} いまだかつてあらざる意、
 これ迄になし。
 【未通女】^{ミトウメ} オボユメをさめ、處女。
 【未來永劫】^{ミライエイゴウ} 長しへに、永久に。
 【未レ知三鹿死ニ誰手ニ】<sup>ミライシカシニタレガナレシカラ
 ニラズ</sup> 何者が天下の權をとるかまだ知れ
 ぬ。

末

末

【末】^{マツ} ①すゑ、こずゑ(梢)物のほし(端)いた
 だき(頂)物事の大切でない部分、根本
 より續き出でしもの。②つく(盡)なし
 (無)のち、あと(後)をはり、老いたる
 時、老年。③あきなひ(商賈)あきうど
 ひくき所、いやしき地位。④よわし(弱)
 うすし(薄)。⑤てあし(四肢)⑥つひに
 (終)⑦くづ(屑)こな(粉)⑧衰へし時代
 末世。⑨なかれ(勿)⑩血すぢ、子孫
 【末子】^{マツシ} 季の子。
 【末世】^{マツセイ} ほろびかゝつた時代、一時
 代の末の頃。
 【末代】^{マツダイ} すゑの世、まごゝの代。
 【末作】^{マツサク} 商業と工業、末産(農を本
 としていふ)。
 【末坐】^{マツザ} げざ、下の座席。
 【末光】^{マツクワウ} 餘光、又上の威光。
 【末寺】^{マツジ} 本山より分れし寺院。
 【末社】^{マツシヤ} ①本社に附屬したる小さき
 神社。②遊興者のきげんをとる者。
 【末技】^{マツギ} やくにたゝぬわざ、實益に
 ならぬ技術。
 【末尾】^{マツビ} すゑ、おはり、最後。
 【末利】^{マツリ} 商工業上の利益。
 【末派】^{マツバ} 下流、すゑのながれ、又流
 派のわかれ。
 【末班】^{マツバン} 最下の位、いやしき地位。
 【末造】^{マツゾウ} 末代に同じ。
 【末書】^{マツショ} 註釋の取るに足らぬ書物。

【未産】^{マツサン} 末作に同じ。
 【末席】^{マツセキ} 下の座席、しもぎ。
 【末座】^{マツザ} 前に同じ。
 【末梢】^{マツセウ} 物のさき、又木の枝のはし。
 【末期】^{マツゴ} 死にぎは、いまは、臨終。
 【末節】^{マツセツ} さゝいな事柄。
 【末路】^{マツロ} ①一生の終りの頃、老後。②
 おちぶれた晩年。
 【末裔】^{マツエイ} 子孫、まごゝの代。
 【末葉】^{マツエフ} すゑの世、まごゝの代。
 【末僚】^{マツリョウ} 下役人、屬官。
 【末端】^{マツタン} さき、すゑ、はし。
 【末輩】^{マツバイ} 人の下につくともがら。
 【末學】^{マツガク} 根本を究めざる學問、學問
 の未熟なること、又學者の謙稱。
 【末藝】^{マツゲイ} 茶・生花等の技藝。
 【末民】^{マツミン} 商人と職工、商工業者。
 【末孫】^{マツソン} 孫子のすゑ、後裔。
 【末戚】^{マツセキ} 遠縁のしんるゐ。
 【末暮】^{マツボ} 末路の①に同じ。
 【末疾】^{マツシツ} 手足の病氣。
 【末廣】^{マツヒロ} 祝物として扇の異名。
 【末大必折】^{マツダイヒセツ} スエタイレバカウラヌツル 枝葉大なれ
 ば根幹の折れる如く支族大なれば本宗
 を亡ぼすこと。

【本】^{ホン} ①もと(下)もとづく、根本、どだい、は
 じめ(始)もとゐ、ほんもと、物事の最
 も大切な部分。②主たるもの、正當の
 もの。③長き物を數ふるにいふ字。④書籍
 ⑤現在に對し過去の事を現はす語、元
 來。⑥他に對する其の物自身。⑦もとがね
 (元金)⑧或る語に添へて其・此・當・今
 の意味に用ふ。⑨もとゐす、もとゐとな
 る。
 【本人】^{ホンニン} その人、當人。
 【本山】^{ホンサン} ①この寺、當院。②佛教にて
 一宗派のものとの寺。
 【本丸】^{ホンマル} 城中で總大将の居る所。
 【本心】^{ホンシン} いっはりなき心、良心。
 【本分】^{ホンブン} ①義務として行ふべきこと、
 ②その人相當の分限。
 【本文】^{ホンブン} 註の文などに對して本とな
 る文、又増減變化等のないものと文。
 【本支】^{ホンシ} もとゝえだ、本家と分家。

本

本

【本末】^{ホンマツ} もとゝすゑ、始と終り。
 【本宅】^{ホンタク} 常住する家、本邸、自邸。
 【本名】^{ホンメイ} 雅號・偽名等に對し本當
 のなまへ。
 【本刑】^{ホンケイ} 刑罰を加重する場合その基
 本とすべき刑罰。
 【本旨】^{ホンシ} 本来の旨意、本文の趣旨。
 【本色】^{ホンシヨク} もちまへ、本領、特色、
 固有の性質。
 【本邦】^{ホンパウ} この國、自分の國。
 【本地】^{ホンチ} 神佛の本體。
 【本位】^{ホンキ} 標準に同じ。
 【本志】^{ホンシ} 元來の心ざし、其人の本心、
 【本局】^{ホンキョウ} 支局の對、大もとの役所、
 又は官署。
 【本命】^{ホンメイ} 生れ年の干支。
 【本妻】^{ホンサイ} 妾などに對し正當の妻。
 【本姓】^{ホンセイ} 生家の苗字。
 【本科】^{ホンカウ} 主たる學科。
 【本指】^{ホンシ} 本来の趣旨、もとの主義。
 【本來】^{ホンライ} 正當の所、又ははじめ、元來。
 【本性】^{ホンシヤウ} ①本來の性質、うまれつ
 き。②たしかな心、正氣。
 【本紀】^{ホンキ} 帝王の歴史を記したる物。
 【本原】^{ホンゲン} 事のおこり、もと。
 【本則】^{ホンソク} 根本の規則。

類語

【本氣】ホシキ まじめ、しやうき。
 【本能】ホシノウ 教育・経験等の力をからずして自ら働く能力、食欲・性慾等の類。
 【本陣】ホシデン ①軍隊の本營 ②昔の驛路の一等旅館。

【本草】ホシヤウ くさき、植物。
 【本家】ホシカ ①賞家、親もと ②おほもとの血すぢの家、宗家。
 【本教】ホシクウ おほもとのをしへ。
 【本眞】ホシリン 本来のまこと、自然のまことのまこと。

【本務】ホシム 主なるつとめ、本職。
 【本部】ホシブ 支部の對、根本となる所。
 【本復】ホシフク 病のなほること、全快。
 【本望】ホシマウ 心からのぞみ、満足。
 【本然】ホシゼン 自然のまま、生れつき。
 【本朝】ホシテウ 廟堂・中央政府、又我が國、我が朝廷。

【本貫】ホシクワン 原籍地、本籍。
 【本統】ホシトウ もとの血すぢ。
 【本意】ホシイ ①まことの心 ②ほんとうの意味 ③心中の望み、ほい。
 【本幹】ホシカン おほもと、根本。
 【本業】ホシゲフ その人の主として勤むべき仕事。
 【本尊】ホシズン 寺院本堂の中央に安置する

佛像、己が主として信仰する佛。
 【本義】ホシギ 正しき意義、本来のわけ。
 【本源】ホシゲン みなもと、もと、本原、本領 ①もちつたへし領地 ②大本、もちまへ、特色。

【本趣】ホシシユ 本来の旨意、元よりの精神。
 【本論】ホシロン 議論著書等の主要な部分。
 【本質】ホシシツ 根本の性質、實質。
 【本營】ホシエイ 總大將の居るぢんや、本陣。
 【本職】ホシシヨク 主として勤むべき仕事、又公職にある者の自稱。

【本錢】ホシゼン もとで、資本。
 【本據】ホシキヨ よりどころ、もとづく所。
 【本懷】ホシクワイ 本意、本望。
 【本籍】ホシセキ 戸籍のある所、原籍。
 【本體】ホシタイ 本の中から、まことの姿、その物自身。
 【本願】ホシガン 始よりの願事、本来の願。

【本生父】ホシセイフ まことの父、實父。
 【本因坊】ホシインボウ 徳川氏の碁所にして碁家の總本家。
 【本原的】ホシゲンテキ 他の事實より導かれたるものにあらず固より存在せる事實。
 【本封還】ホシケガヘリ 其の人の生れた干支にめぐり還る、六十一歳、還暦。
 【本來面目】ホシライノシメウ 自然のまゝにて

人爲を少しも加へぬこと。
 【本地垂迹】ホシゴスホジヤク 神佛一體説、即ち我國在來の神は皆佛が假りに姿をあらはしたるものなりとの説。
 【本位貨幣】ホシキクワヘイ 交換の媒介又は價格の標準として國家の認むる貨幣。
 【本能主義】ホシノウシニギ 本能の要求を満すことを以て人生の目的とする主義。
 【本然之性】ホシゼンノセイ 生れしまゝの善性
 【本能的道德】ホシノウケダウトク 外見道德的に見えて其實は本能的に起りし行動。

【類語】
 根本 本 張本 原本 眞本
 宗本 元本 副本 善本
 粉本 啓本 偽本 傳本

【札】サツ 札
 ①ふだ、薄く小なる板(牒)をかきつけ、てがみ ②甲冑のさね ③わかじに、天死又病死 ④物の聲の形容 ⑤はやりまやひ ⑥國訓さつ(紙幣)ふだ(守護のおふだ) ⑦札々 ⑧サツツ ⑨蟬などのさうくしき鳴き聲 ⑩機を織る音 ⑪田を耕す音。
 【札輪】サツカシ 文章を書きつけると、記事。
 【札附】フダツキ ①札が附いてあること、又

正札附 ①世間一定の悪評あること。
 【札差】フダサシ ①徳川時代に幕府の庫米を拂ひ受けし商人 ②宿場にて荷物の貫目を改めし人。
 【札差天昏】フダサシウゴン 札は病死、差は小疫、天昏、若死、人生の不幸をいふ。

【類語】
 改札 サツシ 天札 サツシ
 寸札 サツシ 宸札 サツシ
 簡札 サツシ 玉札 サツシ
 甲札 サツシ 紙札 サツシ
 手札 サツシ 木札 サツシ 絨札 サツシ 御札 サツシ

【朱】シユ 朱
 ①あか、あけ、あかい(赤)しゆずみ しゆふん、あかし ②松柏の屬、赤心木ともいふ ③侏儒の侏に通ず ④しゆふん(赤色の顔料)
 【朱天】シユテン 西南の空。

【朱】シユ 朱
 ①あか、あけ、あかい(赤)しゆずみ しゆふん、あかし ②松柏の屬、赤心木ともいふ ③侏儒の侏に通ず ④しゆふん(赤色の顔料)
 【朱天】シユテン 西南の空。

【朱戸】シユコ 家屋の丹塗を許されし資格(昔天子が功臣に賜つた九錫の一)。
 【朱印】シユイン ①武家時代幕府より許可の證とせし印證 ②朱肉にておせし印形。
 【朱汗】シユカン あかき汗、勤勞の激しきを形容す。
 【朱肉】シユニク あか色の印肉。
 【朱明】シユメイ 夏の異稱、朱夏。
 【朱門】シユモン 赤色の門、貴人の家を稱す。
 【朱鳥】シユタウ ①南方の星の宿り ②赤色の鳥。

【朱暗】シユアン 赤ぐるき色。
 【朱紫】シユシ 赤または紫のひも、高官の人をいふ。
 【朱硯】シユケン 朱墨をする硯。
 【朱雀】シユジャク 南方の星のやどり。
 【朱轅】シユケン あかいろのとばり。
 【朱顔】シユガン 支那古昔の大富豪、陶朱と稱する二大富豪のこと、轉じて一般に大富人をいふ。
 【朱顔】シユガン ①酒に酔ひて赤くなりたる顔 ②年若くて美しき顔。

【朱曠】シユクワウ 夏の朝の太陽。
 【朱墨】シユボク ①朱と墨、二者の相違の甚だしく異なる意 ②朱や墨を使用して官の事務をとること ③轉じて詩文の手入

れ ①しゆずみ。
 【朱橙】シユカン あかぬりのてすり。
 【朱闕】シユケツ あかぬりのらんかん。
 【朱藹】シユイン 甘薯の一種。
 【朱欄】シユラン 朱欄に同じ。
 【朱櫻】シユヤウ ゆすら梅のあかき實。
 【朱藥】シユヤク 蜜柑の一種、香藥。
 【朱子學】シユシガク 南宋の朱熹の唱道せし儒學、即ち理學・性理學・宋學・朱學又其學系が二程子に基く故に程朱學ともいふ
 【朱印地】シユインチ 武家時代寺院に給附せられたる田地。
 【朱印船】シユインセン 徳川時代幕府より朱印證書を附與せられて海外に通商貿易することを許されし船。
 【朱陳好】シユチンノヨシ 徐州の朱陳に於て朱氏と陳氏の二家の婚姻の故事に因み兩家が結婚して親しく交る意。
 【朱錠子】シユヂヤウシ しゆずみ。
 【朱衣象笏】シユイシャウワツ 赤色の衣服と象牙の笏、即ち侍御史の制服と五品以上の人のこと。
 【朱唇皓齒】シユシンカウシ 赤き唇と白き齒、美人の形。
 【朱に交はれば赤くなる】シユシニマヒ

はれはあかくなる 人は交はる友の善惡によつて化せられる意。

類語 純朱シユン 輕朱シユイ 沈朱シユン 濃朱シユウ 口朱シユウ 丹朱シユン

【朴】

ハク ホク

すなほ、表面を飾らぬこと。木の名、ほゝの木。おほいなり(大)も(本)。

【朴忠】ボクチュウ すなほにして忠實なり。【朴直】ボクチョク すなほにして正直なり。【朴茂】ボクモ 才徳すぐれてうはへをかざらぬこと。【朴素】ボクソ 表面を飾らぬと、質素、質實。【朴魯】ボクル かざりなく愚かなり。【朴野】ボクヤ 質素にしていやし。【朴樹】ボクジュ 木の名、ほゝのき。【朴實】ボクジツ 飾りけなく極めてぢみなること。【朴澀】ボクシツ 物にかざり氣がなく圓満でないこと。【朴素的實在論】ボクソクテジツサイロン 吾人の感覺に映じたる事物の相夫れ自身が實在の真相なりとなす論。

類語

桑朴ボク 敦朴ボク 厚朴ボク 素朴ボク 醇朴ボク 恩朴ボク 鄙朴ボク 質朴ボク 簡朴ボク 魯朴ボク 疎朴ボク 忠朴ボク

【朶】

ダ ダ

花のえだ。樹又花の垂るゝ貌。うごかす(搖)とる(取)垂れさがるもの。朶々(ダダ)樹木の枝又は花の多く垂れさがれる貌。【朶雲】ダワン 五色の垂雲の義で人の書簡の敬稱。【朶頭】ダイ おとがひを垂れ動かして食はんとする貌、羨みほしがらるさま、強國が弱國を併呑せんとするにいふ。【朶下】カキ 手紙の宛名の脇書、直接手渡

【杻】

リヨク

もくめ、木理、年輪。家の隅。國訓あふこ(物を荷ふ棒、天秤棒)。

【机】

キ

つく(互)ひちつき。物を置く臺。【机下】カキ 手紙の宛名の脇書、直接手渡

【杻】

キウ

さがり曲つてゐる木、膠。【机案】キアン つく。【机上之論】キジョウノロン 實際に適合せざる議論又は意見、空論。

【朽】

キウ

くつ、くさる。亡びる。【朽老】キウラウ くちおいて役立たぬ意。【朽索】キウソク くちたる繩。【朽滅】キウメツ くさつてなくなる。【朽棧】キウケン くちたる棧橋。【朽鈍】キウドン くされてにぶし、性質が敏捷でないこと。【朽條】キウジョウ くさりたる繩。【朽敗】キウバイ くされ破れる、又くさる。【朽斷】キウダン くされ切れる。【朽廢】キウバイ くちて用に立たぬこと。【朽腐】キウフ くちくさる。【朽壞】キウクワイ 朽廢に同じ。【朽爛】キウラン くされたいる。

朽

【李】

リ

すもゝ(桃に似た果樹)理に通ず、をさむ。唐朝の天子の姓。【李下】リカ 李下之冠の略。【李父】リフ 虎の異名。【李耳】リジ 前に同じ。【李桃】リタク 果樹の一、ゆすらうめ。【李唐】リタク 唐のこと(李は其天子の稱)。【李下之冠】リカノカンリ すもゝの木の下で尾をかぶり直す時は李の實を盗む嫌疑を受ける義、轉じて一般に嫌疑を受け易き意に引用す。【李杜韓柳】リトカンリウ 唐代の文學者にして李白・杜甫・韓愈・柳宗元の四人。

李

【束】

シ

とげ、草木のとげ。三畫

【杆】

ウ

水を入れる器(湯呑、水呑、盃の類)。自ら足れりとなすさま。三畫

【杻】

カン

水を入れる器(湯呑、水呑、盃の類)。自ら足れりとなすさま。

【朽】

ヲ

たて(盾)てすり(欄干)ぼう、てこ(桿)。

【杻】

サ

えだ、えだぶり、また(木のまた)さんまた。やす(魚を捕ふる具)あじか(草を収むる具)。

【杉】

サン

すぎ(喬木の一)幹直く針狀の葉を有す。杉房(サンバウ)材木小屋。杉戸(サンゴト)杉でこしらへた戸。

【杻】

ゲツ ヨツ ヨツ

かぶ、木のきりかぶ又木の短かく出でたる貌。枝なきこと。あやふし(危)落つかぬさま。【杻障】ヨツゲツ おちつきなき貌、不安。

【杏】

キヤウ

あんず(梅に似た果樹の一)。【杏月】キヤウゲツ 二月の異名。【杏仁】キヤウニン あんずのさねの中の肉に

杏

【杏林】キョウリン 醫術の美稱、又醫師。
【杏壇】キョウダン 孔子が杏壇の上に坐して弟子を教授せし故事に因み學問する所をいふ。

【呆】パイ

①梅の別字。呆に混用す

【材】サイ ザイ

材

①用ゐらるゝ木、さいもく、しろ、物をつくるたね、もと(原料)②うまれつき(性質)もちまへ、物のたち③はたらき(才、ちよ、智)④はかる(裁量)きりもりす⑤たから(財)⑥果實を結ぶ木⑦からだ(身體)

【材士】サイシ 體格のすぐれて強き者。
【材木】サイモク 建築に用ゆる木材。
【材木】サイホン もとで、もと。
【材官】サイクワン 騎士の官にて才幹ある者
【材武】サイブ 才幹と勇氣。
【材料】サイレイ 工作の原料、轉じてたね、資料。
【材能】サイノウ うてまへとはたらき。
【材幹】サイカン はたらき、きりやう、腕前。

【材藝】サイゲイ 才智藝能、はたらきとうてまへ。
【材器】サイキ 前に同じ。

類語

雅材ガク 雄材ユウ 宏材クワク 散材サン
詩材シ 藥材ヤク 官材クワン 俊材シュン
賢材ケン 精材セイ 教材ケイ

【村】ソン

お

①むら、みなか、さと②いなかくさし、ひなびる、樸野③國訓むら(行政區劃の一)

【村夫】ソンフ むらびと、田舎者。
【村中】ソンチュウ 村のうち、むらぢう。
【村市】ソンシ むらの市場。
【村甲】ソンカウ 村のかしら、むらをかき。
【村吏】ソンリ 村役場のやくにん。
【村妓】ソンキ みなかげいしや。
【村邑】ソンイフ 大小の村落、むらぐ。
【村社】ソンシャ 村の鎮守の神社にして社格は郷社に亞ぐ。
【村長】ソンチャウ 村を治めるかしらの人。
【村舎】ソンシャ みなかの家、田家。
【村俗】ソンソク 村の風俗、みなかのならひ。
【村巷】ソンカウ 村の道、村道、又村里。

【村著】ソンメイ ばんちや、粗茶。
【村郊】ソンカウ 村の郊外、のはら。
【村莊】ソンサウ 村里にある別莊。
【村家】ソンカ 村舎に同じ。
【村書】ソンシヨ 卑俗なる書物。
【村落】ソンラク 落は人の聚り居る所、村邑。
【村酒】ソンシユ みなかづくりの酒類。
【村神】ソンシン 村落の神社。
【村氣】ソンキ 村の風俗、村人の氣風。
【村童】ソンドウ 田舎のこども。
【村會】ソンクワイ 村の自治に關して會議する行政機關。
【村媪】ソンオウ みなかのばや。
【村塢】ソンウ 田舎の地、又村の土堤。
【村鼓】ソンコ みなかてうつ太鼓。
【村叟】ソンソウ 村の老人、村のおやぢ。
【村笛】ソンペク 田舎で聞く笛の聲。
【村野】ソンヤ むら、村里。
【村漢】ソンカン 村夫に同じ。
【村閭】ソンリョ むらざと、村の入口の門。
【村歌】ソンカ ひなうた、田舎のうた。
【村儒】ソンジユ 村のものしり、田舎學者。
【村學】ソンガク 田舎の學校。
【村縣】ソンケン みなか、村ざと。
【村隱】ソンイン 次に同じ。

お

【村讓】ソンジヤウ みなかづくりのさけ、又どぶろく。

【村雨】ムラサメ ひとしきりづゝ降る雨。
【村夫子】ソンフウシ 村の學者、田舎の先生。
【村役場】ムラヤクバ 自治體なる村の役所。
【村學究】ソンガクキウ みなかの學者、村夫子。

類語

江村カウ 山村サン 花村カウ 漁村ソコ
遙村エン 孤村コン 農村ノウ 寒村サン

【杓】シャク

杓

①しやく、しやくし、斗柄(水等をくむ器)ひく(引)②つなぐ(繋)つながる③北斗星の柄にあたる星
【杓子】シャクシ ①ひしやく②飯又は汁などをすくふ具、しやもじ。
【杓子定規】シャクシテイゲイ ①正しからぬ定規②規則に拘泥して融通のきかぬこと。

【杖】チャウ

杖

①つゑ、ステツキの類、喪式の時携へる棒、人をうつ棒②つく、つゑつく③てこ(挺)④うつ(打)たゝく、人をむちうつ⑤戈戟の柄⑥とる(取)も

つ(持)①よる(憑)
【杖家】チャウカ 屋敷内にて杖つく年齢、五十歳の稱。
【杖殺】チャウカツ うちころす。
【杖國】チャウコク 國に於て杖つく年齢、七十歳の稱。
【杖郷】チャウキョウ 郷に於て杖つく年齢、六十歳の稱。
【杖朝】チャウチャウ 杖を用ひて參内する義、八十才の稱。
【杖筓】チャウカウ 次に同じ。
【杖棒】チャウボウ つゑ、杖棒。
【杖策】チャウサク 馬の鞭を杖につく、杖をもちて立つ。
【杖罪】チャウズイ 古の五刑の一、杖にてうつ刑に當る罪。
【杖鉢】チャウハツ 僧の持つ錫杖と食鉢、又巡錫托鉢の僧。
【杖撻】チャウダツ むちうつ。
【杖罰】チャウバツ 杖にてうつ處罰。
【杖擊】チャウキキ むちうつ義。
【杖履逍遙】チャウリョウセウヤウ ぶらつく、散歩すること。

杖

類語

鳩杖チヤウ 齒杖シヤウ 削杖セウ 曲杖キョウ

【杙】マイ

むなぎ(棟木)うつばり(梁)

【杙】ヨク

①くひ(杭)又獸をつなぐ棒、地に打込み或は一部を埋めたる棒②果實の名

訓讀

【杙を以て椽と爲す】以レ杙爲レ椽よくをうてえいとす 小きき木を家の大黒柱とする意にて物の利用を誤るにたとふ。

【杜】ト

杜

①やまなし(山野に自生する亞喬木の一種)②草木の根③しふる(透)ふさぐ(塞)
④國訓もリ(森)
【杜口】トコウ 黙せしむ、口をつぐむ。
【杜公】トコウ 蜘蛛の異名。
【杜宇】トウ ほととぎすの異名。
【杜狗】トク 蟻蛄(けら)。
【杜若】トジヤク やぶめらが、又かきつばたの異名。

【杜絶】トビラ ふさがりたる、ふさがたつ、遮断。
 【杜閉】トヘイ とちふさぐ、しめる。
 【杜康】トカウ 古支那にて酒を造りし人、轉じて酒の異名。
 【杜塞】トクク 杜閉に同じ。
 【杜隔】トカク 遮りへだつ。
 【杜蓮】トレン かきつばたの異名。
 【杜鵑】トハク 杜鵑の異名、ほととぎす。
 【杜鵑】トチユフ 忠賢などの進路をとちふさぎてしりぞく。
 【杜苞】トカウ 寒あふひ。
 【杜鵑】トケン ①杜字に同じ②杜鵑花。
 【杜鵑】トヘン 偽り語る義。
 【杜多】トタ 僧侶、沙門。
 【杜撰】ツナン 杜撰の詩の多く律に合さばりし故事に因み著作又は議論等に誤り多く信を置き難いこと。
 【杜父魚】トヤギヨ 魚の名、いしぶし。
 【杜穀樹】トコクジュ 楠の異名。
 【杜姥草】トボサウ からすむぎの異名。
 【杜鵑花】トケンクワ さつき、つゝじ。

杜

【杞】キ ①くこ(灌木の一)又白楊の一(かはやなぎ)②あふち(木の名、樗の一種)③支那時代の國の名(今の河南省開封府杞縣)
 【杞柳】キヤウ 白楊の一種、川柳、こぶ柳。
 【杞憂】キヤウ いらざる心配、杞國の人が天の落ちることを憂へし故事に因む、取りこし苦勞。
 【杞人之憂】キジンノウレ、杞憂に同じ。
 【杞梓連抱】キシレンバウ 良木にして大なるものをいふ語。

杞

束

①つかぬ、たばぬ、くゝる、しばる(縛)まともる、償みて制御す②たば、又束ねたるものを数へる語③矢五十本、脯肉十枚、布帛五疋の稱④ちぎる、いひかはす、約束⑤そく、紙十帖、稻百把の稱、又百を單位とせる稱、指四本を並べたる長さの稱⑥つか、一握の長さ、轉じて短かき長さ
 【束手】ソクシュ 手を束ねて何事もせぬ貌。
 【束帛】ソクハク 絹十端を一束とせしもの。
 【束脩】ソクシュウ 乾肉のたば、支那の古代始めて師に見ゆる時禮物とせしもの、轉じて入門の時に納むる金。

束

杓

【束鴛】ソクウ 徳を慕ひ人の死をいたむ。
 【束帶】ソクタイ かんむりを著けおびを結ぶこと、昔の禮裝。
 【束裝】ソクシヤウ 旅行の支度、旅裝。
 【束髮】ソクハツ 成年に達して始めて髮を結び冠をつけること②婦人の髮の結方の一。
 【束縛】ソクバク ①しばる、しばられる②人の自由を奪ふ。
 【束繫】ソクケイ しばりてひとやつなぐ。
 【束間】ソクカン マ一握り程の間、しばしの間。

杓

杓

もく、木工

杓

①そま②材木を伐取る山、又その木③材木を伐出す人、きこり
 【杓人】ソマヒト 材木を山林から伐り出す人、きこり。
 【杓工】ソマコウ 前に同じ。

杓

①すそ②こずゑ(楢)木のはし、いたゞき(頂)③をはり(終)としのすそ(歳末)月の末④細小なる貌
 【杓末】ベウマツ こずゑ。
 【杓秋】ベウシウ あきの末つ方。
 【杓春】ベウシュン 春のおはり、暮春。
 【杓歳】ベウサイ 年のすそ、年末。
 【杓頭】ベウトリ こずゑ、木の枝のさき。

杓

花杓ベウ 枝杓ベウ 木杓ベウ 秋杓ベウ
 竿杓ベウ 分杓ベウ 竹杓ベウ 髮杓ベウ

杓

①航に同じ、わたる、船わたし、船で渡る②地名(支那の杭州)③國訓くひ(杓)木片、こけら、かんなくづ、へぎ、こつば④枝葉の盛んに生ずる貌
 【杓】ハイ 木片、こけら、かんなくづ、へぎ、こつば
 【杓葉】ハイ 枝葉の盛んに生ずる貌

杓

杯

①さかづき(酒を飲む器)液汁を盛る器②ほとぎ(羹を盛る器)③液體を器に盛る數をいふ語
 【杯水】ハイスキ 盃の中のみづ、即ち僅少なるみづ。
 【杯池】ハイチ 杯の如き小さい池、即ちさきやかなる池。
 【杯洗】ハイチン 酒席に置いて杯を洗ふ器。
 【杯酒】ハイチン 杯の中の酒。
 【杯中物】ハイチノモノ 杯酒に同じ。
 【杯中蛇影】ハイチノウヂイ 疑ひ迷ひて神經をなやます貌、疑心暗鬼を生ずる類。
 【杯盤狼藉】ハインラウゼキ 杯や皿が取り亂れる

杰

たるさま、轉じて酒席の混亂せる状態をいふ。
 【杰】ケツ 人の名、傑の俗字

杰

①ひがし、ひんがし、日の出る方角、ひがしの方②ひがしす、東の方へ行く③はる(春)④うごく(動)⑤國訓あづま
 【東人】トウジン だんな。
 【東天】トウテン 東の空、夜のあけがた。
 【東司】トウス 寺院にてかはやのこと。
 【東夷】トウイ 東方に居る野蠻人。
 【東西】トウイ 東と西、又東洋と西洋②支那の俗語で物の意、興行物などにて口上を述べる時客を靜めるに云ふ語。
 【東君】トウケン 太陽、日輪、又春の神。
 【東作】トウサク たづくり、農作。
 【東京】トウキヤウ ①本邦の首府②支那洛陽のみやこ。

東 トウ
 【東牀】トウシヤウ 娘の婿、女婿。
 【東宛】トウエン たいのこの異名。
 【東亞】トウア 次と同じ。
 【東洋】トウヤウ 亞細亞大陸のひがしの方、日本・支那の汎稱。
 【東帝】トウテイ 春、春の神。
 【東皇】トウクワウ 春を司る神の名、又春。
 【東風】トウフウ ひがし風、春の風、こち。
 【東宮】トウクウ 太子の居る宮、春宮、轉じて皇太子。
 【東睡】トウスキ 國の東のはし。
 【東圃】トウシ かはや、べんじよ、東司。
 【東都】トウト あづまの都、日本にて東京。
 【東雲】トウウン 支那にて河南府。
 【東雲】トウウン ①東にたなびく雲、東天の雲。②東の空のしらむ頃、しのゝめ。
 【東銘】トウメイ 宋の張載が書齋の東窓に掲げて座右の誡とせし文章。
 【東漸】トウゼン ひがしにすゝむ、次第に東へうつる。
 【東儲】トウチヨ 東宮に同じ。
 【東遷】トウゼン ①周の平王が都を洛陽にうつせし故事。②東の方にうつる。
 【東壁】トウヘキ 東・壁共に文章を司るといふ星、轉じて圖書室の義に用ふ。
 【東頭】トウトウ 寺院の先住。

東 トウ
 【東閣】トウカク 皇太子の住ひ給ふ家の門。
 【東瀛】トウエイ 東の海、東洋。
 【東觀】トウクワン 漢時代の秘書監。
 【東屋】トウヤウ 庭園に設け休憩眺望の用に供する風雅なる建物。
 【東半球】トウハンキウ 地球の東の半分。
 【東天紅】トウテンコウ 鶏の鳴く聲、又東天の明けそめし貌。
 【東洋車】トウヤウシャ 支那にて人力車。
 【東家丘】トウカキウ 自らの愚を知らずして人を愚とするをいふ。
 【東道主】トウダウシユ 主人と爲りて來客の用を辨ずること、又案内すること。
 【東行西走】トウコウセイソウ 次と同じ。
 【東奔西走】トウホンセイソウ あちらこちらとかけまはる、奔走周旋すること。
 【東洋絲布】トウヤウシフ 織物の一、がすおり。
 【東院西奔】トウエンセイホン あちらこちらと逃げ廻ること。
 【東瞻西眺】トウゼンサイテウ あちらこちらとながめるさま。
 【東驅東驅】トウクトウヘン 方々にてかたる。
 【東籬君子】トウリノクンシ 菊の異名。
 【東西南北人】トウザイナンベクノヒト 一定の住所なき人。
 【東風吹二馬耳】トウフウフバジマフク 馬の耳に風

物事を更らに心にかけぬさま。
 【東海君子國】トウカイノクンシノク 日本の異名。
類語
 以東トウ 日東トウ 江東トウ 阪東トウ
 河東トウ 關東トウ 款東トウ 京東トウ
 龍東トウ 阜東トウ 丁東トウ 極東トウ

杲 カウ
 ①あきらか(明)日のひかり、日光トあかし(高)
 【杲々】カウカウ 日光の明かなる貌。
 【杲然】カウゼン 明かなる貌。

杏 エウ
 ①くらし(暗)②ふかし(深)ひろし(廣)トほ(遠)トはるか
 【杏々】エウエウ くらきさま。
 【杏宵】エウエウ 深遠なる貌。
 【杏冥】エウメイ おくふかくて暗い。
 【杏寔】エウシツ 遙かにして遠き貌。
 【杏渺】エウベウ 前に同じ。
 【杏然】エウゼン 前に同じ。
 【杏遂】エウスキ 奥深きさま、幽邃。

杵 ショウ
 ①きね、白の中にて物を搗く具。②戦具の一。③きぬたをうつ具、つち。
 【杵臼交】シヨクウノマダハリ 上下貴賤の區別を立てずして交はる、又その交際。
訓讀
 【杵を相せず】不レ相レ杵 ねをせしやうサ 悲しみありて杵歌をうたはぬこと。
類語
 香杵シヨク 砧杵シヨク 臼杵シヨク 槌杵シヨク
 鄰杵シヨク 繁杵シヨク 促杵シヨク 急杵シヨク

杷 ハ
 ①さらひ(穀類をかき集め又は土をならす農具)②樂器、琵琶に同じ。③枇杷は果樹の一。④つか、え(柄)。
柎 シウ
 ①てかせ(手枷)②もちの木、もち、冬青。
杵 チヨ ト シヨ
 ①ひ(機おりの具)よこ糸を通すもの。②

松 シヨウ
 うすし(薄)②そぐ(殺)③ながし(長)④櫛の果實、どんぐり
 【杵栗】シヨウリツ どんぐりと栗の實。
 【杵軸】チヨヂク 杵と軸にて機を織る如く文章を組立てること。
 【杵機】チヨキ 機を織る具。
訓讀
 【杵を投ず】投レ杵 ちをなげ 機のみをなげる義、君主が讒言を信ずるにいふ語。

①まつ(常緑針葉樹の一)百木の長にして人の公の如きよりいふ。②松の常緑なるより轉じて節操・長壽等にたとふ。
 【松子】シヨウシ まつかさ、松の實を包む鱗状の殻。
 【松明】シヨウメイ 松のやに多き所をつかね火をともして燈火とす、たいまつ。
 【松肪】シヨウフウ 松脂に同じ。
 【松卵】シヨウラン 松子に同じ。
 【松香】シヨウカウ 松脂に同じ。
 【松柏】シヨウハク ①松とこのてがしは松も柏も四時その色をかへぬ故に人の節操あることの例に引かれる。

松 シヨウ
 【松炬】シヨウキョ たいまつ。
 【松脂】シヨウシ まつやに。
 【松液】シヨウエキ 前に同じ。
 【松穂】シヨウソウ 松子に同じ。
 【松魚】シヨウギョ 海魚の一、かつを。
 【松菌】シヨウキン まつだけ、松茸。
 【松煙】シヨウエン 松をもやして生じたるすす、墨の原料とす。
 【松黄】シヨウワウ 松の花。
 【松煤】シヨウバイ 松煙に同じ。
 【松鼠】シヨウソ 鼠の異名。
 【松翠】シヨウスキ 松のみどり色。
 【松韻】シヨウウン 松韻に同じ。
 【松膠】シヨウカウ まつやに。
 【松雷】シヨウライ 松穂に同じ。
 【松露】シヨウロ 菌類の一、小さい球形砂地にある松林の土の中に生ず、麥蘘。松の葉の露。
 【松雞】シヨウキ 雷鳥の異名。
 【松濤】シヨウタウ 次に同じ。
 【松籟】シヨウサイ 松風の音。
 【松耳】マツダケ 松菌に同じ。
 【松膏】マツヤニ 松脂に同じ。
 【松蘂】サメオガセ 山中の枯木等より長く垂れたる灰緑色の絲の如きもの。
 【松竹梅】シヨウチクバイ 歳寒の三友、即ちま